



昭和会誌

2015



ロゴマークは昭和会の「S」と今給黎の「I」をモチーフに、「S」を表す円と繋がり、働く人・総合力・コミュニケーションを意味し、患者様に見立てた「I」という1人に対して、積極的に立ち向かう姿勢を表現したものです。また黄緑は優しさ・温かさ、水色は誠実さ・清潔感をイメージしたものです。

ごあいさつ



公益財団法人昭和会 今給黎総合病院
代表理事 今給黎 尚典

私達は約1,000人の従業員、91人の常勤医で24時間救急を行っています。

当直医が専門外の患者さんが搬送された時、オンコール（月に120～130人）で呼び出し救急患者に対して病院全体で当たるという方針です。午後6時以降の時間外手術（外傷、帝王切開、急性腹膜炎）を月に20～30件行っています。本年度は救急車2,755台、年間手術4,197例を行っています。

地域医療支援病院、国指定の地域がん診療連携拠点病院の認定を頂き、市立病院と共同で鹿児島県地域周産期母子医療センターを運営しています。

県下約900施設からの患者紹介を頂いており、各施設の皆様に厚く御礼申し上げます。

より良き医療をめざし、チーム医療として、病理、放射線科の医師を含めた各科での合同カンファレンスを毎週活発に行い、研修医を含め、専門医、指導医の資格を有すべく勉強会を開催しています。

地域の中隔病院としての責務であろうと考えています。

当病院は創立78年を迎えていますが、先代が戦後の昭和22年、戦災で焼け失せた診療所跡地の447坪、24床で始めた病院で、450床の総合病院となるや本館、別館、クリニックと約2,880坪余りに分断され設立されており、患者さんにとって利便性の悪い病院となっています。また、狭隘で耐震性に乏しく、この十数年病院の建て替えも喫緊の問題となっていました。

本年、南国殖産を中心に高田病院、当院ら4者で構成された共同事業体の事業提案が選定され、鹿児島交通局跡地の交渉権を得ました。

2020年の新病院オープンに向けて、更なる急性期に特化した病院を目指し、全職員の総力を挙げて取り組む覚悟でいます。

皆様のご理解を頂きますようお願い申し上げます。

急性期総合病院として鹿児島大学、昭和大学、福岡大学より医師の派遣を頂いています。

今までご指導ご鞭撻を頂いた各大学の先生方、ご紹介を頂いた全県下の各病院の方々に重ねて御礼を申し上げます。

目次

■ 基本理念・基本方針・運営方針	02
■ I. 病院概要	03
■ II. 病院統計	17
■ III. 部門報告		
各診療科報告	29
各部署報告	77
■ IV. 会議・委員会活動報告	133
■ V. 研究実績	179
■ VI. 昭和会クリニックの現況	195
■ 巻末資料 公益財団昭和会事業実施概要書		

昭和会の理念

「協力・貢献・向上」

1. 全職員の協力体制
2. 地域社会への貢献
3. 自己研鑽と向上心

昭和会の基本方針

1. 質の高い医療の提供を目指し、全職員一致協力して努力します。
2. 生命の尊さを認識し、地域社会に貢献します。
3. 常に向上心を持って、自己研鑽に励みます。

昭和会の運営方針

1. 地域のセンター病院として、最新・最高の医療を提供すべく、高度の医療機器を充実し、全職員の医学研修を推進する。そのために、各分野関連の大学各教室・各研究機関との交流に努め、また夫々の学会参加を助成する。
2. 高度医療機器の公開利用に努め、最新で効率的且つ倫理的医療の充実を図る。
3. 救急医療24時間受け入れ体制の充実。
当病院全職員(全科オンコール体制)の協力のもとに24時間体制で全県下・離島の救急患者を積極的に受け入れ救急医療の使命を達成する。
4. 21世紀の少子高齢化社会の医療に対応すべく、地域の保健・医療・福祉施設と密な連携に努め、有効的な医療の提供を図る。
5. 地域に開かれた病院を目指し、健康増進活動に積極的に取り組み、活動の充実・発展を図る。

地域がん診療連携拠点病院

地域医療支援病院

県へき地医療拠点病院（遠隔医療支援） 洋上救急業務支援協力医療機関

県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院

●●● 病院概要

I

- 病院概要
- 昭和会の沿革
- 昭和会の組織図
- 今給黎総合病院の現況
- 病院施設概要
- 医師研修施設指定の現状
- 諸制度の指定状況
- 会議・委員会組織図
- 医療設備概要

病院概要

(平成28年3月現在)

名称	公益財団法人昭和会 今給黎総合病院(いまきいれそうごうびょういん) Imakiire General Hospital
創設者	今給黎 満幸 (いまきいれ みつゆき)
開設者	代表理事 今給黎 尚典 (いまきいれ たかのり)
管理者	院長 昇 卓夫 (のぼり たくお)
所在地	〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号(かごしまししもたつおちょう)
代表電話	099-226-2211
代表FAX	099-222-7906
URL	http://imakiire.jp
病院開設日	1938年(昭和13年)7月 1964年(昭和39年)5月「医療法人昭和会」設立 1965年(昭和40年)7月「財団法人昭和会」設立 2009年(平成21年)12月「公益財団法人昭和会」法人名変更
病床数	450床 (うちICU8床 GCU10床、NICU9床 回復期リハビリテーション病棟33床)
看護基準	7:1
認定施設	厚生労働省地域がん診療連携拠点病院 地域医療支援病院 県へき地医療拠点病院(遠隔医療支援) 県指定地域周産期母子医療センター 基幹型医師臨床研修病院 洋上救急業務支援協力医療機関 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設 厚生労働省 DPC 対象病院 県脳卒中情報システム推進事業の情報提供協力医療機関 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関 県エイズ治療拠点病院 県地域周産期医療支援病院 県重症難病医療協力病院(短期入所施設) 痛風治療協力医療機関 鹿児島市高規格救急車指示病院 県救急・災害医療情報システム参加登録病院 県消防・防災ヘリコプター急患搬送(医師搭乗)システム輪番病院 県指定 かごしま子育て応援企業 産科医療補償制度加入医療機関 県女性医師復職研修事業指定病院 各種健診(検診)・予防接種等受託医療機関
関連施設	昭和会クリニック

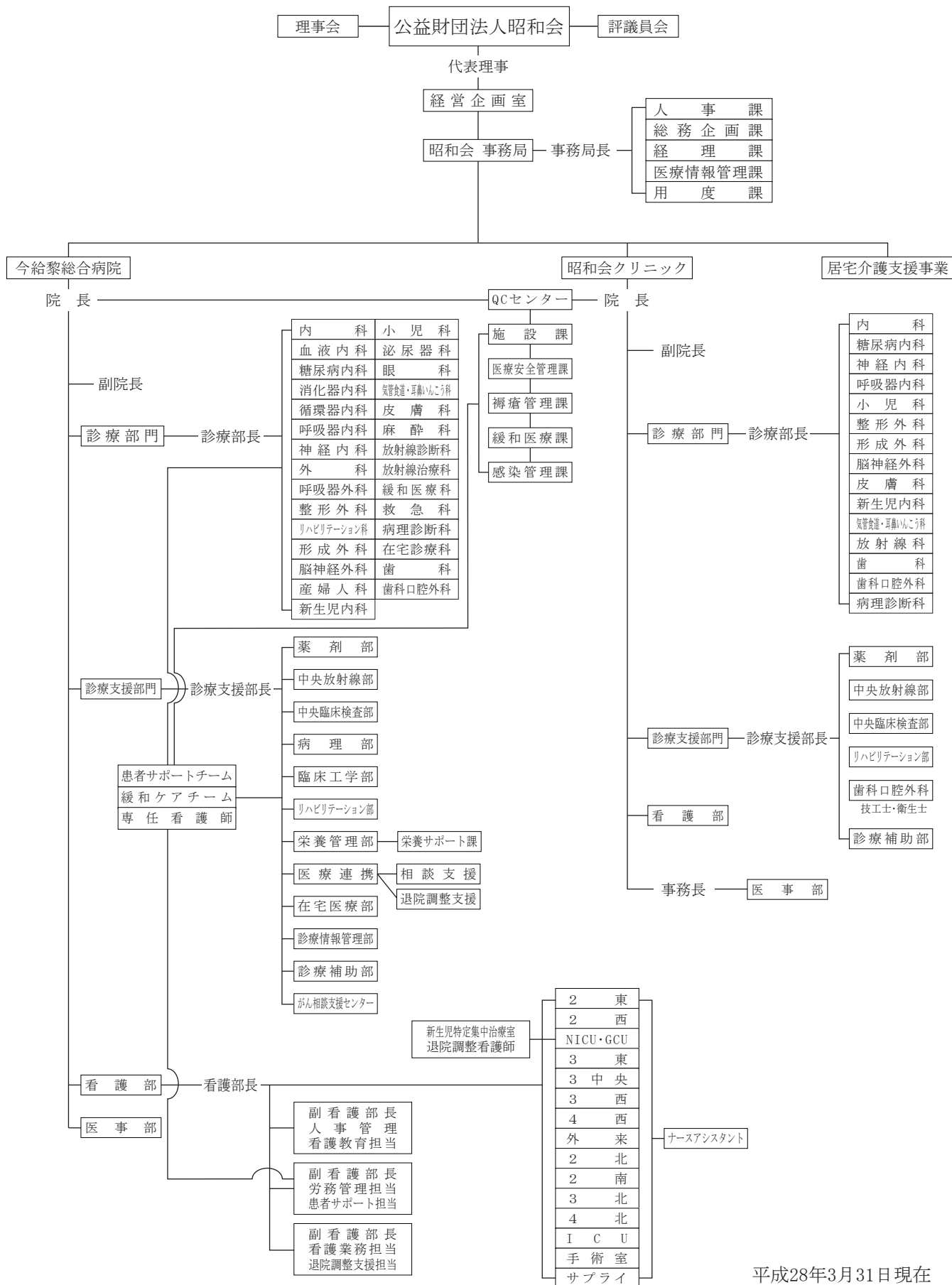
職員数	1,004名（非常勤122名）	
有資格者	常 勤	非常勤
医師	95名	25名
薬剤師	16名	
診療放射線技師	22名	
臨床検査技士	29名	1名
臨床工学技士	8名	
理学療法士	47名	
作業療法士	19名	
言語聴覚士	8名	
管理栄養士	8名	
視能訓練士	4名	
社会福祉士	3名	
看護師	437名	6名
助産師	21名	
保健師	5名	
准看護師	18名	2名
診療情報管理士	13名	

標榜科目	27診療科 内科、糖尿病内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科（肝臓・消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門）、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、新生児内科、眼科、気管食道・耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科
診療受付時間	平日 午前：午前8時00分～午前11時30分 午後：午後1時30分～午後5時00分 土曜（午前のみ） 午前8時00分～午前11時30分
休診日	土曜午後・日曜・祝日・年末年始（12月31日～1月3日）

昭和会の沿革

- 昭和13年 7月 現在地に今給黎医院開設
- 昭和22年 11月 今給黎病院開設(24床)
- 昭和30年 2月 鉄筋コンクリート2階建 病棟増築(41床)
- 昭和32年 6月 65床認可
- 昭和35年 2月 看護婦寮新築
- 昭和35年 5月 80床認可
- 昭和32年 7月 医師住宅新築
- 昭和39年 5月 「医療法人昭和会」設立(120床)
- 昭和39年 7月 救急告示病院指定
- 昭和40年 7月 民法第34条による「財団法人昭和会」設立
- 昭和42年 1月 160床認可
- 昭和44年 4月 鉄筋コンクリート3階建病院新築
- 昭和44年 8月 鉄筋5階建第1看護婦寮・4階建医師住宅2棟新築
- 昭和45年 10月 220床認可
- 昭和47年 10月 鉄筋5階建職員住宅(20世帯)新築
- 昭和50年 12月 鉄筋コンクリート2階建第3女子寮・院内託児所新築
- 昭和53年 10月 鉄筋コンクリート7階建本館新築(300床)
- 昭和54年 3月 325床認可
- 昭和54年 8月 鉄筋コンクリート4階建第2女子寮新築
- 昭和58年 2月 医師住宅4階建新築
- 昭和62年 1月 第4看護婦寮3階建新築
- 昭和62年 9月 別館4階建新築
本館・別館の連絡路として地下道(巾3m)完成
- 昭和63年 1月 450床認可、本館全面改装、総合医療各診療科整備
- 昭和63年 8月 第5看護婦寮4階建新築、男子独身寮2階建新築
- 平成元年 1月 医師研修等3階建新築
- 平成9年 9月 外来患者専用自動管理式駐車場完成
- 平成10年 3月 医局棟3階建新築
- 平成13年 3月 (財)日本医療機能評価機構「認定証」(一般病院種別B)取得
- 平成14年 1月 民間ビル(3階建)、研修棟として購入
- 平成15年 10月 「基幹型臨床研修病院」指定
- 平成17年 5月 昭和会クリニック開院(診療録の電子化開始)
- 平成17年 12月 今給黎総合病院(外来診療録の電子化開始)
- 平成18年 8月 歯科・歯科口腔外科開設
- 平成19年 10月 リニアック棟造築(稼働開始)
- 平成21年 12月 「公益財団法人昭和会」へ法人名称変更
- 平成22年 2月 今給黎総合病院(入院診療録の電子化開始)
- 平成24年 4月 厚労省「地域がん診療連携拠点病院」指定
- 平成25年 3月 地域医療支援病院認定

昭和会の組織図



平成28年3月31日現在

今給黎総合病院の現況

(1) 標榜科目(27 診療科)

内科, 糖尿病内科, 血液内科, 神経内科, 呼吸器内科, 消化器内科, 循環器内科, 小児科, 外科 (肝臓・消化器・乳腺・内分泌・小児・肛門), 整形外科, 形成外科, 脳神経外科, 呼吸器外科, 皮膚科, 泌尿器科, 産婦人科, 新生児内科, 眼科, 気管食道・耳鼻いんこう科, リハビリテーション科, 放射線診断科, 放射線治療科, 歯科, 歯科口腔外科, 麻酔科, 救急科, 病理診断科

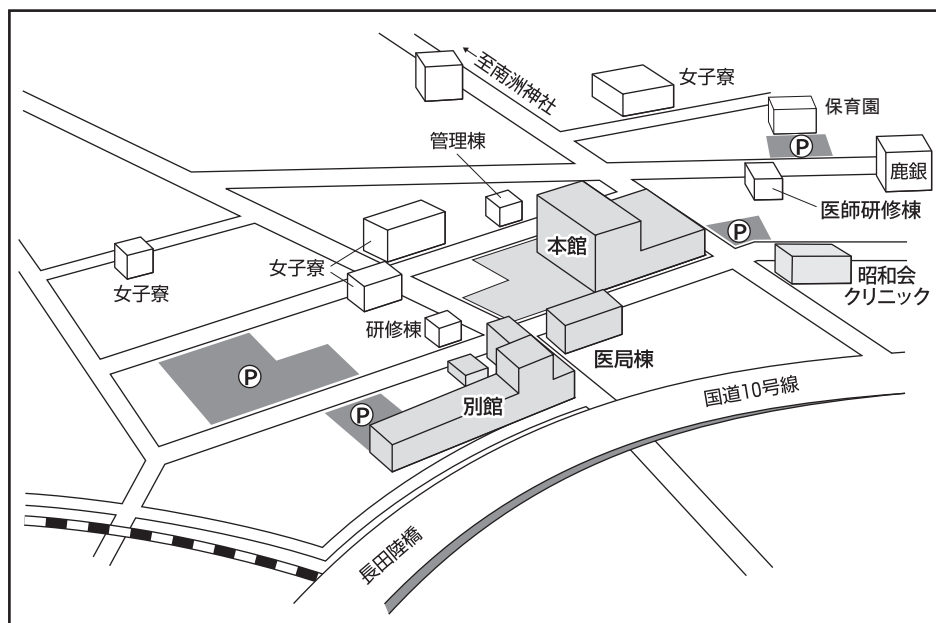
(2) 許可病床数 一般病床 450 床

病棟	病室数	病床数	主な診療科	
本館	2 F 西	12	19	産婦人科
	NICU-GCU	2	19	新生児内科
	2 F 東	18	61	外科, 消内, 形成
	3 F 西	19	43	呼内, 呼外, 緩医
	3 F 中	7	37	循内, 糖内, 整形
	3 F 東	12	37	脳外, 泌尿
	4 F 西	10	31	眼科, 形成
別館	I C U	1	8	外科, 麻酔科
	2 F 北	13	45	放射線科, 総内
	2 F 南	10	43	神経内科, 皮膚科
	3 F 北	11	33	整形外科
	3 F 南	10	50	整形外科
合計	134	450		

(3) 施設の概要

		敷地	建物
病院	本館	3,407.3 m ²	10,542.6 m ²
	別館	3,656.2	5,531.5
	医局棟	290.1	546.8
福利厚生施設	研修棟	156.6	280.1
	医師研修等	224.2	523.9
	第1女子寮	616.8	1,329.7
	第2 "	987.8	2,243.0
	第3 "	1,000.2	521.2
	第4 "	286.6	535.8
	第5 "	200.6	409.9
男子寮	1,582.0	433.5	
保育園	(第3寮と同敷地)	157.1	
管理棟		179.0	411.8
患者専用駐車場		2,632.5	—
医療関連施設建設予定地		81,642.0	—
患者用駐車場		170台収容可	

(4) 病院及び関連施設配置図



H28.3.31 現在

病院施設概要

本館

7 F	・会議室・和温療法室・患者図書室 ・高気圧酸素治療室・臨床工学部・理事長室
6 F	・中央手術室6室(手術台8台)
5 F	・ICU室(8床)・サブライセンター
4 F	・病理部・看護部長室・言語聴覚室・当直室 ・病棟(眼、形)・ナースステーション(4F 西) ・病床管理部
3 F	・病棟(呼内、呼外、緩医、循内、糖内、整、脳外、泌) ・ナースステーション(3F 西、3F 中、3F 東)
2 F	・病棟(産婦、周産母子、外、消内、形) ・ナースステーション(2F 西、2F 東、NICU・GCU) ・薬剤部薬剤管理室
1 F	・総合案内・患者サポート相談室 ・総合受付・薬剤部・医事部 ・救急室・総合処置室・外来化学療法室 ・各科外来診療室・薬品情報室 ・内視鏡室(消化器)・がん相談支援センター ・外来検査室・心電図室・栄養相談室 ・新入院患者様待合室・家族控室(ICU・手術)
B 1	・放射線科外来診察室・中央放射線部 ・画像診断室・診療情報管理部 ・中央監視センター・自家発電装置室 ・高圧変電室・空調機械室・売店
B 2	・前立腺シード室

医局棟

3 F	カンファレンスルーム・医局
2 F	医局・院長室
1 F	医局・当直室

管理棟

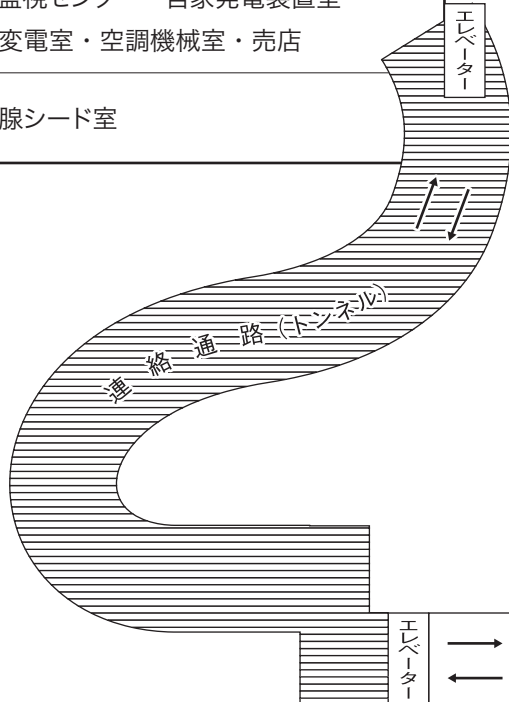
3 F	医療相談室・地域医療連携室・感染管理課 医療安全管理課・褥瘡管理課・緩和医療課
2 F	在宅医療部・看護師控室
1 F	公益財団法人昭和会 事務局

研修棟

3 F	研修室
2 F	研修室
1 F	テナント

別館

4 F	・病棟(小、気・耳、歯口外) ・ナースステーション(4F 北)
3 F	・病棟(整) ・ナースステーション(3F 北、3F 南)
2 F	・病棟(放、総内、神内、皮) ・ナースステーション(2F 北、2F 南)
1 F	・中央臨床検査部・リニアクセンター ・生理検査室(心エコー・脳波・筋電図) ・栄養管理室・調理室・浴場
B 1	・講義室(大ホール) ・機能訓練室(理学・作業・言語) ・ハーバードタンク室 ・洗濯室・リハビリテーション部
B 2	・気管支鏡準備室 ・病理解剖室・霊安室



医師研修施設指定の現状

S58.	4.	11	日本整形外科学会・専門医研修施設
S63.	1.	1	日本泌尿器科学会・専門医教育施設
S63.	9.	1	日本眼科学会・専門医研修施設
H2.	5.	18	日本麻酔科学会・麻酔科標榜研修施設
H2.	12.	19	日本内科学会・認定医教育関連病院
H3.	4.	1	日本医学放射線学会・専門医修練機関
H3.	4.	1	日本耳鼻咽喉科学会・専門医研修施設
H4.	7.	13	日本脳神経外科学会・専門医指定訓練場所
H7.	3.	22	日本形成外科学会・認定医研修施設
H7.	5.	10	日本呼吸器外科学会・専門医認定制度施設
H7.	11.	21	日本外科学会・専門医制度修練施設
H8.	4.	1	日本病理学会・認定病理制度登録施設
H13.	7.	30	日本胸部外科学会・認定医認定制度関連施設
H14.	4.	1	日本皮膚科学会・専門医研修施設
H15.	4.	1	日本神経学会・専門医制度教育関連施設
H15.	4.	1	日本臨床細胞学会・認定施設
H16.	4.	1	日本周産期新生児医学会・周産期(新生児)専門医暫定研修施設
H17.	2.	11	日本脳卒中学会 専門医研修教育施設
H17.	12.	1	日本消化器内視鏡学会・専門医指導施設
H18.	4.	1	日本周産期・新生児医学会 周産期(母胎・胎児)専門医暫定研修施設
H19.	10.	24	日本放射線腫瘍学会 認定施設
H19.	11.	1	日本がん治療認定医機構 認定研修施設
H20.	4.	1	呼吸器外科専門医合同委員会・基幹施設
H20.	4.	1	日本泌尿器科学会・基幹教育施設
H20.	12.	20	日本呼吸器学会・専門医制度関連施設
H21.	4.	1	日本集中治療医学会・専門医研修施設
H21.	4.	1	日本血液学会・認定研修施設
H21.	10.	1	日本産婦人科学会・専門医制度卒後臨床研修指導施設
H21.	10.	1	日本口腔外科学会・専門医制度研修施設
H22.	1.	1	日本救急医学会・専門医指定施設
H23.	1.	1	日本消化器外科学会・専門医研修施設
H23.	7.	1	日本胆道学会・指導医制度指導施設
H24.	1.	1	日本消化器病学会・専門医制度認定施設
H25.	1.	13	日本手外科学会研修施設
H26.	1.	1	日本IVR学会専門医修練施設
H27.	11.	1	日本消化器学会 胃腸科指導施設
H28.	1.	1	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡関連認定施設

その他の施設認定

H16.	8.	1	マンモグラフィ検診精度管理中央委員会 認定施設
H17.	4.	1	日本栄養療法推進協議会NST稼働施設
H17.	11.	1	日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設
H23.	2.	17	日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士取得 実施修練施設
H23.	4.	1	日本臨床衛生検査技師会・精度管理保証施設

H28. 3現在

諸制度の指定状況

● 各種法による当院の取扱指定状況

1. 保険医療機関
2. 国民健康保険医療取扱機関
3. 労災保険指定病院
4. 労災保険二次健診等給付病院
5. 生活保護法指定病院
6. 介護保険法「居宅介護支援事業所」指定病院
7. 生活保護法「居宅介護支援事業所」指定病院
8. 障害者自立支援法「更生医療」「育成医療」指定病院（整形外科・形成外科・耳鼻咽喉科・腎臓・免疫・口腔に関する医療）
9. 障害者自立支援法「精神通院医療」指定病院（神経内科に関する医療）
10. 感染症法（第37条の2）指定病院
11. 原子爆弾被爆者医療法一般疾病医療取扱病院
12. 母体保護法指定病院「不妊手術」
13. 特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
14. 小児慢性特定疾患治療研究事業に係る医療指定病院
15. 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る医療指定病院
16. 母子保健法指定病院「養育医療」
17. 出入国管理及び難民認定法指定病院
18. 救急告示病院

● 九州厚生局による当院の許認可事項

○ 基本診療料の施設基準等

- 一般病棟入院基本料(7対1)
- 総合入院体制加算
- 臨床研修病院入院診療加算（基幹型）
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- 妊産婦緊急搬送入院加算
- 診療録管理体制加算
- 医師事務作業補助体制加算25:1
- 急性期看護補助体制加算25:1
- 急性期看護補助体制加算の注3に掲げる看護職員夜間配置加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 緩和ケア診療加算
- がん診療連携拠点病院加算
- 医療安全対策加算
- 感染防止対策加算1
- 感染防止対策地域連携加算
- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク分娩管理加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- 退院調整加算
- 救急搬送患者地域連携紹介加算
- 救急搬送患者地域連携受入加算
- 呼吸ケアチーム加算
- データ提出加算2
- 特定集中治療室管理料4
- 新生児特定集中治療室管理料1
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料5
- 患者サポート体制充実加算
- 栄養サポートチーム加算
- 新生児特定集中治療室退院調整加算
- 回復期リハビリテーション入院料3

○特掲診療料の施設基準等

がん性疼痛緩和指導管理料
 がん患者指導管理料1, 2, 3
 外来緩和ケア管理料
 院内トリアージ実施料
 夜間休日救急搬送医学管理料
 外来リハビリテーション診療料
 外来放射線照射診療料
 ニコチン依存管理料
 開放型病院共同指導料
 地域連携診療計画管理料
 がん治療連携計画策定料
 がん治療連携管理料
 薬剤管理指導料
 医療機器安全管理料1, 2
 在宅訪問看護・指導料
 持続血糖測定器加算
 H P V核酸固定検査
 検体検査管理加算 (IV)
 時間内歩行試験
 皮下連続式グルコース測定
 神経学的検査
 C T透視下気管支鏡検査加算
 画像診断管理加算1
 画像診断管理加算2
 CT撮影及びMRI撮影
 冠動脈CT撮影加算
 放射線治療専任加算
 高エネルギー放射線治療
 1回線量増加加算
 病理診断管理加算1
 大腸CT撮影加算
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
 外来化学療法加算1
 無菌製剤処理料
 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
 運動器リハビリテーション料 (I)
 呼吸器リハビリテーション料 (I)
 がん患者リハビリテーション料
 組織拡張器による再建手術
 乳がんセンチネルリンパ節加算1
 緑内障手術
 網膜再建術
 腹腔鏡下肝切除術
 腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術
 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
 輸血管理料 I
 輸血適正使用加算
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
 麻酔管理料 (I)
 外来放射線治療加算
 直線加速器による定位放射線治療

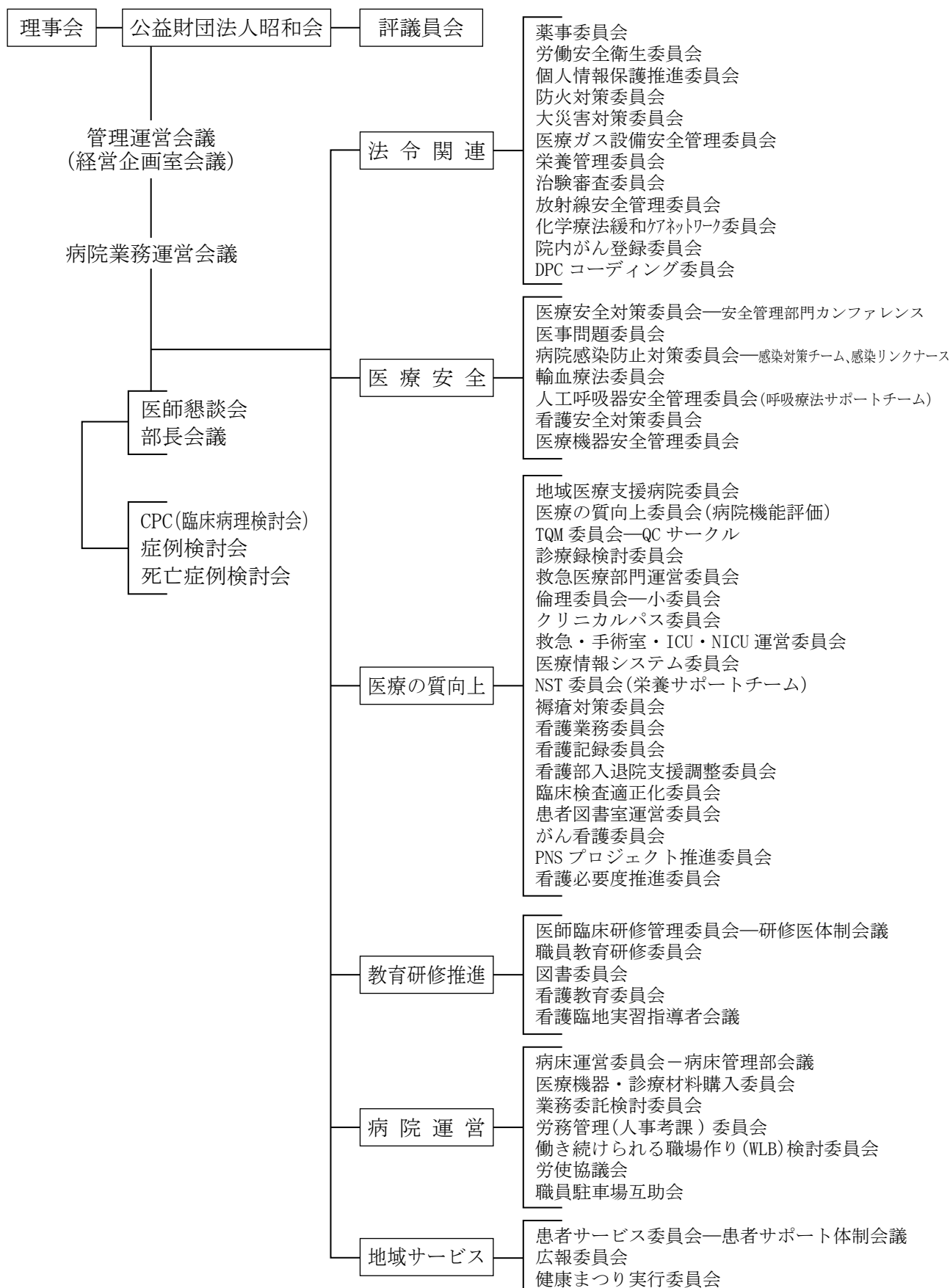
●その他の取扱指定状況

H15. 10 基幹型臨床研修病院
 H20. 4. 1 厚生労働省 D P C対象病院
 H20. 9. 1 県指定 かがしま子育て応援企業
 H20. 10. 1 産科医療補償制度加入医療機関
 H20. 11. 26 県女性医師復職研修事業指定病院
 H21. 3. 27 県指定 地域周産期母子医療センター
 H21. 10. 1 県消防・防災ヘリコプター救急搬送医師搭乗システム輪番病院
 H24. 4. 1 厚生労働省指定 地域がん診療連携拠点病院
 H24. 4. 11 歯科医師臨床研修病院 (協力型)
 H24. 6. 7 県エイズ治療拠点病院
 H25. 3. 22 県指定 地域医療支援病院

- ・ 洋上救急業務支援協力医療機関
- ・ 厚生労働省 医薬品・医療器具安全性情報協力施設
- ・ 県脳卒中情報システム推進事業の
 情報提供協力医療機関
- ・ 県町村会指定離島緊急医療対策支援協力医療機関
- ・ 県へき地医療拠点病院 (遠隔医療支援)
- ・ 県重症難病医療協力病院 (短期入所施設)
- ・ 痛風治療協力医療機関
- ・ 鹿児島市高規格救急車指示病院
- ・ 県救急・災害医療情報システム登録病院
- ・ 県広域災害医療情報システム (EMIS) 登録病院
- ・ 市指定 にこにこ子育て応援隊認定企業
- ・ 県地域周産期医療支援病院
- ・ 各種健診 (検診) ・予防接種等受託医療機関

H28. 3現在

会議・委員会組織図



平成28年3月31日 現在

医療設備概要

(放射線部門)

※印：今年度購入(新設・更新)
病棟・手術室・外来部門は除く

検査室名等		メーカー	機種名	台数
1	一般撮影室(I)	島津 キャノン	(1)UD-150L-30	1
			(2)CM-100(超音波骨密度測定)	1
2	一般撮影室(II)	島津	UD-150L-30	1
第1 操作通路	DR (CXDIシステム)	キャノン	※立・臥位X線デジタルラジオグラフィ	2
5	FPD式X線テレビ室(Cアーム)	日立	SF-VA2000FP(Versi Flex)	1
6	FPD式X線テレビ室	日立	EXAVISTA	1
7	X線CT室(II)	日立	SCENARIA(64列MDCT)	1
8	アンギオ・DSA室	フィリップス	Allura Xper FD20	1
A9	X線CT室(I)	フィリップス	Brilliance64 (64列MDCT)	1
10	MR I 室	日立	ECHOLON Vega(1.5テスラ)	1
11	R I 室	フィリップス	BRIGHTVIEW(特)	1
13	乳房専用室	ローラッド	(1)M-IV	1
			(2)マルチケアー・マンモトーム(組織生検)	1
14	前立腺シード室	バリアン 東芝	(1)バリシード	1
			(2)クリアスコープ9000	1
第2 操作通路	レーザーイメージャー	ケアストリーム	ドライビュー8900	1 1
受付・画像処理		テクマトリックス 富士	画像ネットワークシステム(PACS・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
手術室 ・外科用イメージ ・ポータブル		東芝 GE ケアストリーム	(1)SXT-1000A	1
			(2)Brivo OEC 850	1
			※(3)DRX-レボリビューション	1
本館病棟(ポータブル)		シーメンス	モビレット プラス	1
別館病棟(ポータブル)		シーメンス	モビレットXP Hibrid	1
リニアックセンター		エレクタ フィリップス	(1)プリサイズ トリートメント システム	1
			(2)ピナクル	1

(検査部門)

コーナー	機器名称	メーカー	用途	台数
血液一般	クリニテックアドバンタス	シーメンス・メディカル・ソリューションズ	尿定性検査	1
	コアプレスタ2000	積水メディカル	血液凝固項目	1
	総合血液学検査装置ADVIA2120i	シーメンス・メディカル・ソリューションズ	血液像、血算項目他	1
	自動血沈計 モニター20	常光	血沈測定	1
	遠心分離器2010	クボタ	遠心作業	2
	双眼顕微鏡 BH2	オリンパス	血液像、尿沈査他	2
	※双眼顕微鏡 BX43	オリンパス	血液像	1
	血小板凝集能測定装置 MCM HEMA TRACER 313M	エル・エム・エス	ADP、カラーゲン	1
	集細胞遠心装置サイト・スピンド	サーモフィッシュサイエンティフィック	遠心器	1
	骨髓像分類計数装置F510	ERMA INC	骨髓像分類	1
生化学	JCA-BM9130	日本電子	生化学項目・免疫項目	1
	※トキシノメーター MT6500	和光	BDグルカン、エンドトキシン	1
	AIC全自動測定装置HA-8170	アークレイ	HbA1c、HbA1c	1
	※OSMO STATION 6060	アークレイ	血液、尿、OSM	1
	分光光度計	エルマ	生化学他定量測定項目	1
	超低温フリーザー(-80℃)	日本フリーザー	凍血保存用(血清、リコール等)	1
	DRI-CHEM100	フジフィルム	NH ₃ 測定	1
	血中薬物濃度測定器Viva-E	シーメンス	ジゴキシン他7項目測定	1

コーナー	機 器 名 称	メ ー カ ー	用 途	台数
生 化 学	※iPro2システム	メドトロニック	持続グルコースモニタ	1
	※マイクロミニ遠心器	クボタ	高速遠心	1
	RAPID Point 500	シーメンス	血ガスPH PCO2 PO2他	1
	遠心分離器2010・2410・※4000	クボタ	血清分離	3
	cobas h232	ロシュ・ダイアグノスティックス	トロポニンT	1
	業務用冷凍冷蔵庫	ナショナル	試薬管理・血清保存	1
	THERMOSTATION TS100	和光	血清不活化用保温器(B-Dエンド)	1
	SDA 0080	オルガノ	蒸留装置	1
	全自動免疫血清測定器AIA-2000ST	東ソー	腫瘍マーカー、ホルモン測定	1
	冷却遠心器	KUBOTA2800	血清分離	1
mini VIDAS	日本ビオメリユー	HIV、風疹、トキソ、E2、他	1	
全自動化学発光酵素免疫測定システム ルミパルスG1200	富士レビオ	感染症検査	1	
輸血免疫血清	ヘモクイックAC-185	テルモ	自己血採血装置	1
	全自動洗浄器 MC450	日立	交差試験等セルウォッシュヤー	1
	サンフェージュ遠心器	三光純薬	交差試験専用遠心器	1
	遠心分離器 2010	クボタ	血清分離	1
	BIO-RAD輸血システム	BIO-RAD	輸血管理システム	1
	ID-Gelstation	BIO-RAD	輸血検査システム	1
	マイクロダイビングシステム用恒温器	BIO-RAD	輸血検査	1
	マイクロダイビングシステム用遠心器	BIO-RAD	輸血検査	1
	HS-12遠心器	コクサン	血液型、交差試験専用遠心器	1
	恒温槽TR-S	アズワン	交差試験用恒温槽	1
テルモチューブシーラーAC-155	テルモ	自己血用チューブシーラー	1	
FFPバッグ解凍器FP-40	Meditex	FFP解凍	1	
外来検査室	※自動採血管準備装置 BC-ROBO-800RFID	テクノメディカ	採血管準備	1
	クリニテックアドバンタス	シーメンス・メディカル・ソリューションズ	尿定性検査	1
	遠心分離器 2010、4200	クボタ	血清分離	2
	cobas h232	ロシュ・ダイアグノスティックス	トロポニンT	1
	双眼顕微鏡BH-2	オリンパス	尿沈査	1
RPAID Point 500	シーメンス	血ガスPH PCO2 PO2他	1	
生理検査室	ホルター心電計	日本光電	24h 心電図	4
	※ホルター心電図解析装置 QP-551D	日本光電	24h 心電図解析	1
	呼吸機能自動解析装置 FUDAC-77	フクダ電子	肺気量分画・フローボリューム他	1
	脳波計(18ch)	日本光電	脳波	1
	ポータブル用脳波計(14ch)(誘発電位検査装置付)	日本光電	脳波・ABR	1
	節電図・誘発反応検査装置	日本光電	節電図・ABR・SEP他	1
	磁気刺激装置	セルコム・日本光電	誘発反応刺激	2
	携帯用自動血圧モニター	日本光電	24hr 自動血圧計	1
	レポートジェネレーター	日本光電	24hr 自動血圧計解析	1
	VaSera VS-3000TE(血圧脈波検査装置)	フクダ電子	心電図・CAVI・ABI・TBI検査	1
	自動解析装置付心電計	フクダ電子	心電図	3
	パルスオキシメータ	タインヘルスケアジャパン	パルスオキシメータ	1
	※パルスオキシメータ	フクダ電子	SPO2	1
	ネイタスアルゴ3i	アトムメディカル	聴覚誘発反応測定装置	1
	脳波計(NICU用)	日本光電	脳波	2
	携帯型心電計	デイリーケアバイオメディカル	心電図	1
	電気味覚計	リオン	味覚計	1
	イベントレコーダー	日本ライフライン	心電図	2
赤外分光分析装置	大塚製薬	ピロリ感染	1	
ウォッチパット	フィリップス	睡眠評価装置	1	
I C U	自動解析装置付き心電計	フクダ電子	心電図・CVRR	1
	輸液ポンプ TE171	テルモ株式会社	輸液ポンプ	11
	輸液ポンプ OT-808	株式会社JMS	輸液ポンプ	15
	シリンジポンプ TE-351	テルモ株式会社	シリンジポンプ	12
	IntelliVue MP70	フィリップス	生体情報モニタ	8
	※Co2拡張モジュール	フィリップス	生体情報モニタ	1
	IntelliVue X2 MMS	フィリップス	生体情報モニタ	1
	※M3	フィリップス	生体情報モニタ	1
	頭蓋内圧モニタ ICPエクスプレス	ジョンソンアンドジョンソン	生体情報モニタ	1
	パルスオキシメータ N-550	コヴィディエンジャパン	生体情報モニタ	3

コーナー	機 器 名 称	メ ー カ ー	用 途	台数
I C U	※パルスオキシメータ Pumori7165	ユビックス	生体情報モニタ	1
	除細動装置ハートスタート M4735A	フィリップス	除細動装置	1
	血液凝固計ヘモクロン401	平和物産	臨床検査機器(血液凝固測定装置)	1
	ABL90FLEX	ラジオメーター株式会社	血液ガス分析装置	1
	人工呼吸器 PB-840	コヴィディエンジャパン	人工呼吸器	4
	人工呼吸器 エビタXL	ドレーゲルメディカル	人工呼吸器	1
	人工呼吸器 エングストローム ケアステーション	GEヘルスケア	人工呼吸器	1
	メディスームII	GAYMAR	高・低体温維持装置	1
	※ネスコソニックネブライザ	アルフレッサファーマ株式会社	超音波ネブライザ	3
	個人用透析装置DBBシリーズ	日機装株式会社	血液透析装置	4
	RO水製造装置NEWΩ	IMS	透析用RO水製造装置	1
	気管支ファイバースコープ P-20	オリンパス株式会社	気管支内視鏡	1
	※気管支鏡光源器OES-XENON-LIGHT SOURC	オリンパス株式会社	気管支内視鏡	1
	吊下げ式体重計スケルトロニクス モデル2001	ウベ循環	体重計	1
フットポンプSCDエクスプレス	コヴィディエンジャパン(ジャグッド)	コヴィディエンジャパン(ジャグッド)	1	
※自動血圧計 エレマーノ H-55	テルモ株式会社	血圧計	3	
※薬用保冷庫 MEDI COOL	SANYO	保冷庫	1	
細菌室	※全自動細菌検査システム(マイクロスキャン)	ベックマン・コールター	一般細菌同定、感受性	1
	全自動オートクレーブ	平山	滅菌	1
	ふらん器	池本理化	培養器	2
	顕微鏡 BX50	オリンパス	グラム染色・抗酸菌染色他	1
	クラスII生物キャビネット	日本エアテック	安全キャビネット	1
	顕微鏡Ni-U	ニコン	グラム染色・抗酸染色他	1
BACTEC 9050	日本ペクトン・ディッキンソン	全自動血液培養検査	2	
病理検査室	Synergy UV	日本ミリポアリミテッド	蒸留水作成	1
	解剖台(PM-S-3型)	ホザナ	病理解剖	1
	ディスプレイング・コンソール	ティシューテック	包埋	1
	クライオ・コンソール	ティシューテック	冷却(包埋カセット)	1
	臓器撮影台CPM-2000	コメット, 白井松	写真撮影	1
	※臓器撮影装置MPS-8-LD	杉浦研究所	写真撮影	1
	超低温フリーザー MDF-190AT	サンヨー	凍結保存	1
	超低温フリーザー MDF-U281AT	サンヨー	凍結保存	1
	Elix UV3	日本ミリポアリミテッド	蒸留水作成	1
	ミクロトーム	ヤマト	パラフィン標本薄切	2
	パラフィン溶融器	サクラ	パラフィン溶融	1
	浮卵器(37℃)	サクラ	染色反応	1
	最高級写真顕微鏡(PROVIS)AX-80	オリンパス	組織顕微鏡用	1
	卓上小型遠心器(クボタ2420)	クボタ	遠心器	1
	安全キャビネット	エアテック	検体処理	2
	オートクレーブ	サクラ	免疫染色	1
	PCRサイクラー	フナコシ	PCR	1
	クライオ3D	ティシューテック	凍結標本作製	1
	VIP5ジュニア	ティシューテック	脱水、透徹	1
	PCRサイクラー PC818	アステック	PCR	1
	冷却遠心器 3500	クボタ	PCR	1
	ブロックインキュベーター BI-525A	アステック	PCR	1
	VENTANA BenchMark ULTRA	ロッシュ	免疫染色	1
	HISTOSTAINER36A	NICHIREI	免疫染色	1
	HEAT PROII	NICHIREI	免疫染色	1
	LEICA BOND-III	Leica	免疫染色	1
	Histo-Tek Air-Pro	サクラ	局所排気装置	1
	Tissue-Tek Glas	サクラ	自動封入装置	1
	NANO DROP	Thermo	PCR	1
	遺伝子解析装置i-densy™ IS-5320	arkray	遺伝子変異解析	1
	Maxwall®ib AS2000	Promega	核酸抽出	1
	バーチャルスライド装置 Fino	CLARO	組織顕微鏡用	1
	FINE FROST PRINTER MINI	マツナミ	スライドガラス印字	3
内視鏡室	胃ファイバースコープ(電子)	オリンパス	胃精密検査	6
	胃ファイバースコープ(処置用)	オリンパス	処置用	1
	胃ファイバースコープ(XP-260N)	オリンパス	経鼻内視鏡	1

コーナー	機 器 名 称	メ ー カ ー	用 途	台数
内 視 鏡 室	十二指腸ファイバースコープ(電子)	オリンパス	膵胆管造影	2
	大腸ファイバースコープ	オリンパス	大腸精密検査	4
	超音波ファイバースコープ	オリンパス	食道・胃・十二指腸	1
	気管支ファイバースコープ	オリンパス	気管支 "	2
	気管支ビデオスコープ	オリンパス	気管支 "	3
	光源装置	オリンパス	光源	4
	自動洗浄機	J&J	洗浄 (気管支鏡室)	3
	自動洗浄機	オリンパス	洗浄	2
	※小腸カプセル内視鏡ワークステーション	Given	小腸カプセル検査読影	1
高気圧酸素治療室	高気圧酸素治療装置	川崎エンジニアリング	高気圧酸素治療	2

病院統計

- (1) 科別外来患者数
- (2) 科別在院患者延べ数
- (3) 年度別手術症例数
- (4) 科別手術症例数
- (5) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数
- (6) 外来患者市町村別分類図
- (7) 退院患者市町村別分布図
- (8) 市町村別紹介施設数・患者数
- (9) 市町村別逆紹介施設数・患者数
- (10) 紹介率
- (11) 逆紹介率
- (12) 外来患者初再診
- (13) 外来患者時間外・深夜・休日患者数
- (14) 入院患者に関する実績比較
- (15) 年度別救急車受入台数(患者数)
- (16) 救急患者受入時間帯・年齢別分類
- (17) 市町村別救急患者数
- (18) 退院患者ICD大分類(主傷病名大分類)
- (19) ICD大分類(科別、性別退院患者数)

・○印:時間内診療はクリニックで実施 ・在宅医療含む
 ・1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く)

(1) H27年度 科別外来患者数(複数診療科受診を各々1とした場合)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	1月平均	1日平均
○ 内科 (糖・神内・呼・循・潜血)	1,529	1,453	1,592	1,536	1,520	1,429	1,625	1,398	1,612	1,427	1,490	1,693	18,304	1,525	67.7
○ 外科 (肝・潜乳・甲・小肛)	342	331	380	325	300	360	400	354	429	342	335	404	4,302	359	15.9
○ 呼吸器外科	176	176	187	212	181	189	175	167	191	146	176	205	2,181	182	8.1
○ 整形外科	212	233	252	258	295	264	276	272	295	280	306	336	3,279	273	12.1
○ 形成外科	98	103	59	83	107	80	114	84	97	75	77	87	1,064	89	3.9
○ 脳神経外科	28	26	29	23	21	23	23	26	30	32	25	25	311	26	1.1
○ 産婦人科	362	335	354	349	278	344	369	340	378	322	333	340	4,104	342	15.2
○ 小児科	4	3	4	4	7	9	5	8	10	7	6	5	72	6	0.3
○ 泌尿器科	683	696	694	728	719	758	794	725	778	634	699	751	8,659	722	32.0
○ 眼科	1,163	1,031	1,118	1,109	932	1,005	854	720	796	624	724	761	10,837	903	40.1
○ 気管食道・耳鼻いんこう科	3	10	9	10	7	3	11	6	6	4	3	6	78	7	0.3
○ 皮膚科	5	75	14	17	11	16	41	11	10	10	37	7	254	21	0.9
○ 麻酔科	16	18	11	18	13	17	23	23	14	21	16	18	208	17	0.8
○ 放射線科 (診断・治療)	194	160	232	277	217	191	168	167	221	139	137	203	2,306	192	8.5
○ 緩和医療科	32	23	28	19	24	32	21	28	26	25	21	25	304	25	1.1
○ 病理診断科	3	3	2	3	2	2	8	5	5	3	5	4	45	4	0.2
○ 歯科口腔外科	0	1	2	0	7	1	1	1	0	0	0	0	13	1	0.0
○ 合計	4,850	4,677	4,967	4,971	4,641	4,723	4,908	4,335	4,898	4,091	4,390	4,870	56,321	4,693	-
○ 1日平均	211	228	207	207	197	225	209	206	213	195	200	203	-	-	208.2



(2) H27年度 科別在院患者延数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	1月平均	1日平均
内科 (内・神・内・呼・産・消・肝・血)	3,343	2,856	3,143	3,093	3,163	2,862	2,723	2,723	2,973	3,162	3,075	3,246	36,362	3,030	99
外科 (肝・消・乳・甲・小・肛)	730	616	696	679	846	627	631	571	501	446	660	669	7,672	639	21
呼吸器外科	384	298	316	353	294	269	419	270	255	300	232	324	3,714	310	10
整形外科	3,262	3,234	3,506	3,477	3,631	3,321	3,625	3,560	3,751	4,072	3,930	3,894	43,263	3,605	118
形成外科	620	629	684	576	604	517	593	589	553	343	523	862	7,093	591	19
脳神経外科	662	662	603	631	426	503	659	625	575	570	699	570	7,185	599	20
産婦人科	493	393	326	268	374	403	441	270	337	362	458	413	4,538	378	12
新生児内科	568	467	336	453	558	454	490	516	418	423	482	453	5,618	468	15
小児科	191	171	155	119	137	105	97	80	152	86	116	75	1,484	124	4
泌尿器科	383	419	537	474	462	478	513	535	559	474	531	555	5,920	493	16
眼科	625	725	845	687	186	176	287	251	206	240	188	254	4,670	389	13
気管食道・ 耳鼻いんこう科	240	191	240	234	271	205	279	223	193	215	203	237	2,731	228	7
皮膚科	92	51	57	113	76	111	143	148	157	139	171	86	1,344	112	4
麻酔科	0	6	28	1	0	4	0	0	1	2	2	1	45	4	0
放射線科 (診断・治療)	88	127	95	185	78	92	79	109	82	110	75	63	1,183	99	3
緩和医療科	53	30	55	29	57	61	70	60	98	39	80	124	756	63	2
歯科口腔外科	56	32	30	61	126	108	61	47	49	55	69	95	789	66	2
合計	11,790	10,907	11,652	11,433	11,289	10,296	11,110	10,577	10,860	11,038	11,494	11,921	134,367	11,197	-
1日平均	393	352	388	369	364	343	358	353	350	356	396	385	-	-	367

(3) 年度別手術症例数 (病院手術室実施手術)

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
4 月	305	293	391	375	388
5 月	293	356	352	344	319
6 月	341	326	325	373	415
7 月	314	335	415	399	385
8 月	388	370	394	406	298
9 月	280	338	353	341	312
10月	313	372	397	400	373
11月	313	333	379	340	364
12月	315	278	353	369	315
1 月	263	320	361	344	304
2 月	286	337	371	382	341
3 月	299	355	387	399	383
合計	3,710	4,013	4,478	4,472	4,197
月平均	309	334	373	373	350

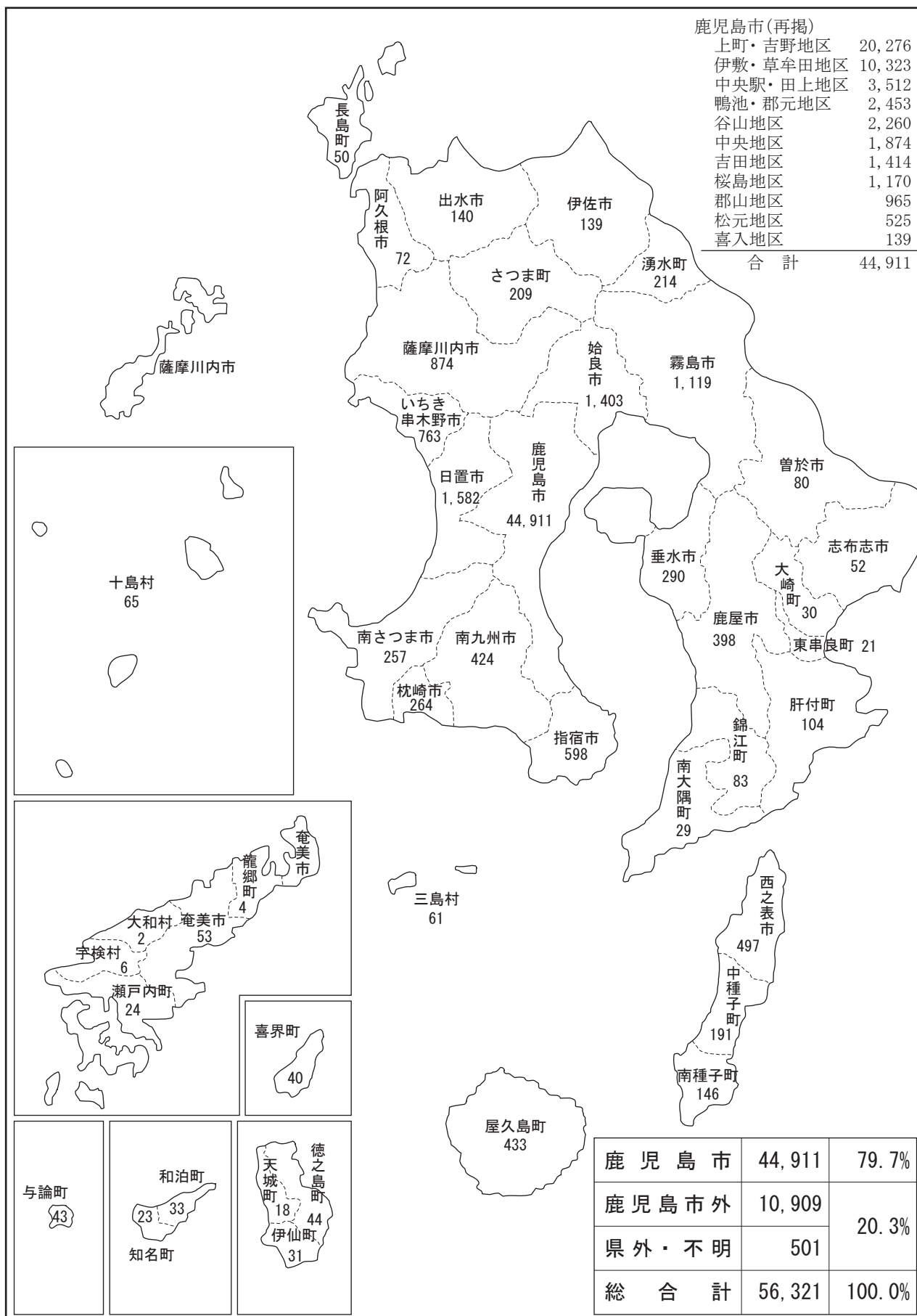
(4) 科別手術症例数 (病院手術室実施手術)

	眼 科	整形外科	形成外科	泌尿器科	外 科	耳鼻咽喉科	産婦人科	呼吸器外科	歯科口腔外科	脳神経外科	総 計
4 月	122	79	42	29	26	28	21	16	13	12	388
5 月	117	65	36	26	25	14	13	10	7	6	319
6 月	168	86	43	24	26	24	15	11	11	7	415
7 月	146	70	42	25	23	28	11	18	12	10	385
8 月	27	90	45	26	28	26	13	20	19	4	298
9 月	74	75	32	24	27	25	15	12	14	14	312
10月	126	84	40	27	17	24	16	18	13	8	373
11月	127	91	26	23	22	23	15	13	11	13	364
12月	95	79	30	23	20	20	18	12	11	7	315
1 月	87	78	28	26	19	21	11	12	14	8	304
2 月	82	101	44	25	30	14	11	7	12	15	341
3 月	112	85	55	30	23	23	15	13	17	10	383
総 計	1,283	983	463	308	286	270	174	162	154	114	4,197

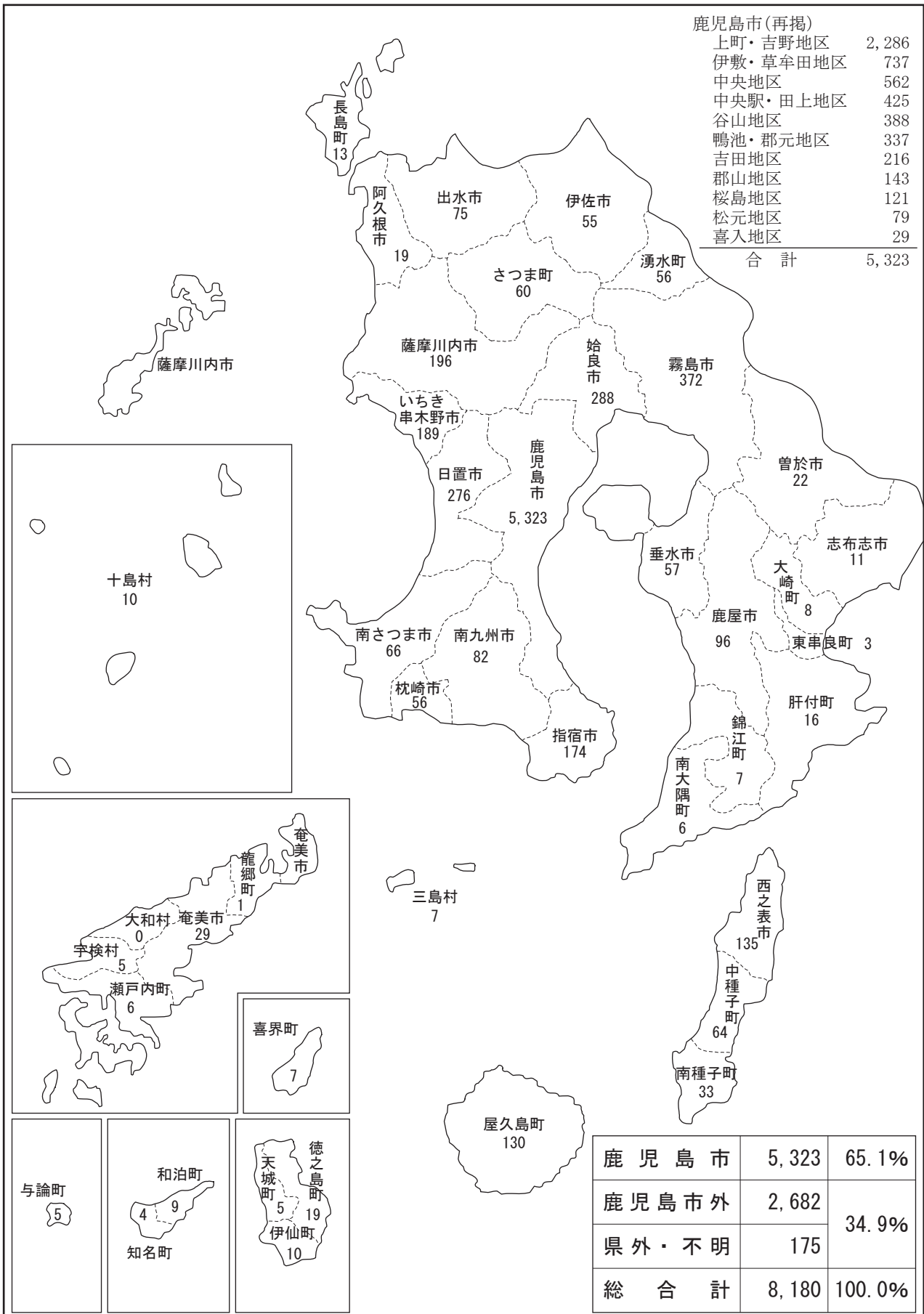
(5) 年度別入院患者死亡数及び病理解剖数

	平成23年		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年	
	死亡数	解剖数	死亡数	解剖数	死亡数	解剖数	死亡数	解剖数	死亡数	解剖数
4 月	11	0	18	0	17	0	18	0	21	0
5 月	21	0	17	1	19	0	18	0	23	0
6 月	15	0	13	0	13	0	10	0	10	0
7 月	15	0	12	0	16	0	13	0	13	0
8 月	14	0	18	0	11	0	17	0	17	0
9 月	19	0	21	0	13	0	16	0	13	0
10月	18	0	14	0	20	0	4	0	12	0
11月	15	0	19	0	21	0	19	0	12	1
12月	15	0	9	0	19	0	20	0	15	0
1 月	17	0	14	0	19	0	19	0	16	0
2 月	19	0	18	0	12	0	12	1	8	0
3 月	20	0	18	0	13	0	20	0	16	0
合計	199	0	191	1	193	0	186	1	176	1
剖検率	-		0.5%		-		0.5%		0.5%	

(6) 平成27年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



(7) 平成27年度 退院患者市町村別分布図



(8) 平成27年度 市町村別紹介施設数・患者数(他院より当院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数
鹿児島	鹿児島郡	鹿児島市	503	7,228	肝属郡	東串良町	1	1	
		三島村	4	15			大崎町	1	1
		十島村	7	18		曾於市	3	5	
始良	始良郡	霧島市	61	411	伊佐	志布志市	5	5	
		始良市	49	329		伊佐市	17	65	
日置	日置市	湧水町	3	13	熊毛郡	西之表市	8	293	
		日置市	31	223		中種子町	3	4	
川薩	薩摩郡	薩摩川内市	43	354		南種子町	2	14	
		いちき串木野市	25	203	屋久島町	6	116		
		さつま町	9	55	奄美市	15	42		
川辺	南さつま市	南さつま市	19	51	大島郡	瀬戸内町	1	3	
		枕崎市	9	39		喜界町	1	6	
		南九州市	10	38		徳之島町	6	27	
指宿	指宿市	指宿市	22	183		和泊町	2	4	
		出水市	10	49		知名町	3	15	
出水	出水郡	阿久根市	5	16		与論町	3	5	
		長島町	1	3	県内	922	9,994		
		鹿児島市	21	112	県外	124	218		
肝属	肝属郡	垂水市	9	42	総合計	1,046	10,212		
		肝付町	2	4					
		錦江町	2	2					

※病院・クリニック合算の数です

(9) 平成27年度 市町村別逆紹介施設数・患者数(当院より他院への紹介)

市 町 村 名			施設件数	患者数	市 町 村 名			施設件数	患者数
鹿児島	鹿児島郡	鹿児島市	458	4,645	肝属郡	東串良町	1	1	
		三島村	3	4			大崎町	1	1
		十島村	1	1		曾於市	3	6	
始良	始良郡	霧島市	52	280	伊佐	志布志市	7	12	
		始良市	42	271		伊佐市	14	44	
日置	日置市	湧水町	3	8	熊毛郡	西之表市	7	130	
		日置市	27	159		中種子町	4	8	
川薩	薩摩郡	薩摩川内市	37	143		南種子町	1	13	
		いちき串木野市	22	140	屋久島町	7	87		
		さつま町	12	36	奄美市	11	39		
川辺	南さつま市	南さつま市	16	49	大島郡	喜界町	1	1	
		枕崎市	9	30		徳之島町	4	20	
		南九州市	9	34		和泊町	1	5	
指宿	指宿市	指宿市	20	153		知名町	3	6	
		出水市	14	61		与論町	2	7	
出水	出水郡	阿久根市	4	13		県内	829	6,574	
		長島町	1	1	県外	165	247		
		鹿児島市	22	131	宛先無し	-	393		
肝属	肝属郡	垂水市	6	23	総合計	994	7,214		
		肝付町	3	4					
		錦江町	1	8					

※病院・クリニック合算の数です

(10) 今給黎総合病院 紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数	342	272	387	326	309	336	350	276	265	270	279	303
紹介率 (%)	69.7	64.3	72.2	67.2	67.6	67.6	70.0	64.5	70.5	73.0	62.6	62.3

(算定方法は地域支援病院に準ずる)

(11) 今給黎総合病院 逆紹介率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
逆紹介患者数	547	435	537	638	673	541	559	479	488	436	482	602
逆紹介率 (%)	111.4	102.8	100.2	131.5	147.3	108.9	111.8	111.9	129.8	117.8	108.1	123.9

(算定方法は地域支援病院に準ずる)

(12) 平成27年度 外来患者初再診数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	1日平均
初診	666	816	759	720	776	786	807	685	772	586	744	852	8,969	747.4
再診	4,184	3,861	4,208	4,251	3,865	3,937	4,101	3,650	4,126	3,505	3,646	4,018	47,352	3,946.0
合計	4,850	4,677	4,967	4,971	4,641	4,723	4,908	4,335	4,898	4,091	4,390	4,870	56,321	4,693.4
初診率 (%)	13.7	17.4	15.3	14.5	16.7	16.6	16.4	15.8	15.8	14.3	16.9	17.5	-	15.9

(13) 平成27年度 外来患者時間外・深夜・休日患者数 (診療報酬加算をもとに集計)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計	1日平均
時間外	127	103	109	113	133	93	132	106	100	99	130	132	1,377	3.8
深夜	56	62	49	62	47	39	58	52	54	50	44	48	621	1.7
休日	73	293	44	69	129	176	106	122	253	111	135	190	1,701	24.0
合計	256	458	202	244	309	308	296	280	407	260	309	370	3,699	-

休日：休日在宅医（当番日）含む

(14) 入院患者に関する実績比較

1. 年度別

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
定 床	450	450	450	450	450
新 入 院 数	7,021	7,631	8,136	8,060	8,179
退 院 数	7,039	7,652	8,112	8,038	8,180
在院患者延数	135,970	132,825	136,860	136,106	134,367
1日平均 在院患者数	371.5	363.9	375.0	372.9	367.1
平 在 院 日 数	17.0	15.4	15.3	17.2	16.0
病 利 用 率	82.6%	80.9%	83.3%	82.9%	81.6%

2. 平成27年度 月別

* 平均在院日数は3ヶ月平均の値

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年 計	月平均
定 床	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	450	-	450
新 入 院 患 者 数	728	604	731	697	649	633	725	667	652	671	674	748	8,179	682
退 院 患 者 数	740	620	709	727	657	622	725	659	725	587	652	757	8,180	682
在院患者延数	11,790	10,907	11,652	11,433	11,289	10,296	11,110	10,577	10,860	11,038	11,494	11,921	134,367	11,197
1日平均 在院患者数	393.0	351.8	388.4	368.8	364.2	343.2	358.4	352.6	350.3	356.1	396.3	384.5	-	367.1
平 均 在 院 日 数	15.9	16.2	15.7	15.9	15.6	15.6	15.7	15.9	16.0	16.4	16.6	16.6	-	16.0
病 利 用 率 (%)	87.3	78.2	86.3	82.0	80.9	76.3	79.6	78.3	77.8	79.1	88.1	85.5	-	81.6

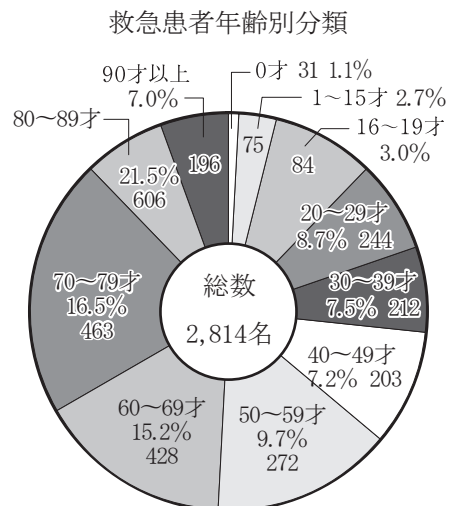
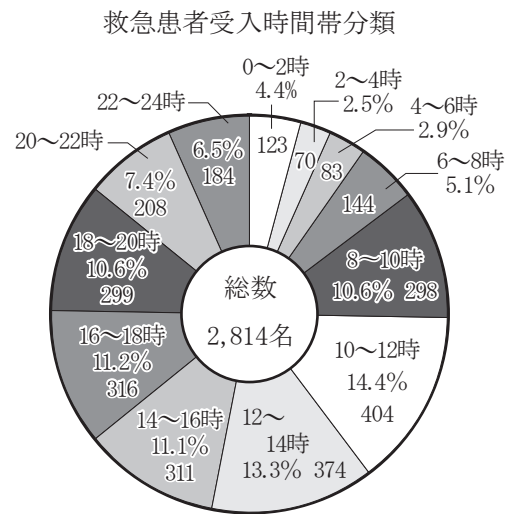
3. 平成27年度 科別

	総 内	血 内	糖 内	消 内	循 内	呼 内	神 内	外	呼 外	整 形	形 成	脳 外
新 入 院 患 者 数	293	4	28	556	93	481	485	558	362	1,216	433	337
退 院 患 者 数	298	2	20	552	96	483	493	562	335	1,241	405	337
在院患者延数	8,765	7	466	6,062	2,023	7,067	11,972	7,672	3,714	43,263	7,093	7,185
1日平均 在院患者数	23.9	0.0	1.3	16.6	5.5	19.3	32.7	21.0	10.1	118.2	19.4	19.6
	産 婦	新 内	小 児	泌	眼	耳 鼻	皮	麻	放	緩 和	歯 口 外	
新 入 院 患 者 数	399	210	244	558	1,134	433	75	6	55	30	189	
退 院 患 者 数	405	221	243	551	1,140	437	74	7	47	39	192	
在院患者延数	4,538	5,618	1,484	5,920	4,670	2,731	1,344	45	1,183	756	789	
1日平均 在院患者数	12.4	15.3	4.1	16.2	12.8	7.5	3.7	0.1	3.2	2.1	2.2	

(15) 年度別救急車受入台数(患者数)

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
4月	180 (182)	220 (221)	214 (220)	199 (202)	221 (224)
5月	196 (196)	219 (221)	228 (235)	213 (217)	219 (226)
6月	185 (188)	194 (195)	208 (213)	206 (209)	210 (215)
7月	212 (216)	218 (223)	247 (251)	225 (229)	209 (215)
8月	250 (266)	251 (256)	249 (253)	212 (216)	259 (264)
9月	214 (218)	217 (222)	197 (201)	224 (226)	205 (213)
10月	247 (251)	238 (242)	230 (233)	202 (205)	248 (252)
11月	212 (215)	245 (249)	224 (226)	222 (224)	213 (215)
12月	237 (239)	224 (225)	218 (223)	227 (232)	249 (253)
1月	239 (241)	214 (219)	201 (208)	244 (243)	243 (248)
2月	172 (175)	209 (210)	212 (221)	204 (209)	228 (232)
3月	228 (228)	214 (215)	209 (217)	227 (230)	251 (257)
合計	2,572 (2,615)	2,663 (2,698)	2,637 (2,701)	2,605 (2,642)	2,755 (2,814)
月平均	214.3 (217.9)	221.9 (224.8)	219.8 (225.1)	217.1 (220.2)	229.6 (234.5)
日平均	7.0 (7.1)	7.3 (7.4)	7.2 (7.4)	7.1 (7.2)	7.5 (7.7)
高規格救急車指示(再掲)	26	17	18	21	14

(16) 平成27年度
救急患者受入時間帯・年令別分類

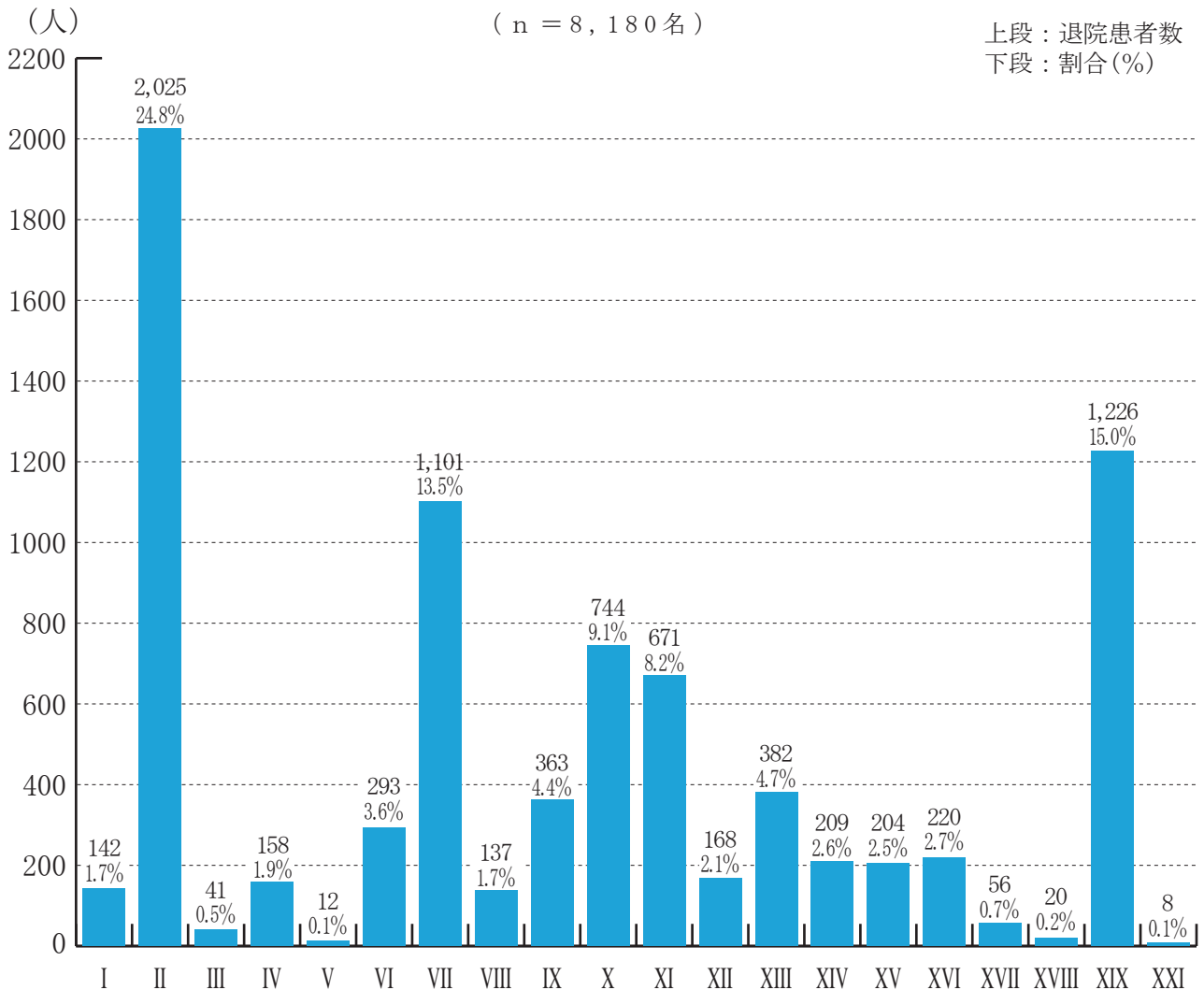


(17) 平成27年度 市町村別救急患者数

		市町村名	救急患者数			市町村名	救急患者数			市町村名	救急患者数
鹿	鹿	上町・吉野	1012	日置	日置市	66	曾於	曾於市	2		
		伊敷・草牟田	492		薩摩川内市	17		志布志	1		
		中央・田上	266		いちき串木野市	15		伊佐市	6		
		中央駅・田上	191		さつま町	10		西之表市	10		
	児島	鴨池・郡元	112	川辺	南さつま市	4	熊毛	中種子町	1		
		谷山	78		枕崎市	8		南種子町	2		
		桜島	66		南九州市	11		屋久島町	3		
		吉田	130		指宿市	14		奄美市	1		
	島	松元	25	出水	出水市	3	大島	県内	2,812		
		喜入	6		阿久根市	2		県外	2		
郡山		83	鹿屋市		14	洋上救急(再掲)		-			
始良	十島村・三島村	1	肝属	垂水市	11	総合計		2,814			
	霧島市	33									
	始良市	113									
		湧水町	3								

(18) 平成27年度 退院患者 ICD大分類

主 傷 病 名 大 分 類



- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 感染症及び寄生虫症 | XII 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| II 新生物 | XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | XIV 腎尿路生殖器系の疾患 |
| IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 | XV 妊娠、分娩及び産褥 |
| V 精神及び行動の障害 | XVI 周産期に発生した病態 |
| VI 神経系の疾患 | XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| VII 眼及び付属器の疾患 | XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| VIII 耳及び乳様突起の疾患 | XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| IX 循環器系の疾患 | XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| X 呼吸器系の疾患 | |
| XI 消化器系の疾患 | |

(19) 平成27年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女合計	総数	総内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整形	脳	泌	産	新内	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和	
総数	8,180	男 4,315 女 3,865	129	259	308	312	43	15	141	325	216	38	604	220	191	459	-	123	0	548	256	32	3	69	24
I 感染症及び寄生虫症	142	男 68 女 74	8	11	12	2	1	1	15	2	5	7	-	-	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
II 新生物	2,025	男 1,220 女 805	28	6	222	165	-	1	-	180	133	5	11	49	6	356	-	-	-	5	31	-	-	-	22
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	41	男 20 女 21	4	-	1	8	-	-	3	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	158	男 94 女 64	8	10	-	1	1	12	12	-	3	-	3	-	2	1	-	-	-	41	-	-	-	-	-
V 精神及び行動の障害	12	男 5 女 7	-	-	1	1	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
VI 神経系の疾患	293	男 152 女 141	5	116	-	1	-	-	2	-	-	-	8	2	13	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-
VII 眼及び付属器の疾患	1,101	男 515 女 586	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-	-	-	-	490	-	-	-	-	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	137	男 54 女 83	2	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	42	1	-	-	-	-
IX 循環器系の疾患	363	男 193 女 170	1	63	1	2	33	-	-	-	2	-	-	1	87	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-
X 呼吸器系の疾患	744	男 458 女 286	41	13	60	6	6	-	92	3	51	-	-	1	3	-	-	-	-	182	-	-	-	-	-
XI 消化器系の疾患	671	男 341 女 330	8	3	1	118	1	-	3	127	1	-	1	2	-	-	-	-	-	9	-	-	67	-	
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	168	男 87 女 81	2	-	-	-	-	-	7	3	-	24	12	35	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	382	男 211 女 171	7	13	2	-	1	-	-	-	-	1	177	6	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	209	男 116 女 93	8	5	-	2	0	-	3	2	1	-	-	4	-	91	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XV 妊娠、分娩及び産褥	204	男 - 女 204	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
XVI 周産期に発生した病態	220	男 123 女 97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	123	-	-	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	56	男 26 女 30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20	男 11 女 9	2	-	1	1	-	-	2	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,226	男 616 女 610	5	11	6	3	-	1	1	5	17	-	391	73	73	9	-	-	-	15	4	-	1	-	1
XX 健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用	8	男 5 女 3	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-

部門報告

Ⅲ-1

各診療科報告

- 内科(総合内科)
- 血液内科
- 糖尿病内科
- 消化器内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 神経内科
- 外科(消化器・乳腺・甲状腺・小児・肛門)
- 呼吸器外科
- 整形外科・リハビリテーション科
- 形成外科
- 脳神経外科
- 産婦人科
- 新生児内科
- 小児科
- 泌尿器科
- 眼科
- 気管食道・耳鼻いんこう科
- 皮膚科
- 麻酔科
- 放射線診断科
- 放射線治療科
- 緩和医療科
- 病理診断科
- 在宅診療科
- 歯科
- 歯科口腔外科
- 救急科



総合内科

部長 生野 博久

総合内科の業務は、外来では感染症、健康診断、ワクチン接種、午後の外来のバックアップ、入院では感染症、不明熱の診断治療などです。ワクチン接種に関しては昨年度インフルエンザを含めて775件行いましたが、日本はワクチンに関しては後進国と言われていましたが、今後は種類、接種も増加すると思われます。

肺炎球菌ワクチンが平成26（2014）年7月に予防接種法政省令の改正により、同年10月1日から定期接種に導入されました。各年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳または100歳となる者および平成26年10月1日～平成27（2015）年3月31日までの間においては100歳以上の者も接種対象とすることとなっています。高齢者のインフルエンザに合併する肺炎は肺炎球菌が原因が多いと言われていたので両方のワクチンを接種するのが効果的です。

当初生野、二木医師の二人で担当していましたが、色々な科の研修を続けて消化器疾患、内科全般に詳しい大磯先生に加えて外科出身の三宅先生にも参加していただき更に総合的な治療を行う体制となってきています。

2009年から2010年はメキシコより感染が広がったブタ由来A型インフルエンザ(H1N1)の流行が日本にもおしよせ、当科へも多く患者様が来院されました。当院は発熱外来を設けて患者様に受診していただきましたが、集団発生する感染症への対応の困難さを痛感しました。この感染症により世界中で1万4千人以上(WHOの報告より)が亡くなっています。日本でも200人程度(厚生労働省報告より)が亡くなりました。世界的に見て早期の診断、タミフル、リレンザの投与は効果的であったと思われます。

2008年4月より特定健診が開始されました。これは話題となった代謝症候群を診断し治療、指導するのを目的としています。脳出血、脳梗塞、心筋梗塞の原因となる動脈硬化には以前より高血圧、高脂血症、肥満、糖尿病などの危険因子があるとされていました。代謝症候群とは腹部に内臓脂肪の蓄積がある場合は程度の軽い危険因子の組み合わせによっても動脈硬化が非常に進行しやすいという概念です。自覚症状のある前に早期に動脈硬化の危険因子を発見し治療するためには、健康診断は重要と思われます。

当科は高齢者の患者様が特に多く、病気の治療は当然ですが、治癒した後の退院先での follow up が大変重要と思われます。専門性が利用できる場所は生かし、MSW(メディカルソーシャルワーカー)、在宅医療部との連携を保ち、より良い quality of life を目指した治療を考えて行きたいと思えます。

2005年よりNST(nutrition support team)の活動も行っています。これは患者様の栄養状態を把握して、栄養補給を補助する多種職種を含めた委員会活動です。主治医が希望する低栄養状態の患者様を栄養士、PT、ST、薬剤師、看護師と供に回診を行い、主治医への助言、補助を行っています。また栄養補給の一環として安全な中心静脈カテーテルの留置にも力を入れています。当科としては三宅先生を中心に、この活動にも力を入れていく方針です。これからも地道に診療、委員会活動を続けようと思えます。

【スタッフ】

部長 生野 博久

NST認定医

医師臨床研修指導医養成講習修了医

医学博士（鹿児島大学）

二木 真琴

日本血液学会 専門医

医学博士（日本医科大学）

三宅 健治

日本外科学会認定医

日本医師会認定産業医

日本体育協会スポーツドクター

【診療実績】

クリニック外来患者数 (2015年1月1日～12月31日)

初 診	再 診	患 者 延 べ 数	1日平均 (稼働日数269.0日)			初 診 率
			合 計	初 診	再 診	
4,011	6,144	10,155	37.8	14.9	22.8	39.5%

今給黎総合病院外来患者数 (2015年1月1日～12月31日)

初 診	再 診	患 者 延 べ 数	1日平均 (稼働日数269.0日)			初 診 率
			合 計	初 診	再 診	
737	515	1,252	4.7	2.7	1.9	58.9%

【予防接種件数】 (2015年1月1日～2015年12月31日)

	インフル エンザ	おたふく	エイム ゲン	ビー ムゲン	日本 脳炎	麻し ん	風し ん	狂 犬 病	破 傷 風	水 痘	麻し ん 風し ん	ポ リ オ	ニ ュ ー モ バ ッ ク ス	合 計
1月	28		1	1	1	1					1		1	34
2月	2		1	1				1					7	12
3月		1		4									28	33
4月		2	1	4									10	17
5月		1	2	3									17	23
6月			1	5			1			1			14	22
7月				1							1		7	9
8月		3		3	1					1	2		4	14
9月				1							1		4	6
10月	101	1	1	5						1	1		12	122
11月	310			2	1		3						9	325
12月	145	1								1	4		7	158
総合計	586	9	7	30	3	1	4	1	0	4	10	0	120	775



血液内科

部長 小濱 浩介

【診療内容、特色】

当院血液内科は現在常勤医師1名（総合内科兼任）で運用されており、白血病、悪性リンパ腫、成人T細胞白血病、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群などの血液の悪性疾患から、各種貧血、出血傾向をきたす疾患（紫斑病等）の診療を行っています。当院は血液学会認定研修施設となっており、県内最大級の総合病院として放射線治療をはじめとしたスムーズな多科連携を伴う集学的治療が可能であることが最大の特徴です。

外来は別表の通り基本的には月曜、火曜、金曜ですが、詳細は随時外来までお問い合わせください。

【スタッフ】

小濱 浩介（おばまこうすけ） 血液内科部長、医学博士

略歴 鹿児島大学病院、九州がんセンター、東京大学医科学研究所附属病院、鹿児島市立病院、今村病院分院などで血液内科医として勤務。

資格 血液学会専門医、同指導医、内科学会認定医、がん治療認定医

【診療実績】

現在はスタッフの問題もあり、外来、入院共に従来通院中の患者さんの継続診療が主体となっております。平成27年度に新規に血液疾患として入院となった入院患者数は46名（悪性リンパ腫/成人T細胞白血病16例、多発性骨髄腫3例、急性骨髄性白血病3例、慢性白血病4例等）であり、総合内科との連携で診療を行っています。

※学会関連は[研究実績]に掲載



糖尿病内科

部長 盛満 慎吾

【診療内容、特色】

鹿児島県内最大の民間の総合病院であることの人的および設備的なメリットを生かして、あらゆる病期の糖尿病患者さんにつきまして、血糖コントロールおよび慢性透析を除く全ての糖尿病に伴う合併症の管理が出来ます。ただ、平成27年度も担当医師が常勤医1名のため、既に管理出来る患者数の限界となっており、十分な診療を提供出来なくなっております。また、当院が地域連携支援病院に指定されたこともあり、積極的に入院患者さんを受け入れるようにとの当院の経営方針もあり、入院患者さんにつきましては受け入れ可能ですが、外来患者さんにつきましては受け入れが基本的に不可能となっております。そのため、初診で来られた糖尿病患者さんにつきましては、掛かり付け医があるようならば、引き続き、掛かり付け医での治療の継続をお願いし、もし、掛かり付け医より入院の必要があると言われ、紹介状をお持ち頂いた患者さんにつきましては、当科で入院治療をさせて頂き、退院後は、再び、掛かり付け医での治療を継続して頂くこととしております。また、全くの無治療で掛かり付け医をお持ちでない糖尿病患者さんにつきましては、当科外来もしくは入院で治療をさせて頂き、血糖コントロールが改善傾向となり、安定してきたところ、概ね、治療開始後6か月を目処として、お住まいや職場の近くの医療機関にご紹介させて頂くことと致しております。そのため、継続的な外来治療を希望される患者さんの受け入れは、現在のところ、困難となっております。

【スタッフ紹介】

部長 盛満 慎吾

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医

【外来診察担当】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	盛満*	盛満	盛満	盛満	盛満*	休診
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

* 予約再診のみ

【平成 28 年度の計画】

前述のように平成27年度も常勤医1名と少ない医師数での診療体制に対し、患者さんの増加、特に無治療や合併症をお持ちの重症な患者さんの増加が著しく、現在の当科の診療体制では質および量の面において限界に達しております。また、当院が地域連携支援病院に指定されたこともあり、入院患者さんを積極的に受け入れるようにとの当院の経営方針もあり、入院患者さんにつきましては受け入れ可能ですが、外来患者さんにつきましては受け入れが不可能となっております。そのため、外来での治療のご依頼はお受けすることは出来ませんが、もし、入院治療が必要な患者さんがおられましたら、ご紹介頂ければと思い、この場をお借りしてお願いする次第です。その際は宜しくお願い申し上げます。

また、糖尿病性細小血管障害の評価につきましては、現在も入院下で十分に行えておりますが、以前は、入院下で行ってございました動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックが、DPC（診断群分類包括評価）といわれる包括医療制度上、入院下では十分に行い難くなってきております。そのために、末梢血管の動脈硬化性疾患の評価や悪性腫瘍のチェックは外来で行えるようにシステムを構築し、通院中の全患者さんに検査を受けて頂くようにしているところであります。他方、生命予後に係わる心血管疾患および脳血管疾患等の動脈硬化性疾患の評価は、まだ、不十分かと思っておりますので、今年度は、上記疾患に対する動脈硬化性疾患の評価システムを、順次、構築してまいりたいと考えております。また、糖尿病の新たな合併症としての認知症につきましても、定期的にチェック出来る体制を構築したいと考えております。

最後に、糖尿病患者さん方に対して、一病息災という理念の下に、QOLを維持しつつ健康な方々とかかわらない寿命を可能な限り保障出来るように、今後とも努力してまいりたいと思っております。今後ともかわらぬご支援の程をお願い申し上げます。



消化器内科

部長 吉永英希

消化器内科は、月曜日から土曜日まで外来患者様の検査・治療、入院患者様の診療・加療を行っております。消化器外科や放射線科との共同で集学的な治療をご提供しております。

検査に関しましては腹部超音波検査、上・下部内視鏡検査、超音波内視鏡検査、超音波内視鏡下生検～穿刺吸引細胞診、ERCP：内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査、IDUS、食道胃透視撮影検査、注腸透視撮影検査、肝生検、肝炎ウイルス検査等を行っております。

治療に関しましてはほぼ全ての消化器疾患の内科的治療をはじめとし、上部・下部内視鏡的止血術、イレウスチューブ留置術、内視鏡的異物除去術、内視鏡的消化管拡張術、消化管ステント留置術、内視鏡的静脈瘤結紮術・硬化療法、EMR：内視鏡的粘膜切除術、ESD：内視鏡的粘膜下層剥離術、内視鏡的ポリープ切除術、超音波ガイド下穿刺～ドレナージ術、内視鏡的胆道ドレナージ術、内視鏡下乳頭切開術～拡張術、内視鏡下胆道拡張術、内視鏡下胆管結石砕石～採石術内視鏡下胆管～膵管ステント留置術、内視鏡下胃瘻造設術、消化器癌に対する化学療法など多岐にわたっております。

当科の特徴としましては消化器内視鏡に関するほとんど全ての検査～治療をまんべんなく取り扱っている事、当院が総合病院である特色からの他科疾患合併症を有するリスクの高い患者様の多い事、救急病院である特色からの緊急処置を必要とする患者様の救急搬送が多い事等です。外来は離島を含め県内各地の多数の医療機関と病診連携をとっております。

当院は日本消化器病学会、消化器内視鏡学会、日本消化管学会認定指導施設で有り、内視鏡室には6名の専属スタッフが常勤し、当科の安全性と質の高い医療を提供する要となっております。

【スタッフ紹介】

常勤医師

吉永 英希

日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医

今給黎 和幸

日本内科学会認定医

日本消化器病学会消化器病専門医・指導医

日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医

日本人間ドック学会認定医

日本胆道学会認定専門医・指導医

水流 弘文

日本外科学会専門医

日本消化管学会胃腸科専門医・指導医

医学博士（福岡大学）

非常勤医師

松元 淳 税所篤郎 大磯陽子 瀬戸山 仁

松本美由紀 川本研一郎 丸尾周三

内視鏡室 看護師

梅北裕司 山元真貴子 大迫 翔

中玉利 誠 有菌佳那 小橋口直美

【外来診療日】

月曜～土曜日 午前（完全予約制）

月	火	水	木	金	土
吉永 税所	今給黎	今給黎	吉永 大磯	吉永 今給黎	交代制

診療、検査、投薬などは全て完全予約制です。

午後からは検査のみとなっております。

【診療状況】（2015年1月～12月）

外来患者数 初診 1,077名、再診 5,971名

入院患者数 527名

【検査件数】（2015年1月～12月）

検査名	件数
胃・十二指腸内視鏡検査	1,786
食道内視鏡検査	1
下部消化管内視鏡検査	825
小腸内視鏡検査	2
内視鏡的逆行性胆管膵管造影(ERCP)	80
超音波内視鏡検査(EUS)	90
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(FNA)	4
IDUS	4

【内視鏡治療・処置件数】（2015年1月～12月）

治療・処置名	件数
上部消化管内視鏡的止血術	23
下部消化管内視鏡的止血術	5
経口イレウス管留置術	23
経肛門的イレウス管留置術	2
内視鏡的消化管異物除去(上部・下部)	8
内視鏡的静脈瘤硬化療法・結紮術(EIS・EVL)	4
内視鏡的胃・十二指腸ポリープ粘膜切除術(EMR)	7
内視鏡的早期食道癌粘膜下層剥離術(ESD)	3
内視鏡的早期胃癌粘膜下層剥離術(ESD)	14
内視鏡的大腸ポリープ粘膜切除術(EMR)	166
内視鏡的早期大腸癌粘膜下層剥離術	7
内視鏡下食道狭窄拡張術	2
食道ステント留置術	1
内視鏡下胃・十二指腸狭窄拡張術	9
胃・十二指腸ステント留置術	3
内視鏡的乳頭切開術(EST)	13
内視鏡的乳頭拡張術(EPBD)	2
内視鏡的胆道結石砕石術(EML)	5
内視鏡的胆道結石採石術	15
内視鏡的胆道ドレナージ(ENBD・ERBD)	46
内視鏡的胆道ステント留置術	8
内視鏡的膵管ステント留置術	1
内視鏡下胃瘻造設術(PEG)	46
胃瘻交換	37
内視鏡下軸捻転整復術	3
胃瘻閉鎖術	2

【多施設共同研究】

- Bilio-Pancreatic Stenting 研究会より
「非切除肝門部悪性胆道閉塞に対するメタリックステントの留置方法を比較検討する多施設共同無作為比較試験（片葉ドレナージ VS 両葉ドレナージ）」
「切除不能悪性腫瘍による胃通過障害に対する消化管ステント留置の有用性をカバーの有無により比較検討する多施設共同無作為比較試験」
「ERCP 後膵炎に関する多施設共同前向き観察研究」
- 鹿児島大学との共同
「鹿児島県内外における切除不能膵癌に対するアブラキサン治療の実態調査」

※学会関連は[研究実績]に掲載

【活動】

- 第5回 今給黎総合病院 がん診断講座
「早期膵癌へのアプローチ」 今給黎 和幸
- 院内勉強会
「薬剤起因性消化管潰瘍のリスクとマネジメント」
今給黎 和幸
- 第1回 鹿児島胆膵カンファレンス
於 鹿児島市立病院
「ファーストカンニュレーションから砕石術まで」
今給黎 和幸
- 久木田学園看護専門学校
非常勤講師として講義開講 吉永 英希



循環器内科

部長 大場 一郎

【特色】

当科は鹿児島大学大学院医師学総合研究所心臓血管・高血圧内科学教室（大石充教授）から循環器内科スタッフとして派遣された三名の常勤医で構成されています。循環器疾患の外来・入院診療、他科から依頼の術前および心疾患精査、救急患者の対応を経胸壁・経食道心エコー、頸動脈エコー、下肢動静脈エコーなど超音波検査、運動・薬物負荷検査、冠動脈造影 MDCT を駆使し生理検査室、放射線科と連携のもと多様に診療をこなしています。

【人事・スタッフ】

平成27年度の循環器内科の診療実績について御紹介申し上げます。現在は部長大場一郎と、鹿児島大学医学部心臓血管・高血圧内科から派遣の志岐健三郎と下舞浩二が常勤医として勤務しています。その他に毎年院内または鹿児島大学研修ローテーションによる研修医を加えて外来・病棟の診療を行っています。超音波検査は主に生理検査技師の富吉裕児、森田修康他が行います。院内や外来、他院からの問い合わせを外来受付・看護師が対応し、患者様への治療が円滑に行えるよう皆が心を一つに協力しています。

【診療状況】

1) 外来診療

外来診察は三人の医師で新患、再来、術前他科依頼などを曜日変わりで担当しています。外来患者数は再来・新患併せて一日あたり30-50名程度で、再来患者については待ち時間の解消のための予約制をとっています。鹿児島県下の病院やクリニックから心疾患の精査依頼や鹿児島医療センターなどから診療の依頼などで紹介され受診される患者が最近では増加している印象です。一方で病状が安定している患者については自宅近くの施設への逆紹介を増やし病診連携を図っています。

高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病、狭心症・心筋梗塞など虚血性心疾患、陳旧性心筋梗塞後や拡張型心筋症など心筋疾患による慢性心不全、心房細動、上室性頻拍、症候性徐脈などの不整脈および弁膜疾患、下肢閉塞性動脈硬化症（PAD）や深部静脈血栓症（DVT）など下肢血管疾患、大動脈解離などの救急対応と循環器疾患全般の診察や治療を行っています。

当院における当科の特徴としては術前心機能評価および入院中の胸部症状出現などによる診察依頼などでの院内他科からの紹介の多さです。

冠動脈疾患の精査については冠動脈造影MDCT診断が放射線部のレベルアップによる解析の迅速化

で従来より大量かつ詳細な画像診断が可能になりました。併せて心筋シンチなど核医学検査による画像診断を放射線科医師と行うことで診断の精度向上を常に心がけています。当院では心臓カテーテル検査およびカテーテル治療は行いませんので、鹿児島大学病院・鹿児島医療センター・鹿児島市立病院・天陽会中央病院といった心臓カテーテル施設との緊密な連携によりスピーディな診断・加療を実現しています。また、上記の鹿児島市における循環器基幹病院と合同でカンファレンスや研究発表を行う機会も多く、先進医療の動向にも充分対応出来ます。

2) 入院診療

最も多い症例は高齢者の慢性心不全の増悪により救急搬送されるケースです。循環・呼吸状態を改善させ内科病棟へ転棟し全身状態の改善をみて退院となります。ペースメーカー植え込み術はほぼ毎月1-2件のペースで行っています。整形外科など長期臥床化する症例が多いことから下肢静脈血栓症例は増加がみられ、放射線科と留置型下大静脈フィルターによる肺塞栓予防を積極的に行っています。

【平成 28 年度に向けて】

現在の診療内容をさらに充実させながら、鹿児島市立病院や大学病院、鹿児島医療センターといった最新機器や情報の豊富な施設との人的・物的交流をいっそう深めていきます。総合病院である当院の特色から循環器科に限らず幅広い疾患を経験する機会が多く、研修医の対応にも力を入れています。

【手術症例数】（H27 年—H28 年）

ペースメーカー移植術 新規 : 3 件

【超音波検査件数】（平成 27 年度）

- ・心エコー : 約 3,000 件
- ・頸動脈エコー
経胸壁心エコー時にルーティンに行っています。
- ・下肢血管エコー 約 300 件

【冠動脈 MDCT】

約 300 件



呼吸器内科

部長 川 島 寿 史

平成27年4月より川島、新村、砂永、松山(緑)の4人の常勤医で診療にあたっております。

当科は引き続き日本呼吸器病学会関連施設の認定を受けており、呼吸器外科、放射線科、病理診断科とも協力し、最良の医療を提供できるように努めております。

【当科の主な診療疾患】

- ・ 肺癌、胸部悪性疾患
- ・ 肺炎、呼吸器感染症
- ・ 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
- ・ 間質性肺炎、びまん性肺疾患

呼吸器診療は主に上記の疾患の治療を行っております。やはり肺癌への対応が主となり、内科では進行期肺癌を担当することとなります。免疫療法薬のオプジーボが非小細胞肺癌にも保険適応となり、今後更なる予後改善が見込まれますが、一方で高価過ぎることが問題となっております。また抗癌剤ではみられない免疫関連の特殊な有害事象が出現するため、その対応も重要となります。以前イレッサの副作用である間質性肺炎が社会問題となった経緯がありますが、その二の舞は踏まぬよう、オプジーボ適応は慎重に判断する必要があります。当科では、オプジーボ治療導入時は鹿児島大学病院へ紹介する方針としております。肺癌診療は、更に治療発展への期待が高まる一方で、一筋縄ではいかない難しい問題もはらんでいると思われまます。高齢者や認知症のある患者様は確実に増えており、外来診療継続困難例や繰り返す誤嚥性肺炎症例への治療以外での対応も現実的には重要です。MSWの優秀なスタッフの方には、本当にいつも助けられております。今後訪れる多死社会への対応は容易い問題ではなく、個々が死生観について考える機会をより増やしていく努力も重要ではないかと考えさせられます。

【外来・入院診療】

当科外来では、平成24年12月から予約制を導入しております。新患患者数は前年より増となりましたが、延べ患者数は減となりました。表の通り入院患者数も延べ人数ですが、例年通り肺癌患者が最も多くなっております。平成27年の気管支鏡検査数は91例で診断率は例年同様約70%で問題となる合併症例はありませんでした。EBUS-TBNAも数件行いました。高価な機器ですので早々の購入は難しいと思われまます。今後は呼吸器関連施設として必須の検査になっていくと思われまます。さて今年度は明るくタフなDr. 松山(緑)が想定内?の妊娠・出産というおめでたいニュースもあり、急遽

大学から3ヶ月間三山医師が応援に来て下さいました。また元気に復帰してくれるものと思います。

毎度最後に当科の診療が円滑に行っているのは、今給黎総合病院・昭和会クリニックの優秀な看護師・医療事務はじめ各種コメディカル、スタッフの方々のお蔭であり、ここに深謝致します。

表1) 外来患者数

	延べ患者数	新患患者数
平成25年	6,345	664
平成26年	6,398	522
平成27年	5,548	553

表2) 入院患者疾患内訳

	25年	26年	27年
肺癌・胸部悪性疾患	365	356	337
肺炎	51	43	51
びまん性肺疾患	29	25	28
気管支喘息	5	9	5
慢性閉塞性肺疾患	22	12	9
肺結核	5	5	13
その他	108	65	49
合計	510	515	492

※学会関連は[研究実績]に掲載



神経内科

部長 長堂 竜 維

当院神経内科は鹿児島大学神経内科・老年病学講座を母体とした医局で、丸山・長堂・林・臼元は同科の出身または同科在籍中の医師です。この4人と鳥取大学脳神経内科出身の甲斐を含めた5人が当科の常勤医で、この5人のうち臼元を除く4人が日本神経学会神経内科専門医で、臼元も取得予定です。加えて鹿児島大学から6人の非常勤医師にも応援をいただき、頭痛・めまい・しびれ等の症状や脳卒中・パーキンソン病・アルツハイマー型認知症等の一般神経内科外来から急性期神経疾患の救命救急医療・急性期リハビリテーションまでの神経内科診療をこなしています。鹿児島大学の神経内科・老年病学講座が日本においても最も規模が大きく且つ歴史のある神経内科教室のひとつである事もあり、鹿児島県は他の県に比べ神経内科医の非常に多い県です。しかし、神経内科専門医5人を常勤として抱え神経救急を行っている私立病院は全国的にもそう多くはなく、鹿児島県における神経内科診療に多少なりとも貢献できているものと私どもは自負しております。

次に今年度の診療実績について書かせていただきます。まず入院患者さんですが、525名（平成27年1月1日～12月31日）が一年間で入院されました。その中では脳血管障害・感染症・パーキンソン病の3疾患が大きな割合を占めました。神経内科という科の性格上、予定入院に比べ圧倒的に緊急入院が多い事を考えると、ほぼ毎日1.5人の入院患者を平均的に受け入れてくれる病棟スタッフには頭の下がる思いがします。外来患者さんは、一年間の初診患者総数1,337人、外来患者総数が10,887人で、一日平均外来患者数は約35人でした。病棟は別館2階南病棟42床で神経内科と皮膚科の混合病棟となっており、皮膚科の久留先生には時間を問わず的確なご指導をいただき、神経内科一同感謝の気持ちでいっぱいです。

病棟スタッフは稲森師長以下26名の看護師が激務をこなしながらも、笑顔を絶やさず日夜仕事に励んでいます。神経内科は他科に比べご高齢の患者さんやADLの低下した患者さんも多い中でクオリティの高い看護・介護を実践してもらい、医師にとって本当に働きやすい病棟です。

外来は有能で気配りのできる医療クラークの郡山と片山が、5人の常勤医師と5人の非常勤医師を上手くおだてながら、神経内科外来のすべてを取り仕切っています。

日常診療以外の業務としては、丸山は副院長としての多くの院内・院外激務に加え、各種研究会の世話人、血液凝固・神経関連の講演を行い、長堂は鹿児島大学医学部非常勤講師として学生講義と大学病院専門外来、久木田学園看護専門学校での授業、臨床研修医対応、各種講演会などを行っています。臼元は各種学会で口演発表し、論文も複数発表しています。また林・甲斐・臼元の3名は訪問診療も行っています。このように全員が医療以外にも多くの雑多な用事を両手いっぱい抱えながらコマネズミのように毎日走り回っています。

以上、簡単ではありますが今給黎総合病院神経内科の日常をご紹介します。ありがとうございました。

【スタッフ】

丸山 芳一 副院長

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、日本神経学会評議員
鹿児島大学臨床教授、久木田学園非常勤講師
愛媛大学医学部卒

長堂 竜 維 神経内科部長

医学博士、日本神経学会専門医
日本内科学会認定医、鹿児島大学臨床教授
鹿児島大学医学部非常勤講師
日本神経学会九州地方会世話人
久木田学園非常勤講師、鹿児島大学医学部卒

林 茂昭 在宅医療部部長

日本内科学会総合内科専門医
日本内科学会認定医、日本神経学会専門医、
鹿児島大学医学部卒

甲斐 太

医学博士、日本神経学会専門医、
日本内科学会認定医、鳥取大学医学部卒

臼元 亜可理

鹿児島大学医学部卒

非常勤医師

丸山征郎医師（血管病）
荒田仁医師（神経内科）

有村由美子医師（電気生理検査）
橋口良也医師（頸部血管超音波検査）

橋口照人医師（神経内科、糖尿病）
吉村道由医師（電気生理検査）

【診療状況】（2015年1月1日～12月31日）

【外来患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
初診	96	109	107	120	115	118	142	116	100	116	87	109	1,335
再診	801	726	809	799	747	800	830	790	801	829	767	850	9,549
合計	897	835	916	919	862	918	972	906	901	945	854	959	10,884
1日平均初診患者数	4.6	5.2	4.6	5.2	5.6	4.9	5.9	4.9	4.8	4.9	4.1	4.7	-
1日平均再診患者数	38.1	34.6	34.4	34.7	36.4	33.3	34.6	33.6	38.1	35.3	36.5	37.0	-
1日平均患者数	42.7	39.8	39.0	40.0	42.0	38.3	40.5	38.6	42.9	40.2	40.7	41.7	-
診療実日数	21.0	21.0	23.5	23.0	20.5	24.0	24.0	23.5	21.0	23.5	21.0	23.0	269.0

（昭和会クリニック含）

【入院患者】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
入院	46	47	39	47	45	49	44	38	37	34	36	37	41.6
退院	38	51	41	43	42	50	49	42	41	32	34	39	41.8
在院	1079	979	921	1,108	984	1,125	1,072	1,089	1,066	879	817	917	1,003
平均病床数	34.8	33.8	29.7	36.9	31.7	37.5	34.6	35.1	35.5	28.4	27.2	29.6	32.9
平均在院日数	25.7	20.0	23.0	24.6	22.6	22.7	23.1	27.2	27.3	26.6	23.3	24.1	24.2

【入院患者内訳】（2015年1月1日～12月31日）

脳血管障害	122	頸椎症	4	関節リウマチ	2
感染症	57	ベーチェット病	3	起立性低血圧症	2
パーキンソン病	43	悪性症候群	3	結節性多発動脈炎	2
めまい	29	筋炎	3	周期性四肢麻痺	2
筋無力症	18	脳梗塞	3	小脳性運動失調症	2
慢性炎症性脱髄性多発神経炎	18	脳腫瘍	3	正常圧水頭症	2
てんかん	12	脳症	3	脊髄炎	2
多系統萎縮症	12	良性発作性頭位変換性めまい	3	低酸素脳症	2
多発性硬化症	10	ANCA関連血管炎	2	糖尿病	2
脳炎	10	HAM	2	糖尿病性ニューロパチー	2
ギラン・バレー症候群	8	Ramsay-Hunt syndrome	2	頭部打撲	2
脱水症	8	アルコール性ニューロパチー	2	認知症	2
リウマチ性多発筋痛症	7	アルツハイマー型初老期認知症	2	副腎白質ジストロフィー	2
視神経脊髄炎	5	けいれん発作	2	痙性対麻痺	2
脊髄小脳変性症	5	シャルコー・マリー・トゥース病	2	その他	81
不明熱	5	レビー小体型認知症	2	総計	525
筋萎縮性側索硬化症	4	横紋筋融解症	2		

感染症の内訳

中枢神経感染症	28
呼吸器感染症	16
その他感染症	5
尿路感染症	4
耳鼻科領域感染症	1
不明熱	1

脳血管障害の内訳

脳梗塞	92
TIA	11
脳幹梗塞	8
脳出血	6
視床出血	2
外傷性硬膜下血腫	1
急性硬膜下血腫	1
未破裂動脈瘤	1

【対外活動】

丸山芳一

鹿児島県エイズ対策委員
日本神経学会評議員・代議員

脳血管疾患の再発に対する高脂血症薬HMGCoA阻害薬の予防に関する研究

研究協力 丸山芳一
主任研究者 広島大学 松本昌泰

脳卒中既往患者を対象とした厳格降圧療法の2次予防効果を検討する大規模臨床研究

研究協力 丸山芳一
研究代表者 自治医科大学 島田和幸

長堂竜維

日本神経学会九州地方会世話人
鹿児島大学非常勤講師
久木田学園非常勤講師

【業績報告】

※学会関連は[研究実績]に掲載

【教育関連講義】

2015年1月7日～1月8日

鹿児島大学医学部3年生
「内分泌系構造と機能」合計4回
長堂竜維

2015年4月14日～5月26日

久木田学園看護専門学校 系統看護学講義
脳・神経系 講義 合計7回
長堂竜維



外科 (肝臓・消化器・乳線・内分泌・小児・肛門)

部長 濱之上 雅博

今年度、外科の人員構成は、立野 太郎先生が6月で転出され益満 幸一郎先生が着任されました。また和田 真澄先生のと1月～6月まで下村 寛貴先生が赴任され7月～12月まで一年ぶりに帰ってきた吉満 工平先生が頑張ってくれました。野口 智弘先生は変わらず外科の切り込み隊長を務めてくれています。当科の守備範囲として救急も含めた一般外科と専門性がもとめられる腫瘍外科があります。また、消化器・甲状腺・乳線外科という広い範囲の臓器を受け持っています。特に病院が“がん拠点病院”を標榜する限りは、診断から手術さらに術後の補助療法がシームレスに行われる必要があります。このため週一回の消化器カンファを中心に消化器内科・放射線科・麻酔科・病理診断科との垣根のない症例検討を行っています。看護師さん・paramedical staff の参加もあり、情報共有に寄与しています。また2か月に一回cancer board も行っており治療方針が複雑となった現在に多方面の考えより治療を考える偏りのない治療を目指しています。さらに牟禮 洋先生を中心に研修医の増員と研修の充実が図られており、研修医の人数も年々増えており、このためにもカンファレンスは症例発表など研修のためにも重要なものとなっています。当科は、大学よりの病院実習生(ポリクリ)も週2～4名受け入れており、実際の患者さんに接してもらいまた手術への参加もあり病院スタッフおよび患者さんにお世話になっています。また最近、県外・県内の医学生の見学者が増加しており、当院に対する関心も増しているものと感じています。また新病院移転については、病院関係者・患者さんはもとより研修医・今後始まる新専門医制度参加者からも関心が高まるものと思います。近年 がんの治療法として化学療法が大きな部分を占めるようになり消化器癌化学療法は手術との関連も強く外科で対応させてもらっています。今後、救急・腫瘍外科・化学療法と広範囲の仕事を効率よくしていくために各部署との漏れのない情報交換がさらに重要となると思います。近年 外科は医学界の絶滅危惧種とも呼ばれ、その厳しい中で当科 staff は本当に頑張ってくれていると感謝しております。この忙しい中で外科のスタッフが地方および全国学会・研究会で病院での臨床の結果と得られて知見をまとめ発表してくれています。

近年、鏡視下手術は若い外科医にとって多くの手術において標準術式となっており、ソケイヘルニアも今では当院においてもほとんど腹腔鏡下に行われています。遠隔成績は、まだ不十分ですが術後短期では私たちの世代が行ってきた前方アプローチよりも経過が良いと感じています。また

全国手術症例登録システム(NCD)は、今後導入される新専門医制度において必須となり当院の症例もすべて登録されています。最近、化学療法の多様化に伴い様々な全国規模の臨床治験が行われています。当科も院内の倫理委員会の承認をえながら参加できるものへは手を挙げていこうと考えています。臨床治験は、その参加することによる病院評価の上昇もありますが、患者さんへの治療説明の徹底、経過観察の精度の向上など診療の質の向上も期待できます。当院が地域がん診療連携拠点病院である要件として患者さんに十分な情報提供と患者さんの意思の尊重が重要視されています。手術という治療を行う外科は、患者さんの意思の尊重が難しいと感じることが多くあります。そのときコメディカルスタッフが患者さんの思いを丁寧に拾ってくれていることに感謝しています。

また近年、高齢者の手術が増加し、家族関係の問題・術後に行き先が決まらないなど社会的な問題に対応が求められることもおおくなりました。連携室・事務の方々の協力なくしては手術をすることさえ難しいのが現実です。この場を借りて御礼申し上げます。

【人事】

勤務者

<医師>

継続 今給黎 和典、牟禮 洋、濱之上 雅博、野口 智弘、立野 太郎(1月～6月)

(転入)

益満 幸一郎：平成27年7月～
下村 寛貴：平成27年1月～6月
吉満 工平：平成27年7月～12月

<診療アシスタント>

手塚あゆみ、上鶴 智美、藤原 梢

<看護師>

蘭牟田 里美、村崎 まこと

【診療状況】

<外来患者状況>

平成27年の外来受診者総数(延べ)は4,301名であった。

その内訳は

初診患者：473名、再診患者：3,828名

<入院患者>591名/年

【手術症例内訳】

全身麻酔症例 244 例
 脊椎麻酔症例 4 例

全麻症例 疾患部位	例数	悪性	良性	鏡視下
甲状腺	3	3	0	0
乳	3	3	0	0
食道	2	2	0	0
胃	17	17	0	10
十二指腸・小腸	13	2	11	2
結腸	32	31	1	15
直腸	13	12	1	11
肝	20	19	1	2
胆	41	1	40	37
膵	2	2	0	0
ソケイヘルニア	48			47
大腿ヘルニア	2		2	
腹壁ヘルニア	4			2
虫垂炎	19	1		18

※学会関連は[研究実績]に掲載



呼吸器外科

部長 米田 敏

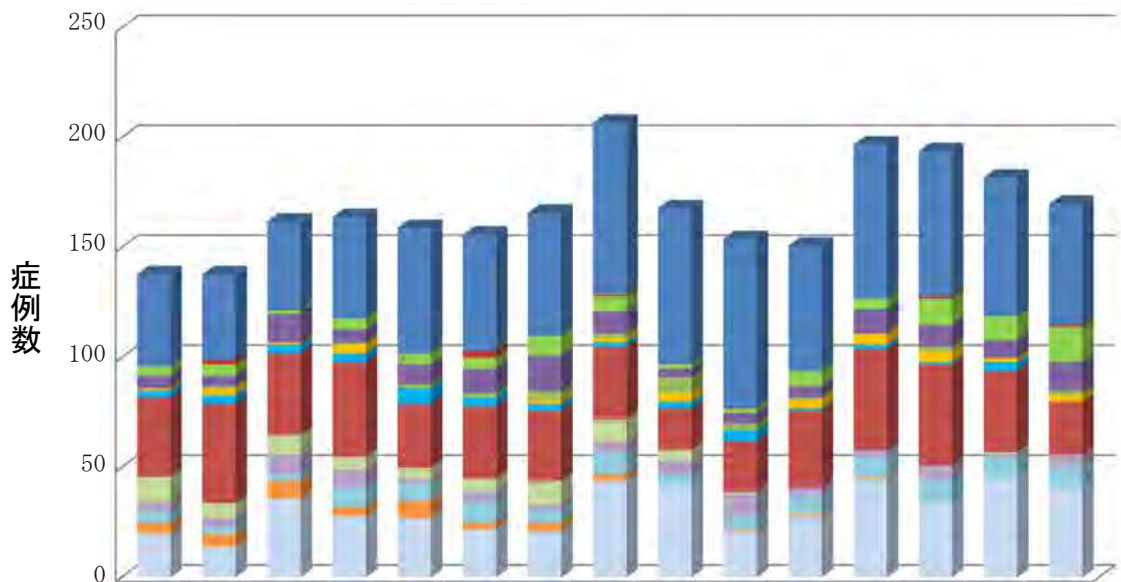
日本外科学会認定医・専門医・指導医
 日本呼吸器外科専門医認定機構専門医
 日本呼吸器外科学会評議員
 日本胸部外科学会九州地方会評議員

日本呼吸器外科学会専門医・指導医
 日本胸部外科学会認定医・正会員
 九州外科学会評議員
 日本肺癌学会九州支部会評議員

2015年度は、巻幡 聰先生の異動に伴い若手の（そこまで若くない）山本耕三先生が赴任、今給黎尚幸先生と3人体制でした。

今年度の手術症例は170例で、内訳は肺癌55例、気管腫瘍1例、転移性肺腫瘍16例、縦隔腫瘍13例、胸膜中皮腫2例、気胸24例、胸壁腫瘍3例、膿胸5例、良性肺腫瘍10例などでした。移転した鹿児島市立病院の呼吸器外科新設などの影響もあり、症例数もなかなか伸び悩みなのが現状ですが、4年後の当院新病院移転に向け邁進していく考えです。

【手術症例】



	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	年度
■ 原発性肺癌	42	39	40	46	57	53	56	78	71	77	57	70	66	63	41	
■ 気管・気管支腫瘍	0	2	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	1	0	0	
■ 転移性肺腫瘍	4	5	2	5	5	5	9	7	2	2	7	5	12	11	10	
■ 縦隔腫瘍	6	5	13	6	9	11	16	10	4	5	5	11	10	8	5	
■ 胸膜中皮腫	0	1	0	1	2	2	4	2	7	3	1	0	2	0	0	
■ 胸壁腫瘍	1	3	1	4	0	0	2	2	4	0	4	5	5	2	24	
■ 肺気腫	3	4	4	4	7	4	3	2	3	5	1	2	1	4	0	
■ 自然気胸・血気胸	36	45	37	43	29	33	32	33	19	23	35	46	46	37	3	
■ 局所性多汗症	12	7	9	6	5	6	11	10	5	1	0	0	0	1	2	
■ 膿胸	4	4	9	8	2	4	2	5	6	10	4	3	6	1	13	
■ 良性肺腫瘍	5	3	3	9	8	10	6	10	5	6	8	9	11	9	16	
■ 気道狭瘻	5	6	8	4	8	3	4	3	0	1	1	1	0	0	1	
■ その他	20	14	36	28	27	22	21	44	42	21	28	45	34	46	55	
■ 総計	138	134	162	164	159	155	164	207	168	154	151	197	194	183	170	

※学会関連は[研究実績]に掲載



整形外科・リハビリテーション科

部長 松 永 俊 二

整形外科の平成27年度の活動状況を報告します。平成27年度の整形外科の手術総数は1,031例と年間1,000例の大台を突破しました。脊椎手術と人工膝関節置換術などの関節外科手術の増加そして上肢外傷の手術の増加が目立ちました。また高齢化に伴い骨粗鬆症関連の骨折手術も年々増加しています。クリニックの患者数は平均約107名/日であり昨年度と変化はありませんでした。しかし、救急外来の対応件数は整形外科が圧倒的に多く、病院の救急車受け入れに貢献しています。また平成28年度の診療報酬改定では脊椎手術点数が大幅に増額になり今後更に病院の収益増加に寄与できそうです。入院患者総数は1,196名で平均稼働率は95.5%でした。学術活動は日本の主要学会はもちろん海外の学会でも発表を行い今給黎総合病院の学術的評価を高めることができました。鹿児島大学の関連病院として今給黎総合病院は整形外科医が勤務したい病院のひとつとして人気が高い病院であります。新専門医制度が導入されるに伴い研修施設の選別が進められていますが当院の整形外科は整形外科の連繫研修施設と脊椎脊髄病の基幹研修施設の資格条件を獲得できる予定です。今後専門医の研修施設として益々臨床実地教育にも力を注いでいきたいと考えています。また公的業務として厚生労働省難治性疾患脊柱靭帯骨化症調査研究班の班員活動も行っており厚生労働省からも高く評価されています。論文業績では多施設研究に参加した論文のJapanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire (JOABPEQ) as an outcome measure for patients with low back pain: reference values in healthy volunteers. J Orthop Sci 20: 264-280, 2015が2015年度のJ Orthop Sci のベストペーパーに選ばれました。前年度に次いで2年連続受賞でした。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉9名

今給黎尚典 (理事長)
 松永俊二 (整形外科部長・クリニック副院長)
 宮口文宏 (整形外科主任部長)
 石田育男 (整形外科部長)
 山口聡 (整形外科部長)
 川畑直也 (整形外科科長)
 堀川良治 (整形外科医長)
 江守 永 (整形外科専門医)

【人事異動】

入職 1名
 江守 永 平成27年4月1日入職
 退職 1名
 江守 永 平成28年3月31日退職

【整形外科初期研修医】

黒島知樹 平成28年2月1日～28年3月31日
 松岡大介 平成28年2月1日～28年3月31日

【鹿児島大学医学部5年生整形外科臨床実習者】

馬渡浩史、森本俊規、櫻井景太、末永智大、長友理沙、吉田沙恵子、野田敦子、中嶋俊輔、米澤英之、栄鶴ゆかり、尾堂さくら、中馬佳奈子、大井貴之、杉浦 圭、市地さくら、池田真紀、西 綾香、西田美沙子、中之園良太、松野志歩、宮田真里菜、柳原美香、中尾健寿、甫立美南子、樋渡未来、岩切由季、小倉聡子、黒木伸一、長尾沙織、増田圭亮、川越隆行、橋野 伸、吉沖舞衣、(以上 33名)

【他病院、他大学からの研修】

廣瀬友彦 国立病院機構岡山医療センター
 平成28年2月17日～28年2月19日
 旭川医科大学 2名
 宮崎大学 1名
 高知大学 竹村堯弘

【主催セミナー】

鹿児島外傷セミナー
 平成27年11月2日 今給黎総合病院講義室

第25回今給黎総合スポーツフォーラム
 平成27年12月6日 今給黎総合病院講義室

【症例検討会】

レ線カンファレンス 毎日
 鹿児島脊椎症例検討会 1回/月

※学会関連は[研究実績]に掲載

【診療実績】

昭和会クリニック
 外来総数 30,122名 新患4,353名 1日平均107.2名

今給黎総合病院
 外来総数 3,108名 新患996名 1日平均8.8名
 入院総数 1,196名
 平均稼働率 95.5% 平均在院日数35.2日
 手術総数 1,031件

【手術内訳】 (2015年4月1日～2016年3月31日)

脊椎 (292件)

環軸椎関節固定術	2
環軸椎亜脱臼非観血の整復術	1
頸椎椎弓形成術	4
内視鏡的頸椎椎間孔拡大術	1
頸椎後方固定術	41
頸椎前方固定術	3
軸椎骨折骨接合術	2
胸椎後方固定術	28
胸椎椎弓切除術	2
胸椎椎間板ヘルニア摘出術	1
胸椎前方固定術	6
胸椎黄色靱帯骨化症手術	5
腰椎後方固定術	79
内視鏡的脊椎固定術	1
化膿性脊椎炎手術	9
椎体形成術 (BKP)	2
椎体骨搔爬術	1
腰椎拡大開窓術	3
腰椎前方固定	7
腰椎椎間板ヘルニア摘出術	63
腰椎椎間板骨嚢腫摘出術	1
経皮的髓核摘出術	7
体外式脊椎固定術 (ハローベスト装着術)	6
症候性側弯症手術	1
転移性脊椎腫瘍手術	3
硬膜外血腫除去術	2
CT下生検	8
髄液漏修復術	1

骨折 (364件)

鎖骨骨折手術	31
上腕骨近位部骨折手術	16
上腕骨外顆骨骨折手術	4
上腕骨内顆骨骨折手術	1
上腕骨顆上骨折(含経皮的ピンニング)	13
上腕骨骨幹部骨折手術	4
上腕骨通顆骨骨折手術	2
肘関節内骨折手術	2
肘頭骨折手術	3
橈骨遠位端骨折手術	56
尺骨遠位端骨折	1
橈骨頭骨折手術	1
前腕骨骨折手術	4
手舟状骨骨折手術	2
手指骨折手術	29
手指骨開放性脱臼整復術	1
骨盤骨折手術	15
大腿骨頸部骨折手術	96
大腿骨骨幹部骨折手術	1
大腿骨顆部骨折	4
膝蓋骨骨折手術	6
脛骨開放骨折骨接合術	4
脛骨近位部骨折手術	7
膝関節内骨折骨接合術	2
下腿骨骨折手術	15
下腿開放骨折手術	4
足関節脱臼骨折手術	20
リスフラン関節脱臼骨折	1

踵骨骨折手術	13
踵骨骨折偽関節後骨移植術	1
足趾骨折手術	4
足趾骨折偽関節手術	1
切断術 (9件)	
下肢	9
関節手術 (129件)	
人工股関節置換術	23
人工膝関節抜去術	1
股関節脱臼観血の整復術	2
人工骨頭置換術	70
骨盤骨切り術	1
膝関節視鏡下滑膜切除術	1
膝関節視鏡下半月板切除術	2
人工膝関節置換術	16
人工膝関節再置換術	1
膝前十字靱帯再建術	3
膝外側側副靱帯再建術	1
膝蓋靱帯修復術	1
膝関節制動術	1
足関節滑膜切除術	1
足関節固定術	2
筋・腱・神経手術 (68件)	
アキレス腱縫合術	8
デュイピイトレン手術	3
腱縫合術(手)	10
腱鞘切開術	14
腱剥離術	2
腱移行術	1
神経移植術	1
神経移行術	1
神経剥離術	4
ギオン管開放術	1
肘部管症候群手術	3
手根管開放術	15
指靱帯縫合術 (Stener病変)	2
神経縫合術	2
腫瘍手術 (14件)	
骨軟部腫瘍手術	8
ガングリオン手術	3
生検術	2
良性骨腫瘍切除術	1
抜釘術 (100件)	
その他 (47件)	
開放創デブリードマン・創傷処理	31
複合組織移植術	5
切断指再接着術	2
血腫除去術	1
断端形成術	2
筋皮弁形成術	2
外反母趾手術	3
感染症手術 (7件)	
感染持続洗浄術	2
骨髄炎手術	5
救急外来手術 (1件)	
血管縫合術	1



形成外科

部長 高木 信介

【当科の歴史】

1983年(昭和58年)、当院に鹿児島県で初めて形成外科が設立され、初代部長に宇田川晃一先生(千葉県立こども病院)が赴任されました。以来、昭和大学形成外科の関連施設として、鹿児島県の医療に携わってまいりました。

【診療内容】

形成外科とは

先天性および後天性の身体外表の醜状(形、色の異常)を対象とし、これを外科手技により機能はもとより形態(美容)解剖学的に正常(美形)にすることを手技とし、その目的は個人を社会に適応させるものである(鬼塚、1964)と定義されています。

形成外科は、体表を治す外科であり、他の外科には無い特徴があります。そして、日常に戻れるようにしてあげることが最大の目的としております。

当科の主な仕事内容は、

1. Hand and Microsurgery
(手とマイクロサージャリー)
2. Oculoplastic Surgery(眼形成)
3. Breast Surgery(乳房再建)
4. Vascular anomalies(血管腫・血管奇形)
5. Cleft Lip and Palate(口唇口蓋裂)
6. Maxillofacial Surgery(顎顔面外科)
7. Oncoplastic Skin Surgery(皮膚腫瘍外科)

特に、1は日本手外科学会認定基幹病院で、整形外科の手外科医とともに専門外来を行っています。

3は、乳癌術後のインプラントによる乳房再建が保険適応となり今後症例が増加する分野です。当院では自家組織、インプラントによる乳房再建をニーズに合わせて行っています。

Aesthetic and Functional Surgery(整容機能外科)をモットーに日々治療を行っています。

【スタッフ紹介】

高木 信介(たかぎ しんすけ)

2002年 昭和大学医学部卒業

2002年 昭和大学形成外科学教室入局
昭和大学病院、毛山病院(高知)、
荏原病院(東京)、藤枝市立総合病院(静岡)、
埼玉県立小児医療センター、
昭和大学横浜市北部病院勤務

2008年～今給黎総合病院形成外科勤務

2010年4月～現職

日本形成外科学会専門医、日本手外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医、皮膚腫瘍外科指導専門医
日本褥瘡学会認定師、医学博士
日本血管腫血管奇形学会評議員
九州マイクロサージャリー研究会世話人
鹿児島手外科研究会世話人

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本手外科学会、日本マイクロサージャリー学会
日本頭蓋顎顔面外科学会、日本口蓋裂学会、
日本美容外科学会、日本美容医療協会、
日本褥瘡学会、日本臨床皮膚外科学会、
日本創傷外科学会、日本血管腫・血管奇形学会
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会

春山 勝紀(はるやま かつのり)

2005年 福岡大学医学部卒業

2007年4月 福岡大学形成外科学教室入局

2015年4月～今給黎総合病院勤務

日本形成外科学会専門医

所属学会

日本形成外科学会、国際形成外科学会、
日本創傷外科学会、
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会

外薮 寿典(ほかぞの としのり)

2008年、信州大学医学部卒業

2010年4月、千葉大学形成外科学教室入局

2014年10月～今給黎総合病院勤務

所属学会

日本形成外科学会、日本頭蓋顎顔面外科学会、
日本熱傷学会、日本褥瘡学会、
日本創傷外科学会

佐々木 彩乃(ささき あやの)
 2011年 昭和大学医学部卒業
 2013年4月 広島大学形成外科教室入局

所属学会
 日本形成外科学会
 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
 日本手外科学会、日本マイクロサージャリー学会
 日本創傷外科学会

非常勤医師
 門松 香一(かどまつ こういち)
 昭和大学江東豊洲病院形成外科 講師

有村 和子(ありむら かずこ)
 日高病院形成外科

泉 朝望(いずみ あさみ)
 歯ならびの歯医者さん 院長

【診療状況 (2015 年 1 月～ 12 月)】

外来診療 外来初診患者数 1,727 名
 入院診療 入院患者数 290 名

手術件数
 入院手術件数 446 件
 外来手術件数 435 件

【手術件数】

外傷	130 件
先天異常	47 件
腫瘍	502 件
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	51 件
難治性潰瘍	36 件
炎症・変性疾患	99 件
美容	6 件
その他	5 件
レーザー治療	5 件
顔面骨骨折	54 件
切断(指、四肢)再接合	19 件
手外傷(骨折、腱損傷、神経損傷、血管損傷)	35 件
四肢再建(有茎皮弁、遊離皮弁)	12 件
口唇口蓋裂	12 件
皮膚良性腫瘍	451 件
皮膚悪性腫瘍	37 件
悪性腫瘍再建	12 件
眼瞼下垂	60 件
血管奇形硬化療法	30 件
耳下腺腫瘍	10 件
顔面神経麻痺	12 件

※学会関連は[研究実績]に掲載



脳神経外科

部長 西澤輝彦

【特色】

脳神経外科は当院の総合病院化に伴って平成元年に開設されました。平成の時代と共に四半世紀を越える歴史を刻み、微力ながら脳血管障害の外科的治療を中心に地域医療に貢献してきました。特に鹿児島で最も早くからカテーテルを用いた脳神経血管内治療を手がけ、脳動脈瘤の瘤内塞栓術や頸動脈狭窄症に対するステント留置術、頭蓋内脳血管の拡張術など虚血性脳疾患に対する血行再建術などを鹿児島の主導的施設として積極的に取り組んで来ました。

また、脳動脈瘤のクリッピング術や脳腫瘍摘出術などの開頭手術にも積極的に対応しています。この数年は開業医の先生との連携が進み、未破裂脳動脈瘤や診断が難しい脳血管障害の脳血管造影による確定診断や根治術の適応判定に関しての検査依頼が急激に増えています。今年度は未破裂脳動脈瘤に関連した入院数が最も多い年となりました。さらに根治手術の適応症例に関しては開頭手術、脳血管内治療の両者を患者さんの状況に応じて最適な方法を選択し、より良い治療成績を目指しています。

当院は年間2700台の救急車を受け入れる救急病院でありその中で外傷系疾患、特に複数の領域に亘る高エネルギー外傷や多発外傷などの重症の患者さんが多いのも特徴です。多発外傷は複数科による迅速なチーム医療が必要で整形外科、形成外科、胸部外科、麻酔科などと良好な関係のもと治療に当たっています。市立病院の新築移転や米盛病院の外傷センター創設により重症例は減った印象にありますが、依然として多くの外傷症例の受け入れを行っています。

【人事・スタッフ】

平成27年度も副院長兼任の部長西澤と科長松邨の二人体制ではありますが、初期研修医の受け入れもあり活気ある活動状態を維持しております。積極的な救急患者の受け入れに加えて、開業医の先生からの紹介の増加により手術件数も120件を維持しています。また脳血管内治療に関しては鹿児島大学の脳血管内治療グループからの応援を受けて血管内手術の症例も再び増加傾向にあります。病院規模や救急車の搬入台数、手術件数から言って3～4人体制は必要な状況でありますので、今後とも大学からの増員を要請して行きたいと思っています。

また医学教育の面からは初期研修医の受け入れのみならず鹿児島大学の医学生の実習受け入れも行っていきます。大学からは有田教授に月一回来院いただき神経内科、放射線科との脳神経カンファレ

ンスを行い、脳神経外科のみならず脳神経全般の画像診断を中心にレベルアップを図る努力を行っています。

【スタッフ紹介】

〈常勤医〉

【部長（副院長、医療情報システム管理者兼任）】

西澤 輝彦（平成2年10月～）

1979年 鹿児島大学医学部卒業

1983年 鹿児島大学大学院単位取得退学

2013年 鹿児島大学医学部臨床教授

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

日本脳神経血管内治療専門医

日本脳卒中学会治療専門医

鹿児島大学医学部臨床教授

鹿児島市立病院非常勤医師

PNSL インストラクター

(Primary Neurosurgical Life Support)

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、日本脳卒中学会、

脳卒中の外科学会、

日本脳神経血管内治療学会、

日本小児脳神経外科学会、

日本脳神経外科コンGRESS、脳ドック学会他

【脳神経外科 科長】

松邨 宏之（平成24年1月～）

1997年 東京医科大学卒業

〈取得資格〉

医学博士

日本脳神経外科学会専門医

〈所属学会〉

日本脳神経外科学会、脳神経外科コンGRESS、

脳卒中の外科学会

〈非常勤医師〉

有田 和徳 鹿児島大学脳神経外科教授

寺田 耕作 串木野脳神経外科センター

【診療実績】 入院患者疾患別分類 (2015年1～12月)

脳腫瘍	グリオーマ	2
	髄膜腫	5
	転移性脳腫瘍	6
	合計	13
血管病変	クモ膜下出血(破裂脳動脈瘤)	11
	未破裂脳動脈瘤	40
	AVM / AVF	11
	高血圧性脳出血	32
	脳梗塞	30
	動脈狭窄(閉塞)	19
	モヤモヤ病	4
	その他	1
合計	148	
慢性硬膜下血腫	合計	36
頭部外傷	頭蓋骨骨折	2
	急性硬膜外血腫	5
	急性硬膜下血腫	16
	脳挫傷	22
	その他	27
	合計	72

小児神経外科	水頭症	7
脊椎・脊髄疾患	脊椎症・ヘルニア	0
	その他	3
	合計	3
機能的脳神経外科	てんかん	14
	その他	9
	合計	23
感染症	脳膿瘍	1
	髄膜炎	1
	合計	2
その他	合計	25

合計 333人

【手術症例】 (2015年1～12月)

開頭術	腫瘍 摘出術	3
	動脈瘤 クリッピング(破裂) クリッピング(未破裂)	4
		10
		合計
	血管吻合術 間接的血管吻合術	1
	開頭血腫除去術 脳内血腫 硬膜外血腫 硬膜下血腫	1
		1
		3
		合計
	減圧開頭手術	1
その他	2	
合計	26	
穿頭術	硬膜下血(水)腫洗浄術	52
	その他	5
	合計	57
短絡術	V-P シヤント	1
	L-P シヤント	8
	合計	9

脊髄手術	血管奇形	1
	その他	1
	合計	2
血管内手術	動脈瘤 coiling	6
	血管形成術 (PTA)	1
	血管形成術 (STENT)	6
	その他	6
	合計	19
その他	合計	6

合計 120件



産婦人科

部長 加藤明彦

【診療内容・特色】

当院の産婦人科は、産科・婦人科一般診療を行っています。

産科領域では、当院には新生児内科があることから地域周産期センターとしてリスクのある妊婦さんの妊娠・分娩管理や一次施設からの母体搬送の受け入れを行っています。

婦人科領域では、子宮癌検診や月経困難症・更年期障害などの一般外来診療から、良悪性の婦人科腫瘍の治療ならびに下腹部痛などの婦人科救急疾患の対応も行ってまいります。

【人事・スタッフ紹介】

今年度は鹿児島市立病院産婦人科より比嘉（旧姓：橋口）莉沙医師に7月31日まで勤務して頂き、8月1日以降は中川映理子医師、中間恵美子医師に勤務して頂いております。

【診療状況】

産科

入院総数	212件
分娩件数	168件
（うち帝王切開 80件、その他産科手術 6件）	
母体搬送	67件

婦人科

入院総数	182件
手術件数	90件
卵巣嚢腫核出術	3件
付属器切除術	31件
円錐切除術	12件
筋腫核手術	6件
腔式子宮全摘術	13件
単純子宮全摘術	26件
拡大子宮全摘術	2件
広汎子宮全摘術	1件
腹腔鏡下手術	6件
（卵巣腫瘍4件、子宮筋腫2件）	
その他	12件

【院外教育活動】

加藤 明彦

- 久木田学園看護専門学校 看護科
母性看護学・女性生殖器 40時間
- 第3回救急隊員症例検討会 産科講習会
(平成27年12月1日、4日開催)
当院スタッフ：本田 里美、高江 真都香、
末増 枝里子、隈元 文子、梅木 真澄、
野間 愛子、附田 香織、寿島 恭子、
小濱 みくり
- FM鹿児島・LEAP出版共同企画「鹿児島の女性を守る がん検診率向上支援」として
 - ・エフエム鹿児島 あさCafé!
平成28年1月5日、12日、19日
子宮がん検診について」出演
 - ・LEAP 平成28年3月号(2月20日発売)
同内容が掲載

【資格取得】

NCPR (Aコース)：

松永 いづみ、松本 千恵美、高江 真都香

プラクティカルCTG判読スペシャリスト 1st認定者
本田 里美、梅木 真澄、高江 真都香

【平成28年度の計画】

これまで常勤医として大変ご尽力を賜って頂きました寺原賢人医師が平成28年度より週4回勤務に業務縮小されます。一方、4月から兒島信子医師を非常勤医師として迎えます。腹腔鏡手術の指導医認定をお持ちであり、今後、婦人科腹腔鏡手術にも力を入れていきたいところです。

また、4月に市立病院から後期研修医の小齋平千世佳医師を迎え、5月いっぱいまで中川映理子医師に勤務して頂ける予定です。研修病院として教育にも力を入れつつ、鹿児島市立病院・鹿児島大学病院ならびに一般開業の先生方と連携し診療を行って参りたいと思います。



新生児内科

部長 丸山 有子

【診療内容】

当院のNICU・GCUは、NICU：9床、GCU：10床の合計19床の、県内では鹿児島市立病院NICUに次ぐ規模の新生児医療施設であり、Late Preterm Babyの管理、Preterm BabyのGrowing CareおよびFamily Careを担当しています。

外来業務として、新生児フォローアップ外来がありますが、当院NICUを退院したBaby達の発育発達をフォローしてゆく外来です。キーエイジでの発達・知能テストも行い、発達支援の要否について家族と話し合う場となっています。

また、平成26年よりNICU退院児を対象とした訪問看護も開始しました。入院中に児を担当していたNICU看護師が家庭を訪問することにより、NICU退院直後に看護の継続と育児の支援が可能となり、地域の訪問看護ステーションへの移行もスムーズになっています。

【診療の担当】

医師2名、看護師36名（認定看護師1名）、助産師2名、保健師1名、作業療法士1名、理学療法士1名、メディカルクラーク1名、ナースアシスタント1名で日々の業務を行なっています。

NICU・GCUは、新生児内科部長の丸山と3月までは鹿児島市立病院新生児科から1週間交代で1名の先生が来られていましたが、4月からは緒方知佳医師が赴任され、2人体制で日々の診療を行いました。

フォローアップ外来は、丸山と緒方先生、金曜日には鹿児島市立病院の井之上寿美先生も来てくださり、月、水、木、金曜日の週4日で開いています。夜間当直業務は、当院と鹿児島市立病院新生児科の医師で担当しています。

ハイリスク児の発達知能検査（新版K式発達検査・WISC-IV）は、吉永明美臨床心理士により行なわれています。

月1回の療育指導外来には、埼玉医科大学総合医療センター カルガモの家から奈須康子先生に来ていただいています。

毎月1回、鹿児島大学小児科河野嘉文先生にNICU、GCUの回診をお願いしています。

【入院状況】（グラフと表を参照）

総入院数児数と体重別入院児数の経年推移をグラフ・表1に、入院経路別入院児数を表2に、人工呼吸管理患者数を表3に示しました。

【外来状況】

* フォローアップ外来・シナジス外来

平成19年より開始した新生児内科の外来業務ですが、フォローアップ外来とシナジス外来の総受診者数は増え続けてきましたが、平成24年からはほぼ安定してきました。（表4）。

* 発達検査

平成27年は167名が受けました。

* 療育相談外来

月1から2人ずつ行い、平成27年は16名が受けました。

* PIPC（早産児の両親学級）

今年は24回開催し、172人の方が聴講してくださいました。

【ハイリスク新生児へのNICUからの訪問看護】

4件（訪問総数14回）

【活動・業績など】

* アウトリーチ活動

➢出張もじょかくらぶ：開催回数5回

- 1) 曾於 3月15日 参加者：児3名 家族5名
関係者16名 計24名
- 2) 奄美 7月18日 参加者：児9名 家族15名
関係者34名 計58名
- 3) 伊佐・湧水 9月6日 参加者：児5名 家族10名
関係者16名 計31名
- 4) 肝付 11月29日 参加者：児11名 家族14名
関係者36名 計61名
- 5) 川薩 2月7日 参加者：児7名 家族11名
関係者23名 計41名

* 退院支援

➢地域保健師と家族の面談をsetting

NICU入院中から保健師と家族の面談を企画し、その後の良好な関係作りを図っています。平成27年度は105件（児137名）のご家族と地域保健師との面談が当センターで行なわれました。

➢ハイリスク児の家庭生活を支援するためのケース会議の開催依頼

複雑な事情をもつ家庭が増えています。そのような家庭へハイリスク新生児が退院する際には、福祉課や保健所、保健センター、児童相談所、訪問看護師を始め、民生委員や子育て支援NPOの方などとの会議を主催し相互の情報交換をはかっています。今年は6件（9回）行なわれました。

【教育的な活動】

* 研修の受け入れ
* 看護学生の実習

* 他施設より見学

* スタッフのための勉強会

訪問看護ステーションファーストより理学療法士1名（11月25日）

久木田学園看護専門学校 3年22期生34名

神村学園専修学校看護学科 3年9期生29名

今村病院分院より6名（7月21日）

朝レクチャー：43回開催、茨 聡先生のレクチャー：12回、
新生児医療に関するレクチャーを行っていただきました。

その他の勉強会：12回

※学会関連は[研究実績]に掲載

【入院児総数】

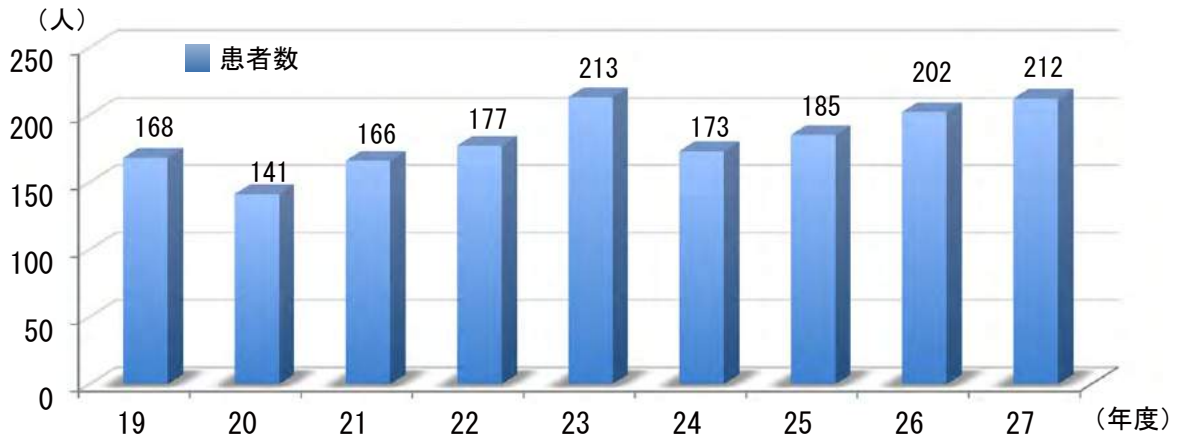


表 1：【出生体重別患者数内訳】

年度（平成）	19	20	21	22	23	24	25	26	27
～999g	1	3	3	2	8	19	20	13	9
1000g～1499g	32	35	26	40	34	43	35	42	41
1500g～1999g	61	43	46	49	68	53	64	72	85
2000g～2499g	31	35	52	46	59	42	35	47	47
2500g～	43	25	37	40	44	15	31	28	30

表 2：【入院経路別患者数および院内出生率】

年度（平成）	19	20	21	22	23	24	25	26	27
当院外来管理後の院内出生	26	9	29	28	36	17	22	32	42
母体搬送後の院内出生	51	42	39	47	43	20	48	49	38
市立病院より新生児搬送	75	66	66	80	105	118	100	109	123
大学よりgrowing care入院	3	3	6	1	9	9	10	0	0
他院よりの新生児搬送	13	23	24	21	20	9	5	12	9
院内出生率（%）	45.8	36.2	41.4	42.3	37	10	37	40	38

表 3：【人工呼吸管理施行患者数】

年度（平成）	19	20	21	22	23	24	25	26	26	27
人工呼吸管理施行数(nasal CPAP)	15	19	12	44	33	49	46	55	55	66
人工呼吸管理施行数(挿管症例)	21	19	13	13	11	4	16	15	15	11
人工呼吸管理施行数	36	38	25	57	44	53	62	70	70	77

表 4：【フォローアップ外来＋シナジス外来のべ受診者数】

年度（平成）	19	20	21	22	23	24	25	26	26	26
のべ人数(人)	307	684	770	890	1219	1641	1365	1651	1651	1316



小児科

部長 玉田 泉

【診療内容・特徴】

銚之原昌医師、堀之内兼一医師、堀之内泉医師、玉田の4名で診療いたしました。

一般外来のほか、堀之内兼一先生は小児腎疾患患者の follow、また玉田は小児内分泌疾患の専門外来を実施しています。市県からの委託による乳幼児健診、予防接種業務を行っており、また新生児マスキング、学校健診・学校検尿や生活習慣病予防健診での精密受診者の受け入れや精密検査後の follow も行っています。内分泌疾患の負荷試験も外来でも実施する機会が増え年間で20～30件ほど実施しています。今後も安全に正確に、専門性を生かした診療を行っていききたいと思います。

入院実数については、昨年に比し若干の増加。マイコプラズマ肺炎の入院適応例が多かったようです。糖尿病初発やコントロール目的、ほか内分泌疾患、急性糸球体腎炎や紫斑病性腎炎など腎疾患での専門性を求められる入院等があります。当院の特長を生かし、役割を果たしていけたらと考えます。

職員の子供さん対象の病児保育室も設置後7年が経過し、年間のべ約600名の子どもさんを受け入れています。子育て世代の職員のバックアップのため、今後も貢献できたらと思います。

【スタッフ紹介・講義 / 院外活動】

銚之原昌：小児科専門医、小児リウマチ専門医
鹿児島県小児科医会監査
日本小児科学会鹿児島地方会監事
鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長
鹿児島県膠原病研究会 代表世話人
鹿児島小児保健学会役員、
日本小児リウマチ学会役員
鹿児島文化サロン 委員、
鹿児島小児膠原病父母の会ひまわりの会 委員
鹿児島市すこやか子ども元気プラン地域協議会 委員
鹿児島県保育所乳児保育研修会講師
NPO法人子ども医療ネットワーク 役員

堀之内兼一：小児科専門医
日本補完代替医療学会学識医 学会理事
鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員
久木田看護専門学校 非常勤講師
European Univ. Vandrina 非常勤講師(漢方の講義)

玉田 泉：小児科専門医
日本糖尿病協会療養指導医
鹿児島大学小児科 非常勤講師
鹿児島県立短期大学 非常勤講師

【診療状況】

外来診療 外来患者数延べ 12,106人
入院診療 入院患者数延べ 1,069人
(平均在院日数 6.5日)

【診療実績】

入院疾患(実数)計 203人
急性気管支炎・肺炎(喘息増悪含む) 131人
内分泌疾患
(成長ホルモン検査・糖尿病を含む) 22人
急性胃腸炎(ロタ腸炎他) 6人
腎疾患(AGN・紫斑病含む) 7人
その他(リンパ節炎・無菌性髄膜炎他) 27人

【院外活動 / 講演会 学会活動など】

銚之原 昌

- ・2015年7月9日
南日本子ども健康セミナー(鹿児島県小児保健協会・山形屋主催)
市民の育児支援のために、育児相談
- ・2015年9月10日
鹿児島県新規採用養護教諭研修会 講演
(県教育委員会：県教育センターにて)
- ・鹿児島子どもの虐待問題研究会
会長として年4回開催
- ・鹿児島県膠原病研究会 顧問として年2回開催
- ・鹿児島県小児科医会 監査として監査
- ・鹿児島文化サロン 委員として年3回開催 参加
- ・鹿児島市子ども子育て会議 委員として参加
- ・平成27年度母子保健家族計画事業功労者厚生労働大臣表彰

堀之内 兼一

- ・鹿児島市医師会学校腎臓病健診 委員、年一回委員会出席

玉田 泉

- ・1型糖尿病家族会「さくらんぼの会昭和会支部」指導医、年に2回定例会
- ・1型糖尿病サマーキャンプ指導医として参加
- ・ターナー症候群家族会「MIRAIの会」年に2回定例会参加
- ・鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会委員
年12回審査会、年一回委員会

【予防接種件数】（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

	インフル エンザ	おた ふく	エイ ムゲ ン	ビー ムゲ ン	日 本 脳 炎	狂 犬 病	ヒ ブ	子 宮 頸 がん	水 痘	麻 し ん 風 し ん	四 種 混 合	三 種 混 合	二 種 混 合	B C G	肺 炎 球 菌	ロ タ ウ イ ル ス	ポ リ オ	合 計
1月	48	3		14	15		36		20	11	32		2	8	37	16	4	246
2月	10	2		9	8		42		17	6	31			9	43	22	3	202
3月	2	2		8	21		40		18	21	44		1	11	41	17	1	227
4月		3		12	15		32		17	8	38			11	34	7	3	180
5月		1		7	14		26		9	16	29		9	11	25	5	5	157
6月		3		15	24		27		16	14	25		2	9	27	8	2	172
7月		3		15	32		34		12	13	27		2	4	34	3		179
8月		2		14	28		28		8	13	23		15	6	28		1	166
9月		1		11	17		26		7	7	28		3	9	25	2	1	137
10月	113	1		11	16		35		12	20	28		1	4	35	3	4	283
11月	256			5	25		25		17	18	21		2	7	28		3	407
12月	245	9		9	26		29		15	15	14		2	5	26	1	2	398
総合計	674	30	0	130	241	0	380	0	168	162	340	0	39	94	383	84	29	2,754

- ・ 鹿児島県先天性代謝異常等検査連絡協議会委員、
年1回協議会
- ・ 平成28年3月12日
日本マスキリング学会技術部会代4会研修会
講演「新生児マスキリングで発見される
内分泌疾患の診断と治療の実際」
※学会関連は[研究実績]に掲載

・ その他

平成27年3月、平成26年8月には医師会主催のこども予防接種週間に参加して予防接種業務を行いました。

【平成28年度計画】

銚之原昌医師、堀之内兼一医師、堀之内泉医師、玉田泉で引き続き診療にあたります。また、4月より週に1回木曜日、上野さやか医師が外来診療を開始します。



泌尿器科

部長 立和田得志

平成 27 年度は、中目康彦、立和田得志、千代丸剛、鶴田雅史、西山賢龍（非常勤：月のみ）で診療しました。外来患者数は 1 日 50 人前後、入院は 15～20 人前後です。外来では新患担当医が初診の方を担当しています。再診の方は原則予約制でできるだけ待ち時間のないようにしています。

当院は CT 検査まですぐ行える体制ですので、その日のうちに診断、治療方針をたてるようにしています。血液透析は入院患者のみで維持透析は行っておりません。基本的に月、水、金の週 3 回です。

手術は腹腔鏡手術に力をいれています。平成 26 年 3 月に 3D 内視鏡システムを導入し、より精度の高い手術が可能になり、早期腎癌に対する腎部分切除術や浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘術もほぼすべて腹腔鏡下に行っています。限局性前立腺癌に対しては、腹腔鏡手術から密封小線源治療（ブラキセラピー）まで行って、早期退院（術後 1 週間前後）が可能になっています。経尿道的な手術から骨盤内臓器脱手術（TVM 手術）、尿失禁手術（TOT 法）まで幅広く治療を行っております。

【スタッフ紹介】

部長 中目 康彦

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本透析医学会 認定医

千代丸 剛

日本泌尿器科学会専門医

部長 立和田 得志

日本泌尿器科学会専門医・指導医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
日本泌尿器内視鏡学会
泌尿器腹腔鏡技術認定医
医学博士（鹿児島大学）

鶴田 雅史

日本泌尿器科学会専門医

【2015 年 4 月～ 2016 年 3 月手術統計】

分類	手術	例数
前立腺	腹腔鏡下前立腺全摘術	74
	経尿道的前立腺切除術	24
	密封小線源治療	9
腎 副腎 尿管	腹腔鏡下副腎摘出術	1
	腹腔鏡下腎摘出術	8
	腹腔鏡下腎部分切除術	14
	腹腔鏡下腎尿管全摘術	16

分類	手術	例数
膀胱	腹腔鏡下膀胱全摘術＋回腸導管造設術	4
	腹腔鏡下膀胱全摘術＋尿管皮膚ろう造設術	2
	経尿道的膀胱腫瘍切除術	88
尿道	TVM（骨盤臓器脱）手術	4
	尿失禁手術（TOT）	3



眼科

部長 高橋 範雅

平成27年度は9月までは3人体制で、10月からは鹿児島大学の吉永医師が大学に帰られ、以降は2人体制の診療となりました。なお、9月より部長は薄井隆宏医師より、高橋範雅医師へと交代となりました。診療体制の変更に伴い、10月より外来診療の一部予約制が導入されました。平成28年4月からは完全予約制が導入される予定です。

【特色】

当科は難症例の白内障手術が多く、眼内レンズ縫着も多くなっています。当科では小切開での眼内レンズ縫着を標準術式とし、眼内レンズ強膜内固定などの新しい方法での手術を行っています。また、網膜硝子体手術は去年の件数に比べ大幅に増加し、広角観察系を用い安全に短時間で行えています。緑内障手術も新しい器具を用い低侵襲な手術が可能であり、より良い治療成績を目指しております。

【スタッフ紹介】

高橋 範雅 (たかはし のりまさ)

2005年昭和大学医学部卒業

〈取得資格〉

日本眼科学会専門医

〈所属学会〉

日本眼科学会

油井 一敬 (ゆい かずひろ)

2009年岩手医科大学医学部卒業

〈所属学会〉

日本眼科学会

日本職業災害医学会

[看護]

看護師：川崎・川口・出之口・有村・中村

[検査]

視能訓練士：上村・川畑(真)・川畑(直)・今吉

眼科検査員：木之下・鶴之園・鳥原

[事務]

受付：赤塚・泊

秘書：日高・久富・岩元

【診療状況】

外来新患数 984名

外来再診数 9,853名

入院患者数 1,134名

【手術件数】

白内障手術 932件

眼内レンズ縫着 43件

緑内障手術 19件

網膜硝子体手術(網膜剥離) 157件

硝子体内注射 208件

その他内眼手術 233件

眼瞼下垂手術 21件

眼瞼内反手術 2件

翼状片手術 25件

その他外眼手術 74件

合計 1,714件

【講義】

久木田学園看護専門学校

病態学IV 眼科系 2015年9月 毎週金曜日

油井 一敬

※学会関連は[研究実績]に掲載



気管食道・耳鼻いんこう科

部長 昇 卓 夫

【スタッフ】

福田勝則 部長

医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
鹿児島大学医学部卒

昇 卓夫 院長

医学博士、日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本気管食道科学会専門医、補聴器相談医
鹿児島大学臨床教授、久木田学園非常勤講師
鹿児島大学医学部卒

鎌田知子 医師

信州大学医学部卒

非常勤医師：

宮崎康弘医師 今村洋子医師

【入院患者内訳(非手術例)】

(2015年1月1日～12月31日)

突発性難聴	63例
(治療効果判定)	
治癒：5例7.9%、著明回復7例11.1%、	
回復19例30.2%、不変32例50.8%	
；1984年厚生省特定疾患突発性難聴研究班による判定	
顔面神経麻痺	
(ヘル麻痺、ラムゼイ・ハント症候群)	8例
めまい(メニエル等)	7例
その他耳疾患	3例
扁桃周囲膿瘍(炎)	37例
急性咽喉頭炎、扁桃炎等	22例
急性喉頭蓋炎	15例
その他咽喉頭疾患	3例
鼻出血	6例
その他鼻疾患	3例
頸部膿瘍他膿瘍	9例
その他頸部疾患	2例
非手術例の入院総症例数	115例

【手術実績】(2015年1月1日～12月31日)

手術総件数 641件

a) 耳科領域	105件	
鼓膜チューブ留置術		30件
先天性耳瘻孔手術		8件
鼓膜形成術		10件
鼓室形成術		4件
鼓膜切開術		51件
顔面神経減荷術		1件
その他		1件
b) 鼻科領域	367件	
鼻内副鼻腔手術		146件
(内ナビゲーション手術)		37件
下鼻甲介切除術		149件
鼻中隔矯正術		61件
鼻粘膜電気焼灼術		7件
その他		4件
c) 口腔・上中咽頭領域	125件	
口蓋扁桃摘出術		99件
扁桃周囲膿瘍切開		10件
アデノイド切除術		6件
口蓋扁桃切除術		4件
その他		6件
d) 喉頭・気管(支)・下咽頭・食道領域	27件	
(悪性3件)		
声帯ポリープ・結節切除術		20件
喉頭がん		3件
その他		4件
e) 顔面・頸部等領域	17件	
唾液腺腫瘍		3件
がま腫		2件
唾石(含顎下腺)摘出術		7件
その他		5件

※学会関連は[研究実績]に掲載



皮膚科

医長 久留 光博

平成27年4月から久留 光博が担当しました。

【診療内容・特徴】

県内でも有数の入院施設を有する皮膚科として、湿疹、アレルギー疾患、細菌・真菌・ウイルス感染症などのcommon diseaseから、膠原病や自己免疫性疾患、腫瘍性疾患まで、皮膚疾患全般を診療しております。

総合病院の皮膚科であるメリットを生かして必要に応じて他科や周囲の医療機関と連携をとり、多くの患者さまへより良い医療のご提供ができるよう努めて参ります。

【スタッフ紹介】

医長 久留 光博

〈所属学会〉

日本皮膚科学会

日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会

日本研究皮膚科学会

日本皮膚外科学会

非常勤医師 児浦 純生

医学博士 日本皮膚科学会専門医

鹿児島大学医学部臨床教授

〈所属学会〉

日本皮膚科学会

日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会

【昭和会クリニック 外来診療体制】（2015年4月～2016年3月）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM	久留・児浦	久留	久留・児浦	久留	久留・児浦	非常勤医
PM	休診	休診	休診	休診	休診	

【外来患者・紹介患者数：最近5年間の動態】（病院・クリニック）

	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	初診	再診	計	初診	再診	計	初診	再診	計	初診	再診	計	初診	再診	計
4月	231	714	945	199	677	876	241	755	996	234	733	967	180	676	856
5月	222	720	942	269	762	1031	235	736	971	219	727	946	285	647	932
6月	249	762	1011	254	766	1020	287	717	1004	230	721	951	214	718	932
7月	333	778	1111	418	784	1202	336	878	1214	256	819	1075	259	725	984
8月	279	696	975	368	825	1193	371	775	1146	286	835	1121	258	741	999
9月	236	651	887	226	696	922	242	696	938	272	809	1081	172	641	813
10月	193	632	825	230	817	1047	226	764	990	203	797	1000	237	703	940
11月	240	647	887	196	728	924	225	675	900	172	685	857	153	545	698
12月	217	648	865	183	641	824	239	728	967	158	689	847	160	628	788
1月	179	527	706	275	623	898	196	619	815	143	621	764	129	543	672
2月	171	572	743	197	651	848	178	635	813	173	607	780	176	566	742
3月	238	634	872	258	728	986	209	666	875	180	682	862	179	642	821
計	2,788	7,981	10,769	3,073	8,698	11,771	2,985	8,644	11,629	2,526	8,725	11,251	2,402	7,775	10,177
紹介患者数	190			236			227			262			285		

【入院患者数：最近5年間の動態】

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度	
	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院	新入院	延入院
4月	7	120	3	31	5	187	6	56	7	92
5月	7	80	8	74	1	62	5	32	5	51
6月	9	81	10	47	10	110	10	97	3	57
7月	9	143	10	107	13	134	7	84	10	113
8月	1	9	8	107	10	211	6	147	4	76
9月	1	33	6	23	7	134	7	143	8	111
10月	5	35	12	127	8	94	7	111	8	143
11月	1	19	13	103	4	106	8	200	7	148
12月	5	65	3	80	10	98	3	74	9	157
1月	4	24	6	64	5	92	3	43	6	139
2月	2	31	6	84	1	89	9	93	3	171
3月	2	45	4	116	5	84	5	89	5	86
計	53	685	89	963	79	1,401	76	1,169	75	1,344

【手術件数】（2015年4月～2016年3月）

142件

【講義】

久木田学園看護専門学校（皮膚科学総論・各論）



麻酔科

部長 池田 耕 自

当院における麻酔科の診療内容は手術麻酔、集中治療室等における重症患者管理等です。

今年度における麻酔科の陣容は、5名の麻酔科常勤医と非常勤医5名（週3回1名、週1回4名）体制でした。さらに卒後研修医7名の研修を行いました。

平成27年度の今給黎総合病院における麻酔科管理症例数は2,346件でした。（患者さんの平均年齢は55.2歳 最高齢は99歳）この内、緊急手術は196件（時間外113件）であり全体の8.3%（4.8%）程度を占めます。手術室は6室有り、最大で7件の同時並行手術が可能です。

各科別の麻酔件数は、整形外科840（35.7%）、外科250件（10.7%）、耳鼻咽喉科264件（11.2%）、泌尿器科250件（10.7%）、形成外科229件（9.8%）、歯科口腔外科144件（6.1%）、産科婦人科174件（7.4%）、呼吸器外科138件（5.9%）、眼科18件（0.8%）脳神経外科39件（1.7%）、といった現状でした。

麻酔症例内訳	
総症例数（緊急）	2,346（196）
全身麻酔	1,589
全麻＋硬麻等	260
脊麻・硬麻等	490
伝達麻酔	0
その他	7

【各科別麻酔依頼件数】

	件数（%）	緊急
整形外科	840（35.7）	71
耳鼻咽喉科	264（11.2）	5
外科	250（10.7）	29
泌尿器科	250（10.7）	7
形成外科	229（9.8）	7
産科婦人科	174（7.4）	66
歯科口腔外科	144（6.1）	0
呼吸器外科	138（5.9）	2
眼科	18（0.8）	3
脳神経外科	39（1.7）	6
その他	0	0

【ICU】

平成27年のICU入室件数は637件です。各科の内訳は以下の通りです。

【各科別 ICU 入室者数】

科名	入室者数
外科	112
呼吸器外科	124
整形外科	138
泌尿器科	122
脳神経外科	72
神経内科	18
産婦人科	11
麻酔科	6
循環器内科	8
呼吸器内科	2
形成外科	15
消化器内科	7
総合内科	2
耳鼻科	0
小児科	0
合計	637

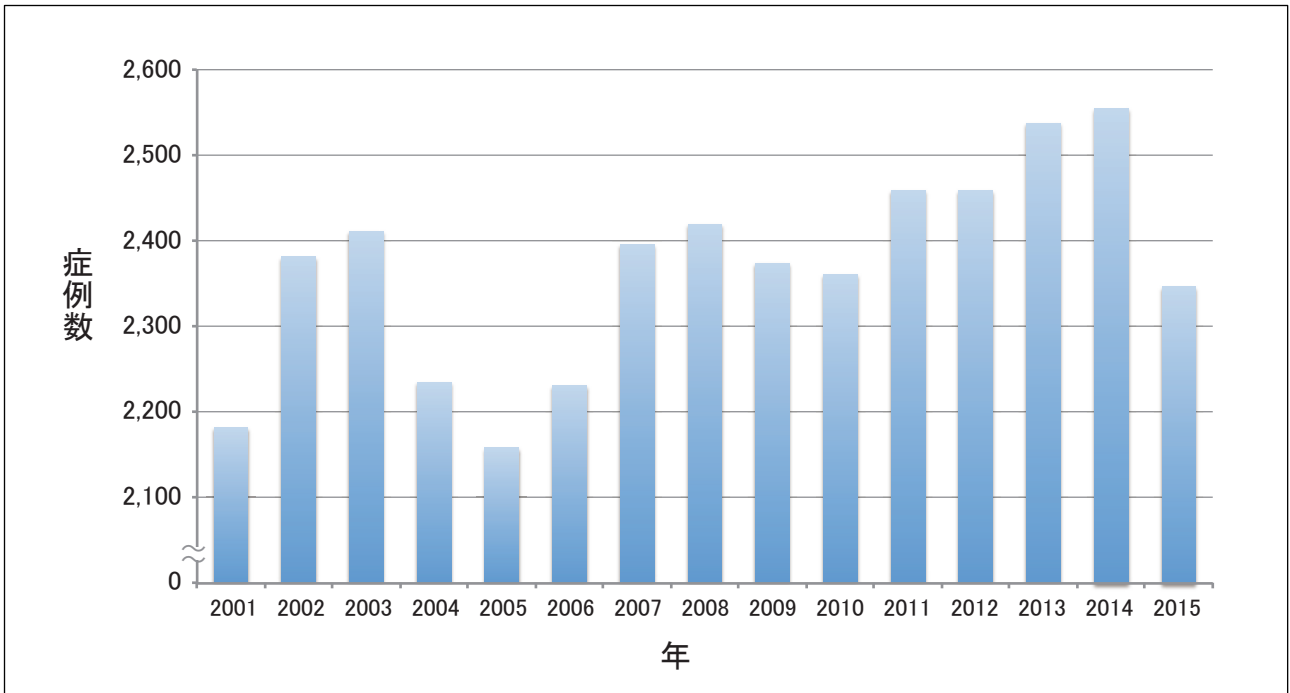
麻酔科管理患者は6名で内訳は心肺停止蘇生後2名、急性薬物中毒1名、スティーブンス・ジョンソン症候群1名、ショック1名、イレウス1名でした。

【麻酔科医名】

池田 耕自
 西山 淳（平成17年10月～）
 山下 順正（平成23年7月～）
 村山 裕美（平成23年7月～）
 樋之口 翠（平成27年4月～9月）
 鬼塚 一聡（平成27年10月～）

研修医
 森 威慈（平成27年4月～5月）
 砂川 珠輝（平成27年7月）
 白石 一光（平成27年9月～10月）
 宮脇 真理（平成27年11月）
 松岡 大介（平成27年12月）
 高木 博佑（平成28年1月～2月）
 今村 研介（平成28年3月～）

【麻醉科管理症例数年次推移】





放射線診断科

部長 鉾立博文

【診療内容・特色】

当院では画像診断機器として CT (64 列：2機、16 列：1 機)・MRI (1.5T：2 機)、RI・血管造影装置 (Cone-beam CT)・透視装置 2 機・乳房 X 線装置・マンモトームなどを備えています。平成 23 年度に CT・MRI・RI 装置を更新し、PACS・フィルムレス運用にて画像診断を実施しています。救急患者に対する緊急 CT などの読影も on call 対応しています。また、院内で定期的に行われる整形外科・呼吸器・消化器・循環器・脳神経・泌尿器科系のカンファレンスに積極的に参加して画像診断・日常診療の質の向上に務めています。

画像診断情報を元にして低侵襲的な治療法を行う IVR (Interventional radiology：画像下治療) の手技を必要に応じて実施しています。主に原発性肝癌や転移性肝癌に対する肝動注 (化学) 塞栓療法：TA(C)E や膀胱癌などへの動注化学療法、外傷に伴う肝臓・脾臓・腎臓などの臓器損傷や咯血・血胸・腫瘍性病変からの出血に対するカテーテルを用いた動脈塞栓術、US/CT ガイド下生検・膿瘍ドレナージなどに取り組んでいます。その他、各診療科と協力して IVC フィルター留置・消化管ステント・四肢などの血管奇形に対する血管内治療・硬化療法も行なっています。

【人事・スタッフ紹介】

部長 鉾立博文

〈資格〉日本医学放射線学会 放射線診断専門医
日本 IVR 学会 専門医・代議員
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
緩和ケア研修会修了医
医師臨床研修指導医養成講習修了医
医学博士 (鹿児島大学)

医師 仮屋圭介 (平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月)

クリニック院長 大久保幸一

〈資格〉日本医学放射線学会 放射線診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
医学博士 (鹿児島大学)

非常勤医師

小林秀章 (鹿児島徳州会病院)

中條正典 (鹿児島大学)

永田行隆 (垂水中央病院)

【検査件数】(2015 年 1 月～12 月)

	件数
1. 一般撮影	40,568
2. 透視・造影撮影	13,742
3. 骨塩定量測定	5,876
4. X線CT	476
5. DSA/Angio	211
6. RI	372
7. MRI	1,032

【主病名別入院患者数】

肺癌	12
肝細胞癌	6
食道癌	5
鎖骨上リンパ節転移	3
膵臓癌	2
前立腺癌	2
転移性脳腫瘍	2
直腸癌	2
アルツハイマー型認知症	1
腋窩リンパ節転移	1
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	1
膀胱癌	1
胃MALTリンパ腫	1
顔面打撲	1
誤嚥性肺炎	1
重複癌 (肺・肝)	1
多発性骨髄腫	1
大動脈周囲リンパ節転移	1
第一腰椎圧迫骨折	1
直腸肛門癌	1
転移性肺腫瘍	1
慢性うっ血性心不全	1
良性発作性頭位性めまい	1
橈骨遠位端骨折	1
肛門管癌	1
総計	54

【悪性新生物原発巣別患者数】

肺癌	16
肝細胞癌	7
食道癌	5
膵臓癌	2
前立腺癌	2
乳癌	2
びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	1
胃MALTリンパ腫	1
重複癌（肺・肝）	1
多発性骨髄腫	1
直腸肛門癌	1
肛門管癌	1
子宮体癌	1
S状結腸癌	1
大腿悪性線維性組織球腫	1

【IVR 症例内訳】

胆道系	18
CT/USガイドドレナージ	3
CT/USガイド生検	9
動注化学療法	9
消化管ステント	8
IVCフィルター留置・抜去	4
CVポート留置・CV挿入	8
その他	25
総計	84

【平成 28 年度の計画】

平成27年度は、それまでの二人減員の状況から大学派遣が一人復活したこともあり縮小していた業務内容を従来通りの入院病棟管理をやりながらの画像診断・IVRを徐々に復活させ体制整備をしてきました。最近では初期研修医の増加で当科へのローテート希望者も多く基本症例のテーチングファイルなどの体制整備を進めていく予定です。ただ、画像診断に関する業務においてはあいかわらず非常勤医師の応援を頂きながらの報告書作成となっており常勤医の増員を待ちたいところです。

平成28年度は日本専門医機構の新たなる施設認定も始まり読影体制の整備・IVR症例の増加が必須となります。また、本年も初期研修医のローテーターが多数当科を選択しており引き続き放射線診断学・IVRの魅力を発信していきたいと思っております。

※学会関連は[研究実績]に掲載



放射線治療科

部長 中禮久彦

平成19年10月に当院での本格的な放射線治療のための「リニアックセンター」が開設されて、既に8年半が経過いたしました。

開設当初年間300名近くであった放射線治療患者さんは漸減し、最近では年間200名前後で推移しております。近隣施設での高性能治療装置の新規導入及び更新、当院診断医を含む放射線科常勤医の減少、それに新規化学療法への治療法移行等、様々な要因が関連しているのではないかと推察しております。私自身の力量不足も加わっていると感じ、最近では眼前の患者さんのための日々奮闘を心掛けております。

当地域の人口規模や未だ改善に乏しい治療医のマンパワーを考慮すれば、今後の過剰な放射線治療施設の増大及び拡散は一施設当たりでの十分な患者数の減少の危険性があります。照射品質の低下、不採算部門への転落、及び長年積み上げてきた放射線治療への信頼失墜の憂き目を招かないためにも、指導的お立場の方々には商業主義とは一線を画した熟考及びがん患者さん一人一人のための計画的配置を期待いたします。

幸いにして先日、約10年にわたり当院の一番の懸案であった新築移転先が交通局跡に決定いたしました。近年他院に比べて遅れをとっていた当院リニアックのハードウェアが3年後は時流に合わせて一気に最新のものにアップデートされるものと期待しております。現在のSRT(定位集光放射線治療)に加えて、新病院ではIGRT(画像誘導放射線治療)及びIMRT(強度変調放射線治療)が多くの患者さんに適用されることが必須と考えます。

当院はコバルト60の時代からの実績では30年を超え、放射線治療認定医1名に加えて、放射線治療認定技師3名及び放射線治療認定看護師1名を擁する鹿児島県地域がん拠点病院です。微力ながら鹿児島のがん患者さんのお役に立てるべく、初診を忘れず、謙虚に日々精進していきたいと考えております。

【スタッフ紹介】

放射線治療科 部長 中禮久彦

＜経歴・資格＞

- 平成元年 宮崎医科大学卒業
鹿児島大学医学部放射線科入局 研修医
- 同 3年 国立がんセンター中央病院
放射線治療部レジデント(国内留学)
- 同 6年 一誠会 三宅病院
- 同 7年 今給黎総合病院放射線科
- 同 8年 鹿児島大学医学部放射線科 医員
- 同 9年 同上 助手
- 同 17年 同上 講師
- 同 18年 同上 退局
今給黎総合病院放射線科 治療部長
- 平成 9年 日本医学放射線学会 専門医(第 2999 号)
- 同 12年 博士学位(鹿児島大学 医論第 1267 号)
- 同 13年 日本放射線腫瘍学会 認定医(第 336 号)
- 同 25年 研修指導者認定
(日本医学放射線学会 第 R07590R0 号)

【平成27年】

○主な原発巣別

リニアック照射新患者数(全:186名)内訳

呼吸器系(肺・気管・縦隔)	64名(内 肺:63名)
泌尿器系	46名(内 前立腺:35名)
消化管系(食道・胃・腸)	27名(内 食道:11名)
良性(ケロイド)	15名
血液・リンパ系	9名
肝・胆・膵系	9名

○リニアック照射新患及び再患者数 主な転移 内訳

骨	36名
脳	7名

○定位集光照射(SRT)新患者数 内訳

肺:15名	脳:2名	肝:1名
-------	------	------

○前立腺シード【全9名】

※学会関連は[研究実績]に掲載



緩和医療科

部長 松添大助、小玉哲史

【身体症状担当；松添大助】

2015年4月から、それまで天陽会中央病院緩和ケア病棟で活躍されていた吉國さんが中央病院を退職されて当チームに新たに加わりました。

《緩和ケアチームメンバー》

身体症状担当医師：松添大助
精神腫瘍担当医師：小玉哲史
専従看護師：早崎玲子、岩山友紀
保健師：植屋明代
MSW：吉國久子
薬剤部：尾上博隆、財間富士子、中目貴子、堀内智裕、前嶋一友
リハビリテーション部：木原智美、重水智子、高田奨、古市寿子、宮之原俊一
栄養管理部：田中美帆

《講義》

鳳凰高等学校看護学科専門課程
2015年5月～6月
呼吸器疾患；10時間、緩和ケア概論；2時間
松添大助
鹿児島医療センター緩和ケア研修会
2015年1月11日 緩和ケア概論 松添大助
鹿児島大学緩和ケア研修会
2015年3月7日 呼吸困難 松添大助
南九州病院緩和ケア研修会
2015年7月5日 呼吸困難 松添大助
南風病院緩和ケア研修会
2015年11月21日 呼吸困難 松添大助

【精神腫瘍担当；小玉哲史】

2015年の精神科診察のコンサルトは107件であり、依頼内容としては2014年同様せん妄が最多であった。精神疾患のコンサルトは統合失調症、うつ病、不安障害、パーソナリティ障害と多岐にわたり、そのうち精神科もしくは診療内科の受診歴のあるものは33件であった。2016年度から精神疾患診療加算を算定することとなるが、現状では1年間の目標件数（20件以上）は達成しているものの、入院3日以内にコンサルトがあったものは5件程度に過ぎない。3日以内に精神科診察につなげる体制づくりが課題となる。

《講義》

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会
コミュニケーション講師、ファシリテーター
平成27年1月11-12日 鹿児島医療センター
平成27年3月7-8日 鹿児島大学病院
平成27年5月23-24日 県立薩南病院
平成27年6月27-28日 松山赤十字病院
平成27年7月12日 国立病院機構 南九州病院
平成27年8月22-23日 済生会川内病院
平成27年9月5-6日 県民健康プラザ
鹿児島医療センター
平成27年10月24-25日 今給黎総合病院

【緩和ケア依頼のべ件数（2015年1月～12月）】

	外来	入院
呼吸器内科	15	49
外科	6	63
呼吸器外科	9	28
整形外科	1	5
泌尿器科	1	5
婦人科	1	26
血液内科	2	3
消化器内科	1	11
放射線科		4
耳鼻科	1	
総合内科	2	1
神経内科		2
脳外科	1	1
他院	2	
計	42	198

【依頼内容】（複数重複あり）

	外来	入院
疼痛コントロール	29 69.0%	63 31.8%
疼痛以外の身体症状	22 52.4%	38 19.2%
メンタルケア	11 26.2%	146 73.7%
家族ケア	4 9.5%	28 14.1%
退院・転院支援	2 4.8%	31 15.7%

※学会関連は[研究実績]に掲載



病理診断科

部長 白濱 浩

2015年も大過なく終えることができ、まずは皆様に感謝します。

現在、部門コンピューターシステムの構築を行っていますが、やっと全体の構造が決定し、システム会社でのプログラムの作成に入るところまでやってきました。またスライドプリンターやカセットプリンターの導入など病理標本作成過程の工程管理に必要な機材の導入が決定し、2016年のシステム稼働に向け進んでいる状態です。

当院では昨年度導入した「i-densy」による遺伝子解析も順調に稼働し、EGFRやk-RASといった癌治療に直結した遺伝子検査は主治医からの依頼後ほぼ1日で結果を報告可能な状態となっています。また、以前から行っていた滑膜肉腫の遺伝子解析も「i-densy」を用いることにより報告までの時間が3日から1日へと短縮されています。

さて、鹿児島で実際に病理診断を行っている病理専門医は約25人ですが、医療が細分化・高度化された現在、各病理医がすべての分野をカバーすることは困難な状態です。その病院の特性や状況に合わせて各病理専門医が協力し鹿児島の医療に貢献しようと努力しておりますが、特に科学的な根拠（免疫染色や遺伝子解析など）に基づく病理診断を目指し今後も新しい技術や機器の導入を行い、公益法人である当院ではこれらの機器・技術を公開利用していただき鹿児島の医療に貢献していきたいと思っております。

【病理部スタッフ】

医師

白濱 浩

日本病理学会病理専門医

日本病理学会病理専門医研修指導医

鹿児島大学医学部臨床教授

日本臨床細胞学会細胞診専門医、

臨床検査管理医、

田代 幸恵

日本病理学会病理専門医

日本病理学会病理専門医研修指導医

日本臨床細胞学会細胞診専門医

鹿児島大学医学部臨床教授

技師

徳永 敬之（臨床病理技術士）

肥後 真（臨床検査技師、国際細胞検査士）

新村 泰子（臨床検査技師）

田辺 尚子（臨床検査技師、国際細胞検査士）

有村 郷司（臨床検査技師）

組織診および細胞診検体数

	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
組織件数	3,346	4,065	4,039	3,727	3,042
細胞診件数	2,751	2,689	2,689	2,453	2,461

組織診断統計(2015年1月1日～12月31日)

	生検		内視鏡切除など		切除		合計
	全件	(悪性)	全件	(悪性)	全件	(悪性)	
心血管	1	(0)	0	(0)	3	(0)	4
血液・骨髄・脾	6	(0)	10	(5)	1	(0)	17
リンパ節	17	(15)	62	(44)	205	(47)	284
鼻・咽頭・喉頭	47	(5)	111	(3)	12	(2)	170
肺	81	(41)	1	(0)	118	(78)	200
胸膜・縦隔・腹膜	13	(8)	6	(2)	32	(6)	51
口腔・唾液腺	12	(3)	13	(0)	59	(1)	84
食道	37	(10)	4	(1)	1	(1)	42
胃・十二指腸	251	(36)	18	(9)	22	(17)	291
小腸	5	(0)	0	(0)	16	(1)	21
大腸・肛門	197	(49)	224	(18)	81	(33)	502
肝・胆・膵	12	(3)	5	(0)	90	(23)	107
腎・尿路男性	141	(99)	110	(75)	243	(126)	494
女性器	60	(11)	28	(4)	148	(21)	236
乳腺	5	(4)	0	(0)	4	(2)	9
内分泌	0	(0)	1	(1)	9	(4)	10
中枢末梢神経	0	(0)	0	(0)	4	(2)	4
耳・眼	6	(2)	4	(0)	7	(0)	17
皮膚	140	(18)	20	(2)	645	(47)	805
骨・関節	31	(4)	4	(1)	14	(3)	49
軟部	10	(4)	8	(4)	125	(8)	143
その他	11	(3)	71	(0)	6	(1)	88
合計	1,083	(315)	700	(169)	1,845	(423)	3,628

細胞診診断統計(2015年1月1日～12月31日)

	陰性	擬陽性	陽性	材料不適	合計
婦人科(内膜)	104	5	4	0	113
呼吸器	181	48	180	2	411
消化器	50	14	6	3	73
泌尿器	366	65	59	0	490
乳腺	21	6	7	7	41
甲状腺	22	7	5	11	45
体腔液	192	20	58	0	270
リンパ節	0	0	11	0	11
その他	28	6	11	0	45
総件数	964	171	341	23	1,499

婦人科(膣頸部)

NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	AGC
832	42	18	27	22	8
SCC	Adeno. Ca.	AIS	Other Malig	検体不適	合計
4	3	0	5	1	962

総件数 2,461

- ・術中迅速診断：164件（内、院外からの依頼：3件）
（H23年度：255件、H24年度：255件、H25年度：218件、H26年度：193件）
- ・院外からの血液疾患関連Marker検索および診断依頼：28件
（H23年度：44件、H24年度：29件、H25年度：32件、H26年度：50件）
- ・院外からの免疫染色依頼（パラフィン切片による）：1942件
（H23年度：1,257件、H24年度：1,405件、H25年度：1,639件、H26年度：1,787件）

【院外活動および学会活動】

- 01月17日 第14回えびのカンファレンス（聴講：田辺）
- 02月07日 日本臨床細胞学会鹿児島県支部総会（聴講：白濱・田代・肥後・田辺）
- 02月08日 第1回鹿児島セミナー（呼吸器細胞診）（聴講：肥後・田辺）
- 04月12日 子宮の日キャンペーン（実行委員：田辺・有村）
- 04月30日 第104回日本病理学会総会（聴講：田代）
- 06月13日 第56回日本臨床細胞学会春季大会（聴講：白濱・肥後）
- 06月21日 平成27年度細胞検査士養成研修会（スタッフ：田辺）
- 06月28日 平成27年度細胞検査士養成研修会（スタッフ：田辺）
- 07月25日 第31回臨床細胞学会九州連合会（座長；白濱、事務局：肥後・田辺）
- 08月23日 平成27年度細胞検査士養成研修会（スタッフ：肥後）
- 10月03日 鹿児島lymphoma conference 2015（コメンテーター：田代）
- 10月04日 平成27年度細胞検査士養成研修会（スタッフ：田辺）
- 10月11日 第12回鹿児島ワークショップ（聴講：肥後・有村）
- 11月05日 第61回日本病理学会秋季特別総会（聴講：白濱）
- 11月10日 鹿児島病理集談会主催（座長：白濱、発表：田代）
- 11月21日 第54回日本臨床細胞学会秋季大会（聴講：田代・田辺）
- 11月28日 第347回九州スライドカンファレンス（聴講：白濱・田代）
- 11月29日 平成27年度細胞検査士養成研修会（スタッフ：田辺）

※学会関連は[研究実績]に掲載



在宅診療科

部長 林 茂 昭

【診療科紹介】

平成27年12月現在、在宅診療科は昨年同様常勤医2名体制をとっています。通院が困難で自宅療養を希望されている方を対象に訪問診察を行っています。訪問診察には当科2名の医師が中心となり、他科医師の協力も頂き、また理学・作業療法士及び在宅医療部の保健師・看護師と連携を図りつつ訪問診察を行っています。基本的に、2回／月の定期訪問診察を行っております。

当科以外に、神経内科、総合内科の4人の先生に協力いただいております。平成27年4月に神経内科 野村医師が転勤となり、代わって当院神経内科に来られました臼元医師に御協力を頂き、診療を行っております。

【スタッフ紹介】

常勤医

林 茂昭 日本内科学会認定内科医、日本内科学会総合内科専門医、日本神経学会専門医

甲斐 太 日本内科学会認定内科医、日本神経学会専門医

訪問診察医師

甲斐医師、林医師、野村医師(神経内科)、生野医師(総合内科)、二木医師(総合内科)、三宅医師(総合内科)、臼元医師(神経内科)

【診療状況】

平成27年12月31日において当院在宅医療部の訪問診療を受けられた方は22名となっています。

全身状態が悪化した場合は、在宅で対応する場合もあれば、入院での治療も行っております。高齢の方が多く、入院回数が多くなるとともにご本人の介護度が高くなり、介護者の負担が増大し自宅での介護が困難となり、療養型病院に入院または入院施設入所となる方、あるいは亡くなられた方もおられます。訪問診察の人数は減少傾向でありましたが、本年は最終的に3人増加しております。

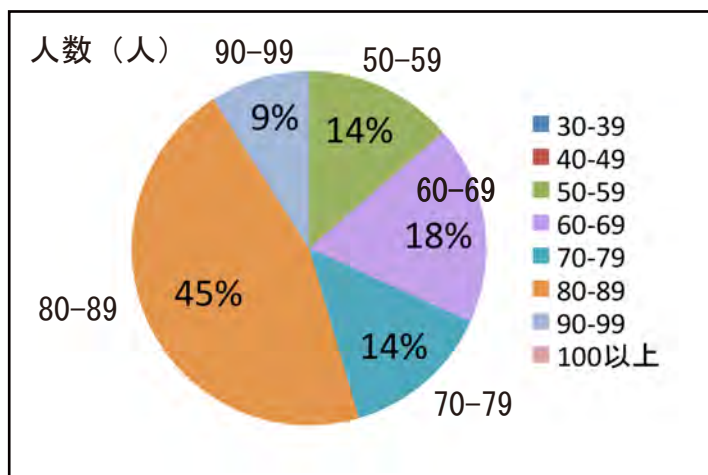
平成27年の診療実績は下記のような状況であります。

【年間訪問診察患者数】

年間訪問診察患者総数 47名（男性 27名 女性20名）（訪問診察：22名 男性 10名 女性 12名）

【患者年令】

年代	人数	(訪問診察)
30-39	0	0
40-49	0	0
50-59	6	3
60-69	8	4
70-79	12	3
80-89	14	10
90-99	7	2
100以上	0	0
合計	47	22



【平成 27 年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

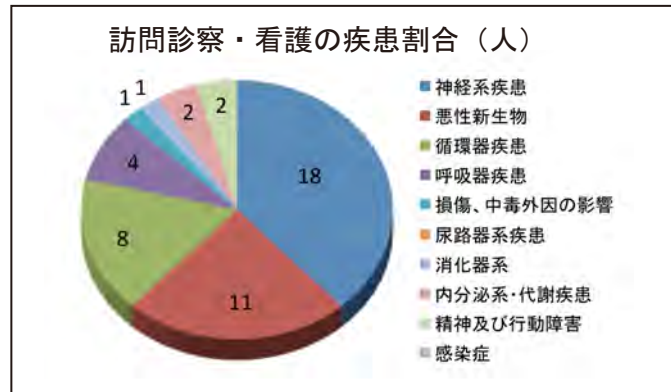
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	13	14	14	13	14	15	16	16	16	15	15	16
(入院数)	(2)	(0)	(3)	(4)	(3)	(0)	(0)	(1)	(4)	(2)	(6)	(5)
終了：死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
終了：その他	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0

【平成 26 年 月別訪問診察人数（緩和医療科分は含めず）】（平成26年1月1日～平成26年12月31日）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
人数	19	18	18	18	19	20	18	16	16	15	13	13
(入院数)	(3)	(1)	(2)	(1)	(4)	(5)	(3)	(5)	(3)	(3)	(3)	(3)
終了：死亡	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
終了：その他	1	0	1	0	0	2	1	0	1	2	0	0

【主疾患名】（訪問診察、訪問看護）

疾患	(人)
神経系疾患	18
悪性新生物	11
循環器疾患	8
呼吸器疾患	4
損傷、中毒外因の影響	1
尿路器系疾患	0
消化器系	1
内分泌系・代謝疾患	2
精神及び行動障害	2
感染症	0



【平成 27 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	27 (4)	27 (0)	23 (0)	19 (0)	28 (3)	29 (0)	32 (1)	31 (0)	26 (0)	28 (0)	28 (0)	30 (0)	328 (8)
訪問看護	113	106	101	103	88	124	119	100	86	95	89	107	1,231
訪問リハビリ	3	4	5	4	3	5	3	5	3	3	4	3	45
合計 (件)	143	137	129	126	119	158	154	136	115	126	121	140	1,604

【平成 26 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	31 (0)	34 (3)	37 (3)	38 (4)	33 (0)	33 (0)	35 (4)	35 (8)	38 (8)	31 (5)	25 (1)	24 (3)	394 (39)
訪問看護	81	83	96	103	101	96	103	97	104	126	109	109	1,208
訪問リハビリ	4	5	7	7	3	5	3	4	4	3	2	4	51
合計 (件)	116	122	140	148	137	134	141	136	146	160	136	137	1,653

【平成 25 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	40 (5)	44 (6)	40 (4)	34 (2)	35 (0)	37 (0)	39 (1)	35 (2)	40 (5)	37 (2)	29 (1)	29 (0)	439 (28)
訪問看護	101	104	102	103	114	113	112	90	101	109	91	86	1,226
訪問リハビリ	12	11	12	14	12	12	13	7	12	9	7	5	126
合計 (件)	153	159	154	151	161	162	164	132	153	155	127	120	1,791

【平成 24 年 月別訪問看護件数】

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察 (緩和診察)	43 (1)	43 (3)	36 (0)	38 (0)	35 (0)	38 (0)	45 (8)	46 (5)	44 (2)	43 (2)	40 (2)	38 (3)	489 (26)
訪問看護	90	81	86	94	102	94	105	112	95	110	101	98	1,168
訪問リハビリ	12	13	13	16	14	12	16	12	12	12	9	11	152
合計 (件)	145	137	135	148	151	144	166	170	151	165	150	147	1,809

【平成 23 年 月別訪問看護件数】(緩和医療科分も含めて)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計 (件)
訪問診察	42	37	47	40	34	39	49	48	48	47	47	60	538
訪問看護	72	75	92	89	66	110	106	101	106	102	108	117	1,144
訪問リハビリ	12	12	12	12	13	13	12	13	12	13	14	12	150
合計 (件)	126	124	151	141	113	162	167	162	166	162	159	189	1,822



歯科

部長 鎌田 ユミ子

【診療内容・特色】

平成18年8月に歯科口腔外科が開設され、当初は歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、受付各1名の常勤スタッフと非常勤歯科医師でスタートしました。その後、一般の歯科治療や口腔ケアを必要とする外来・入院患者様の増加に伴い、平成24年4月に新たに歯科を標榜科として開設しました。

診療は、主に今給黎総合病院入院中の患者様や他科からの紹介患者様、本院スタッフの歯科治療や口腔ケアを昭和会クリニック歯科外来にて行っています。また、入院患者様で外来受診できない方には、随時、病室へ往診して診療しています。

診療内容は、う蝕・根管治療、歯周治療、冠やブリッジ、義歯などの補綴治療です。

一般の歯科診療に加え、病院歯科でもあることから、入院患者様の口腔ケアにも積極的に取り組んでいます。高齢者や寝たきりの患者様は、ご自身で口腔ケアをできないことが多く、口腔内汚染が進んだり、飲み込む力が低下したりするなど誤嚥性肺炎を発症するリスクが高くなります。この予防には、口腔ケアが有効であると言われており、平成22年6月に院内の多職種が集まり、口腔ケアチームを立ち上げ、定期的に勉強会や研修会を開催したり、口腔ケアの病棟ラウンドを行ったりして、入院患者様の口腔ケアの質の向上を図り、誤嚥性肺炎予に寄与できるように努めています。また、口腔ケアチームメンバーは、多職種の集まりであるため、口腔ケア学会参加や学会認定資格を取得するなどして口腔ケアに関する知識やスキルの向上に努めています。

また、院内のNST（栄養サポートチーム）にも参加しており、NST対象患者様の口腔アセスメントを行い、栄養状態がよくない患者様の口腔内や入れ歯の問題の早期発見に努めています。NST対象の患者様はご高齢の方も多く、入れ歯の調子や口腔衛生状態がよくない方も多く見られます。そういう患者様がいらした場合は、速やかに歯科医師や歯科衛生士が、義歯調整や口腔ケアなどを行い、口腔衛生状態の改善を図り、食べるためのお口作りの準備をサポートしています。

本院はがん拠点病院であり、がん治療を受ける患者様も多くいらっしゃいます。がん治療の中でも抗がん剤治療や放射線治療などでは、その副作用でひどい痛みを伴う口腔粘膜炎になる場合があります。この口腔粘膜炎は、がん治療前から、歯科で専門的な口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保つことで、軽症化を図ることができると言われています。

この専門的な口腔ケアを行う主体となる歯科衛生士は現在3名おり、がん治療を受ける患者様が口腔トラブルに悩まされることなく、がん治療を遂行できるようサポートしています。

【スタッフ紹介】

部長 鎌田 ユミ子（歯科医師）

資格：日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士

所属学会：日本補綴歯科学会、日本老年歯科医学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本口腔ケア学会

【病院指定】

平成25年～ 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
歯科医師臨床研修プログラム 研修協力施設
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院
歯科医師臨床研修 研修歯科医受け入れ

【講義】

専門学校講師：鹿児島歯科学院専門学校技工士科
非常勤講師

【研修会】

今給黎総合病院 口腔ケア研修会

2015年3月13日 開催

「千鳥橋病院における口腔ケアの実際 ～RST活動の取り組み～」

講師：千鳥橋病院附属歯科診療所
歯科衛生士 山岸真由美 先生

今給黎総合病院 NST・口腔ケアチーム合同研修会

2015年9月16日 開催

「日本の医療を口から変えよう！ ～急性期から始める口腔ケア・経口摂取訓練～」

講師：産業医科大学リハビリテーション医学講座
高島英昭 先生

外来患者数・手術件数は歯科口腔外科に掲載



歯科口腔外科

部長 吉田 雅 司

【診療内容】

歯科口腔外科は、平成 18 年 8 月 1 日に開設されました。現在、歯科と歯科口腔外科を標榜して日常診療を行っています。歯科は一般歯科を常勤歯科医師 1 名が担当し、歯科口腔外科外来診療は、常勤歯科医師 2 名が主に担当しています。歯科衛生士 3 名、歯科技工士 1 名、および受付 1 名の常勤スタッフが歯科と歯科口腔外科を兼務し、当院の入院患者やスタッフ、さらにご紹介いただいた患者様の治療を主に行っています。また、当科は長崎大学歯学部口腔外科の関連病院となり、常勤歯科医師の派遣が行われるようになりました。

診療は、主に昭和会クリニックで外来診療を、今給黎総合病院で入院診療を行っています。

1. 外来治療

- 1) 埋伏智歯抜歯を中心とした抜歯、歯の破折や歯槽骨骨折、歯根のう胞や粘液のう胞などの摘出術、顎関節症、および外傷治療
- 2) スポーツ選手に対するマウスガード（マウスピース）の作成や咬み合わせのチェックなどを行うスポーツ歯科
- 3) 顎矯正手術患者の術前・術後管理

2. 入院治療

- 1) 顎矯正手術：さまざまな顎変形症に対応した手術が行われています。最近の傾向としては、小下顎による睡眠時無呼吸症候群患者の顎骨形成術が増加しています。
- 2) 有病者の抜歯や外科治療
- 3) さまざまな口腔外科的疾患の手術や治療に対応しております。

本院は、他科との連携が非常にスムーズで、有病者の患者様はもちろんのこと、常に安心できる歯科医療を提供できる環境が整っております。その一環として、歯科と歯科口腔外科との役割分担化を図り、歯科部長の鎌田先生が院内の核として口腔ケアチームを立ち上げ、総合的に入院患者や外科手術前患者の口腔清掃に努め、嚥下性肺炎の防止、外科手術後の創感染可能性の減少に努めています。

看護師やその他のスタッフの方々への献身的な支えがあって、充実した診療が行えていると思います。さらに、努力し、今給黎総合病院・昭和会クリニックから情報発信が出来るよう、頑張っていきたいと思います。

【スタッフ紹介】

吉田雅司（歯科医師）専門分野：歯科口腔外科、スポーツ歯科

日本口腔外科学会 指導医 専門医、日本顎顔面インプラント学会 指導医、
日本スポーツ歯科医学会 理事 評議員、日本自己血輸血学会 理事 評議員、
日本体育協会認定スポーツデンティスト、鹿児島大学非常勤講師、長崎大学非常勤講師、
ヤンゴン歯科大学客員教授

古賀喬充（歯科医師）専門分野：歯科口腔外科、一般歯科

日本口腔外科学会 専修医

瀬戸山智香（歯科衛生士）日本スポーツ歯科医学学会認定スポーツデンタルハイジニスト

吉田千代子（歯科衛生士）

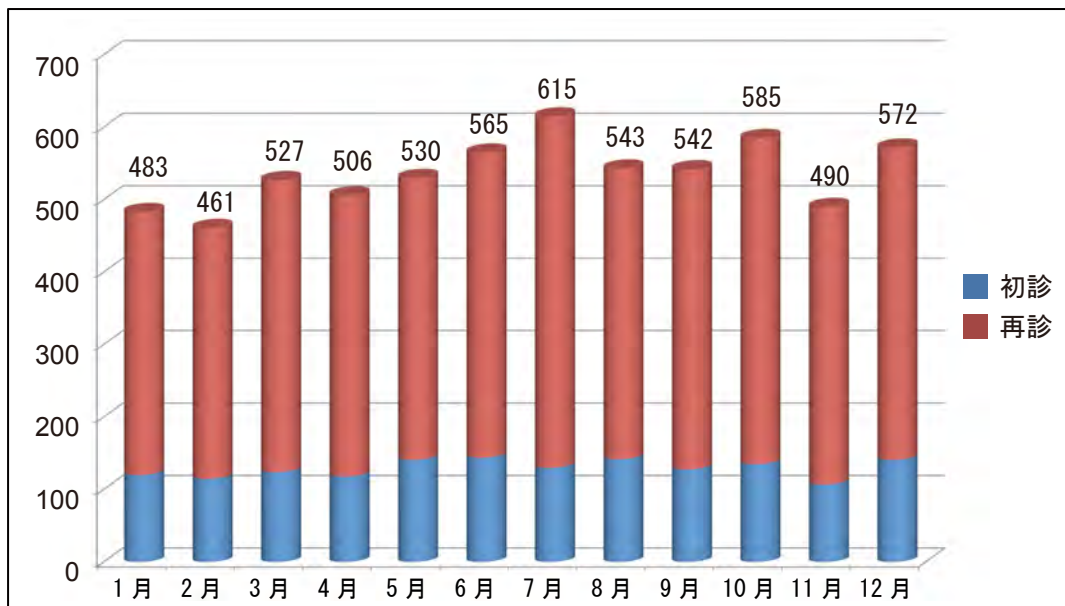
満尾裕子（歯科衛生士）

前田まどか（歯科技工士）

【2015年統計】(2015年1月1日～2015年12月31日)

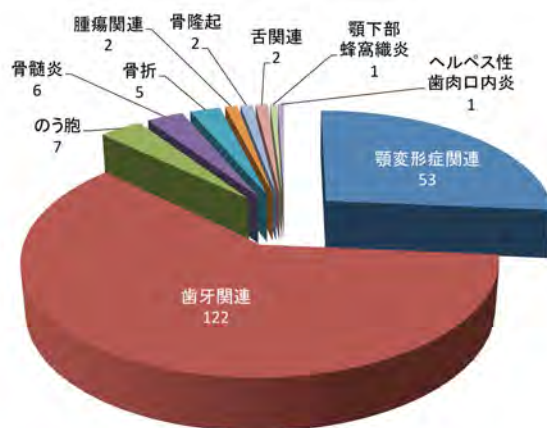
- ・ 外来患者数 6,419人 (新患1,545人) (病院・クリニックの合計)
- ・ 入院患者 201名

【月別外来患者数】



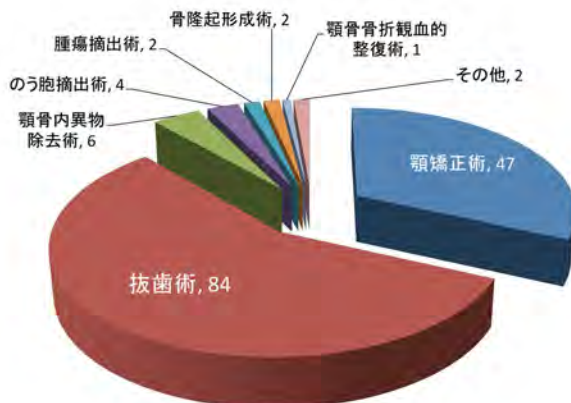
【入院患者数】

病名	症例数
顎変形症関連	53
歯牙関連	122
のう胞	7
骨髓炎	6
骨折	5
腫瘍関連	2
骨隆起	2
舌関連	2
顎下部蜂窩織炎	1
ヘルペス性歯肉口内炎	1
計	201



【手術症例(全身麻酔)148件】

手術名	症例数
顎矯正術	47
拔牙術	84
顎骨内異物除去術	6
のう胞摘出術	4
腫瘍摘出術	2
骨隆起形成術	2
顎骨骨折観血的整復術	1
その他	2
計	148



□ 歯科口腔外科・スポーツ歯科外来は格闘家菊野克紀さんをサポートしています。

世界で活躍する鹿児島市の出身で格闘家菊野克紀さんは、当科で作製したマウスピースで戦っています。

<http://kikunokatsunori.com/>

□ 歯科口腔外科・スポーツ歯科外来は鹿児島レブナイズをサポートしています。

平成 20 年 12 月 1 日付けで、レノヴァ鹿児島チームデンティストになり、選手の歯や口の問題に対する相談や口腔ケアを担当します。また、試合や練習時に口のケガを防止するために、マウスガードを提供しています。さらに、マウスガードの体のバランスに対する効果なども検討しています。

また、試合会場で歯科の無料相談も行っています。

平成 28 年度から B-League 参入を機に、鹿児島レブナイズと改名されました。

注) 国際バスケットボール協会の規約により、現在は無色透明のマウスガードが使用可能となった。



※学会関連は[研究実績]に掲載



救急科

部長 西山 淳

【スタッフ】

救急科部長 西山 淳

【資格・活動】

日本救急医学会 救急科専門医
日本麻酔科学会 麻酔科専門医
日本救急医学会九州地方会評議員
薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会指導医
鹿児島県ドクターヘリ医療作業部検証医
鹿児島県集中治療研究会世話人
ICLSディレクター
エマルゴトレインシステムシニアインストラクター
JADMSプレインストラクター
AMAT隊員登録医
医学博士（鹿児島大学大学院）

【活動】

薩摩地域救急業務高度化協議会作業部会（3/25、6/1、10/2、12/16）
鹿児島県消防学校講義（1/23、1/30、5/22、6/1）
三署合同症例検討会アドバイザー（2/20、2/27、4/26、5/25、5/26、9/2、9/3）
第十管区海上保安庁洋上慣熟訓練（2/11）
日本救急医学会認定ICLSコース開催（2/7、4/26、8/29、11/7）
日本救急医学会認定BLSコース開催（1/16、3/6、5/8、6/13、7/31、9/25）

救急の診療状況に関しては病院統計を参照して下さい。

部門報告

Ⅲ-2

各部署報告

- 看護部
- 薬剤部
- 中央放射線部
- 中央臨床検査部
- リハビリテーション部
- 臨床工学部
- 在宅医療部
- 居宅介護支援事業所
- 相談支援センター 医療相談室
- 相談支援センター 地域医療連携
- がん相談支援センター
- QCセンター
 - ・医療安全管理課
 - ・褥瘡管理課
 - ・緩和医療課
 - ・感染管理課
 - ・がん化学療法課
 - ・施設課
- 栄養管理部
- 診療情報管理部
- 患者サポートチーム
- 事務部



看護部

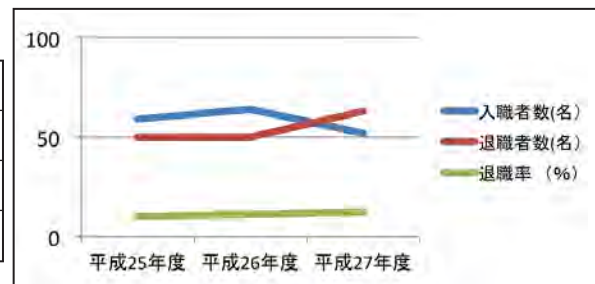
看護部長 有村 智代

平成27年度より看護システムを全部署PNSへと変更した。PNSは、二人の看護師が一人の患者を受け持ち看護していく為、成功すれば利点も多い。教育が行き届き、統一された看護が出来る、リスクの減少、時間外の短縮、ワークライフバランスの充実等あり、仕事に対するモチベーションがアップし、看護の質が向上する。

PNSの成功の秘訣は、マインドの醸成と言われている。3つのマインド「自立・自助の心」「与える心」「複眼の心」と3つの要素「尊重」「信頼」「慮る」が重要である。27年度は、マインドについての研修を全看護職員へ実施したが、PNSの定着には、時間がかかりそうである。

以下に27年度の看護部の動きをまとめた。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
入職者数(名)	59	64	52
退職者数(名)	50	50	63
退職率(%)	10.2	11.1	12.5



項目	数値	備考
入職者数	52名	新卒者 28名 既卒者 24名
退職者数	63名	新卒者 2名 既卒者1年以内 5名
退職率	12.50%	新卒者 7% 既卒者1年以内 20.8%
平均年齢	35.2歳	
平均在勤年数	8.3年	
平均年休取得率	58.50%	一人平均 8.6日
時間外	44時間	一人/1ヶ月
部署異動	47名	内 師長 2名 主任 10名
出産者数	26名	産休・育休 44名
病休数	54名	内 1ヶ月以上 14名 出勤停止 24名
研修状況	249回 894名	院外研修
	114回 3739名	院内研修
	225回 3544名	単位別学習会
院外研究発表	7名	雑誌 4名 他新聞、学校誌、看護協会誌 等
雑誌他投稿	10名	
院外講義・講演活動	23名	
ボランティア活動	21名	
出張もじょかクラブ	4回 (NICU)	県委託事業、小児在宅療養支援事業 5地域 延べ参加人数 44名
ふれあい看護体験受け入れ	12名	高校生 6校
インターンシップ受け入れ	9名	看護学校 5校
災害救護訓練参加	14名	6回 (AMAT、洋上救急慣熟訓練、桜島火山爆発総合防災訓練、自衛消防隊 消火協議会、鹿児島県総合防災訓練、救急医療実施訓練)
院外講師を招いての研修	5回	
看護学生実習受け入れ	9校	延べ実習日数 6957日、延べ実習者数 1081名
学校訪問	34校	



薬剤部

薬剤部長 高橋 真理

【平成 27 年度の概要】

平成27年度は新入職員2名を迎えた。4名退職し、年度末の薬剤師数は16名となった。

薬剤師が減ったため薬剤管理指導件数を増やすことはできなかったが、持参薬鑑別システムの活用を進め、持参薬鑑別システムにより持参薬鑑別報告書を作成する病棟は7病棟となった。

【スタッフ】

薬剤師 神門優子 久津輪久世 財間富士子 前畠一友 古賀亜希子 竹内さやか 濱崎かおる
 児玉理子 園田奈緒子 中目貴子 壽明伸 堀内智裕 山之内樹里 肥田香織
 尾上博隆 下舞千香子 福崎久美子 濱畑帆菜未 高橋真理

薬剤部助手 竹之内清美 田中由梨

【部門実績】

■ 薬剤管理指導実施状況と化学療法患者数 平成27年度と平成26年度の比較

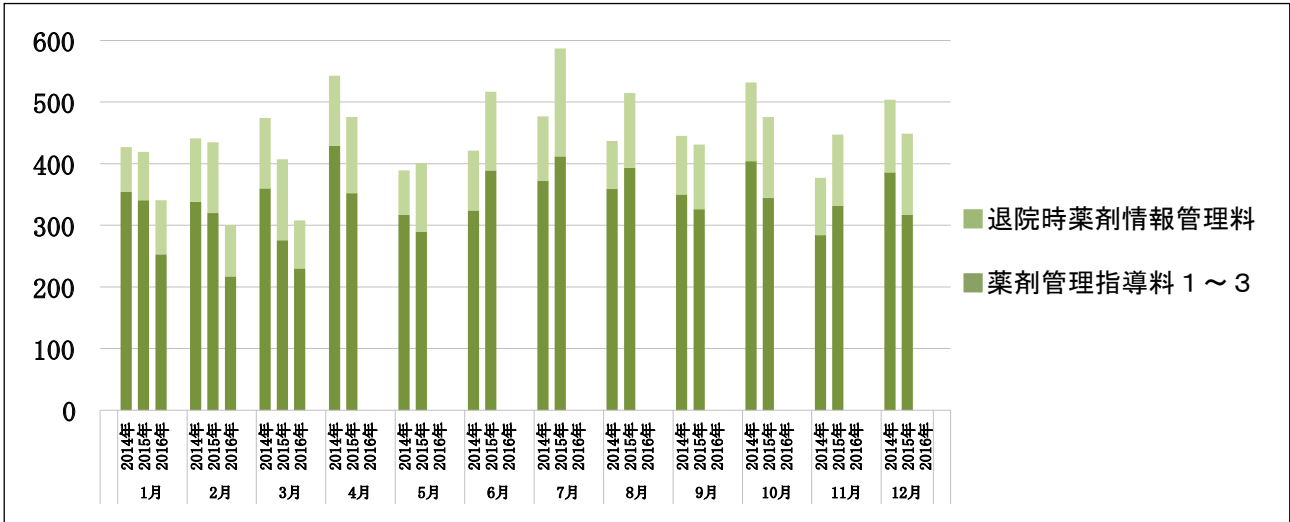
	平成26年度 月平均	平成27年度 月平均
退院患者数	682	682
薬剤師数	18.9	18
薬剤管理指導 患者数	268	262
薬剤管理指導 1～3 件数	352	317
薬剤管理指導実施率（薬剤管理指導患者数／退院患者数）	39.2%	38.4%
退院時薬剤情報管理指導料 算定件数	115	116
退院時薬剤情報管理指導算定率（算定患者数／退院患者数）	16.8%	17.0%
薬剤管理指導 退院時指導 件数／薬剤師数	24.7	24.1
薬剤管理指導料 計（円）	1,283,363	1,137,883
持参薬 鑑別件数	414	438
外来化学療法患者数	69	63
入院化学療法患者数	102	98
化学療法 計（円）	493,806	447,908

1. 薬剤管理指導

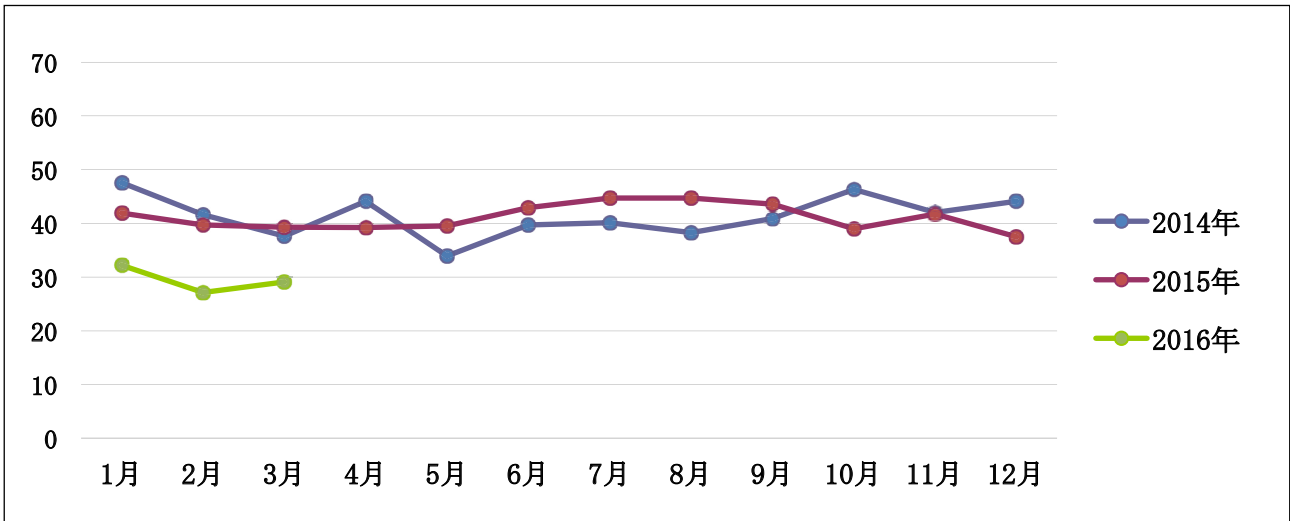
薬剤管理指導に携わる時間は、昨年度に比べると減ってしまった。薬剤管理指導1～3の件数は、昨年度よりやや少なく月平均317件、薬剤管理指導実施率（＝薬剤管理指導・退院時指導 患者数／退院患者数）は38.4%であった。退院時薬剤情報管理指導件数は昨年度よりやや増え、退院時薬剤情報管理指導算定率（＝算定患者数／退院患者数）は17.0%であった。

薬剤師一人あたりの指導件数（＝薬剤管理指導件数＋退院時指導件数／全薬剤師数）は24.1と昨年度よりやや減った。

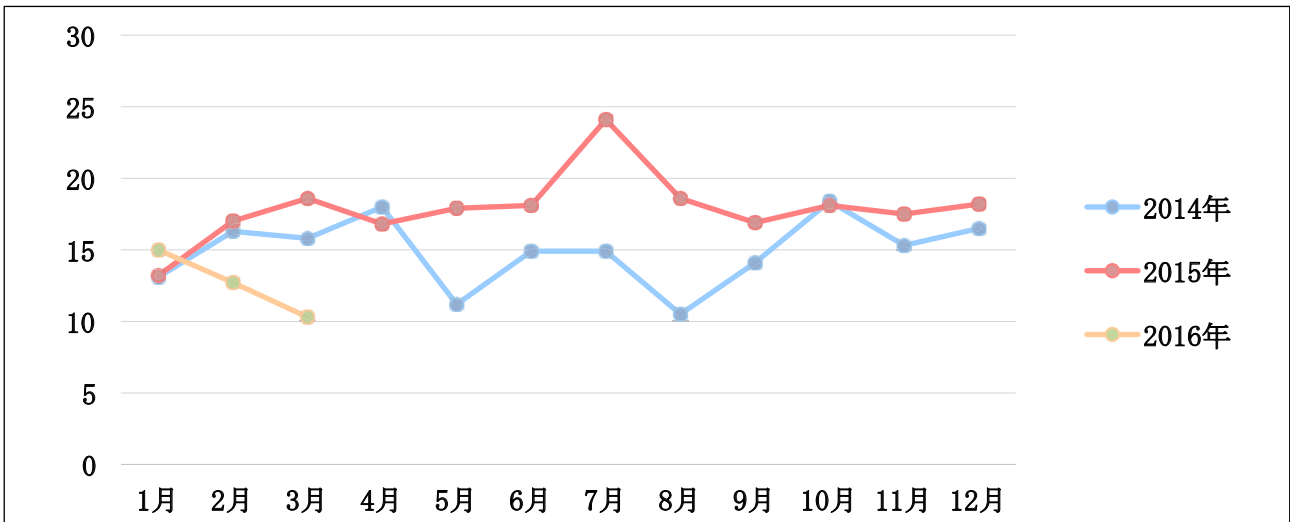
■ 薬剤管理指導料1～3・退院時薬剤情報管理料 算定件数



■ 薬剤管理指導 実施率 (薬剤管理指導・退院時指導 患者数/退院患者数)



■ 退院時薬剤情報管理指導 実施率 (退院時指導患者数/退院患者数)



2. 持参薬に関する業務

持参薬鑑別件数は月平均438件と、昨年より20件ほど増えた。

持参薬鑑別システムを本稼動できるよう昨年度中に調整し、今年度は持参薬鑑別システムを運用する病棟を増やすことができた。年度末時点では7病棟で運用できている。

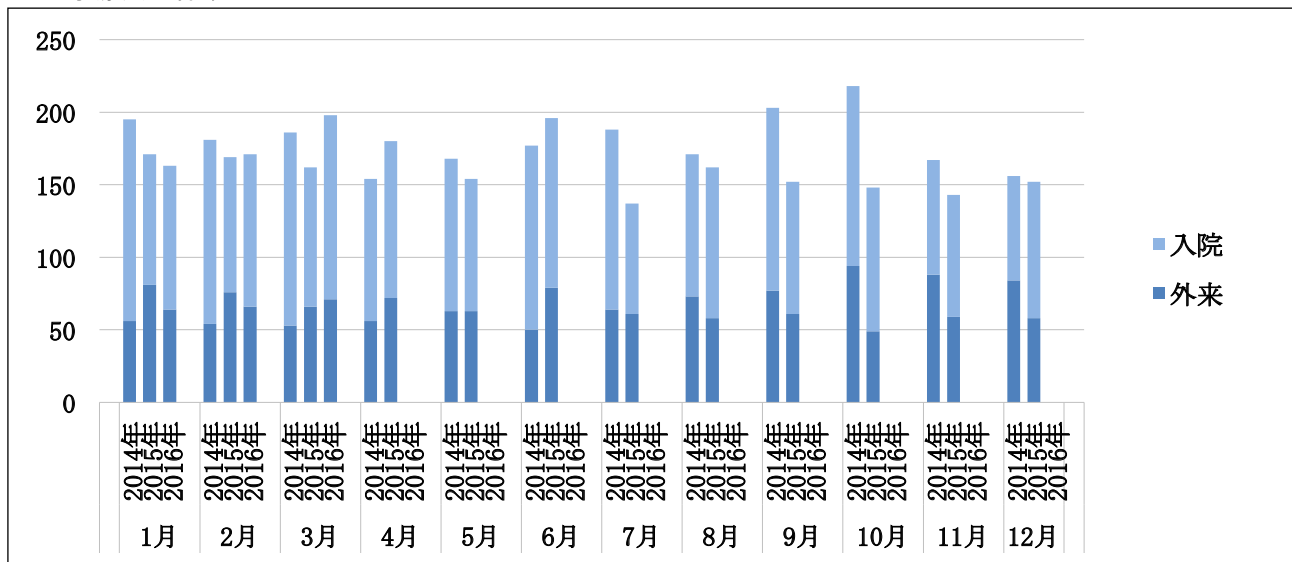
平成28年10月診療分より、「DPC導入の影響評価に係る調査」のEFファイルに入院中に使用した持参薬の出力が必要となる。持参薬オーダー入力後に医事データを取り込むことにより、EFファイルに出力するデータを作成できる。持参薬鑑別システムの活用は、持参薬管理上でのリスク軽減に加え、このDPC調査のデータ作成のためにも有用であると思われる。

3. 化学療法

入院と外来を合わせた化学療法の件数は、昨年度よりやや減少した。月平均件数は入院98件、外来63件であった。

化学療法により発症するB型肝炎対策ガイドラインに則ったHB抗原・HB抗体の定期的なスクリーニング、また、ゾレドロン酸・デノスマブ投与時の患者状態の確認などを積極的に薬剤師が行うことによってより安全に化学療法を施行できると考えられる。今年度は、化学療法担当者が中心となってこれらについての薬剤師の関わりを体系化することができた。

■ 化学療法 件数



4. 薬薬連携（保険薬局との連携）

院外処方に関する問題点の解決や、外来化学療法をより安全に行うために、病院薬剤部と保険薬局の連携は不可欠である。今年度も例年通り、薬薬連携会議とがん化学療法に関する薬薬連携研修会をそれぞれ3ヶ月毎に4回ずつ開催した。

■ 平成27年度 がん化学療法薬薬連携研修会

- 5月20日(水) 「医療用麻薬について」 肥田香織
- 8月19日(水) 「がん薬物療法を理解するための用語～臨床試験結果の読み方～」 前嶋一友
- 11月18日(水) 「子宮頸癌について」 下舞千香子
- 1月20日(水) 鹿兒島市北部医療連携フォーラム
 - 「骨髄腫とリンパ腫の治療の現状」 血液内科部長 小濱浩介先生
 - 「外来がん患者への薬剤師のかかわり」 財間富士子
 - 「院外処方箋への検査値添付と
薬剤適正使用のための施設間情報連絡書の活用事例について」 高橋真理
- 2月17日(水) 「検査値と化学療法」 尾上博隆

近年、院外処方箋に検査値を印刷する施設ができており、当院でも新電子カルテ稼動時から院外処方箋で検査値情報を提供できる体制を構築することを目標としていたが、ようやく12月1日より、院外処方箋への検査値添付を開始することができた。検査値開示に伴い、「薬剤適正使用のための施設間情報連絡書」の様式を病院ホームページからダウンロードできるようにしたところ、これまでに周辺の保険薬局から数件の情報提供があった。「薬剤適正使用のための施設間情報連絡書」は、保険薬局において患者様から得た診療上有益だと思われる情報を主治医に伝える手段として、また、患者様の服薬状況や調剤上の留意点、服薬指導時の留意点等の情報を退院時に当院薬剤師から紹介元の医療機関やかかりつけ薬局の薬剤師に情報提供する手段として有用であると思われる。

お薬手帳や薬剤適正使用のための施設間情報連絡書を活用し、患者様のお薬に関する情報を他医療機関の薬剤師と共有することにより、より安全な薬物療法が施行できるよう努めていきたい。

5. 専門薬剤師 認定取得・更新など

肥田 香織	糖尿病療養指導士	認定取得
古賀 亜希子	日本薬剤師研修センター認定	実務実習指導薬剤師 認定取得

学術実績は「研究実績」の頁へ



中央放射線部

技師長 室屋 純一

【はじめに】

平成27年度スタッフは、放射線科専門医4名、技師22名、看護師7名、医療クラーク5名の総計38名の陣容となっています。

装置・設備関係については、3機種新規更新や増設がありました。（表1）

業務実績としては、前年度と比べて9項目中5項目は増加しました。全体では657件の減少となりました。（リニアック治療、骨密度、DSA、RI、前立腺シード治療の件数が288件増加しましたが、一般撮影、CT、MRI、透視等で945件の減となりました。）

今後も厳しい状況は続きますが、運用面の改善と広報等で使用効率を高め、創意工夫で精度の高い画像作画像作りを目指して参ります。（表2）

学術・各種イベント・資格取得に於いては、ボランティア活動（災害支援）や院内・外のセミナー、学術発表、又専門性を活かした認定資格を取得を務めスキルアップを引き続き図って参ります。（表3）

チーム医療の下、スタッフのレベルアップを図り患者様、スタッフ等から信頼頂ける安全・安心の検査に励んで参ります。

【放射線部組織(陣容)】

1. 放射線科(4名)

クリニック院長	大久保 幸一(放射線科専門医会認定医)
放射線治療部長	中 禮 久彦(放射線科専門医会認定医・放射線治療認定医)
放射線科部長	銚 立 博文(放射線科専門医会認定医)
	仮 屋 圭佑(放射線科専門医会認定医)

2. 中央放射線部

<技術部門担当>(22名)

技 師 長	室 屋 純 一		
副技師長	新 村 栄 次		
●本院	永 山 照 明(主任)	飯 伏 順 一(主任)	四 本 斉(主任)
	篠 原 なつき	丸 尾 美由紀	稲 留 久 恵
	池 田 真 一	加治屋 博 一	小 屋 彰 俊
	小 谷 祐 樹	中 村 圭 太	宮ヶ谷 瑠
	○尾 堂 聡		
リニアックセンター	松 下 芳 正(主任)	田 川 伸 夫(主任)	
●クリニック	竹之内 学(主任=室長兼務)	浮 田 啓一郎(主任)	
	濱 田 智太郎	川 畑 朋 之	川 原 美 咲

<事務部門担当>(5名)

医療クラーク	四 本 春 香(主任)	武 田 美 里	奥 ひとみ
	時 任 八千代	西 村 さおり	

<看護部門担当>(7名)

看護師	有 村 まち子	武 田 きみこ	中 馬 たまみ
	宮 崎 浩 子	岩 川 る み	佐々木 まゆみ
	小 園 浩 子		

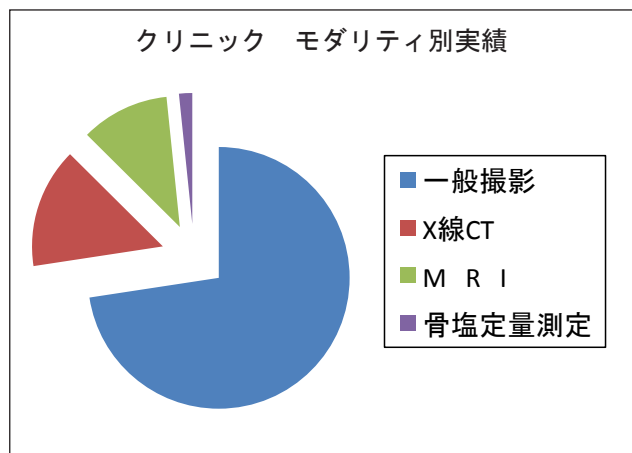
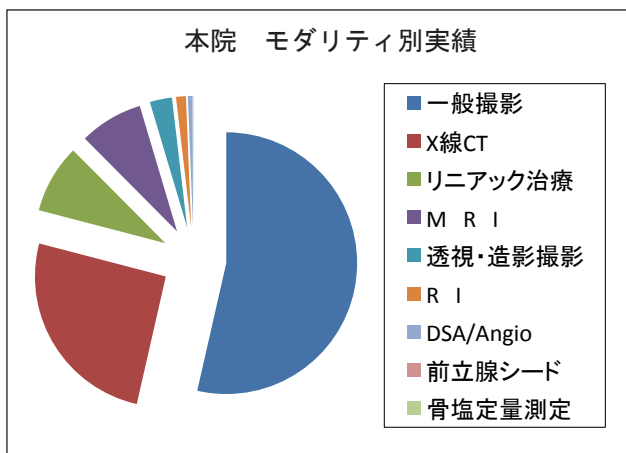
○は、新入職、配属者を示す。

合計 38名

【資格 検査業務実績】

業務実績は、下記の通りです。全体として対前年度比1%の減でした。
前年度比↑は増、↓は減

検査・治療		27年度			
		依頼件数等			
		本院	クリニック	計	増減
1	一般撮影	21,046	18,845	39,891	↓
2	X線CT	10,018	3,855	13,873	↓
3	M R I	3,084	2,836	5,920	↓
4	透視・造影撮影	1,076	—	1,076	↓
5	R I	479	—	479	↑
6	骨塩定量測定	9	424	433	↑
7	DSA/Angio	229	—	229	↑
8	リニアック治療	3,334	—	3,334	↑
9	前立腺シード	15	—	15	↑
合計		39,290	25,960	65,250	↓



【学会発表・著述】は 研究実績の項目を参照

【認定資格取得・更新者等】

新規	2015年10月	放射線治療専門放射線技師	小屋 俊彰
新規	2016年1月	放射線治療品質管理士	小屋 俊彰
新規	2016年2月	検診マンモグラフィ撮影診療放射線技師	川原 美咲
新規	2016年2月	X線CT認定技師	小屋 俊彰
新規	2016年2月	磁気共鳴専門技術者	池田 真一
新規	2016年2月	肺がんCT検診認定技師	稻留 久恵

【その他の活動】

【研修・視察受け入れ】

平成27年			
7月8日	城西高校インターンシップ研修	放射線部	2名
8月17日	帝京大学福岡医療技術学部	放射線部	1名
8月20日	鹿児島県臨床研修病院見学ツアー	放射線部	1名
10月30日	九州保健福祉大学薬学部	放射線部	1名
11月18日	東高校インターンシップ研修	放射線部	2名
平成28年			
2月2日	明桜館高校インターンシップ研修	放射線部	2名

【実習生受け入れ】

平成27年			
6月1日～6月26日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
6月29日～7月24日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
9月1日～9月30日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科4年	2名
10月1日～10月31日	鹿児島医療技術専門学校	診療放射線技術学科3年	2名

【ボランティア】

平成 27 年

5月9日～10日	リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま ウォーターフロントパーク	2名	
9月26日	ピンクリボン in kagoshima プレウォークイベント		ベルク広場 1名
10月1日	ピンクリボンツリーセレモニー		鹿児島市役所 1名
10月4日	市民健康祭り		実行委員 2名
10月18日	ピンクリボン in kagoshima2015		上荒田の杜公園 2名
10月21日	KYT レディースチャリティゴルフ 2015		知覧カントリークラブ 1名
10月28日	FM鹿児島乳がん検診インタビュー		当院 1名
12月20日	原子力防災訓練		実行委員 2名

平成 28 年

3月20日	ピンクリボンフェスタ		イオンモール鹿児島実行委員 2名
-------	------------	--	------------------

【院外の会議・研修会等への参加】

平成 27 年

8月1日	FRT九州講演会		鹿児島医療センター 1名
8月7日	第21回乳がん検診従事者研修会		鹿児島県医師会館 3名
8月21日	第2回乳がん検診均てん化研修会		県民総合保健センター 4名
9月9日	保健推進員研修会		知覧保健センター 1名
9月16日	保健推進員研修会		川辺保健センター 1名
9月18日	第1回肺がん検診均てん化研修会		鹿児島県医師会館 5名
10月3,4日	九州GYROミーティング		JR博多シティ 1名
10月30日	低線量CT肺がん検診研修会		鹿児島県医師会館 5名
11月2日	保健推進員研修会		穎娃保健センター 1名

平成 28 年

1月31日	診療放射線技師基礎技術講習会(MRI)		沖縄県立南部医療センター 1名
2月1日・8日・17日	鹿児島医療技術専門学校		診療画像技術学 I (MR I 検査講師) 1名
2月19日	第2回肺がん検診均てん化研修会		鹿児島県医師会館 5名
2月27日	乳がん検診均てん化研修会		市民文化ホール 2名
3月11日	乳がん検診従事者研修会		県民交流センター 1名
3月26日	放射線技師会機器管理士部会研修会		鹿児島大学病院 1名

※学会関連は[研究実績]に掲載



中央臨床検査部

部長 佐藤 榮一 技師長 村中 利也(報告)

平成 27 年度は本館・クリニック総合処置室の自動採血管準備装置 BC・ROB08000RFID(Techo Medica 社製)の更新と持続グルコースモニタ CGM(Pro2 システム)が新規導入されました。自動採血管準備装置は前装置より処理能力、処理速度が速くなり効率とスピードが向上しました。持続グルコースモニタは小児科より依頼があり、皮下に留置されたセンサで間質液中のグルコース濃度を測定し、SMBG で見逃された高血糖を見つけるシステムです。対象は小児糖尿病・食後高血糖・血糖変動が激しい人・DM 合併妊娠糖尿病などです。また、スタッフは総勢 26 名の検査態勢で当院の救急医療に対応しました。認定資格は生理検査スタッフの 2 名が認定神経生理検査技師と二級臨床検査士・呼吸生理学の資格を取得しました。中央臨床検査部実績は、生化学検査が 505,191 件、輸血・免疫血清検査が 84,393 件、血液・一般検査が 497,841 件、臨床微生物検査が 19,959 件、生理検査が 23,803 件、合計 1,131,187 件で前年と比較して血液・一般検査以外は少し減少しました。

日々、臨床検査データの標準化に努め精度管理は、日本医師会、日本臨床検査技師会、鹿児島県医師会、その他メーカー主催の外部精度管理への参加と毎日行う内部精度管理で良好な成績を収めました。これからも精度保証認証施設として精度管理の向上に努めたいと思います。学会、研修会等へは多くのスタッフが参加し自己研鑽に励み、4 演題を発表することができました。

●平成27年度中央臨床検査部スタッフ

臨床検査部長 佐藤榮一(鹿児島大学医学部名誉教授)

臨床微生物検査 村中利也(感染制御認定臨床微生物検査技師) 今堀小百合 播磨佐江子(緊急臨床検査士)

輸血・免疫血清検査

今堀貴之(認定輸血検査技師) 持留ゆりか(認定輸血検査技師)

血液・一般検査 原菌真由美(二級臨床検査士・血液学) 西田智佳(認定一般検査技師)

岩崎明日香 福迫俊介 広崎うた

生化学検査 山崎泰代 花房雅子 永岡伸代 來住和剛 牧之段李奈

外来・生理検査 岩本雅代 平原千代子 上靄昭知(認定神経生理検査技師) 宝代聡美(認定輸血検査技師)

赤間由美 福崎愛 小原旅人(二級臨床検査士・呼吸生理学) 池本菜月

超音波検査 富吉祐児(認定超音波検査士) 森田修康(認定超音波検査士)

クリニック検査 久永洋一郎

●平成27年度中央臨床検査部実績

生化学検査	件数	セット外検査	件数	血液ガス	件数
セット検査	427,399	セット外検査	73,118	血液ガス	3,663
血中薬物濃度	519	血糖	92		
合計	505,191				

輸血・免疫血清検査

輸血 16,410 免疫血清 6,214 感染症 27,974

腫瘍マーカー 17,339 ホルモン 10,596 その他 5,860

合計 84,393

血液・一般検査

血液 444,922 凝固系 37,960 尿 12,848

糞便 237 穿刺液 1,873 その他 1

合計 497,841

臨床微生物検査					
細菌塗抹培養	12,116	嫌気培養	2,536	薬剤感受性	1,913
抗酸菌塗抹培養	1,478	PCR	1,227	その他	683
合計	19,959				

生理検査					
心電図	8,285	筋電図	1,979	ABI	369
脳波	262	肺機能	4,695	超音波UCG	5,864
超音波腹部	2,349				
合計	23,803				

●精度管理への参加

- ①第49回日本医師会精度管理
- ②第26回日本臨床検査技師会精度管理
- ③第38回鹿児島県医師会精度管理
- ④2015年度関東化学ユーザーズコントロールサーベイ
- ⑤ニッポーユーザーズコントロールサーベイ
- ⑥第17回血液検査コントロールサーベイ
- ⑦第8回コアプレスタ(凝固系)コントロールサーベイ
- ⑧エームス尿検査コントロールサーベイ
- ⑨第22回ルミパルスコントロールサーベイ
- ⑩第20回A I Aコントロールサーベイ
- ⑪平成27年度特異 I gEコントロールサーベイ

●実習生(学生)の受け入れ

熊本保健科学大学 保健科学部 医学検査学科	3年生	1名	平成28年3月8日(1日間)
香川県立保健医療大学 臨床検査学科	3年生	1名	平成28年3月10日(1日間)
山口大学 医学部保健学科 検査技術科学専攻	3年生	3名	平成28年3月14日～平成28年3月18日(5日間)

●学会・研究会への参加

月	学会・研修会名	人数	備考
H26. 4月	第22回鹿児島 ICT ネットワーク学術講演会	1	
5月	鹿児島県臨床検査技師会春季研修会・総会	2	
	第64回日本医学検査学会	1	
6月	第4回九州 ICMT を育てる会	1	座長：村中
	第1回輸血細胞治療部門研修会	4	
7月	第1回臨床一般部門研修会	5	座長：西田
	臨床微生物検査部門・薬剤師会合同研修会	2	講師：村中
	第2回生物化学分析部門研修会	3	
8月	第2回輸血細胞治療部門研修会	2	
	第1回臨床血液部門研修会	2	
9月	第3回生物化学分析研修会	3	
	第2回臨床血液検査部門研修会	3	
	第4回生物化学分析部門研修会	2	
10月	第25回南九州臨床微生物研究会	1	
11月	第23回鹿児島 ICT ネットワーク学術講演会	1	
	第50回九州医学検査学会	8	発表：播磨, 原菌, 西田 座長：今堀

12月	第3回臨床血液検査部門研修会	3	
	第2回臨床微生物検査部門研修会	3	座長：村中
	第3回輸血細胞治療部門研修会	3	発表：持留
H27. 1月	第5回生物化学分析部門研修会	3	
	第27回日本臨床微生物学会	1	
	第4回輸血細胞治療部門研修会	1	
2月	第5回九州地区循環器エコーカンファレンス	1	
3月	平成27年度鹿児島県医師会精度管理調査研修会	2	
	第2回臨床生理部門研修会	1	
	平成27年度鹿児島県データ標準化サーベイ報告会	2	
	第3回臨床微生物検査部門研修会	3	座長：村中

●学会・研究会への参加

	月	発表者	発表テーマ
H27	4月	來住 和剛	針刺し事故の対応及び起こりうる感染症
	7月	平原 千代子	採血
	7月	日本 BD	採血ベストプラクティス
	8月	シーメンス	甲状腺と甲状腺ホルモン
	9月	持留 ゆりか	当院での自己血輸血
	10月	MSD	MRSA 感染症治療薬キュビシン（ダプトマイシン）
H28	1月	赤間 由美	心電図 ST 上昇を認めた一例
	2月	播磨 佐江子	CD チェックの新しい運用
	3月	永岡 伸代	再検の必要性

※学会関連は[研究実績]にも掲載



リハビリテーション部

療法士長 児島 邦幸

【平成 27 年度の概要】

1. はじめに

早期退院、社会復帰に向けた「チーム医療の評価」が、診療報酬改定毎に要件化されていく中で、リハビリ専門職は、特に急性期病床で、チーム医療の一役を担える職種へと自律的に変わることができるのかどうか。今、急性期のリハビリが、試されているところだと思います。

まずは、入院時から退院支援のプロセスに積極的に参加していかなければなりません。入院診療計画書から看護計画へ、それがリハビリ計画にも繋がっていく。その計画は、退院後の生活をイメージできるような、利用者毎の個別的なリハビリの内容になっていくはずですが。内容が変われば、リハビリ実施の場所と時間が変わります。訓練室から病棟へ、さらに社会生活機能を高める場所へと変わっていく。リハビリの提供時間は、生活活動が集中する時間帯こそ、より学習効果が期待できるのではないのでしょうか。

そうした時に、「重症患者を対象に、できるだけ短い期間で、しかも在宅に帰っていただく」ために必要な、多職種の活用型「チーム医療の評価」、そして「勤務環境の改善」に貢献できる専門職になるのではないかと考えています。

2. 届出承認

施設承認	受理番号	算定開始
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	(脳I)第46号	平成18年4月1日
呼吸器リハビリテーション料(I)	(呼I)第28号	平成18年4月1日
運動器リハビリテーション料(I)	(運I)第7号	平成22年4月1日
がん患者リハビリテーション料	(がんリハ)第9号	平成23年7月1日

3. スタッフ(平成27年3月31日現在)

専任リハ医師	1名			
理学療法士	43名 (4名育休中)	作業療法士	19名	言語聴覚士 8名
リハビリ事務	3名	リハビリ助手	2名	

4. 人事

入職	H27.4.1	理学療法士	馬場 早紀	九州看護福祉大学
	H27.4.1	理学療法士	石田 光	九州看護福祉大学
	H27.4.1	理学療法士	下村拓也	九州看護福祉大学
	H27.4.1	理学療法士	河原橋 弥姫	九州栄養大学
	H27.4.1	理学療法士	黒木 祐樹	宮崎リハビリテーション学院
	H27.4.1	理学療法士	福迫 利樹	鹿児島医療技術専門学校
	H27.4.1	理学療法士	山ノ口 亜姫	鹿児島医療技術専門学校
	H27.4.1	理学療法士	脇 明夏	鹿児島医療技術専門学校
	H27.4.1	理学療法士	村中 友香	鹿児島医療福祉専門学校
	H27.4.1	理学療法士	前野 麻奈美	神村学園専修学校
	H27.4.1	作業療法士	下野 真由	九州栄養大学
	H27.4.1	作業療法士	玉井 彩乃	鹿児島大学
	H27.4.1	作業療法士	湯村 千里	鹿児島大学
	H27.4.1	作業療法士	山田 千夏	鹿児島医療技術専門学校
	H27.4.1	作業療法士	芹ヶ野 賢人	神村学園専修学校
	H27.4.1	作業療法士	古城 三貴	鹿児島医療技術専門学校
	H27.4.1	言語療法士	宮園 健志	鹿児島医療技術専門学校
H27.4.1	言語療法士	池畑 亮允	鹿児島医療技術専門学校	
退職	H26.7.31	言語聴覚士	西 勇輔	
	H28.2.28	理学療法士	西 裕司	
	H28.2.28	理学療法士	勝山 誠	

【部門実績】

1.(1)27年度療法明細

療法明細	□外来			□入院			■合計		
	件数	単位数	人数	件数	単位数	人数	件数	単位数	人数
脳血管リハ I	81	162	81	40,870	93,066	21,221	40,951	93,228	21,302
脳血管リハ I (廃用症候群)	0	0	0	8,974	17,991	4,745	8,974	17,991	4,745
運動器リハ I	2,060	4,560	2,060	72,048	158,909	51,186	74,108	163,469	53,246
呼吸器リハ I	0	0	0	4,255	8,313	3,992	4,255	8,313	3,992
がん患者リハ	0	0	0	2,602	5,622	2,408	2,602	5,622	2,408
摂食機能療法	0	0	0	492	0	492	492	0	492
リハビリ総合計画書評価料	422	0	422	4,535	0	4,535	4,957	0	4,957
退院時リハ指導料	0	0	0	1,249	0	1,249	1,249	0	1,249
初期加算	0	0	0	29,849	59,616	21,638	29,849	59,616	21,638
早期リハビリテーション加算	0	0	0	55,057	116,979	37,175	55,057	116,979	37,175

2)疾患別リハビリ単位

	H27.4	H27.5	H27.6	H27.7	H27.8	H27.9	H27.10	H27.11	H27.12	H28.1	H28.2	H28.3
脳血管 I	7,424	7,680	7,327	7,183	7,662	7,809	8,322	7,439	7,365	8,096	8,713	8,208
廃用	1,424	1,627	1,864	1,335	1,478	1,917	1,380	1,321	1,412	1,316	1,266	1,651
運動器 I	10,607	12,671	13,954	13,831	13,479	12,343	14,512	14,335	15,114	14,877	13,659	14,087
呼吸 I	724	694	680	724	714	476	452	544	683	713	1,012	897
がんリハ	286	282	413	720	826	486	497	455	417	279	394	567
計	20,465	22,954	24,238	23,793	24,159	23,031	25,163	24,094	24,991	25,281	25,044	25,410

(3)診療科別処方件数

	H27.4	H27.5	H27.6	H27.7	H27.8	H27.9	H27.10	H27.11	H27.12	H28.1	H28.2	H28.3	総計
外科	32	30	36	35	41	28	31	32	18	19	28	26	356
緩和医療科	2	2	2	1	1	1			1		4	6	20
眼科	2	2	2	3	1	1							11
形成外科	21	15	16	11	18	14	14	17	19	8	10	22	185
血液内科		3	4	3	7	3	1	3	3	9	6	7	49
呼吸器外科	19	19	19	19	25	18	25	16	12	10	12	22	216
呼吸器内科	18	12	20	19	24	24	33	26	25	19	27	29	276
産婦人科	1	1	2	2	3	3	1	2	4	1	3	3	26
歯科口腔外科												1	1
耳鼻咽喉科				1	2	1	3	1	1			2	11
循環器内科	7	6	8	10	6	4	4	9	8	7	12	5	86
小児科	3	1	1		3				1	1	2		12
消化器内科	9	10	12	10	10	13	25	15	18	19	14	10	165
新生児内科	35	31	20	26	32	29	33	29	29	31	32	29	356
神経内科	62	62	67	69	60	56	56	54	48	55	64	61	714
整形外科	193	171	198	191	195	184	203	208	217	219	229	232	2440
総合内科	32	25	29	28	28	26	21	25	28	29	30	36	337
糖尿病科	0		1	1	1	2	2	1		1	1		10
脳神経外科	42	41	39	37	27	31	37	35	30	30	31	32	412
泌尿器科	5	9	11	9	10	10	11	8	7	7	3	11	101
皮膚科	3	2	1	4	4	4	4	8	10	4	5	6	55
放射線科				2	2	1	1	1	1	1	1	1	10
計	486	442	488	479	500	454	505	490	480	470	514	541	5,849

2. 実習受入

種別	養成校		人数	開始	終了
理学療法学	鹿児島医療福祉専門学校	第3学年長期臨床実習	2名	H27.5.11	H27.7.18
		第2学年臨床検査測定実習	1名	H27.7.27	H27.8.1
		第2学年臨床評価実習	2名	H28.2.1	H28.2.20
		第1学年介護体験実習	2名	H28.2.22	H28.2.24
	鹿児島医療技術専門学校	第4学年臨床評価実習	1名	H27.5.4	H27.7.10
		第1学年臨床見学体験実習	1名	H28.2.22	H28.2.26
	宮崎リハビリテーション学院	第3学年臨床実習Ⅱ	1名	H27.7.27	H27.10.9
	鹿児島大学	第4学年臨床実習	1名	H27.7.21	H27.9.11
	九州看護福祉大学	第4学年臨床実習Ⅲ	1名	H27.5.11	H27.7.4
第3学年臨床実習Ⅰ		1名	H27.11.24	H27.12.12	
福岡リハビリテーション専門学校	第3学年長期臨床実習	1名	H28.1.12	H28.3.2	
作業療法学	鹿児島医療技術専門学校	第4学年長期臨床実習	1名	H27.8.3	H27.10.9
	神村学園専修学校	第3学年臨床実習	1名	H27.6.22	H27.8.15
		第1学年見学実習	1名	H27.7.29	H28.8.1
	琉球リハビリテーション学院	第3学年臨床実習Ⅱ	1名	H27.4.6	H27.6.19
	九州中央リハビリテーション学院	第4学年臨床実習Ⅳ	1名	H27.8.10	H27.10.3
	熊本保健科学大学	第4学年長期実習Ⅱ	1名	H27.5.11	H27.7.3
	九州保健福祉大学	第1学年見学実習	1名	H27.8.17	H27.8.17
	沖縄リハビリテーション福祉学院	第3学年長期臨床実習	1名	H27.5.11	H27.7.11
言語聴覚療法学	鹿児島医療福祉専門学校	第3学年評価実習	1名	H28.1.25	H28.2.19

3. 学術

学会発表は「研究実績」の頁へ

【認定資格者】

3学会合同呼吸療法認定士	10名	豊留研二 木下知恵 吉永芙実 上之園彩 宮之原俊一 中塩屋佳子 福田晋 児玉翔太 野村篤志 横川巴美
心臓リハビリテーション指導士	1名	豊留研二
リンパ浮腫指導技能者	1名	古市寿子
褥瘡認定作業療法士	1名	宮之原俊一

【部門の取組み】

平成17年11月～	NSTにST参加
平成18年4月～	疾患別リハ施設承認
平成18年4月～	専従常勤の療法士が20名
平成19年10月～	褥瘡対策チームにPT・OT・ST参加
平成20年4月～	専従常勤の療法士が30名
平成20年7月～	療法士の病棟担当制の開始
平成21年3月～	日祝含めた均等配置勤務体制開始
平成21年4月～	専従常勤の療法士が40名
平成22年6月～	口腔ケアチームにST参加
平成22年10月～	緩和ケアチームにPT・OT参加
平成23年6月～	専従常勤の療法士が50名
平成23年7月～	がん患者リハ施設承認
平成24年4月～	日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医を専任配置
平成25年4月～	専従常勤の療法士が60名
平成25年7月～	NSTにPT・OT参加
平成26年3月～	RSTにPT参加
平成27年1月～	回復期病棟開始



臨床工学部

技士長 齋藤謙一

1. 高気圧酸素療法 (HB0)

高気圧酸素療法は、第1種装置（川崎エンジニアリング社製KOH-2000）2台で月～金曜日8：30～17：00、土曜、祝祭日8：30～12：00実施。緊急時にはオンコールでいつでも実施できる体制になっています。平成27年度は、205名（男131名、女74名）の患者様に対して治療回数は3,216回（救急適応483回（15.0%）、非救急適応2,733回）でした。前年度比は治療患者数-9.7%、総治療回数+10.4%、救急適応-10.4%でした（表1）。診療科別では、整形外科66%（前年+14.4%）、耳鼻咽喉科22%（前年+5.1%）と2診療科で全体の約9割を占めています（表2）。

表1 高気圧酸素治療実施状況

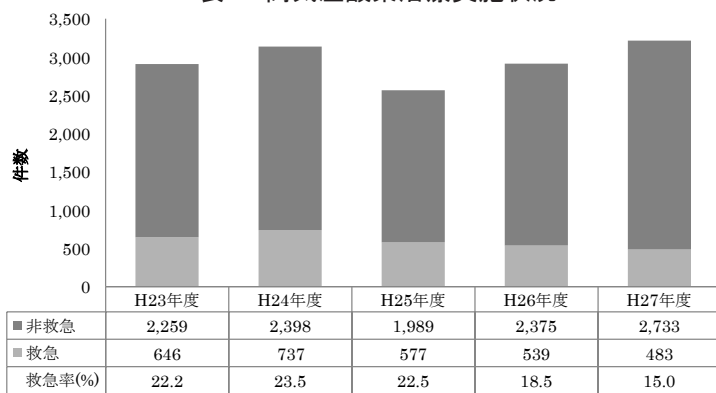
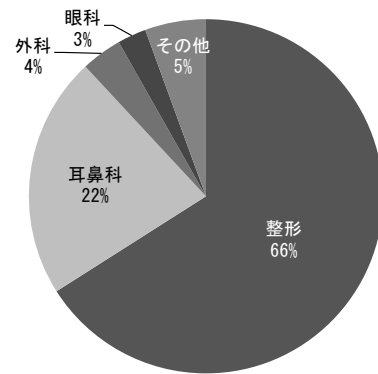


表2 診療科別HB0依頼件数

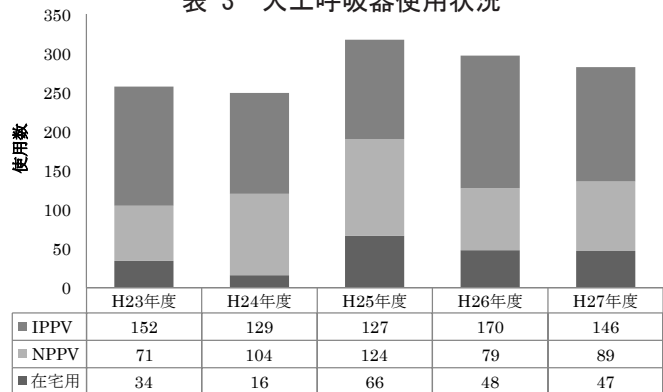


2. 人工呼吸

平成27年度の人工呼吸器使用状況は、合計282件（昨年比 - 5.1%）、機種構成はIPPV（invasive positive pressure ventilation；侵襲的人工呼吸）52%、NPPV 31%、在宅用持込17%でした（表3）。当院所有の人工呼吸器を表4に示します。新規にHAMILTON-C1（HAMILTON社/日本光電）を2台追加しました。古くなったNPB-740と順次入れ替えていく計画です。

平成25年度から導入されたハイフローセラピー／ネーザルハイフロー（NHF）の使用状況を表5に示します。NHFは鼻カニューラを通して21～100%の酸素を最大60L/minの高流量で患者に供給できるシステムで低流量酸素療法とNPPVとの間の治療法としてNPPVの拒否患者や気管挿管チューブ抜管後などに有効とされます。

表3 人工呼吸器使用状況



人工呼吸器患者の搬送について

人工呼吸器装着患者のCTやMRIの検査や院外への転院などは、これまで医師がバッグバルブマスクなどを用いて用手換気を行いながら実施していましたが、当院では人工呼吸器装着患者の搬送にも適した人工呼吸器やMRI対応人工呼吸器の採用により必要な時にいつでも検査することができます。また、人工呼吸に関わる搬送には必ず臨床工学技士が同伴して医師や看護師の労力軽減につなげられるよう努力しています。平成27年度は116回の搬送がありCT/MRIは31件（内MRI：6件）他院への転院搬送は19件でした。転院時には搬送先での人工呼吸器設定などの申し送り等を臨床工学技士が実施しています（表6）。

表 4 当院所有人工呼吸器（網掛：ICU、NICU専用器）

機種名	メーカー	台数	コメント
NPB-740	Covidien	5	コンプレッサ内蔵、長時間バッテリー搭載、病棟用
NPB-840	Covidien	4	高性能、高度な設定が可能、
Evita_XL	Dräger	1	高性能、APRV モード、スマートケア搭載
Engstrom Carestation	GE Healthcare	1	高性能、酸素消費量や CO2 産生量、エネルギー消費量、呼吸商、FRC 測定
BiPAP vision	Philips	1	NPPV 専用機
V 60	Philips	2	NPPV 専用機 常時レンタル
Carina	Dräger	1	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV 可
Babylog 8000plus	Dräger	3	新生児専用人工呼吸器
Babylog VN500	Dräger	1	HFO 搭載の新生児専用高性能人工呼吸器
infant Flow SiPAP	CareFusion	2	新生児専用 n-CPAP 装置 +3 台 レンタル中
sindi	MedIn	2	新生児専用 n-CPAP 装置
HAMILTON-C1	HAMILTON	4	長時間バッテリー、小型、コンプレッサ内蔵、NPPV・IPPV 可、ASV・APRV モード搭載
CARE vent MRI	O-TWO Medical	1	ガス駆動、搬送用、MRI 対応

表 5 ネーザルハイフロー実施状況

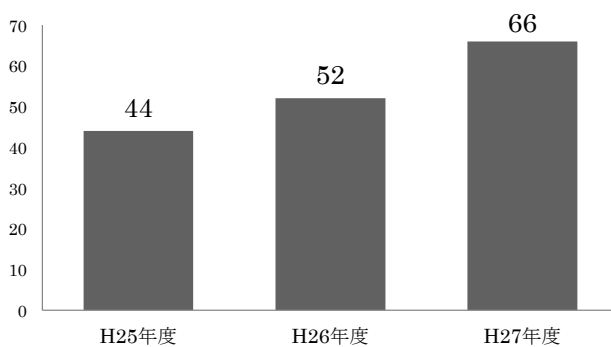


表 6 人工呼吸患者搬送先病院

搬送先	回数
三船病院	6
南九州病院	5
鹿児島大学病院	3
小田原病院	2
鹿児島赤十字病院	1
博悠会温泉病院	1

3. 血液浄化

血液浄化のうち血液透析は3台の個人器（+ ICU内に1台）で実施しています。平成27年度の透析実施回数は428回、昨年度比+23%でした（表7）。その他、持続的腎代替療法（CRRT）、アフェレーシスの実施状況を（表8）に示しました。

表 7 血液透析実施状況

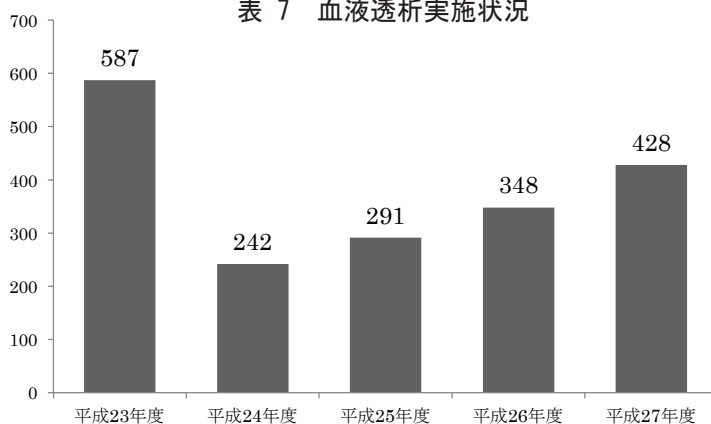


表 8 アフェレーシス実施状況

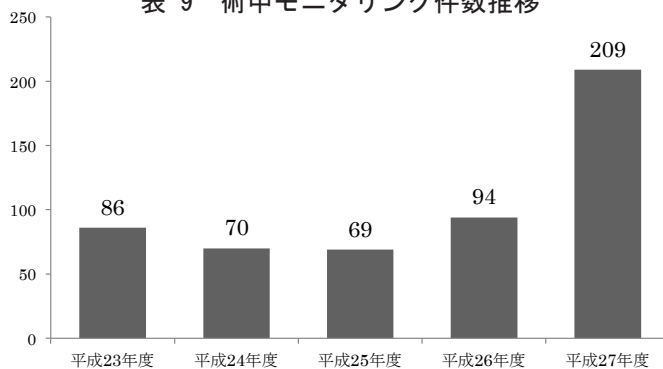
項目	件数
CRRT	77
免疫吸着	112
DFPP	7
エンドトキシン吸着	6
CART	7

4. 術中脊椎誘発電位モニタリング

脊椎、脊髄の手術の際、MEP（運動誘発電位）およびSSEP（体性感覚誘発電位）による術中モニタリングを施行しています。脊髄モニタリングとは脊髄の電気伝導能を評価する方法であり、圧迫性病変や脊髄腫瘍などによる脊髄の損傷の程度を評価することができます。

昨年10月に検査機器（Endeavor CR 術中モニタリング装置）の導入を行いMEPの計測が可能になり209件（前年比 122.3%）の脊椎・脊髄手術で実施しました（表 9）。

表 9 術中モニタリング件数推移





在宅医療部

主任 竹ノ下美子

在宅医療部は、訪問診察と訪問看護を行っています。訪問診察は在宅診療科の林 茂昭先生、甲斐 太先生をはじめ他に総合内科3名、神経内科1名の先生方に協力していただいています。また、緩和医療科の松添先生と連携し、在宅での看取りも支援しています。最近では、対象が寝たきり・準寝たきりの方に限らず、外来通院可能でも認知症の方や独居の方の服薬管理や創処置等に外来の先生の指示書をいただき訪問しています。

平成27年は昨年同様、保健師3名 竹ノ下美子 生野雅子 小野純子、看護師1名 南貴美子で活動しました。

I. 訪問看護活動(平成27年1月1日～12月31日) ※在宅診療科に合わせ、年次報告

1) スタッフ (五十音順)

保健師・看護師	4名	小野・生野・竹ノ下・南
訪問診察医師(兼任)	8名	白元・甲斐・生野・野村・林・二木・松添・三宅
兼任作業療法士	1名	児島

2) 患者総数 47名 (男性27名 女性20名)

①転帰

転帰	人数(人)
軽快	1
転院	13
施設入所	0
長期入院	0
死亡(病院)	7
死亡(在宅)	1
合計	22

②月別訪問件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計(件)
訪問診察 (緩和診察)	27 (4)	27 (0)	23 (0)	19 (0)	28 (3)	29 (0)	32 (1)	31 (0)	26 (0)	28 (0)	28 (0)	30 (0)	328 (8)
訪問看護	113	106	101	103	88	124	119	100	86	95	89	107	1,231
訪問リハビリ	3	4	5	4	3	5	3	5	3	3	4	3	45
合計(件)	143	137	129	126	119	158	154	136	115	126	121	140	1,604

3) 相談ケース

①相談内容

相談内容	件数
訪問診察と看護について	8
訪問看護について	31
訪問診察について	4
介護保険について	0
その他	1
合計	44

②相談依頼者

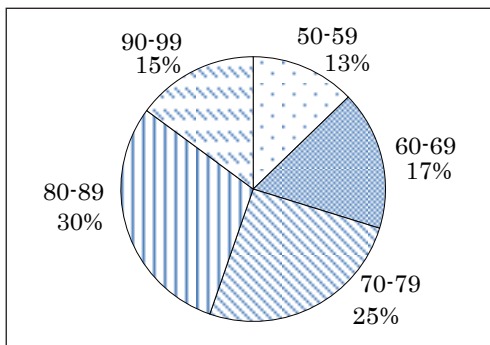
相談依頼者	件数
緩和ケアスタッフ	10
医師	13
ケアマネージャー	6
MSW	6
患者・家族	4
看護師	4
その他	1
合計	44

4) 主疾患名(47名)

疾患	(人)	疾患	(人)
神経系疾患	18	尿路器系疾患	0
悪性新生物	11	消化器系	1
循環器疾患	8	内分泌系・代謝疾患	2
呼吸器疾患	4	精神及び行動障害	2
損傷、中毒外因の影響	1	感染症	0

5) 患者年齢 (平均 76.1 歳 51~95 歳)

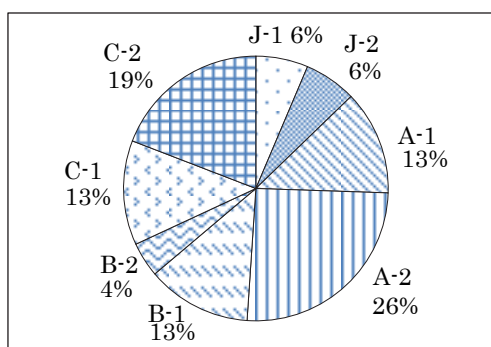
年代	人数 (人)
30-39	0
40-49	0
50-59	6
60-69	8
70-79	12
80-89	14
90-99	7
100以上	0
合計	47



6) 寝たきりランク

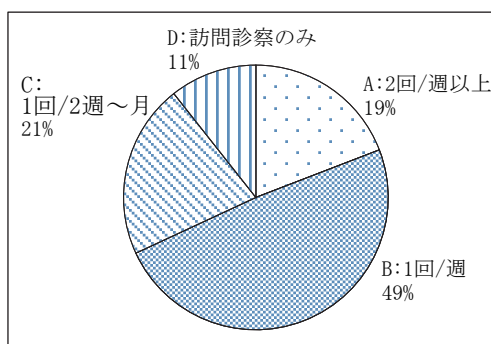
生活自立	ランク J	何らかの障害等を有するが、日常生活は自立しており独力で外出する 1. 交通機関を利用して外出する 2. 隣近所へなら外出する
準寝たきり	ランク A	屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない 1. 介助により外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2. 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている
寝たきり	ランク B	屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが座位を保つ 1. 車椅子に移乗し、食事、排泄はベッドから離れて行う 2. 介助により車椅子に移乗する
	ランク C	1 日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する 1. 自力で寝返りをうつ 2. 自力では寝返りもうたない

ランク	人数 (人)
J-1	3
J-2	3
A-1	6
A-2	12
B-1	6
B-2	2
C-1	6
C-2	9
合計	47



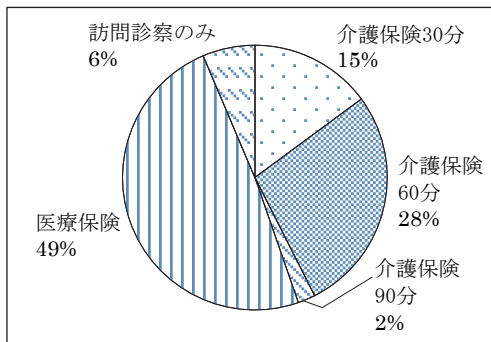
7) 訪問看護の頻度

訪問回数	人数 (人)
A: 2回/週 以上	9
B: 1回/週	23
C: 1回/2週~月	10
D: 訪問診察のみ	5
合計	47



8) 訪問看護の保険の種類

介護保険30分	7
介護保険60分	13
介護保険90分	1
医療保険	23
訪問診察のみ	3
合計	47

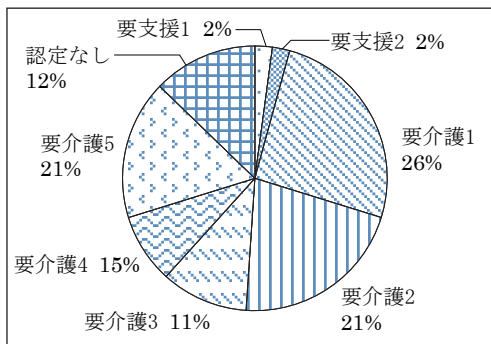


9) 医療依存度ケース

内容	人数(人)	内容	人数(人)	内容	人数(人)
軟膏塗布	19	坐薬挿入	2	吸入	2
創処置	13	人工呼吸器	1	血糖チェック	2
排便・浣腸	10	バルンカテーテル留置	3	人工肛門・ウロストミー	2
点滴・注射	3	リハビリ	2	点眼	1
麻薬・抗癌剤管理	3	気管切開	3	IVH(ポート)	0
胃ろう・経管栄養	9	在宅酸素療法	10	服薬管理	24
吸引	7	導尿	1	その他	4

10) 介護保険利用者

介護度	人数 (人)
要支援1	1
要支援2	1
要介護1	12
要介護2	10
要介護3	5
要介護4	4
要介護5	8
認定なし	6
合計	47



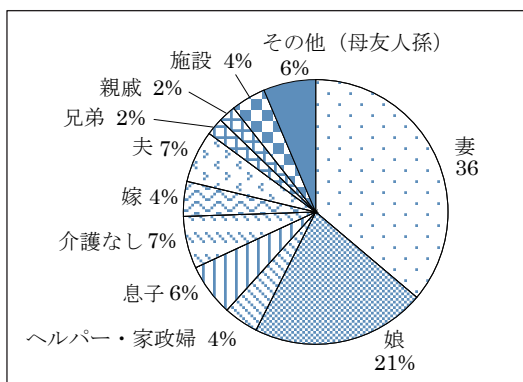
11) 清潔介助

内容	人数 (人)
全身浴	1
部分浴	9
部分保清	17

全身浴: 入浴・シャワー浴・全身清拭など
 部分浴: 足浴・手浴・陰部洗浄・洗髪など
 部分保清: 口腔ケア・耳垢除去・髭剃り・爪きりなど

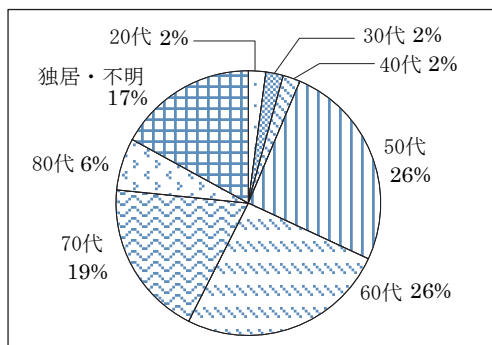
12) 主な介護者

介護者	人数 (人)
妻	17
娘	10
ヘルパー・家政婦	2
息子	3
介護なし	3
嫁	2
夫	3
兄弟	1
親戚	1
施設	2
その他 (母友人孫)	3
合計	47



13) 介護者の年齢(平均 63.1 歳 25 ～ 87 歳)

年代	人数 (人)
20代	1
30代	1
40代	1
50代	12
60代	12
70代	9
80代	3
独居・不明	8
合計	47



14) 介護保険利用状況

内容	人数 (人)	内容	人数 (人)
訪問介護	23	通所リハビリ	10
訪問入浴	4	通所サービス	14
訪問リハビリ	13	ショートステイ(病院を含む)	5

15) 指導内容

内容	人数 (人)	内容	人数 (人)
服薬指導	37	精神的支え	10
栄養指導	25	認知症対応方法	7
介護指導	16	家族の健康相談	9
福祉サービス紹介	11	終末期の援助	6

16) 他の専門機関・職種との連携

- 1) 訪問歯科診療の利用 4 名
- 2) 訪問薬剤指導の利用 6 名

Ⅱ. その他の活動

1) 家族会だより 第 28 号 平成 27 年 5 月発行

2) 実習生受け入れ実績

- ・久木田学園看護専門学校 : 4/13 ～ 9/17 15 名
- ・鹿児島中央看護専門学校 2 年課程(通信制)看護科 : 7/27 ～ 8/27 23 名
- ・神村学園高等部 看護学科専門課程 : 6/29 ～ 12/18 21 名

3) 院内感染防止対策委員会 : 月 1 回

4) 労働安全衛生委員会 : 月 1 回

5) 病院業務運営会議 : 月 1 回

6) 死亡患者初七日訪問 : 2 名



居宅介護支援事業所

管理者 主任介護支援専門員 中村とも子

2015年度以降65歳以上の介護需要予測は医療を超え医療介護サービス提供体制を整える時期がきています。また平成27年8月からサービス利用2割負担（単独で280万以上、2人世帯346万以上）が開始され当事業所でも15%が対象となり収入はあるものの諸事情によりサービス利用を減らす傾向もあり閉じこもりや保清、安全面を懸念するケースもあります。今後も対象基準が厳しくなると思われ必要最低限のサービスで生活を支えるケアプラン作成が重要となります。

【概要】

当院は高度医療により急性期病院ではありますが、疾病の回復が早期解決しても急なADL低下により介護計画（ケアプラン）や変更等が必要とされる場合もあります。

平成27年2月に全機関統一した入退院サマリー様式が決定し医療との連携もスムーズとなりました。当院のみならず転院先やセカンドオピニオンへ足を運び利用者の病状やADLの情報収集を行い現場の職員と顔を合わせた連携ができることで患者様（利用者）の安心感と適切なケアプラン作成とつながっています。

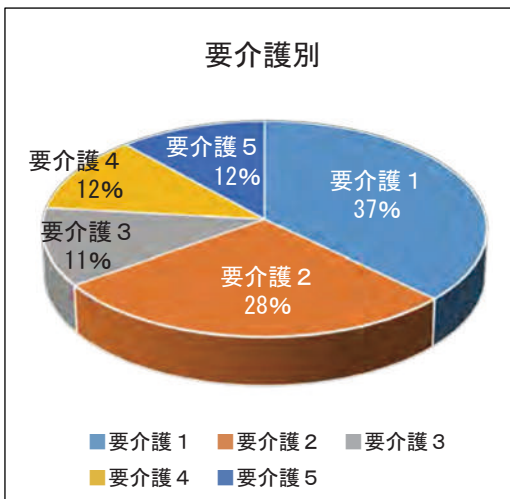
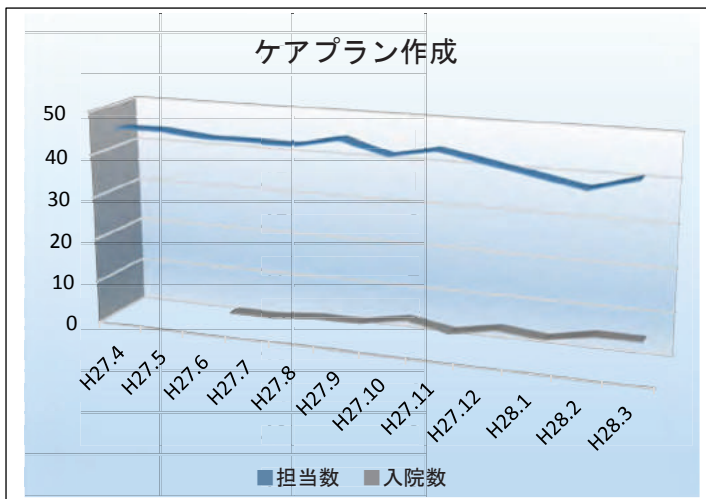
【スタッフ】

専従二人の主任介護支援専門員（厚生労働省に基づく研修修了者）で対応。鹿児島へ来て三年の八坂と共に様々なケースに対応、ケアプラン作成にあたり本人の引き出せる能力を踏まえ情報収集し、介護力、医療リスク等慎重に検討しながら作成しています。惜しくも今年3月八坂が家庭の事情（家族の転勤）で退職が決まり心機一転、新スタッフで励む所存です。

【居宅関連 会議及び研修の参加】

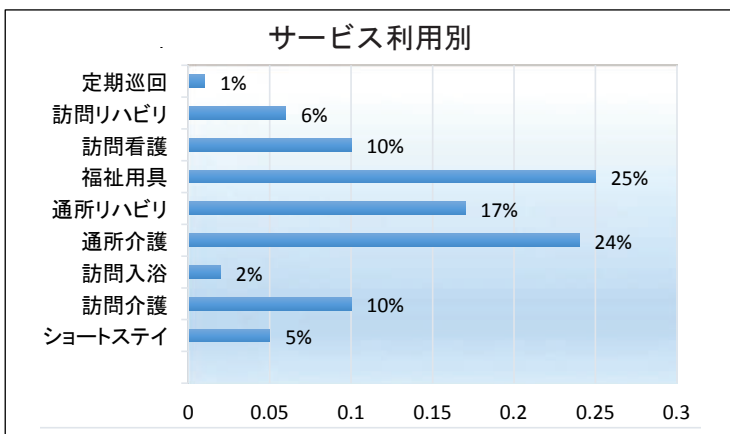
- H27. 5. 18 難病患者等研修会「神経難病・治療・在宅療養について」
- H27. 5. 30 NPO法人介護支援専門員総会・講演会
- H27. 6. 17 西部地区連携の会「認知症が地域で暮らすには」
- H27. 6. 27 主任介護支援専門員フォローアップ研修会「役割と介護」
- H27. 7. 9 大竜地区多職種地域ケア会議
- H27. 8. 24 難病患者等研修会「難病の告知と本人・家族の支援について」
- H27. 9. 16 介護支援専門員更新研修
- H27. 10. 15～16 介護支援専門員更新研修
- H27. 10. 20 主任介護支援専門員フォローアップ研修
- H27. 11. 8 看護協会主催「認知症をどう生きるか」
- H27. 12. 14 難病患者等研修会「神経難病のリハビリと実技」
- H27. 12. 18 鹿児島市主催「なぜ、虐待は繰り返されるのか？」
- H28. 2. 8 難病患者等研修会「事例を通して支援を考える（ALS）」
- H28. 2. 20 NPO法人主催「ケアプランの作り方研修会」
- H28. 3. 12 主任介護支援専門員フォローアップ研修
- H28. 3. 14 難病相談センター「難病患者の療養を支える連携の在り方について」

【平成27年4月～平成28年3月 居宅介護支援計画作成数】



【サービス事業所連携】

月平均 52ヶ所のサービス事業所と連携を図り在宅生活を支えています。



(月平均利用事業者数)

通所介護	17ヶ所
通所リハビリ	9ヶ所
福祉用具事業	6ヶ所
訪問介護	6ヶ所
訪問看護	5ヶ所
ショートステイ	4ヶ所
訪問リハビリ	3ヶ所
訪問入浴	1ヶ所
定期巡回	1ヶ所

【主な疾病】

多発血管炎肉芽腫症、先天性ミオパチー、慢性Ⅱ型呼吸不全、成人細胞性白血病、肺非結核性抗酸菌症、先天性ろうあ、悪性リウマチ、僧帽弁閉鎖不全症、慢性心房細動、血管炎症候群、糖尿病、狭心症、脊柱管狭窄症、肝細胞癌、股関節人工骨抜去後、レビー小体症、パーキンソン病関連疾患、多系統萎縮症、アルツハイマー認知症、脳血管性認知症、進行性角上性麻痺、全盲、術後骨盤内膿瘍、前立腺癌、鬱病、両側尿管皮膚瘻、特発性正常圧水頭症、頸部、縦隔リンパ節転移

【ケアプラン関連】

年間相談数 (件数外)	30件
新規プラン作成	15件
担当者会議開催	98件
死亡・施設入所	15件

この他訪問給食回数増減申請、オムツ受給申請、住宅改修理由書記載、虚弱高齢者介護保険対象外福祉用具給付申請等も適宜行っています。



相談支援センター 医療相談室

主任 吉 満 実

地域の基幹病院としての性格を持ち、高度救急医療の提供を行う当病院では、入院外来治療において阻害要因としての様々な問題が発生しています。また、医療制度の変遷により役割分担が更に明確になって来ており、このような背景において平成27年度のMSW(メディカルソーシャルワーカー)としての活動を報告致します。

平均在院日数の短縮

当病院におけるMSWとしての最大の役割としては、院内外との連携であります。

現在の当院の基準としては、『平均在院日数 17日以内』です。在院日数は退院支援部門の設置、退院支援の強化もあり16.02で短縮化が図れました。

平均在院日数の短縮」は、DPC病院として最大の課題です。質の高い医療の提供と共に患者様の早期退院や転院、社会復帰を目指し援助を行っています。

◆MSWの早期介入の促進(退院支援部門の強化)

MSWが入院初期より、患者さんの状態・基本情報等を把握することにより、いろいろな問題を未然に防ぎ、円滑な退院・転院への援助が可能となります。

早期での患者さんとの関わりを持つことで、信頼関係の構築が容易になり、患者様・その家族の理解を得ることにより、入院・治療期間の短縮につながります。また、整形外科・脳神経外科・神経内科・呼吸器内科・総合内科のカンファレンスに同席し患者さんの状態や状況の変化に応じて対応しています。また、退院支援部門として退院調整カンファレンスの他職種介入により患者様の退院や転院に関して質の高い支援が構築されつつあります。

◆社会的入院患者へのアプローチ

核家族化が進む中、一人暮らしの為に家に帰れない・日中、仕事で自宅介護が困難等いわゆる「社会的入院」が、問題になっています。当病院においても例外ではありません。

現時点においては、MSWの早期患者把握・介入によって、かなり減少傾向にあります。常日頃より療養型の医療機関、回復期リハビリテーション病院・介護老人保健施設・グループホームや在宅復帰の場合は居宅介護支援事業所等と綿密に連携をとることで、迅速な援助を行うことが出来ています。

◆長期入院患者へのアプローチ

長期入院患者(入院期間3ヶ月以上)の的確な把握を行い、「なぜ、長期になっているのか」という事を明確にすることが重要です。長期入院となっている患者様の中には、治療の経過で長期になられた患者さんや病状的に退院・転院が困難な患者様への理解は忘れてはなりません。

社会的入院患者・長期入院患者へのアプローチの結果、長期入院患者の占める割合が5%台に減少しています。長期入院患者さんの内訳としては、感染症、重度の褥創、人工呼吸器管理等が多くなっています。

◆回復期病棟における退院支援

平成27年1月1日より3階北病棟において33床の回復期病棟を運営開始しました。整形外科の術後の患者様が中心ですが、高齢者、要介護者、障害者など自宅退院を目標とした病棟なので退院に際し、在宅サービスの導入など調整が必要です。患者様及び御家族にとってより良い退院調整ができるように努めます。

地域の医療機関・介護保険関連事業所との連携強化

当病院が急性のDPC医療機関として体制を維持していく為には、地域の各医療機関との連携を推進していかなければなりません。また、療養型の医療機関もそれぞれ役割や特徴があります。その状況を把握して患者さんの橋渡しをしなくてはなりません。リハビリテーションにおいても疾患別限度日数が導入され、リハビリ目的で早い時期での転院が必要となってきました。地域の医療機関との連携もより迅速に行っていかなければならなくなりました。介護保険に関連した施設や居宅会議支援事業所との連携もより多様化し多くの事業所との関係が必要となっています。

医療相談室の開設

当院本館 1 階に医療相談室や患者サポート窓口を開設しており、個室での面談・相談が可能です。患者様のプライバシーに配慮した面談が可能です。医療相談室では、患者様や御家族に入室してもらい相談援助を実施する形を取っていますが、入室が困難な場合は各病室への訪室も可能です。また、がん相談・経済的相談・社会的相談・各種申請書類についての相談や苦情や個人情報に関する相談窓口としての機能を有しています。

その他の業務として

変遷していく医療保険制度や介護保険制度において、MSWとして対処しなければならない事柄は多いものです。

MSWの業務として、外来・入院患者様を問わず、医療費の相談や社会福祉サービス等の相談を、受けています。介護保険・指定難病・身体障害者手帳の手続き代行や苦情処理・個人情報に関わる相談・平均在院日数の管理・紹介患者の管理・問題患者への対処等々、その他の細かい業務は多いものです。

来年度は退院支援に関し部門の設置、各病棟に退院支援職員の配置を行い、退院支援加算の算定が大幅増加となっています。アセスメント、ハイスクリーニング(退院に際して援助が必要かどうか)カンファレンスを実施し、早期退院・転院をスムーズに行っていくように取り組んでいきたいと思っております。

退院調整部門 (MSW4 名 退院調整看護師 2 名)

MSW ; 原口 一博・吉満 実・中村 章子 NS : 松野下 恵子・窪田 いづみ
現在、月曜日から金曜日までの午前・午後、土曜日の午前の勤務となっています。
事前に連絡を頂ければ、時間外でも相談には応じます。

平成27年度 平均在院日数、長期入院患者、退院援助の統計表

平均在院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成25年度	16.1	16.9	16.4	16.0	16.2	17.2	16.5	15.8	15.3	15.3	15.6	16.1	16.12
平成26年度	17.0	18.3	17.8	16.4	16.9	16.5	16.6	19.6	17.5	17.7	15.8	16.8	17.24
平成27年度	15.1	16.9	15.4	15.5	15.9	15.5	15.8	16.5	15.7	17.1	17.1	15.7	16.02

長期入院患者（3ヶ月以上入院患者）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成25年度	6.6%	6.3%	6.4%	7.1%	6.2%	4.8%	3.2%	3.4%	5.7%	5.9%	5.7%	5.7%	5.6%
長期（人数）	24	22	23	27	23	19	12	13	21	22	22	22	20.83
病床稼働	362	348	362	380	372	393	377	382	371	373	384	389	374.4
平成26年度	4.7%	5.7%	4.8%	5.9%	4.2%	4.2%	2.8%	3.7%	4.0%	3.2%	3.5%	4.3%	4.2%
長期（人数）	17	20	18	22	16	15	10	14	15	12	14	17	15.83
病床稼働	362	349	372	370	377	357	362	377	371	376	400	398	372.6
平成27年度	4.2%	5.0%	3.6%	5.1%	6.5%	6.3%	4.2%	4.1%	6.7%	6.2%	5.6%	5.4%	5.2%
長期（人数）	15	17	13	17	21	21	14	14	18	22	21	20	17.75
病床稼働	356	340	362	332	324	335	335	343	270	354	376	367	341.2

長期入院患者（3ヶ月以上入院患者）

	病院	在宅	老人保健施設	他施設・GH	死亡退院	平成27年度合計
4月	51	15	4	7	3	80
5月	55	14	4	5	2	80
6月	65	25	4	8	2	104
7月	76	19	1	3	5	104
8月	51	17	3	8	3	82
9月	45	14	3	2	0	64
10月	58	15	4	5	2	84
11月	52	11	0	6	3	72
12月	65	24	4	7	4	104
1月	56	14	3	4	1	78
2月	79	15	2	7	0	103
3月	85	14	3	5	0	107
平成25年度合計	899	260	26	53	27	1,265
平成26年度合計	872	202	16	62	35	1,187
平成27年度合計	738	197	35	67	25	1,062



相談支援センター 地域医療連携

上ノ園美穂

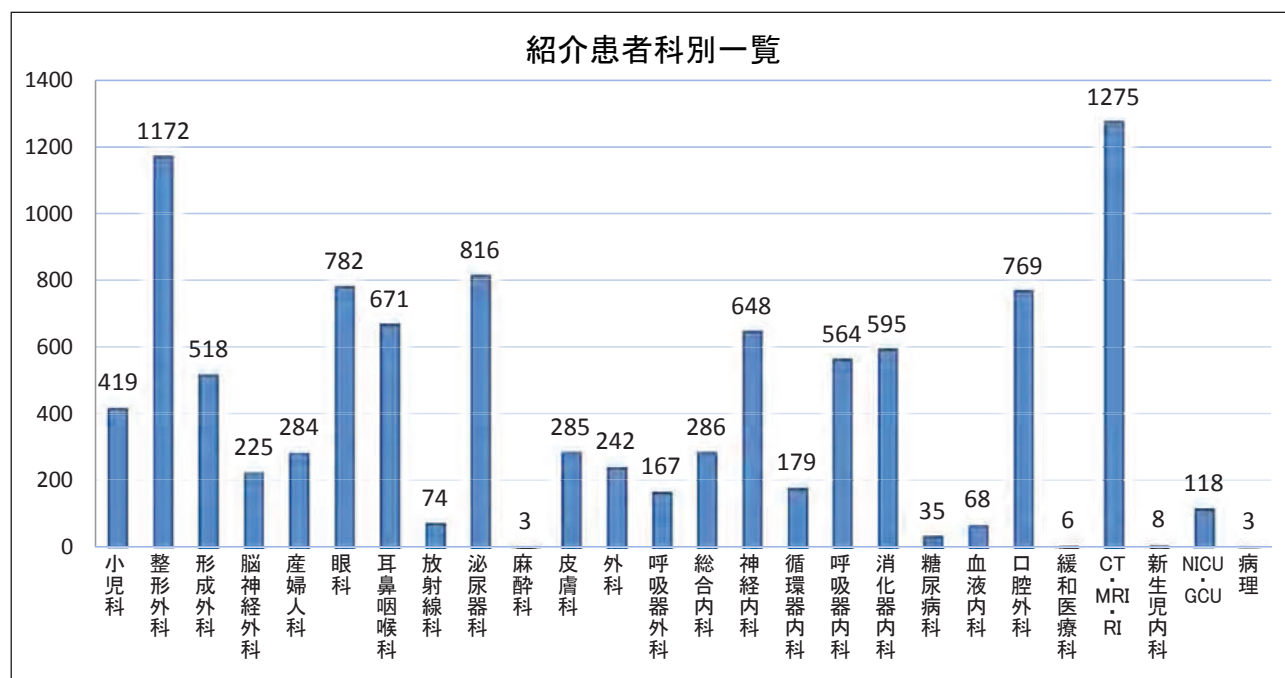
平成 27 年度関連施設は、

紹介施設 《市内 503 施設》 《市外 419 施設》 《県外 124 施設》 合計 1046 施設ご紹介いただきました。

逆紹介施設 《市内 458 施設》 《市外 371 施設》 《県外 165 施設》 合計 994 施設になります。

紹介率67.6%、逆紹介率117.1%になります。（紹介率・逆紹介率は、地域支援病院計算式）紹介率・逆紹介率をいかに並行して高めていくかが急性期病院の機能を果たすためにも重要です。その一環として、紹介いただいた患者さんに関する返書が確実に行われるように、院内医師の協力を得ていきたいと思っております。

当院では、病診・救急医療へ積極的な取り組みを病院方針の一つとして、今後とも、紹介患者や救急患者を積極的に受け入れていくことにより、地域医療に貢献していきたいと考えております。



小児科	整形外科	形成外科	脳神経外科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	泌尿器科	麻酔科
419	1172	518	225	284	782	671	74	816	3
皮膚科	外科	呼吸器外科	総合内科	神経内科	循環器内科	呼吸器内科	消化器内科	糖尿病科	血液内科
285	242	167	286	648	179	564	595	35	68
口腔外科	緩和医療科	CT・MRI・RI		新生児内科	NICU・GCU	病理			
769	6	1275		8	118	3			

※今給黎病院・昭和会クリニック紹介総数

- 紹介患者及び逆紹介市町村別統計は、病院統計にて参照
- 年度別救急車受け入れ台数・患者数統計病院統計にて参照



がん相談支援センター

専従保健師（緩和医療課） 植屋 明代

がん相談支援センターは本館1階にあり、専従相談員の植屋が常駐、不在時は早崎・吉國が対応。MSWは主に転院支援に関わり、相談内容によっては管理栄養士、薬剤師、医事課などの協力を得ながら対応しています。今年度はラジオや情報誌での広報機会もいただきましたが、院内の周知もまだ十分ではありません。院内外に広くがん相談支援センターを知っていただくとともに、その人らしく療養できるように来談者と一緒に考え、辛さが少しでも緩和されるようながん相談支援に努めていきたいと思ひます。

【スタッフ】植屋・早崎・吉國(緩和医療課) 原口・吉満・中村・山崎(相談支援センター)

相談内容 (*重複相談対応あり)	緩和医療課対応			相談支援センター対応			合計
	患者	家族	その他	患者	家族	その他	
がん治療	48	39	6	0	0	0	93
がんの検査	6	15	0	0	0	0	21
症状・副作用・後遺症	7	12	0	0	0	0	19
セカンドオピニオン	9	28	3	0	0	0	40
治療実績	1	2	0	0	0	0	3
受診方法・入院	6	9	3	0	0	17	35
転院	14	34	12	0	122	0	182
医療機関の紹介	9	16	5	0	0	0	30
がん予防・検診	3	3	0	0	0	0	6
在宅医療	4	12	8	0	0	0	24
ホスピス・緩和ケア	31	18	11	0	0	0	60
症状・副作用・後遺症への対応	16	8	5	0	0	0	29
食事・服薬・入浴運動・外出など	10	9	2	0	0	0	21
介護・看護・養育	14	19	3	0	0	0	36
社会生活(仕事・運動・外出)	7	0	0	7	0	0	14
医療費・生活費・社会保障制度	13	16	3	15	0	0	47
補完代替医療	9	19	4	0	0	0	32
不安・精神的苦痛	105	109	7	0	0	0	221
告知	7	15	0	0	0	0	22
医療者との関係・コミュニケーション	6	18	3	0	0	0	27
患者-家族の関係・コミュニケーション	5	15	1	0	0	0	21
友人・知人・職場の人間関係・コミュニケーション	1	1	0	0	0	0	2
患者会・家族会	7	2	1	0	0	0	10
その他	25	26	27	0	0	0	78

★緩和医療課のがん相談 511 件の内訳は『緩和医療課』のページに詳細掲載。

【院外会議】

鹿児島県がん相談員部門会議 (6/13, 7/24, 10/16, 2/5) 九州地区がん相談員フォーラム(11/28)

地域連携会議(相良病院主催) (9/19, 2/26)

【その他】・リレー・フォー・ライフかごしまにてがん相談・サロンの協力(5/9)

・LEAP1月号掲載、FM鹿児島にてがん相談支援センター紹介・インタビュー (10/28)



医療安全管理課

課長 千田 清美

今年度は、全職員対象に院内の医療安全管理活動に関わる意識調査を行いました。組織的な医療安全活動を促進するには、現場の安全活動が活発に行われることが必要とされます。日常管理の中で、インシデント・アクシデント事象を報告書で可視化して、ヒューマンエラーが誘引される作業環境や情報伝達・管理状況などの先行原因を捉えて、職場全体で考える仕組みが定着しなくてはなりません。現状の取り組みについて、改善と向上を継続的に加えていくこと、また、病院の安全文化を醸成するには、各現場の安全活動を担う人材育成が重要と考えています。

【スタッフ】

看護師 2名 千田清美、長野みつ美

【部門実績及び活動内容】

- ・安全管理部門カンファレンスの運営（第1火曜日と毎週月曜日）～長野、千田
- ・医療安全対策委員会の運営（毎月第2水曜日）～長野、千田
- ・看護安全対策委員会の開催支援（毎月第3火曜日）～長野、千田
- ・医療情報システム小委員会への参加（毎月第2金曜日）～長野
- ・多職種チーム活動への参加
 - ・RSTチーム（木曜日/週）～長野、千田
 - ・口腔ケアチーム（金曜日/週）～長野
 - ・外来患者呼び出し運営ワーキンググループ（毎月第2木曜日）（11回/年）～千田
- ・院内報告システムにおけるレポートの管理および定例会へのフィードバック
- ・院内教育研修の企画と開催、看護部教育研修支援
- ・医療安全管理指針の見直し
- ・患者相談および患者・家族対応への相談事案（7診療科）
- ・院内BLS講習会及びICLS講習会の開催支援（8回/年）

【医療安全管理部門カンファレンス（1回/週）】

〈カンファレンスメンバー〉

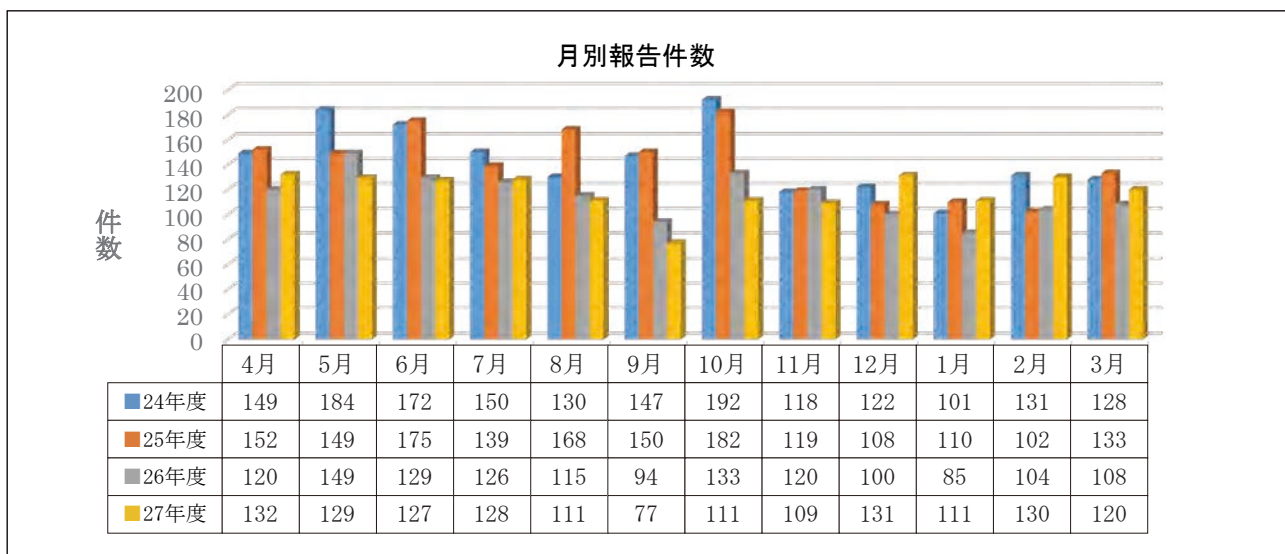
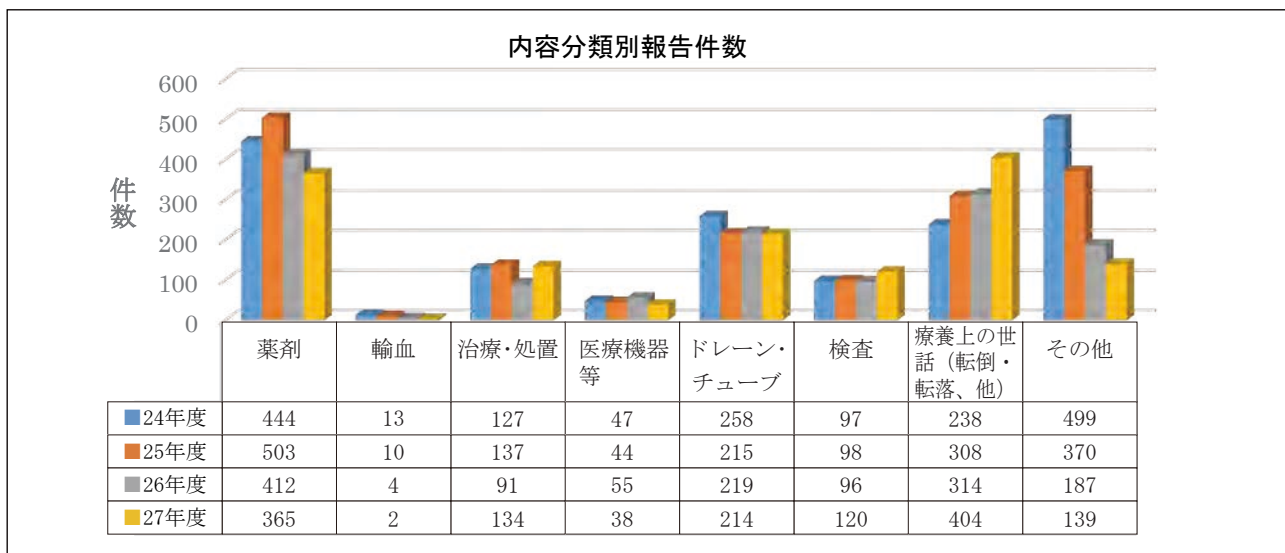
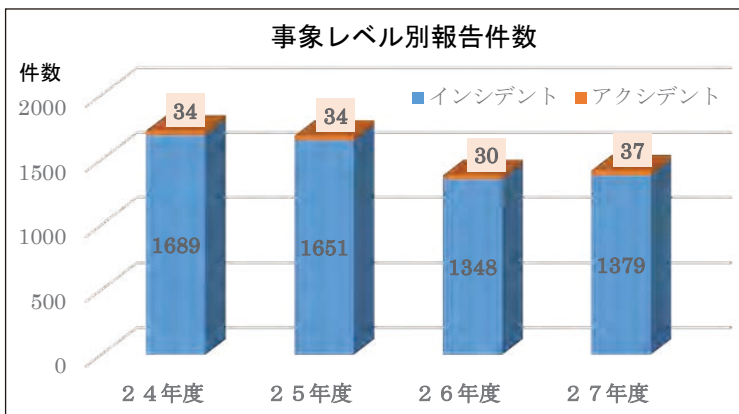
松永俊二副院長（チーフ統括セーフティマネージャー）、高橋真理（医薬品安全管理責任者）
斎藤謙一（医療機器安全管理責任者）、岩下邦子（看護副部長）、山下真理恵（看護安全対策委員会委員長）
千田清美（専従医療安全管理者）、長野みつ美（専従医療安全管理者）、田中英樹（施設課課長）
野口桂一（事務局長）、川井田祐一郎（事務局長代理）、濱田敏彦（クリニック事務長）
益田阿佑美（総務企画課）：書記

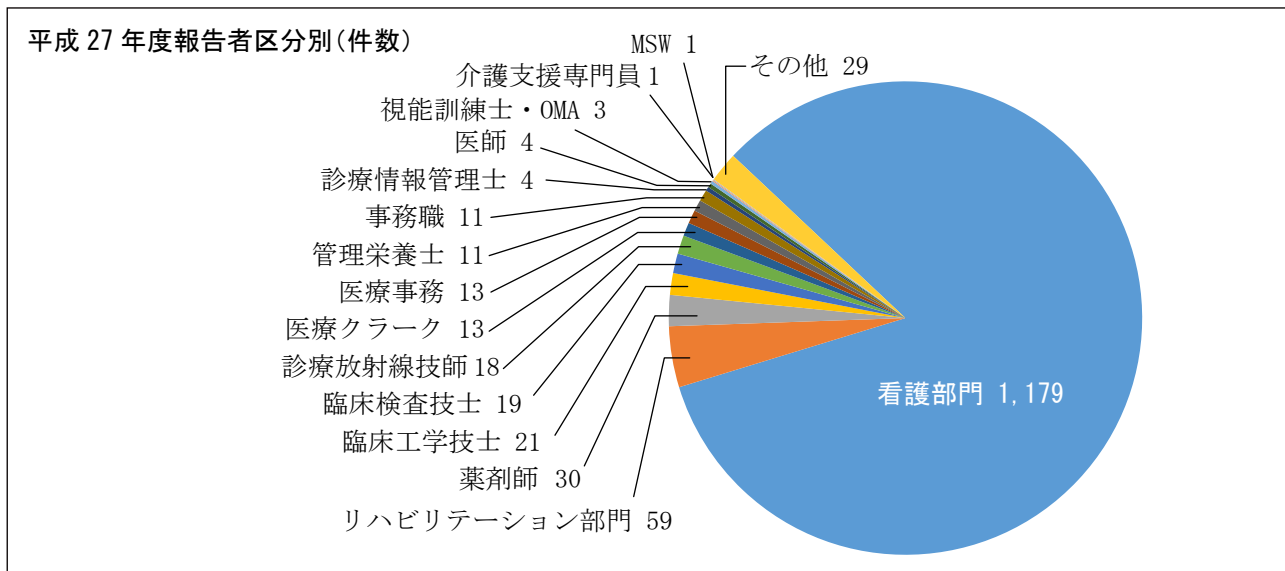
〈主な検討事項〉

第1週目は火曜日、2週目以降は月曜日に毎週定例で開催。1週間単位で登録されたインシデントレポートおよび事案の経緯についてカンファレンスメンバーで情報共有を行い対策について検討し、安全確保のための方針や改善策について医療安全対策委員会へ提言を行いました。インシデント・アクシデント事案は、同じ部署で人を変えて繰り返し発生している事案も少なくありません。報告書は、何が起きたのかを文書化により知識として他者と共有することができます。事象の経緯を可視化して根本原因を追究することで理に合う対策につながるため、各部署単位で、報告書を活用した安全に関わる話し合いが活発に行われることを目標設定することも必要です。

【院内報告件数の推移：平成24年～27年】

平成27年度の報告件数は1416件で、事象レベル別ではインシデント97%（前年度98%）、アクシデント3%（前年度2%）の割合でした。内容分類別では、療養上の世話（転倒・転落、褥瘡を含む）が29%（前年度22%）、薬剤26%（前年度30%）、ドレーン・チューブ管理15%（前年度16%）、転倒・転落においては全件数の17%（前年度16%）の割合でした。薬剤管理においては、医師の指示出しから指示受けの工程管理と薬剤準備時の取り扱いルールの策定と手順の遵守する取り組みが必要です。転倒転落においては、患者側の要因分析と併せた療養環境の評価に基づく転倒防止策や発生後の適切な患者介入が標準的に行われ、被害の拡大を防止する体系的な取り組みが求められています。次年度は、転倒転落に関する多職種チーム活動について検討していきたいと考えます。





【院内教育研修】

日程	内容	対象者
平成 27 年 3 月 30 日 13:30~16:00	医療安全管理について、個人情報保護について	新入職者 52 名
平成 27 年 4 月 15 日 11:00~12:00	医療安全管理の基本的考え方 (60 分)	研修医 6 名
平成 27 年 5 月 19 日 15:00~16:00	看護部クリニカルラダー：インシデント KYT	レベル 4 25 名
平成 27 年 6 月 9 日 11:00~12:00	看護部管理者：医療現場の KYT	看護部管理者 50 名
平成 27 年 6 月 15 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー：KYT の組み立て	レベル 4 25 名
平成 27 年 6 月 23 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー：リスククレーム	レベル 3 35 名
平成 27 年 7 月 1 日 7 月 9 日、7 月 27 日 17:30~18:30 ~3 日間	医薬品安全管理研修会 (薬剤部 - 医療安全管理課) 調剤された薬剤と投与時の確認、ハイリスク薬 (インスリン・カリウム製剤)、エラーを減らすために、確認作業の再認識	看護部 1 回目 89 名 2 回目 168 名 3 回目 150 名 総数 407 名
平成 27 年 7 月 13 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー：KYT の具体策	レベル 4 25 名
平成 27 年 8 月 10 日 13:30~15:00	看護部クリニカルラダー リーダーに求められる安全管理	レベル 3 37 名
平成 27 年 8 月 31 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー KYT の実際 - 改善策の取り組み - 受講者による発表	レベル 4 25 名
平成 27 年 9 月 25 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー 安全の取り組みとヒューマンエラー	レベル 2 29 名
平成 27 年 10 月 30 日 18:00~19:30 10 月 31 日 14:00~15:30 ~ 2 日間 追加研修 6 回開催	全職員対象 KYT の考え方と方法を部署の安全対策に生かそう」 講師： 東京海上日動メディカルサービス株式会社 メディカルリスクマネジメント室 玉利英子先生	全職員 1 回目 (10/30) 115 名 5 回目 (1/21) 115 名 2 回目 (10/31) 54 名 15:00~16:30 追加研修 6 回目 (1/27) 126 名 3 回目 (12/17) 72 名 17:30~19:00 15:00~16:30 7 回目 (3/18) 69 名 4 回目 (1/14) 116 名 15:00~16:30 17:30~19:00 8 回目 (3/23) 59 名 15:00~16:30 【総数 726 名】
平成 28 年 2 月 9 日 13:30~14:30	看護部クリニカルラダー KYT の取り組みと改善策の評価 - まとめ	レベル 4 24 名

平成 28 年 3 月 10 日 17:30~18:30	全職員対象 「インターネットの危険性と対策」 講師： 鹿児島県警察本部 生活環境課サイバー犯罪対策室 田代耕基先生	全職員	4 回目 (5/6) 126 名 15:00~16:00 5 回目 (5/23) 181 名 17:30~18:30 【総数 800 名】
		1 回目 (3/10) 142 名 追加研修	
		2 回目 (4/7) 182 名 17:30~18:30	
		3 回目 (4/12) 169 名 17:30~18:30	

【救急蘇生ワーキンググループ】

当院職員を対象に、日本救急医学会認定プログラムの BLS コースと ICLS コースを開催し、BLS コース 69 名 ICLS コース 18 名の受講生に修了証が発行されました。今年は、インストラクターに新メンバー 2 名を迎えましたが、受講者数の拡大と継続的な講習会開催を運営するには、インストラクターの増員が必要とされます。なお、10 月に心肺蘇生法ガイドライン 2015 が公表されたため、11 月の ICLS コース開催以降は、プログラムの改訂を考慮し、次年度よりガイドライン 2015 に準拠したコース開催を予定しています。

○コースディレクター
西山淳(麻酔科)

○インストラクター

齊藤謙一(臨床工学技士)、橋口恒夫(救急認定看護師)、尾堂知子(看護師)、有菌さつき(看護師)、熊迫智枝(看護師)、伊野知余子(看護師)、永田恵理(看護師)、小野保代(看護師)、千田清美(看護師)、古市寿子(理学療法士)、日高里美(看護師)、赤坂美保(看護師)

院内 BLS コース (3 時間)		
日程	内容	対象者
平成 27 年 5 月 8 日	第 31 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 13 名
平成 27 年 6 月 13 日	第 32 回 院内 BLS 講習会 (午前)	新卒看護師 15 名
	第 33 回 院内 BLS 講習会 (午後)	新卒看護師 14 名
平成 27 年 7 月 31 日	第 34 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 11 名
平成 27 年 9 月 25 日	第 35 回 院内 BLS 講習会	受講希望者 16 名
今給黎総合病院 ICLS コース (8 時間)		
日程	内容	対象者
平成 27 年 4 月 25 日	第 6 回 ICLS コース(鹿児島大学総合臨床研修センター)	受講希望者 6 名
平成 27 年 8 月 29 日	第 7 回 ICLS コース(鹿児島大学総合臨床研修センター)	受講希望者 6 名
平成 27 年 11 月 7 日	第 8 回 ICLS コース(鹿児島大学総合臨床研修センター)	受講希望者 6 名

【その他の活動】

鹿児島県看護協会医療安全情報ネットワークの鹿児島地区委員として、以下の院外活動を行いました。(鹿児島地区医療安全情報ネットワーク委員会 委員 千田清美)

1、鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議

平成 27 年 7 月 23 日(木) 18:30~20:00 鹿児島市医師会病院
平成 27 年 10 月 22 日(木) 18:30~20:00 鹿児島市医師会病院
平成 27 年 12 月 22 日(木) 18:30~20:00 鹿児島市医師会病院
平成 28 年 3 月 24 日(木) 18:30~20:00 鹿児島市医師会病院

2、鹿児島県医療安全情報ネットワーク会議

平成 27 年 8 月 22 日(土) 11:00~13:00 鹿児島県看護研修会館
平成 28 年 1 月 30 日(土) 11:00~13:00 鹿児島県看護研修会館

3、鹿児島県看護協会評議員会

平成 27 年 6 月 26 日(金) 14:00~17:00 鹿児島県看護研修会館
平成 27 年 9 月 25 日(金) 14:00~17:00 鹿児島県看護研修会館
平成 27 年 11 月 27 日(金) 14:00~17:00 鹿児島県看護研修会館

4、鹿児島県鹿児島地区評議員会

平成 27 年 6 月 13 日(土) 地区集会 11:00~ 鹿児島県看護研修会館
平成 28 年 2 月 26 日(金) 14:00~17:00 鹿児島県看護研修会館

5、鹿児島県看護協会医療安全研修会運営スタッフ

平成 27 年 6 月 19 日(金) 11:00~16:00 鹿児島県看護研修会館
平成 28 年 2 月 13 日(土) 13:30~17:30 鹿児島県看護研修会館

6、鹿児島県セーフティマネジメント研究会

平成27年6月27日(土) 13:00~17:00 学術集会シンポジスト(講師) 鹿児島県市町村自治会館



褥瘡管理課

主任 下前百合香

【スタッフ】 4名(皮膚・排泄ケア認定看護師2名、日本褥瘡学会認定師(看護師)1名、事務1名)

【部門実績】

1)業務内容

- ・入院患者の褥瘡対策・褥瘡患者管理、スタッフ指導、形成外来との連携
⇒詳細は褥瘡対策委員会報告書参照
- ・褥瘡対策患者抽出し、褥瘡ハイス対象患者への予防訪問
- ・スキンケア・創傷ケア・ストーマケアコンサルテーション
- ・NPWT(VAC・RENASYS・PICO)製品物品管理
- ・体圧分散寝具管理(除圧マット・Air マット・ポジショニングクッション)
- ・褥瘡回診(毎週月曜日 14:00～)
形成外科医(外菌 Dr)、皮膚・排泄ケア認定看護師(下前、椎木)、
日本褥瘡学会認定師(看護師:逆瀬川)、薬剤師(古賀、竹内、園田)、
管理栄養士(鈴木:日本褥瘡学会認定師)、作業療法士(宮之原:日本褥瘡学会認定師、
鮫島、鶴田)、理学療法士(野村、中辻、井上、福永)、各病棟スタッフ)
- ・NSTカンファレンス・回診:日本褥瘡学会認定師(看護師:逆瀬川)参加(毎週火曜日)
- ・褥瘡対策委員会開催(毎月第1水曜日:17:15～18:15)
- ・NST委員会会議参加(毎月第1水曜日:13:15～13:45)
- ・NICUカンファレンス(毎月第3木曜日:15:30～16:00):下前・椎木
- ・リハビリスタッフとのカンファレンス(毎月第4水曜日:18:00～)※H28年1月～開始
- ・看護部:DiNQL褥瘡関連データ入力確認・修正
- ・ストーマケア管理コンサルテーション
新規ストーマ造設患者数:20名
(コロストーマ:13名、イレオストーマ:2名、尿管皮膚瘻術:3名、回腸導管術:5名)
ストーマサイトマーキング施行患者数:18名(うち4名はマーキングのみ)
- ・ストーマ外来(診察日に合わせて日程調整)
- ・見学・研修の受け入れ
H27.8.3 医療法人 育成会 坂口病院 看護師1名、准看護師1名
- ・公益財団法人鹿児島県看護協会 看護かごしま(第161号)投稿(下前)
「認定看護師の活動内容」～活動内容・やりがいを感じたこと等～
- ・褥瘡勉強会開催(偶数月開催)

日時	内容	担当講師	参加人数
4月3日	「褥瘡予防対策・治療」(対象:研修医)	褥瘡管理課:下前	7名
4月22日	「チームで取り組む褥瘡予防」	褥瘡管理課:下前	139名
6月26日	「褥瘡関連の記録について」	褥瘡管理課:逆瀬川	190名
7月31日	病院施設公開講座 「スキンケアについて」	スミス&ネフューウィンドマネージメント 株式会社 細川朱美氏	院内:158名 院外:16名
8月26日	「スキンケア」	褥瘡管理課:椎木	105名
10月28日	「ポジショニング」	リハビリテーション部:宮之原(OT)	87名
12月16日	「オムツ選択と適切な装着方法について」	株式会社 リブドゥーコーポレーション 排泄ケアアドバイザー:伊藤操氏	112名

・ ストーマ関連

日時	内容	担当講師	参加人数
11月25日	1、ストーマ給付制度（身体障害者手帳申請） 2、ストーマ製品説明（ホリスター・ダンサック）	1、横尾機器：調所ひなた氏 2、ホリスター：益田貴弘氏 ダンサック：永田将規氏	68名
12月10日	ストーマ製品紹介 (アルケア・コロプラスト・コンバテック)	アルケア：寺本敏紀氏 コロプラスト：宮津良之輔氏 コンバテック：池田裕一氏	59名
H28年3月4日	周術期～退院までのストーマケア	褥瘡管理課：椎木	47名

2) 院外講演活動

日時	主催・場所	内容	担当
6月6日	主催：スミス&ネフューウィンド マネジメント株式会社 JR九州シティ 9階大会議室	創傷管理クローズドセミナー - 看護師視点で考える創傷管理 - PICO 創傷管理システム に関する症例検討 「四肢創傷（手指：熱傷、母趾：外傷）へのPICO使用症例」	下前
6月6日	主催：鹿児島県社会福祉協議会 日本福祉用具供給協会 鹿児島ブロック 鹿児島県福祉用具協会かごしま県民交 流センター 中ホール	快護生活フェス！ 福祉機器展&セミナー in かごしま 「スキンテアってなに？ ～褥瘡予防に繋がるスキンテア対策を学ぶ～」	下前
6月6日	公益財団法人 日本オストミー協会 鹿児島県支部 鹿児島こだま会 ハートピアかごしま 1階 多目的 ホール	オストメイトとその家族の集い 「ストーマケアの基本理念と実践」（講演と実技）	下前

3) 院外開催講演会への参加

2016年3月19日 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会
第9回鹿児島県在宅褥瘡セミナー（「在宅褥瘡管理者」対応講習）
下前：進行（世話人・企画・運営）
椎木：運営スタッフ

4) 院外開催会議への参加（下前）

2015年5月16日 日本褥瘡学会 九州地方会世話人会会議
2016年3月19日 日本褥瘡学会在宅褥瘡医療ネットワーク委員会
第9回鹿児島県在宅褥瘡セミナー（企画・運営会議）



緩和医療課

主任 植屋明代

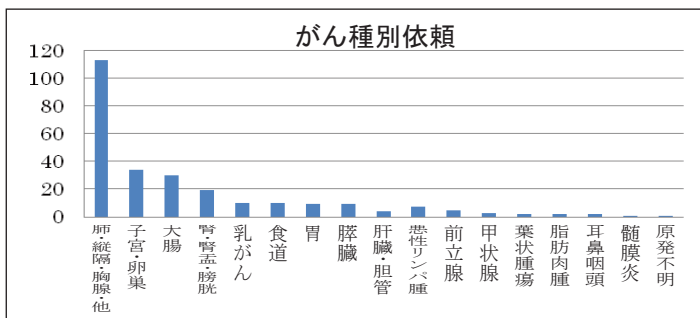
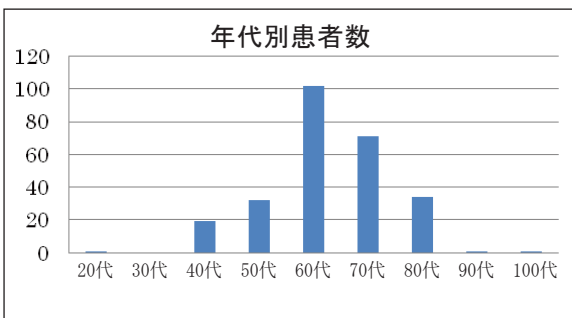
平成 27 年度は“地域がん診療連携拠点病院”として 4 年目を迎え、緩和ケアチーム依頼・がん相談件数共に増加しました。そして、恒例となったりレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしまにも病院あげて参加し、ホスピス緩和ケア週間では今年度は初めて『緩和ケア川柳』募集を行い啓蒙活動にも取り組みました。研修や患者サロン等いずれの企画も様々なスタッフの協力が得られ感謝しています。今後も自己研鑽に努め、皆さんの協力を得ながら緩和ケア実践と共に、病院全体のがん看護とがん相談の質の向上に力を入れていきたいと思ひます。

●スタッフ：早崎玲子(緩和ケア認定看護師) 吉國久子(社会福祉士) 植屋明代(保健師)

*岩山友紀 育休中

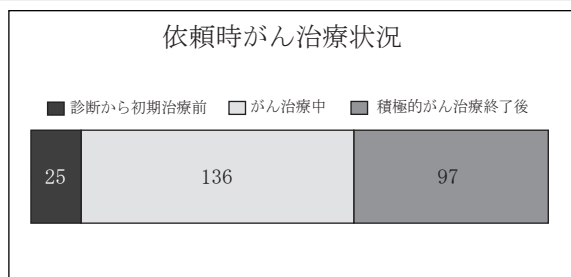
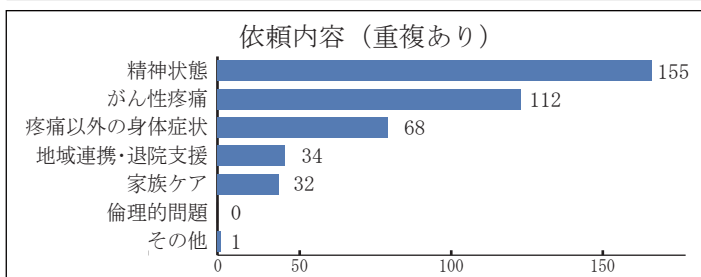
●緩和ケアチーム実績

チーム依頼件数：190 名(男 88 名・女 102 名 / がん患者 189 名・非がん患者 1 名)



診療科別依頼内容（重複依頼あり）

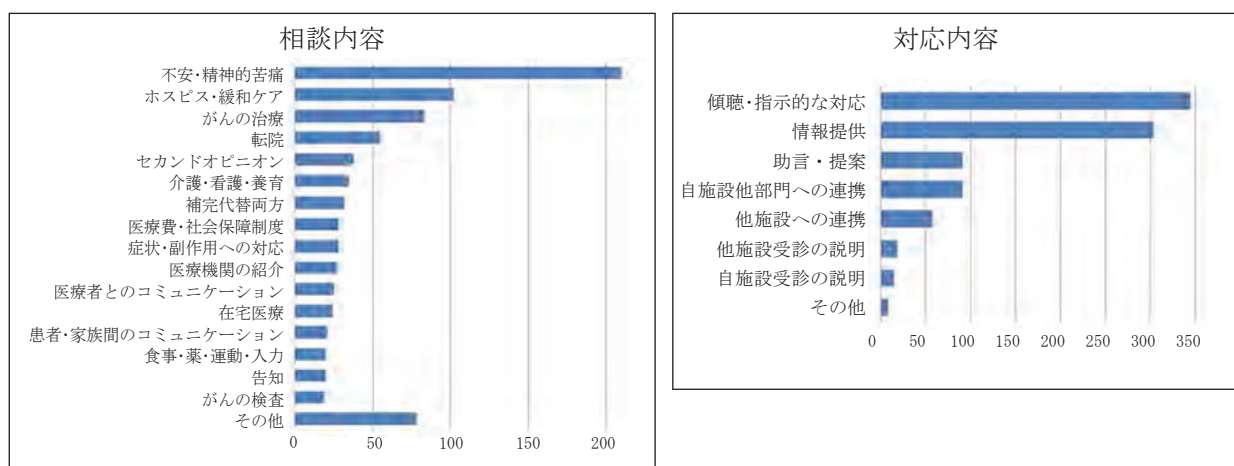
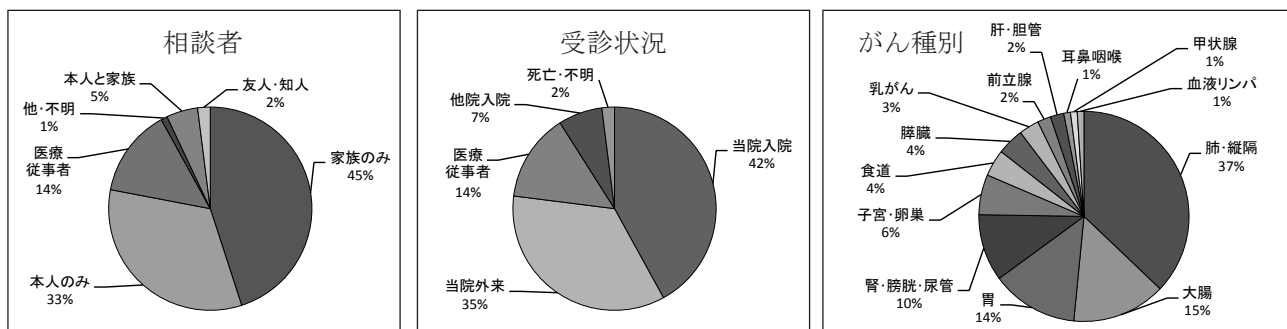
	がん性疼痛	疼痛以外の身体症状	精神症状	家族ケア	倫理的問題	地域連携退院支援	その他	依頼件数
呼吸器内科	23	25	39	15	0	0	23	65
外科	21	10	36	4	0	1	0	56
呼吸器外科	22	15	25	10	0	8	0	45
婦人科	9	1	31	2	0	0	0	34
泌尿器科	11	2	5	0	0	0	0	16
消化器内科	4	2	7	0	0	1	0	10
血液内科	3	1	4	0	0	0	0	7
整形外科	6	3	0	0	0	0	0	7
放射線科	2	0	5	0	0	0	0	7
神経内科	1	2	2	0	0	0	0	4
総合内科	3	2	1	0	0	0	0	3
脳外科	2	2	0	0	0	0	0	2
耳鼻科	1	0	0	0	0	0	0	1
形成外科	1	1	0	0	0	0	0	1
麻酔科	1	1	0	0	0	0	0	1
他施設	1	1	0	1	0	0	1	2



●がん相談支援センター(緩和医療課対応分)

相談件数：511件

(面談：347 電話：153 メール：6 / 初回：195 2回目以上：316)



●ほっとサロン今給黎(第3水曜日 13:00～15:00) *2016.1より 14:00～16:00

がん患者さん、ご家族が安心して思いを語り合う場として、がんサポートかごしまと協働で開催しています。

月	ミニ勉強会テーマ	担当	参加者(スタッフ含)
4	がんと漢方薬について	藤中目貴子(薬剤師)	11
5	がんってどんな病気?	早崎玲子(緩和ケア認定看護師)	12
6	バルーンアートを作ろう!	藤山みどり(副看護部長)	9
7	実践できる食事療法のポイント～貧血を予防しよう～	田中美帆(管理栄養士)	11
8	抗がん剤って本当に効くの?	河原尚美(がん化学療法看護認定看護師)	17
9	がんになった家族を持つ子どもたちへのメッセージ	三好綾(がんサポートかごしま理事長)	13
10	なぜ“がん”が怖いのか?	松添大助(緩和医療科医師)	12
11	うつってどんな病気?	小玉哲史(緩和医療科医師)	12
12	クリスマス会	参加者全員	15
1	ホスピスってどんなところ?	吉國久子(社会福祉士)	15
2	みんなでストレッチ	高田奨(理学療法士)	16
3	放射線治療について	芝こずえ(がん放射線療法看護認定看護師)	9

●がん・緩和ケア研修会(2～3ヶ月1回企画)

日付	テーマ	講師	人数
H27. 10. 18	しくじり先生の緩和ケア	高濱哲也先生(天陽会中央病院)	97名

●セカンドオピニオン外来 3件

性別	年齢	がん部位	相談内容	対応医師
男	89歳	肺腫瘍	治療方針、他の治療の可能性	米田(呼吸器外科)
女	68歳	肺がん	診断・治療方針について	米田(呼吸器外科)
男	66歳	肺がん	治療方針・手術の必要性	米田(呼吸器外科)

●がん患者カウンセリング料算定(緩和ケア認定看護師早崎対応分)

18件 * 7件は未確定診断、研修未終了医師のため算定不可

●退院支援(緩和医療課対応：緩和ケアチーム+がん相談支援センター)(人数)

緩和ケア病棟・外来(計40)：天陽会中央病院(17)南九州病院(6)相良病院(5)今村病院(4)
 鹿児島市医師会病院(3)川内市医師会市民病院(2)出水郡広域医療センター(1)
 南風病院(1)サザンリージョン病院(1)

他医療機関(計28)：鹿児島市立病院(3)谷山生協病院(3)屋久島徳洲会病院(2)おぐら病院(2)
 湯田内科病院(2)県立大島病院(1)栗生診療所(1)植村病院(草牟田)(1)
 福元医院(1)十島村診療所(1)三船病院(1)三宅病院(1)鹿児島徳洲会病院(1)
 玉水会病院(1)加治木温泉病院(1)リハビリテーション病院米盛(1)
 内村整形外科病院(1)相良病院(1)中央病院(1)南風病院(1)南九州病院(1)

在宅医療(計10)：当院在宅医療部(3)ナカノ在宅医療クリニック(1)五反田内科(1)
 三輪クリニック(1)指宿浩然会病院(1)訪問看護 St こもれ陽(2)
 国分訪問看護 St(1)

●図書の閲覧・貸出利用者(がん相談支援センター図書) 14名利用(貸し出し：計23冊)

●リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま 2015 於：ドルフィンポート前広場

平成27年5月9日(土)正午～10日(日)正午 呼びかけ“今給黎総合病院チーム”で参加。
 24時間リレーウォーク参加：52名 ルミナリエバッグ：計101枚

●学術実績

・講義(院内)

看護部研修クリニカルラダー	レベルⅠ	「我が国におけるがん対策と当院の現状」	植屋
〃	レベルⅡ	「マウスケアについて」	早崎
〃		ケーススタディ	早崎
〃		「エンゼルメイク」	早崎
〃	レベルⅣ	「痛みを取り除きその人らしく生活できるために ～痛みについて(概論・治療薬)」	早崎
〃		「疼痛事例検討」	早崎
サロン今給黎ミニ勉強会		「がんってどんな病気？」	早崎
〃		「ホスピスってどんなところ？」	吉國

・講演・プレゼン(院外)

尊厳死協会かごしま総会講演「健やかに生き安らかに旅立つために」	吉國
国保診療施設看護師長研修会「在宅医療の現状と緩和ケア」	植屋
がん医療を語ろうサロン(がんサポートかごしま)「ほっとサロン今給黎について」	吉國

・研修協力

緩和ケア研修ファシリテーター	今給黎総合病院	早崎・吉國・植屋
〃	南風病院	早崎
鹿児島大学看護部研修会ファシリテーター		早崎
地域相談支援フォーラム in 鹿児島		早崎・吉國・植屋

●その他の活動

- ・緩和ケアチームラウンド・カンファレンス(木曜日午後)・病棟カンファレンス・キャンサーボード参加(随時)
- ・呼吸器内科回診参加(金曜日) ・在宅医療部カンファレンス参加(第2・4火曜日)
- ・化学療法緩和ケアネットワーク(第1木曜日)・がん看護委員会(がん関連認定看護師で企画実施)(第1木曜日)
- ・緩和ケア合同カンファレンス(鹿児島市内がん拠点病院・指定病院)
- ・緩和ケアに関する地域連携会議(相良病院2回/年)・鹿児島県4部門会議(鹿大病院2回/年)
- ・緩和医療科・精神腫瘍科診療の調整・補佐・緩和ケア週間にてPR(10/4-10) 緩和ケア川柳募集
- ・パンフレット・リーフレットにより情報提供、広報・周知活動、図書館“すまいる”へパンフレット等提供
- ・誕生日カード、グリーフケア(電話・手紙での遺族ケア)・鹿児島県がん相談員メーリングリスト管理
- ・患者図書運営委員会 ・職員教育研修委員会 ・病院運営会議(第2月曜日)



感染管理課

主任 立和名聖子

当院は、平成 24 年度より感染防止対策加算 1・地域連携加算を取得している。感染防止対策加算 2 との合同カンファレンスや地域連携加算評価ラウンドの計画・調整・実施を行い連携病院とともに感染対策向上に向け取り組んでいる。院内の感染に関わる組織として院内感染防止対策委員会、感染対策チーム(以下 ICT)、感染管理課、看護部リンクナース会がある。ほぼすべての感知情報が当課に集結されるため院内の情報を整理し迅速に関係部署へ伝達・介入できるよう調整している。感染対策チームの一員として特に環境ラウンドに力を注ぎラウンド後は、報告書を作成して該当部署へ配布している。改善が必要な事象を該当部署が検討するにあたり感染管理課から改善案を提示し改善の一助になるよう努めている。その他サーベイランスの実施・評価やリンクナース会の運営、感染に係る相談、感染物品の管理方法の見直しなども行っている。今年度は、隣接する病院保育所での感染性胃腸炎発生を受けて保育所職員へ手洗いチェックを推進した。また、リハビリテーション部では、直接観察による手指衛生の確認や手指消毒剤の使用量調査を委員とともに実施し結果をフィードバックした。院内のあらゆる職種と関わり、相談しやすい環境づくりや現場と一緒に改善に向け取り組むこと、状況に応じて迅速な対策の指示を一番に考え活動している。

今後も、患者と医療従事者の両方を無用な感染から守るために日々活動していくことが責務であり院内外の関係各部署と情報共有や相談介入を積極的に実践できるよう取り組んで行く。

【スタッフ】 1 名(感染管理認定看護師)

【部門実績】

院内

- ・院内感染防止対策委員会の運営(毎月第 4 水曜日)
- ・ICT 会議、ラウンド(毎週水曜日)の調整、計画、実施
- ・看護部リンクナース会の運営(毎月第 1 火曜日)
- ・院内感染研修の計画、実施

第 1 回 全職員対象	「HIV 感染症：鹿児島県の現状と概論、針刺し事故対策」 講師：鹿児島大学病院 輸血細胞治療部 古川良尚先生	参加率 86%
第 2 回 全職員対象	「結核の現状と潜在性結核スクリーニング」 講師：オックスフォード・イムノテック(株) 諸江雄大先生 山北美佐先生	参加率 93%
その他	「全職員で取り組み感染対策」～何か起こる前に対処する～ 講師：NPO 法人日本感染管理支援協会 土井英史先生	院内 88 名 院外 18 名

- ・サーベイランス：カテーテル関連尿路感染サーベイランス(4 病棟)
カテーテル関連血流感染サーベイランス(1 病棟)
血液培養セット数に関するサーベイランス
手指消毒剤使用量サーベイランス(14 部署)
- ・院内感染防止対策マニュアルの改訂
- ・物品管理方法の検討と見直し、導入
- ・相談：71 件(患者配置 19 件、環境 8 件、就業制限 7 件、ケア手順 6 件など)
- ・手洗いチェック演習の計画(リンクナース会主導で手洗い評価、全病棟対象)
- ・インフルエンザ迅速検体採取方法の演習
- ・結核接触者健診(健診計画、保健所報告など)

院外

- ・感染防止対策加算地域連携ラウンドの調整、計画、開催

	評価対象医療機関	評価実施医療機関
10月9日	今給黎総合病院	今村病院分院
11月6日	鹿児島大学病院	鹿児島厚生連病院、今給黎総合病院

- ・感染防止対策加算合同カンファレンスの調整、計画、開催(米盛病院)

	主な内容
7月1日	レジオネラ検出報告、JANIS サーベイランス、九州厚生局個別指導適宜調査について、コリスチン処方について、抗菌薬使用状況
9月30日	流行性角結膜炎発生報告、ノロウイルスの変異株と感染対策、抗菌薬使用状況、職員のインフルエンザワクチン費用負担
12月2日	インフルエンザ抗原迅速検査採取方法、抗菌薬使用状況、感染症発生状況と感染対策
3月23日	CD検査キットについて、薬剤の使用期限周知への取り組み、抗菌薬使用状況、感染症発生状況と感染対策、ICTラウンドについて

- ・厚労省サーベイランス事業(JANIS)全入院部門
- ・相談：11件

【学術実績】

院内感染研修

4月3日	新人研修
4月10日	研修医ガイダンス「感染」
5月25日、7月13日、10月20日	看護部レベル4応用
5月26日、7月27日、10月26日	看護部レベル4基礎
6月15日～19日	MERSの概要と感染対策
9月10日、24日	看護助手研修「感染」
3月7日	看護部レベル3

院外研修講師

5月22日、7月17日、11月27日	日本感染管理ベストプラクティスSaizen研究会 鹿児島ワーキンググループ アドバイザー
6月16日	社会福祉法人厚生会 睦園 感染研修
7月23日	鹿児島県看護協会再就職者感染研修
9月17日	八反丸リハビリテーション病院 院内ラウンドと感染研修

学術実績は「研究実績」の頁へ



がん化学療法課

主任 河原尚美

【はじめに】

平成24年12月に、がん化学療法をうける患者様やご家族、または化学療法にかかわる看護師への支援を目的にがん化学療法課が新設されました。平成28年1月にがん化学療法看護認定看護師が看護部への配置転換に伴い、その務めを終了いたしました。この課が新設され、約3年ではありましたが、がん化学療法にかかわる環境調整や手技統一のための教育や患者様、ご家族への支援などその役目を果たすため、集中的に取り組むことができました。

今後、がん化学療法看護認定看護師は、看護部所属となりますが、これまで同様にごん化学療法が治療の選択肢となる治療期の患者・家族を対象に治療の決定から化学療法薬の投与管理、治療中および治療後の経過のなかで行われる身体的・心理社会的側面からの看護を実践していきます。かせられた役割をふまえ、がん化学療法に関わる全ての人々が安心して治療を行えるようサポートしていきたいと考えております。

【スタッフ】

河原 尚美 2013年 がん化学療法看護認定看護師取得

【部門実績】

- 化学療法緩和ケアネットワーク委員会（毎月第1木曜日）
- がん看護委員会開催（毎月第1木曜日）
- 外来化学療法室での直接ケア、病棟を訪問し指導
- 化学療法同意書作成への取り組み
- 龍桜高等学校専門課程1年生（H27.12/2、12/16）授業
- 久木田学園看護専門学校2年生（H27.11/19）授業
- 第13回日本臨床腫瘍学会示説発表（H27.7/16-18）
「遅発性悪心発症後、化学放射線療法終了後も長期間嘔下困難が持続した一症例」
- 第53回日本癌治療学会参加（H27.10/29-31）
- 第30回日本がん看護学会参加（H28.2/20-21）
- 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2016共同演者
「当院におけるシスプラチンショートハイドレーション法後の安全性の検討」
- がん看護に携わる認定看護師フォローアップ研修（H27.5/2、12/19）
- がんリハビリテーション研修参加（H27.5/23-24 H27.6/13-14）
- 平成27年度看護師に対する緩和ケア教育の指導者研修参加（H27.9/19）
- 第1回がん化学療法看護セミナー参加（H27.9/5）
- 平成27年度認定看護師交流研修会パネリスト（H28.1/30）

【相談】（H27.4～H28.3） 153件

（投与管理・副作用について、手技に関して、曝露に関して、血管外漏出に関して、経口抗がん剤に関して、CVポートに関して、患者への看護に関して 等）

【院内での講義】

4/10 研修医への研修	6/5 レベル3「曝露について」	8/19 ほっとサロン今給黎でのミニ勉強会「化学療法について」
9/1 CVポートの管理」1回目	11/6 レベル4「がん看護」	
1/25 「CVポートの管理」2回目		12/5 レベル1化学療法について

計 7回



施設課

課長 田中英樹

【はじめに】

当課は、病院全体の施設の管理を行う部署で、24時間体制で業務を行っています。

病院の理念、基本方針、目標に沿って目標課題を毎年設定し達成できるように業務を推進しています。

また、病院で活動する全ての方に安全で快適な環境を提供するために建物、設備のメンテナンスをサポートしています。老朽化した建物、設備に対して単純に修理・更新の手配をするのみではなく、運営方針や経費対効果を考慮した、適切な修繕計画の策定も担っています。また東日本大震災以降、大規模災害時にも、建物の機能不全に陥ることがないように、日常の点検業務・修繕に取り組んでいます。

【スタッフ】 7人体制

- 1・2級ボイラー技士、第1・2種電気工事士、危険物取り扱い、冷凍機、防火管理者等の有資格者
田中・米盛・佐々木・山元・小土橋・大迫・上赤
資格を取得することだけでなく、どんな物でも修理できる発想力の豊かさが求められます。

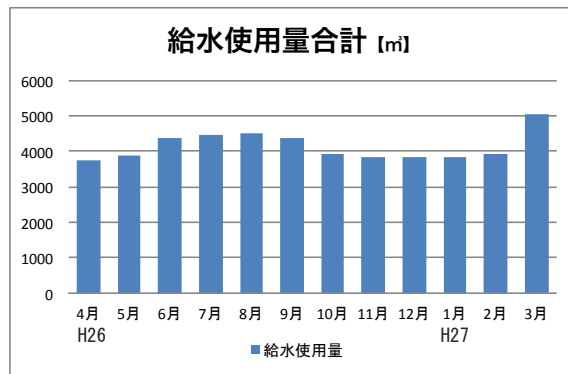
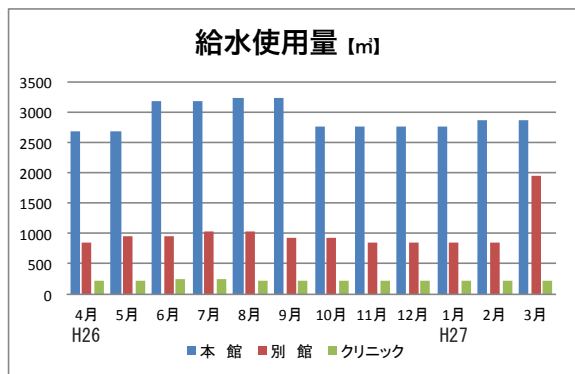
【実績】

- | | | | |
|-----|--|-----|--|
| 4月 | 本・別館冷温水機分解整備
全館害虫駆除
エレベータ点検【全館】
医療ガス研修会
防火委員会 | 11月 | 本館2号ボイラー性能検査
火祭り
ホルムアルデヒド残留濃度測定
消防設備総合点検【本・別館・クリニック】
ガス器具保守点検
本・別館冷温水機分解整備
総合防火訓練
エレベータ点検【全館】 |
| 5月 | 中材・消毒器性能検査【3缶】
本・別館、貯水槽清掃作業
クリニック電気年次精密点検
ホルムアルデヒド残留濃度測定
消防設備機器点検【本・別館・クリニック】
エレベータ点検【全館】
総合防火訓練 | 12月 | 本館1号ボイラー性能検査
エレベータ点検【全館】
コンセントプラグ点検
手術室 環境消毒清掃・清浄度測定
高圧酸素治療装置精密点検 |
| 6月 | 自動ドア総合点検
エチレンガス残留測定
エレベータ点検【全館】
コンセントプラグ点検 | 1月 | 医療ガス設備保守点検【本・別館・クリニック】
エレベータ点検【全館】 |
| 7月 | 自家発電設備精密点検
手術室消毒器性能検査【2缶】
エレベータ点検【全館】 | 2月 | 本館ストレージタンク性能検査
本・別館電気年次精密点検
窒素酸化物・ばいじん量測定
エレベータ点検【全館】
汚水検査
自動ドア総合点検 |
| 8月 | 別館ストレージタンク性能検査
窒素酸化物・ばいじん量測定
ガス器具保守点検
エレベータ点検【全館】 | 3月 | CE設備検査
ガス器具保守点検
エレベータ点検【全館】
ナースステーション空調機点検清掃
医療ガス安全管理委員会
在庫管理 |
| 9月 | 汚水検査
エレベータ点検【全館】 | | |
| 10月 | 熱交換器、分解整備
全館害虫駆除
自動ドア総合点検
エレベータ点検【全館】
防火委員会 | | |

【給水使用量実績表】
2015年4月分～2016年3月分

単位【m³】

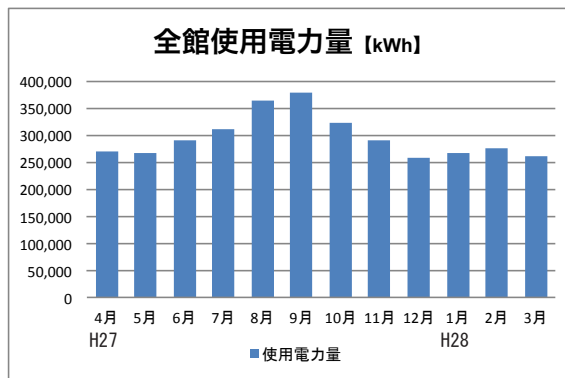
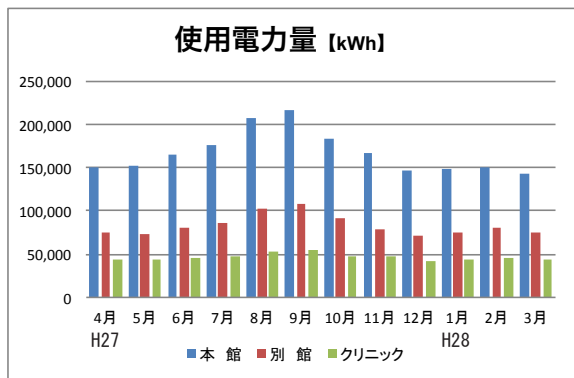
給水使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本館	2,688	2,688	3,180	3,180	3,226	3,226	2,764	2,764	2,762	2,762	2,870	2,870	34,980
別館	858	956	956	1,036	1,037	930	931	850	850	843	843	1,957	12,047
クリニック	219	219	242	243	227	227	223	223	213	214	213	214	2,677
合計	3,765	3,863	4,378	4,459	4,490	4,383	3,918	3,837	3,825	3,819	3,926	5,041	49,704



【電力使用量実績表】
2015年4月分～2016年3月分

使用電力量【kWh】

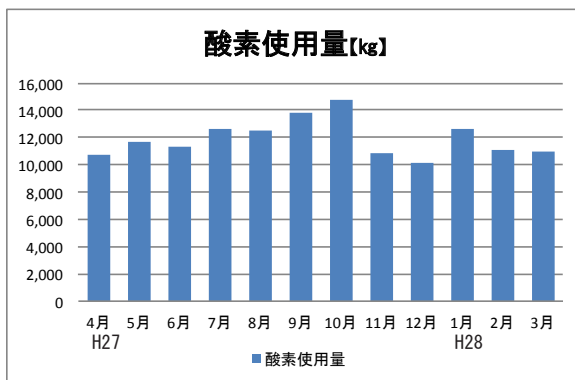
使用電力量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
本館	150,264	151,608	163,968	175,584	207,816	216,252	182,796	165,948	146,508	147,768	150,180	143,376	2,002,068
別館	75,048	72,768	80,604	86,208	103,056	107,508	91,128	78,888	70,464	74,868	80,136	74,220	994,896
クリニック	44,172	43,056	45,198	47,634	53,520	55,248	47,340	46,476	41,814	43,440	45,246	43,866	557,010
合計	269,484	267,432	289,770	309,426	364,392	379,008	321,264	291,312	258,786	266,076	275,562	261,426	3,553,938



【医療用酸素使用量実績表】
2015年4月分～2016年3月分

使用電力量【kWh】

酸素使用量	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
酸素使用量	10,738	11,685	11,339	12,636	12,566	13,815	14,766	10,830	10,183	12,681	11,107	10,922	143,268





栄養管理部

課長 上平田美樹

●スタッフ構成(平成 28 年 4 月 1 日現在)

管理栄養士 11 名、NST 専従管理栄養士 1 名、栄養士 8 名
調理師 5 名、調理員 12 名、洗浄パート 4 名、洗浄部門(委託)8 名 合計 49 名

●認定資格取得状況(平成 28 年 5 月現在)

・病態栄養専門師認定	上平田美樹	鈴木聖子	鵜瀬裕美	田中美帆	染川麻美
・NSTサポートチーム専門療養士認定	上平田美樹	鈴木聖子			
・NSTコーディネーター認定	上平田美樹	鈴木聖子			
・糖尿病療養指導士認定	上平田美樹	鵜瀬裕美	染川麻美		
・がん病栄養態専門師認定	上平田美樹	鵜瀬裕美			
・認定褥瘡管理栄養士	鈴木聖子				
・健康運動療指導士認定	鵜瀬裕美				
・特定保健従事者認定	鈴木聖子				

●栄養管理

今年度は、平成 28 年 4 月 1 日から直営式給食管理へ移行するにあたり、給食管理の見直しを中心に実施。衛生や食味に考慮した食材調達及び人員管理について準備を行いました。また、管理栄養士による病棟活動の拡充を目標とし、各チーム活動(外科・呼吸器・回復期リハへのカンファレンス参加、緩和ケア回診・脳外科回診・神経内科回診・口腔ケア回診)への参加を行い、患者様の状態把握、栄養状態の早期改善や食事対応の充実を他職種と協働して行い、患者理解と栄養介入へ繋げるよう尽力致しました。栄養指導においては、早期介入を行うためベッドサイド指導や糖尿病教室での集団指導活動、外来への栄養指導依頼の推進を行いました。

地域向けの活動として、一般市民向けの講習会や健康祭りでの食事提供や栄養指導、在宅褥瘡に携わる専門スタッフへの講演、1 型小児糖尿病患者会やサマーキャンプでのボランティア活動の他、がん患者の会(ほっとサロン今給黎)での講習会を行いました。

引き続き衛生面に配慮した食事提供、患者様の栄養管理や栄養指導の実施、アンケート調査結果を反映した食事内容の充実、緊急入院に対応する食事準備、治療食への対応などに配慮し、「安心・安全で喜ばれる給食」を目指し、給食スタッフ一丸となり取り組みました。

●栄養指導

平成 27 年度の指導実績は、入院 3,123 件(前年度比 86.7%)、今給黎総合病院外来栄養指導 192 件(前年度比 151%)、昭和会クリニック外来栄養指導 200 件(前年度比 166.7%)、合計 3,337 件(前年度比 90.6%※1)でした(疾患別内訳；図 1 参照、※1；栄養指導算定・非算定を含む実施数)。

食習慣に起因する栄養指導(高血圧・心疾患・糖尿病・肥満・脂質異常症・痛風)は 2,712 件、全体の 76.7%を占める結果となりました。今年度は、給食部門の直営化準備の為、入院患者様への栄養指導実施件数が 2 月から 3 月で大幅に減少する結果(図 2 参照)となりましたが、外来及び昭和会クリニックからの外来指導依頼件数は、いずれも増加傾向にあり、外来受診時の栄養指導の必要性も認識されてきた結果であると考えております。引き続き充実した活動と分かりやすい栄養指導を目標とし、指導技術の向上を目指し、認定資格の取得に向けた取り組みやスキル向上に励んで参りたいと思います。

図1)平成27年度 疾患別栄養指実績

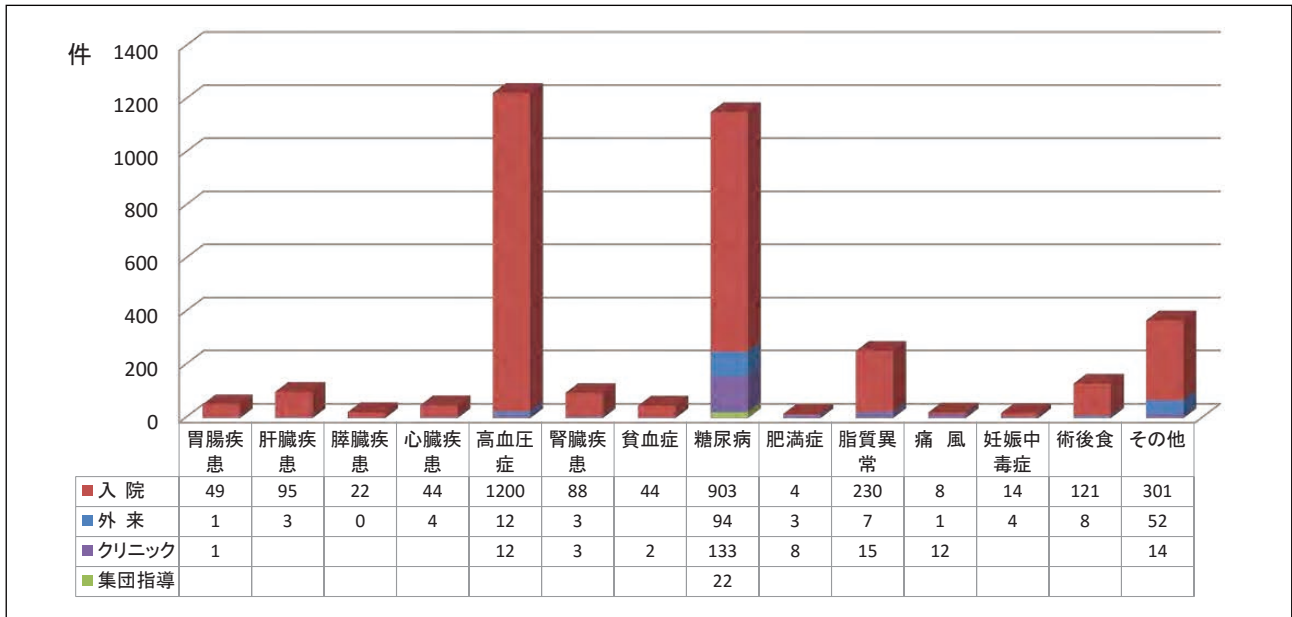
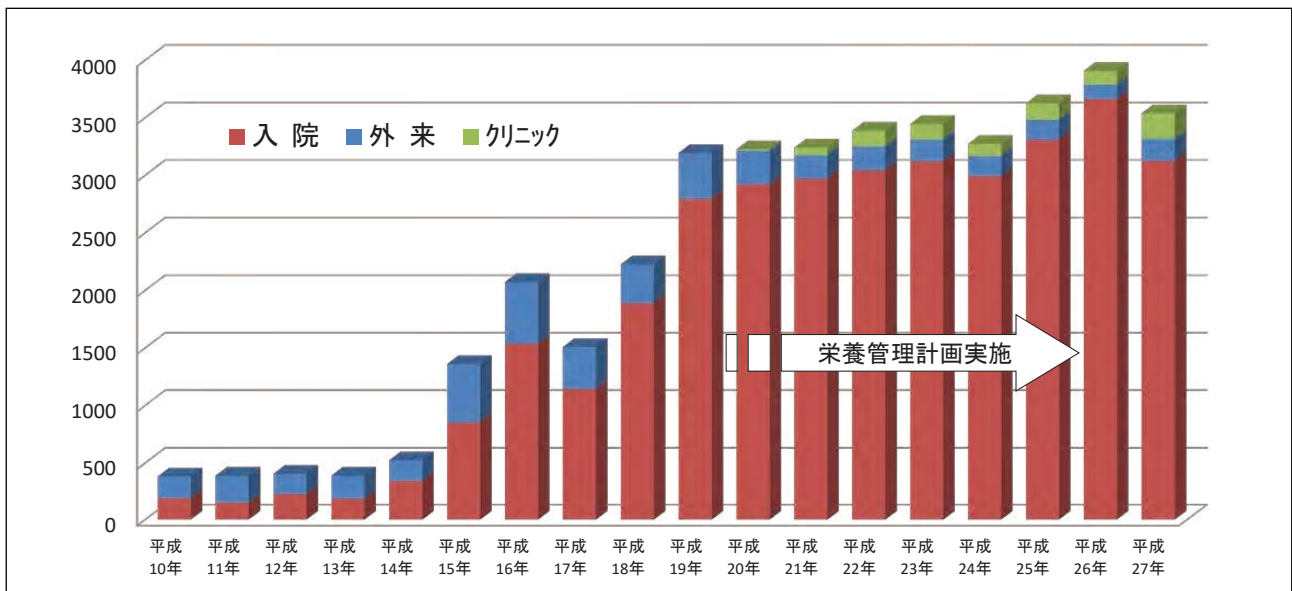


図2)年度別栄養指導件数の推移



●平成27年度 栄養管理部活動状況報告

・実習生受け入れ状況

- 平成27年8月31日～9月4日 尚絅大学短期大学部食物栄養学科2年 臨地・校外実習(病院給食実習) 1名
- 平成28年3月7日～3月18日 九州女子大学 家政学部 栄養学科 3年 臨地実習(I I)校外実習 1名

・NST専門療法士研修講座

平成27年9月16日・9月24日・9月28日・9月29日 計40時間 看護師5名(院外2名、院外3名)

・NST見学

平成28年1月26日 鹿児島生協病院見学 医師1名、薬剤師1名、栄養士1名

・インターンシップ(職場体験学習)受け入れ

- 平成26年11月12日「病院における栄養士の役割」「給食体験」鹿児島県立東高校 普通科 2名
- 平成27年7月8日「病院における栄養士の役割」「給食体験」鹿児島城西高校 トータルエステティック科 2名、ファッションデザイン科 1名
- 平成27年11月18日「病院における栄養士の役割」「給食体験」鹿児島東高校 普通科 1年 2名
- 平成28年2月2日「病院における栄養士の役割」「給食体験」明桜館高校 普通科 2年 2名

・病院施設の公開利用

- 平成27年5月23日 「みんなでいきいき健康まつり」
 栄養相談及び食事提供 栄養相談コーナー・食事提供
 協力スタッフ 上平田、鈴木、田中、染川、鵜瀬、森岡、末平
 日清医療食品 大西、中村、上平田(智)
- 平成27年7月5日 がん患者サロン 「ほっとサロン今給黎」ミニ勉強会
 「貧血を予防しよう」 講師 田中美帆
- 平成27年8月22日 上町さるつきんぐ シルミル「メディカルコース」
 「脳卒中を予防しよう～減塩レシピを体験」 講師 上平田美樹

・院外講師活動

- 平成27年8月9日 鹿児島県栄養士会 「連携した栄養管理」 講師 鈴木聖子
 平成28年3月19日 在宅褥瘡セミナー「栄養管理」 講師 鈴木聖子

・院外発表活動

- 平成27年8月1日 鹿児島県看護協会ネスレ日本(株)共催研修会
 「消化吸収に着目した経腸栄養剤の選択」 発表者 鈴木聖子

・院外ボランティア活動

- 平成27年8月7日～9日 第46回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ 鵜瀬裕美 末平亜里紗
 平成27年12月6日 1型糖尿病さくらんぼの会 運営補助 上平田美樹 鵜瀬裕美

・災害関連研修会への参加状況

- 平成27年10月24日 JDA-DAT(栄養士会 災害支援チーム)研修 上平田美樹

・院外研修会参加

・その他、研修会・学会参加状況

- 平成26年4月19日 PEG研究会(鹿児島) 田中美帆
 平成27年4月22日 リハビリテーション栄養 今とこれからの考える
 鈴木聖子、染川麻美、鵜瀬裕美、森岡万悠子、末平亜里紗、篠田佳那、松尾さやか、
 久留理恵
- 平成27年5月27日 平成27年度公益社団法人 鹿児島県栄養士会定時社員総会 松尾さやか
 平成27年5月30日31日 第15回新生児栄養フォーラム 篠田佳那
 平成27年6月6日 第20回鹿児島糖尿病スタッフセミナー 上平田美樹、鵜瀬裕美
 平成27年6月13日 第12回鹿児島NST研究会 上平田美樹、鈴木聖子、染川麻美
 平成27年6月20日 第11回ひくるすの会研究会 上平田美樹、鈴木聖子、鵜瀬裕美
 平成27年6月28日 平成27年度日本病態栄養学会主催セミナー 田中美帆、染川麻美
 平成27年7月5日 鹿児島県栄養士会 平成27年度第2回研修会 染川麻美
 平成27年7月21日 第5回糖尿病医療連携体制講習会 鵜瀬裕美、末平亜里紗
 平成27年8月1日 鹿児島県看護協会・ネスレ日本(株)共催研修会 上平田美樹、鈴木聖子
 平成27年8月9日 鹿児島県栄養士会第4回生涯教育研修会 染川麻美、末平亜里紗
 平成27年9月6日 鹿児島県栄養士会第5回生涯教育研修会 染川麻美、鵜瀬裕美
 平成27年8月7日 第46回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ 鵜瀬裕美、末平亜里紗
 平成27年8月17日 ウィズガス食フォーラム2015 松尾さやか
 平成27年8月27日 株式会社南給特別講演 美味しい病院食 ～とくに高血圧と塩分について～ 上平田美樹
 平成27年8月28日 鹿児島県リハビリテーション栄養セミナー 田中美帆、鵜瀬裕美、森岡万悠子、末平亜里紗
- 平成27年9月8日 第2回関係職種技術向上のための研修会 末平亜里紗、篠田佳那、松尾さやか
 平成27年10月9日 スマイルケア食についての研修会
 上平田美樹、田中美帆、鵜瀬裕美、末平亜里紗、篠田佳那、松尾さやか
- 平成27年10月13日 平成27年度 給食施設従事者研修会 北内範和
 平成27年10月13日 第58回鹿児島栄養代謝研究会 染川麻美、鵜瀬裕美
 平成27年10月14日 第3回関係職種技術向上のための研修会 染川麻美、鵜瀬裕美
 平成27年10月17日 運動器の10年・骨と関節の日県民公開講座 染川麻美
 平成27年10月24日 第11回鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会 鈴木聖子
 平成27年10月24日 始良・伊佐地域振興局管内給食施設連絡協議会研修会 末平亜里紗
 平成27年10月25日 鹿児島県栄養士会第6回生涯教育研修会 染川麻美
 平成27年10月27日 ネスレセミナーin鹿児島 染川麻美、鵜瀬裕美
 平成27年11月11日 平成27年度 第2回鹿児島県肝疾患診療連携ネットワーク研修会
 上平田美樹、鈴木聖子、田中美帆
- 平成27年12月6日 第1回鹿児島1型糖尿病セミナー 鵜瀬裕美
 平成28年1月9日10日 第19回日本病態栄養学会年次学術集会 田中美帆
 平成28年2月25日26日 第31回日本静脈経腸栄養学会年次学術集会 鈴木聖子



診療情報管理部

主任 畑 中 幸 子

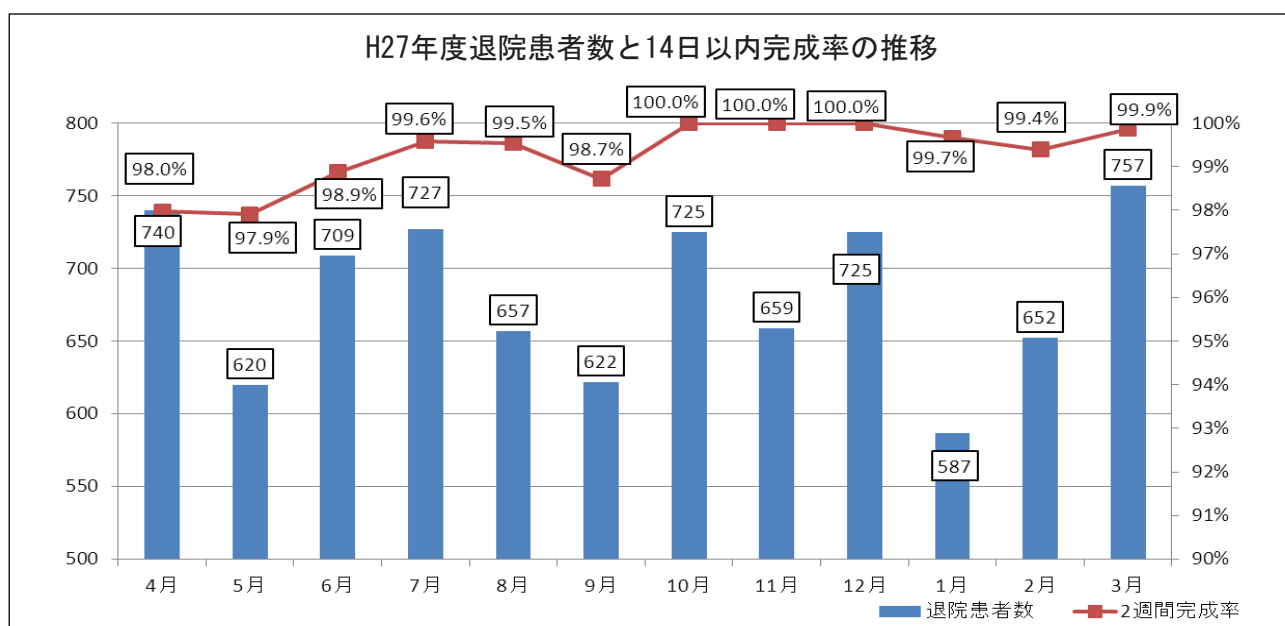
当院は、診療録管理体制加算1を算定しており、またDPC病院・地域がん診療連携拠点病院に認定されていることから、組織的な診療情報の質的向上を目的に診療情報管理部を始め病院全体で取り組んでいます。今年度は、サマリー完成率および手術記録2日以内の記載率100%および診療録監査による診療録の質の向上を目標とし取り組んで参りましたので、その実績を報告いたします。

【サマリー完成率】

◆H27年度全体

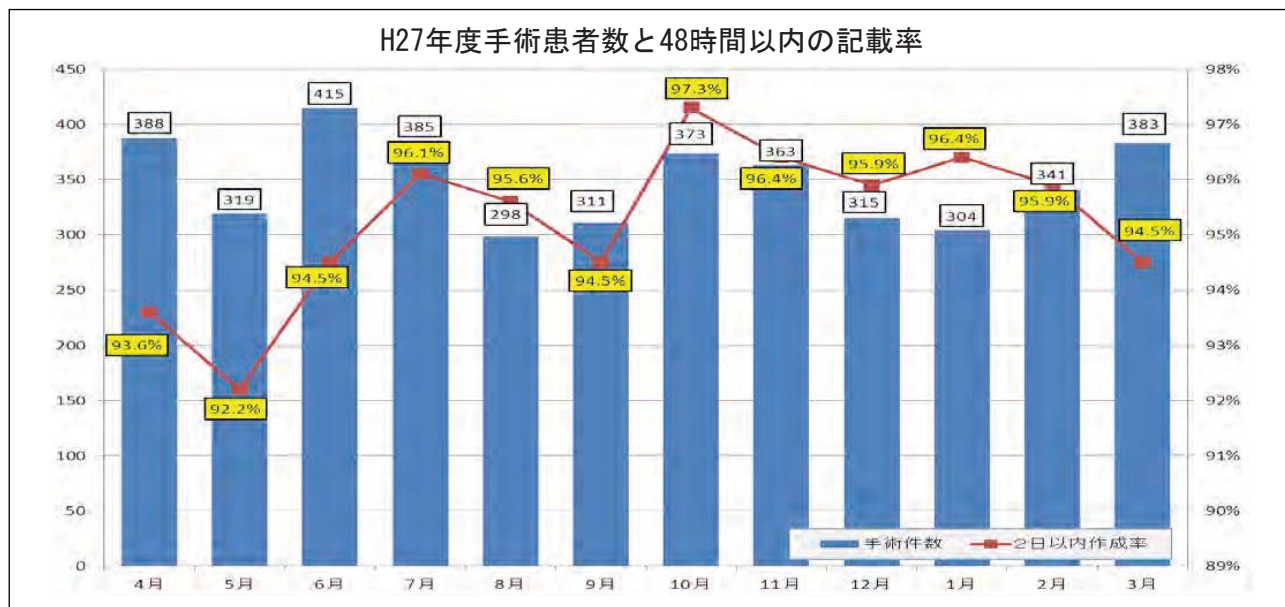
14日以内(2週間)完成率 99.3%

7日以内(1週間)完成率 86.0%



【手術記録 48 時間以内の記載率】

◆H27年度全体 95.2%



【スタッフ】 (平成 27 年度 4 月現在)

- ・畑中幸子 H13 年 4 月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務初級者・DPC コース認定
- ・黒丸恭弘 H20 年 2 月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務中級者・DPC コース認定
- ・新地佑貴 H20 年 4 月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務中級者・DPC コース認定
- ・小西佑典 H22 年 8 月入職 診療情報管理士・DPC コース認定
- ・吉永理恵 H22 年 9 月入職 診療情報管理士・院内がん登録実務初級者・DPC コース認定
- ・塩山美奈子 H25 年 4 月入職 診療情報管理士
- ・藤原和代 H10 年 8 月入職
- ・高橋和代 H17 年 3 月入職
- ・濱藺千鶴 H24 年 5 月入職
- ・鈴木由香 H24 年 5 月入職

【部門実績】

【実習受入れ】

- ・鹿児島キャリアデザイン専門学校(医療情報管理学科 3 年 1 名) 2015/5/18 ~ 2015/5/29
- ・麻生医療福祉専門学校 福岡校(診療情報管理士科 2 年 1 名) 2015/11/9 ~ 2015/12/4

【見学・視察受入れ】

- ・医療法人三愛会 整形外科三愛病院(診療情報管理士室 2 名) 2016/3/16

【病院施設の公開利用】

- ・鹿児島診療情報研究会 A・北薩ブロック会(参加者人数 23 名) 2016/2/27

【講師】

- ・畑中幸子 鹿児島キャリアデザイン専門学校「DPC について」 2016/1/20

【その他】

- ・畑中幸子 鹿児島キャリアデザイン専門学校 教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会 委員

【院外研修会参加】

- ・鹿児島診療情報管理研究会(鹿児島)
- ・鹿児島診療情報管理講習会(鹿児島)
- ・第 41 回 日本診療情報管理学会学術大会(岡山)
- ・院内がん登録研修会(鹿児島大学病院)
- ・がん四部門研修会 (鹿児島大学病院)
- ・全国がん登録説明・研修会(鹿児島県県庁)
- ・院内がん登録 中級者研修会(東京 国立がんセンター)
- ・がん診療体制の質評価調査 改善管理ツール活用セミナー(東京)

【診療録監査】 診療記録検討委員会報告 参照

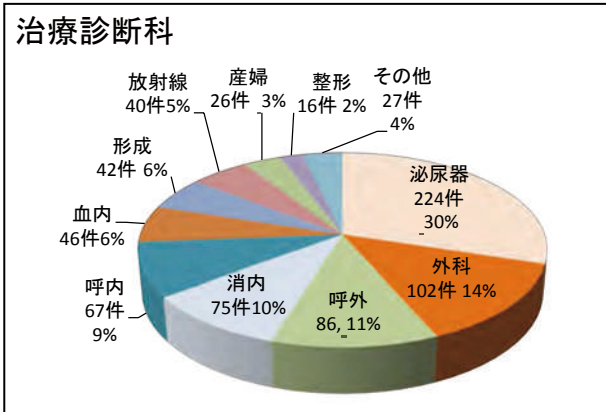
【院内がん登録集計(2014年1月1日～2014年12月31日)】

※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断および治療の対象となった症例

★1腫瘍1登録★ 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

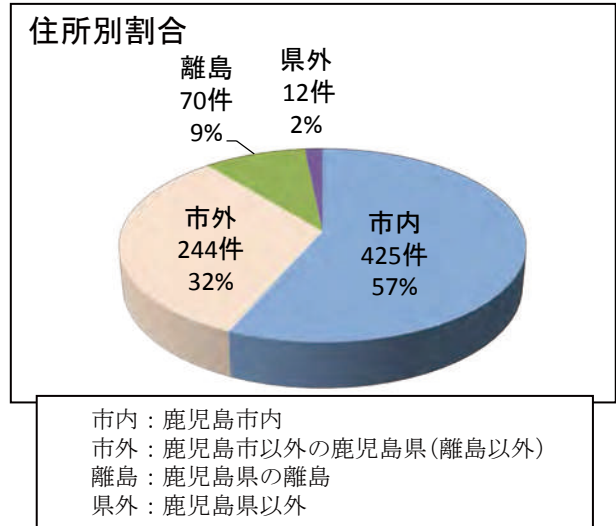
①治療診断科

診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
 治療を行った場合：初回治療を行った診療科
 どちらも行った場合は、治療をした診療科を1としています
 (例) 消化器内科にて診断、外科にて治療
 ⇒ 外科でカウント



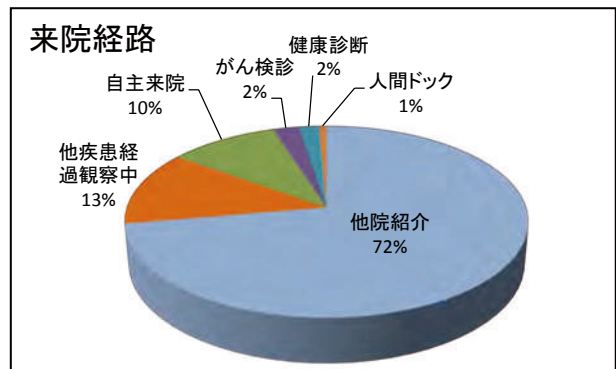
②住所別割合

患者様の居住されている地域別分類です。
 市外では多い順に、薩摩川内市 35、霧島市 25、垂水市 23、日置市 22、その他離島では、種子島が 35 で 50%を占めています



③来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。



④ 症例区分

診断治療の決定：

当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

施設診断自施設治療：

がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

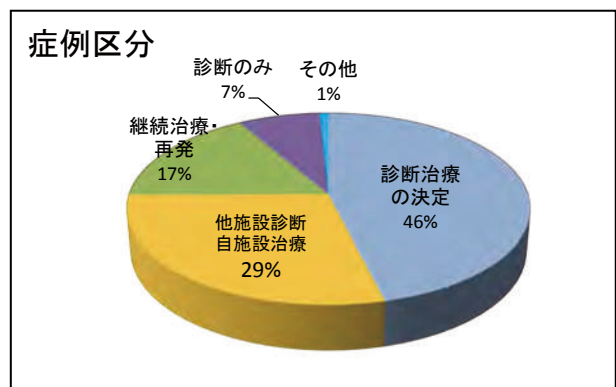
継続治療・再発：

他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例。もしくは、他施設にて治療後、再発し、当院にて治療を行った症例

診断のみの症例：

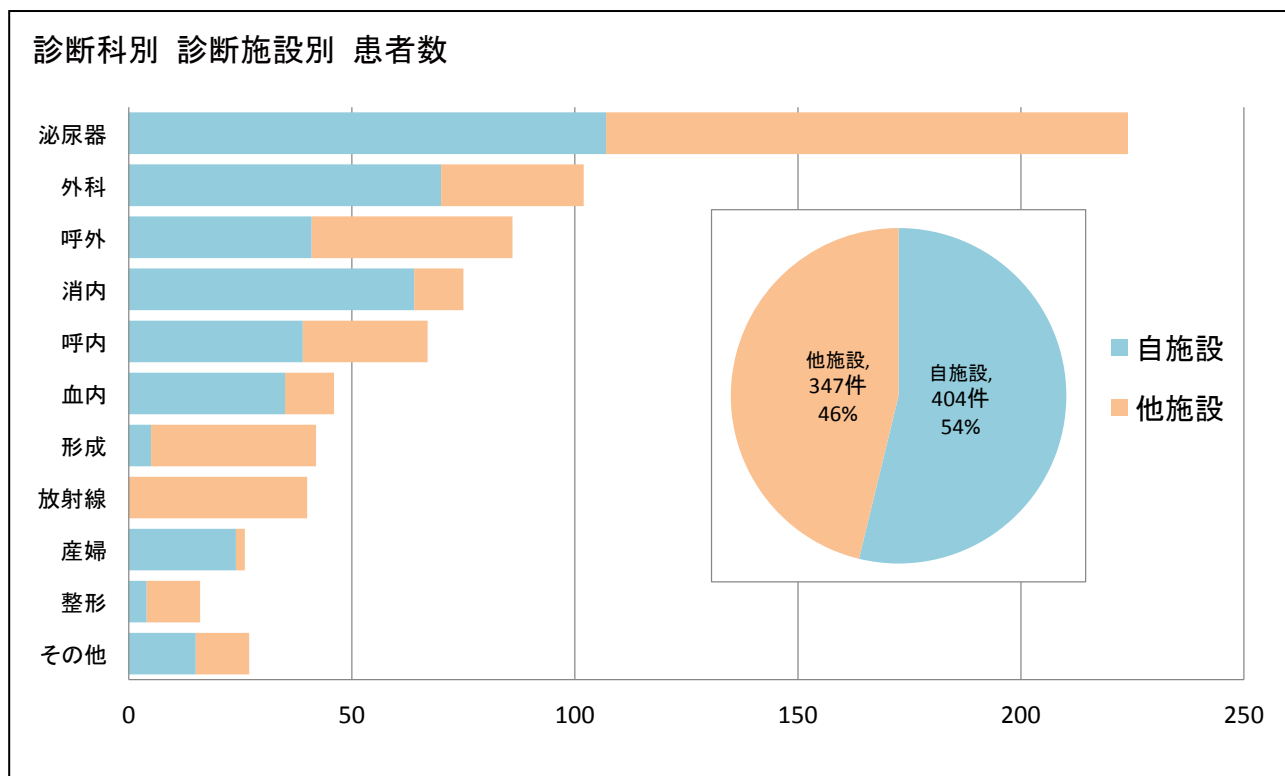
当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行ったもしくは治療を選択しなかった症例

その他：セカンドオピニオン症例



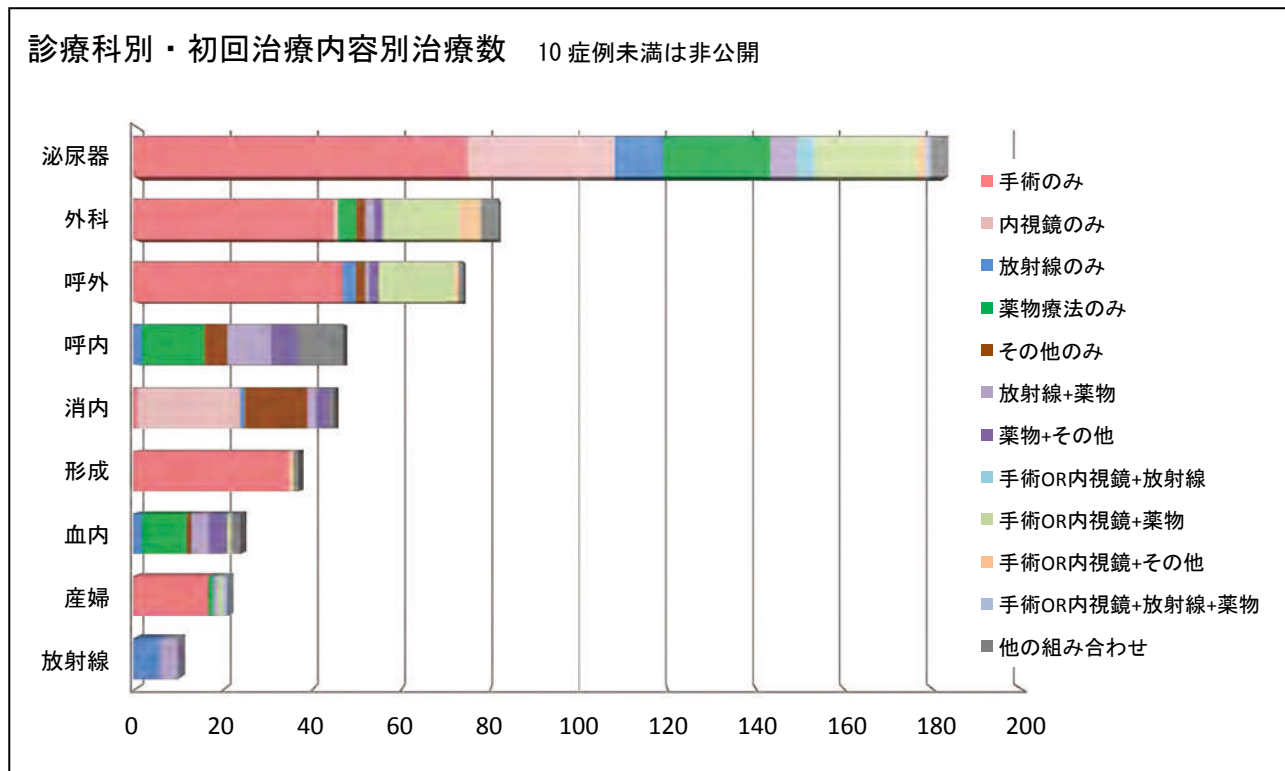
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断がどこで行われたかを診療科別で示しています。



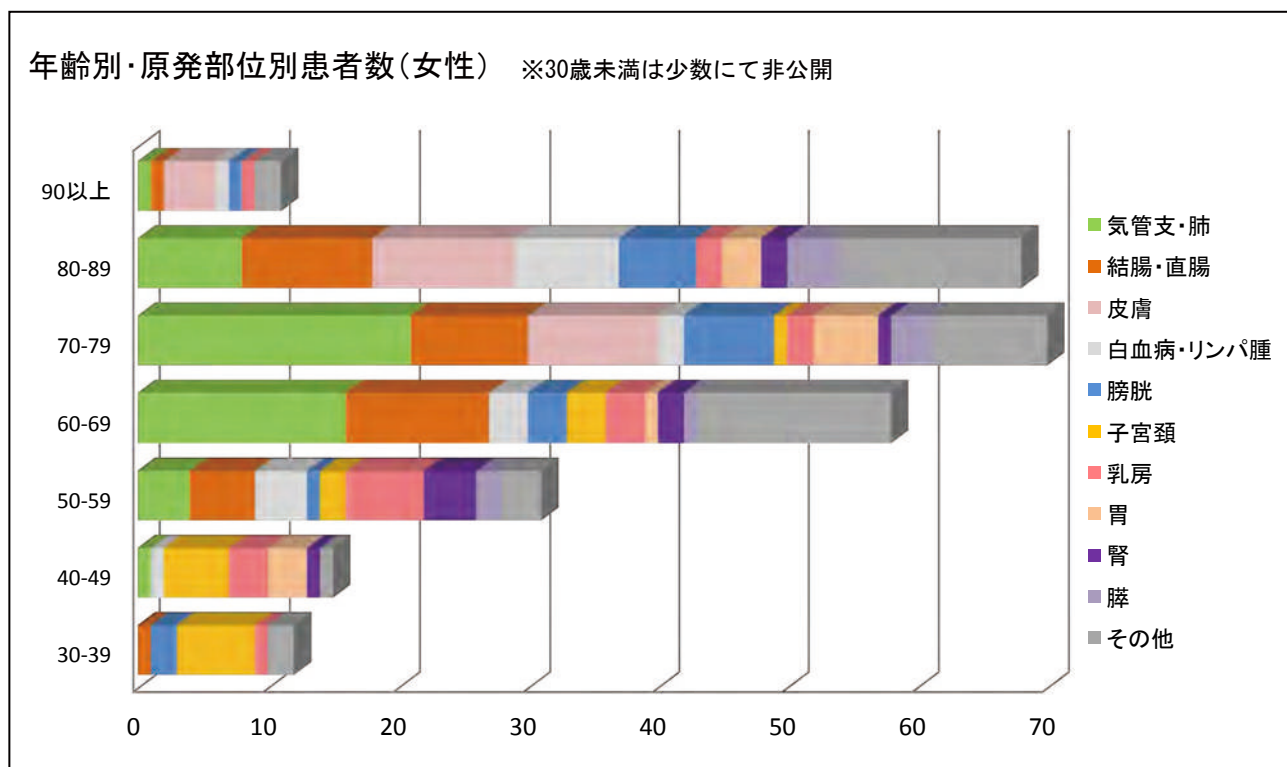
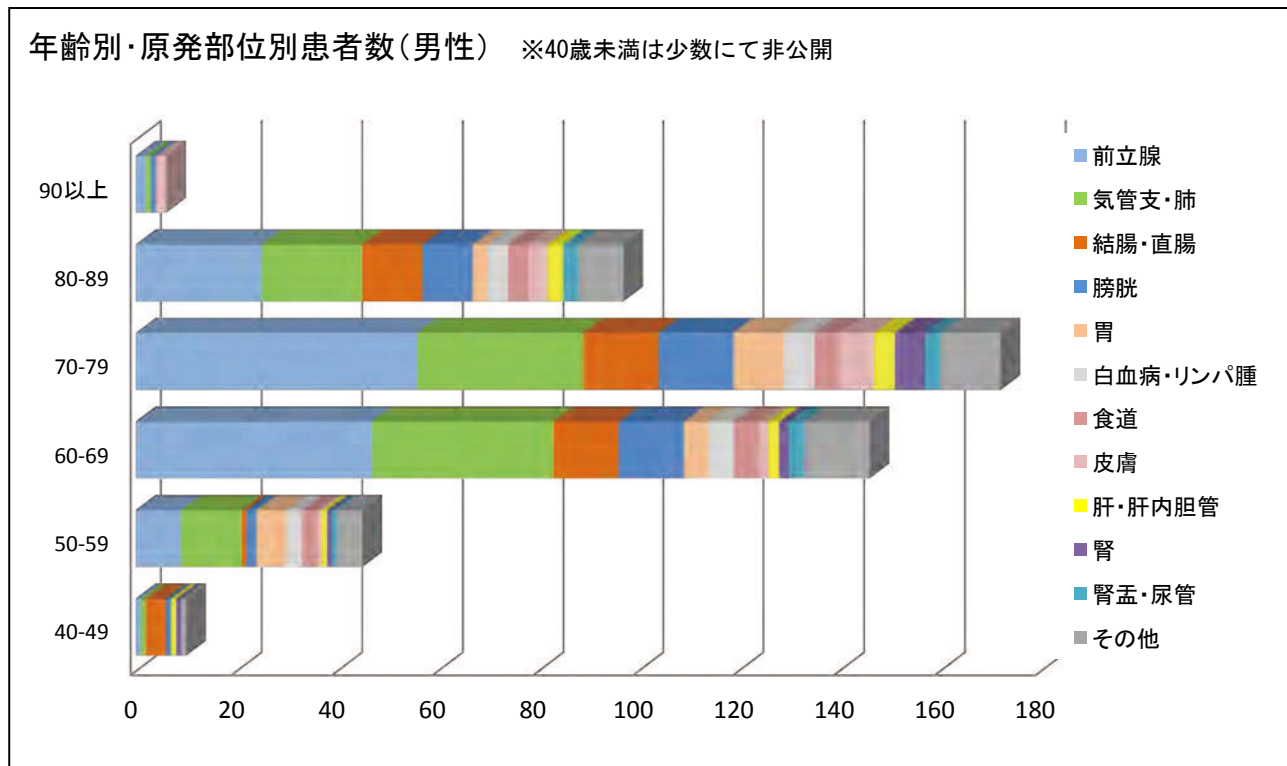
⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています



⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています





患者サポートチーム

看護副部長 岩下邦子

患者サポート窓口創設4年目。昨年より看護師1名が常駐する体制。窓口の件数は外来患者数の減少に伴うものなのか各項目が減少している。(次頁グラフ・表)

患者サポート体制は窓口対応に加え、毎週月曜日に院長、事務長、クリニック事務長、看護部長を含め13名の他、寄せられた事案に関連する部門にも参加を依頼し、窓口や意見箱に寄せられたさまざまな内容に対しカンファレンスを行なっている。その他、月1回患者サービス委員会も継続開催され、カンファレンスでの内容の共有と周知をはかっている。

【患者サポートカンファレンス担当メンバー】

昇院長、野口事務局長、有村看護部長、原口相談支援センター長、岩下副部長、中村師長、岩元(医事課主任)、伊藤(患者サポート窓口専門担当看護師)、田中施設課長、千田医療安全課課長、濱田クリニック事務長、川井田事務局長代理、益田(総務企画課)、春田(HAL)

今年度カンファレンスで検討された主な内容は、以下の通りである。

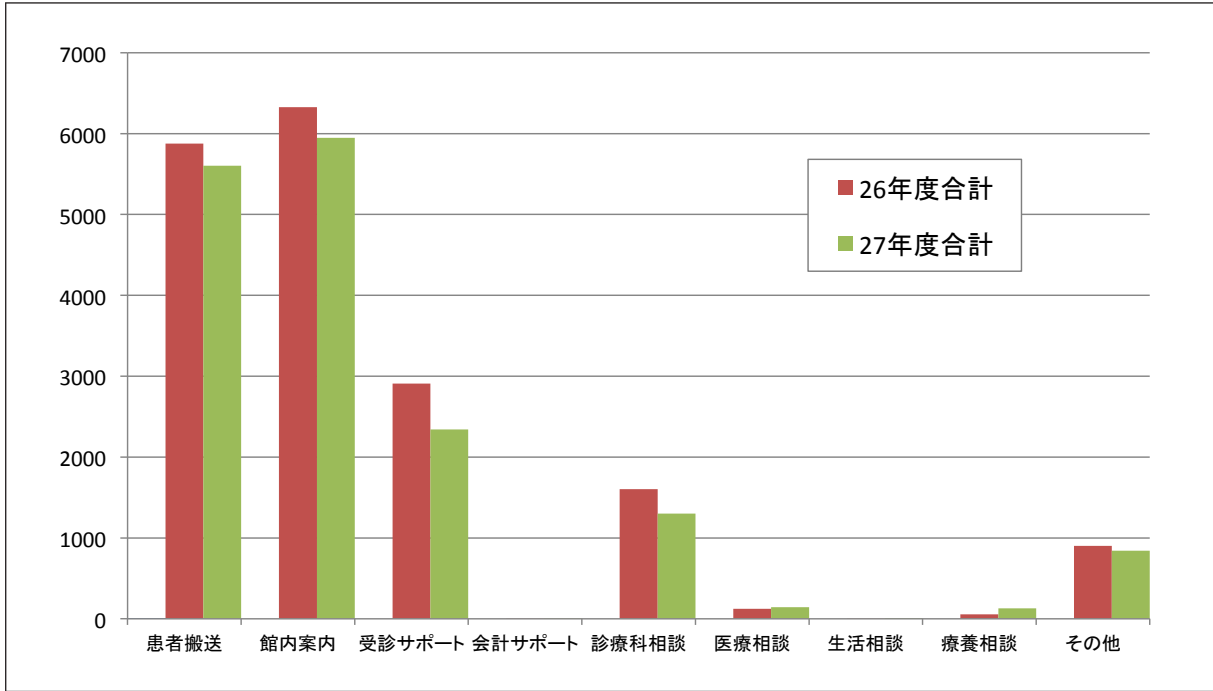
- ・職員間の接遇見直し
(通路等での会話に個人情報が含まれていた事案)
- ・別館大浴場に手すりがない→整備
- ・2東病棟の男子トイレドアのビスの緩みに対する指摘→すぐに修理・点検
- ・歩行器の点検について1回/月は定期的に点検を行なう(車いす、ストレッチャーも同様)
- ・本館玄関から市道への階段の安全確保のための対策(注意喚起テープ添付)
- ・医師の接遇改善について
- ・病室の空調改善について
- ・院内の病室案内図の変更への修正
- ・盲導犬・聴導犬・介助犬の対応マニュアルの見直し
- ・施設内清掃の検討
- ・駐車場の検討
- ・個室の備品の整備(ハンガーの設置)
- ・病院食に対するご意見
- ・ホームページのメールフォームの活用について
- ・地下通路の悪臭対策
- ・別館トイレの使用時のシグナル設置
- ・接遇スキルアップの研修外部委託等の検討
→各部門ごとに研修
- ・外来患者の番号呼出運用について
- ・搬送車の運転技能向上について→外部機関にて研修実施

このほか、これまで不定期実施や、一部の部門だけが行なってきた患者満足度調査を今年度1月より、4ヶ月に1度の体制で開始した。

【27年度患者サポート窓口利用集計】

	患者搬送	館内案内	受診サポート	会計サポート	診療科相談	医療相談	生活相談	療養相談	その他
4月	503	522	245	0	116	10	1	7	68
5月	485	492	223	1	123	11	1	5	60
6月	530	570	236	0	111	16	1	6	78
7月	556	579	200	0	130	9	1	4	77
8月	431	439	176	2	124	9	0	4	60
9月	447	485	166	1	92	12	2	5	82
10月	484	536	220	0	118	10	0	16	114
11月	449	490	184	0	119	15	0	11	102
12月	416	428	200	3	111	11	3	19	108
1月	395	423	153	0	81	9	0	11	0
2月	453	484	176	1	87	19	0	17	92
3月	453	498	163	0	89	13	0	25	0
総数	5,602	5,946	2,342	8	1,301	144	9	130	841
月平均	467	496	195	1	108	12	1	11	70

【患者様サポート相談窓口項目別対応件数と月平均の26年度と27年度の比較】



	患者搬送	館内案内	受診サポート	会計サポート	診療科相談	医療相談	生活相談	療養相談	その他
26年度月平均	490	527	242	0	134	10	0	5	75
27年度月平均	467	496	195	1	108	12	1	11	70
26年度合計	5,875	6,326	2,908	4	1,604	125	2	54	902
27年度合計	5,602	5,946	2,342	8	1,301	144	9	130	841

12月24日
患者サービス委員会

患者満足度調査について

来年1月より入院患者さまを対象に下記の内容で患者満足度調査を開始いたします。
これまでの患者サービス委員会等で行っていた部門から、設備、運用面についての項目も入れてほしいという要望もございましたが、今回の調査では、これまで意見箱に多く寄せられた接遇に特化して実施したいと思います。調査様式は末尾に添付しております。ご不明な点がございましたら、患者サポート窓口（4060）または看護部若下（4501）までご連絡下さい。

実施要領

◆開始・実施時期◆
H28年1月より4回開始。調査時期は下記の4回実施いたします。
1月1日～末日 4月1日～末日 7月1日～末日 10月1日～末日

◆配布対象・配布方法◆
入院患者全員。ただし同月複数回入院されている場合は1回目の入院時のみ配布いたします。また対象患者が乳幼児や意識障害などご自分で回答できないケースは、ご家族にお配りし記入をお願いして下さい。
配布時期は、退院決定後、各病棟にて配布をお願いします。

◆回収方法◆
患者サポート窓口に戻り回収箱を設置し、その箱に投函していただくように文書に記載しております。

◆集計◆
患者サポート委員会のメンバーで分担いたします。

◆結果◆
患者サポートカンファレンスにて検討し、患者サービス委員会でも公表し、共有をはかりたいと考えています。併せて院内掲示も予定しています。
また、今後の接遇研修内容の参考資料として活用いたします。

患者様満足度調査

ご記入は10分程度必要です。24時間体制の体制で、医療にあつたります。患者様は安心・安全・快適に過ごされることを目指して、設備・運用面についての項目も入れてほしいという要望もございましたが、今回の調査では、これまで意見箱に多く寄せられた接遇に特化して実施したいと思います。調査様式は末尾に添付しております。ご不明な点がございましたら、患者サポート窓口（4060）または看護部若下（4501）までご連絡下さい。

＜質問項目に、◎で記載ください＞

1. 医師の病名や治療などの説明についてお聞きします

質問項目	回答が満足したか	回答が不満
1. 病状や検査結果について説明は十分でしたか		
2. 治療方針や手術について説明は十分でしたか		
3. 薬の名称や副作用について説明は十分でしたか		
4. 検査や治療の目的について説明は十分でしたか		
5. その他、感じられた内容を具体的に記入下さい		

2. 医師の相談対応についてお聞きします

質問項目	回答が満足したか	回答が不満
1. 医師に自由に相談できる環境でしたか		
2. 相談する時間帯は十分でしたか		
3. 相談に対する態度は十分でしたか		
4. 医師の話しやすさについて		
5. その他、感じられた内容を具体的に記入下さい		

3. 看護員の対応が生活に支障についてお聞きします

質問項目	回答が満足したか	回答が不満
1. 看護師の対応が生活に支障をきたしていませんか		
2. 看護師の対応が生活に支障をきたしていませんか		
3. ナースコールの対応が生活に支障をきたしていませんか		
4. ナースの対応が生活に支障をきたしていませんか		
5. ナースの対応が生活に支障をきたしていませんか		
6. 看護士の対応が生活に支障をきたしていませんか		
7. その他、感じられた内容を具体的に記入下さい		

裏面もご記入下さい

＜質問項目に、◎で記載ください＞

4. 看護員の相談対応についてお聞きします

質問項目	回答が満足したか	回答が不満
1. 自由に相談できる環境でしたか		
2. 相談する時間帯は十分でしたか		
3. 相談に対する態度は十分でしたか		
4. 相談に対する説明は十分でしたか		
5. その他、感じられた内容を具体的に記入下さい		

5. 看護員の対応が生活に支障についてお聞きします

質問項目	回答が満足したか	回答が不満
1. 看護師の対応が生活に支障をきたしていませんか		
2. 看護師の対応が生活に支障をきたしていませんか		
3. ナースコールの対応が生活に支障をきたしていませんか		
4. ナースの対応が生活に支障をきたしていませんか		
5. ナースの対応が生活に支障をきたしていませんか		
6. 看護士の対応が生活に支障をきたしていませんか		
7. その他、感じられた内容を具体的に記入下さい		

◎が記入された項目に◎を記入してください
2次・2次・MCU・3次・3次・3中・4次・4次・ICU
2次・2次・3次・3次・4次

6. 医師への要望を◎で記載ください（下記に記入下さい）

ご協力ありがとうございました。

【患者様満足度調査票】



事務部

事務局長 野口桂一

特記事項

平成28年1月31日 赤ちゃん専用救急車「MOJOKA1号」導入
2月15日 鹿児島市交通局跡地優先交渉権取得

1. 院内行事

5月9日・10日	リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま	
5月18日～21日	職員健診	862名実施
5月23日	みんなでイキイキ健康まつり	一般来場者310名受付
7月4日	リフレッシュ研修	
8月20日	鹿児島県臨床研修病院見学ツアーAコース	県外医学生
10月24日・25日	がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会	10名参加
11月18日～20日	職員健診	388名実施
3月25日	入社式	
3月29日	新入職員研修～社会人としての心構え～	
3月30日	新人職員研修～接遇研修～	

2. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動

毎月第一木曜日	病院周辺清掃活動 主任級以上20名程度で活動	
6月24日	鹿児島県赤十字血液センター 当院リニアックセンター前駐車場にて集団献血	25名実施
11月26日	鹿児島県赤十字血液センター献血 当院リニアックセンター前駐車場にて集団献血	17人実施

3. 入院患者不在者投票実施

4月12日執行	鹿児島県議会議員選挙 不在者投票	16名実施
2月28日執行	東串良町長及び東串良町議会議員補欠選挙 不在者投票	1名実施

4. 各種補助金関係

<ul style="list-style-type: none"> ・へき地医療拠点病院運営費補助金 ・医師臨床研修費等補助金 ・がん診療連携拠点病院整備事業補助金 ・周産期母子医療センター ・病院内保育所運営補助事業 ・産科医等確保支援事業補助金 	} 以上6つの項目において 申請手続きを行った
---	----------------------------

5. その他の活動報告

乳がん検診	154名受付	
乳がん検診	127名受付	
子宮がん検診	137名受付	
大腸がん検診	59名受付	
低線量CT肺がん検診	62名受付	
9月9日	多数傷病者発生事故救急訓練における電話連絡訓練	
8月6日	南九州地区洋上救急支援協議会	1名参加
9月9日	多数傷病者発生事故救急訓練における電話連絡訓練	

10月5日	産科退院患者による「おぎゃー献金」を日母おぎゃー献金基金へ献金	22,700円
12月28日	リレー・フォー・ライフかごしまへ募金	112,901円
11月28日	第4回九州・沖縄ブロック地域相談支援フォーラム in 鹿児島 実行委員	1名派遣
1月16日・17日	ALSOプロバイダーコース@鹿児島	5名派遣
2月16日	小児在宅療養研修会 鹿児島県医師会館	5名派遣
3月12日	小児在宅療養研修会 天文館ビジョンホール	3名派遣

6. 教育研修

10月24日	接遇マナー研修～電話対応～	事務部9名参加
1月27日	接遇サービス研修～外来診療窓口スタッフ研修～	診療補助部22名・看護部2名参加
3月29日	新入職員研修～ビジネスマナー研修～	診療補助部2名参加
3月30日	接遇サービス研修～外来診療窓口スタッフ研修～	診療補助部18名参加

7. 会計監査

①公益法人監査

鹿児島県の公益法人監査が平成27年10月14日に実施された。

検査員は、保健福祉部の社会福祉課課長補佐1名と保健医療福祉課主査1名の計2名で、検査内容は「平成27年度公益法人等検査点検書」をもとに財務会計と法務関係について質疑応答という形で行われました。

検査の結果、特に指摘・指導事項はありませんでした。

②監査法人監査（北三会計社）

平成26年度 現金実査・棚卸立会平成27年4月2日・3日

下半期監査平成27年5月25日・26日

決算監査平成27年6月9日・10日

平成27年度 上半期監査平成28年1月26日・27日

8. 平成27年度購入物品（100万円以上の物品）

購入日	購入品
4月6日	ビデオ軟性鼻咽喉鏡性鼻咽喉鏡
4月30日	体重計
6月23日	スライサー
6月23日	超音波画像診断装置①
7月7日	超音波画像診断装置②
7月13日	麻酔システム
7月14日	超音波画像診断装置①
8月31日	超音波画像診断装置②
9月24日	移動型デジタル式汎用一体型X線透視診断装置
9月28日	自動採血管準備装置（2台）
9月29日	ナビゲーションユニット（2台）
9月29日	電動式骨手術器械
9月29日	色素レーザー
9月30日	人工呼吸器（2台）
10月21日	婦人科用診療・処置台
10月29日	医用内視鏡（2台）
11月30日	眼科用手術台
12月17日	ホルタ解析装置

購入日	購入品
1月29日	浸透圧分析装置
1月29日	レゼクトスコープ（2台）
3月28日	微生物由来成分分析装置
3月31日	冷凍・冷蔵庫
3月31日	オーブン（2台）
3月31日	デジタル式歯科用パノラマX線診断装置

会議・委員会活動報告

IV

- 各会議
- 法令関連
- 医療安全
- 医療の質向上
- 教育研修推進
- 病院運営
- 地域サービス



病院業務運営会議

【目的】

総合医療推進に伴い、病院運営上の実務についての連絡調整、意見集約を図りながら、より充実したチーム医療を構築する。

【本会議の開催】 毎月第2月曜日 (18:00～19:30)

【出席者】

理事長、院長、各科部長、各科医師、看護部長、看護師長、薬局長、放射線・検査技師長
療法士長、栄養管理課長、事務局長、事務部課長、各責任者

本会議は、病院運営上において、原動力的会議として位置づけされ、毎月1回開催されている。各科各部署よりの連絡事項、報告、問題点、提案等を提議して、多面的な立場より検討し『より適切な医療とサービスの提供』を目標にしている。

本年度も多くの課題が検討され、医療機能の質の向上・改善が図られた。

今回の一番の目玉は、当院の念願であった病院移転・新築のことであるが、2月15日に鹿児島市交通局跡地において優先交渉権を獲得したことである。老朽化が激しく、職員もどうなるのか動向が注目されていたが、やっと1本の道筋ができた。28年度は、病院建築関係が主な取り組みとなっていくであろうが、病院の将来像をしっかりと見極め、さらなる地域医療に貢献していく病院づくりを目指していかねばならない。それには全職員の協力が不可欠となるだけに、士気を高め、移転に向けて精進していく必要がある。

今後も、患者様はじめ、地域医療関係機関へ、更なる貢献向上に向けて、全職員一体となり、取り組んで行きたいと考える。

《今年度の主な検討事項》

- ・各部署からの現状実績報告
- ・各委員会からの報告
- ・収入支出報告、稼働状況報告
- ・医療安全・院内感染対策
- ・サマリー、診療記録監査、がん登録報告
- ・7対1、ICU入院料報告
- ・各講演会関係開催
- ・在日数短縮、病床利用率
- ・インフル、ノロウイルス対策
- ・病院移転関係 他



薬事委員会

【目的・目標】 採用薬の整理・後発品への切替え

【構成員】

大久保幸一 昇卓夫 中目康彦 大場一郎 野口桂一 末吉美津代 前嶋一友 高橋真理

【平成27年度活動内容】

平成27年度は、新規採用・削除薬を審議する定期の薬事委員会を第85回～88回まで4回開催した。新規採用薬は34品目、新規採用に伴い9品目を削除した。

平成26年診療報酬改定DPC機能評価係数Ⅱの見直しにより、後発医薬品係数が新設されたことを受け、後発医薬品への切替えを検討する薬剤をほぼ毎月提示している。今年度は内服薬53剤、注射薬29剤、外用剤6剤の計88剤を後発品へ切替えた。その結果、後発医薬品係数は平成27年度0.00832であったが、平成28年度は評価上限値0.01058となった。後発医薬品の使用割合を数量ベースで見た後発医薬品置換率は71.8%となり、前年度39.1%より大幅に上昇した。

分子標的薬・生物学的製剤など高額な薬剤が増えてきており、薬剤費は年々増加している。前年度と比較した薬剤費の増加額は昨年度8,500万円だったが、今年度は7,100万円であった。医療収入に対する薬剤費率は昨年度より0.7%増加し、12.5%となった。

薬剤費率(医療収入に対する薬剤費の割合)と薬剤費に対する後発品の割合 前年度との比較

	平成26年度		平成27年度		平成28年度
	合計	月平均	合計	月平均	
医療収入	9,860,579,845	821,714,987	9,895,557,926	824,629,827	
薬剤費	1,165,893,769	97,157,814	1,236,925,856	103,077,154	
薬剤費率	11.8%		12.5%		
後発品金額	103,785,429	8,648,786	111,631,062	9,302,589	
後発品割合(金額)	8.90%		9.02%		
後発医薬品置換率 (前年9月までの1年間の値)	30.45%		39.18%		71.8%
後発医薬品係数	0.00736		0.00832		0.01058

●平成28年度の後発医薬品指数は、平成26年10月から平成27年9月までの後発医薬品置換率に応じて決められる。後発医薬品置換率(=後発医薬品使用数量/後発品が発売されている医薬品の使用数量 *使用数量は薬価単位)70%の場合、後発医薬品指数は0.01058となる。

後発医薬品係数による今年度の診療報酬を試算してみた。平成27年度当院の後発医薬品係数は0.00832であった。平成27年度当院のDPC対象患者数は7,743名、全入院患者数の94.6%であり、DPCの1日平均収入55,730円、平均在院日数15.8日であった。これらのデータより、後発医薬品係数0.00832による収入は年間4,100万円ほどと試算され、これはDPC総収入の0.6%にあたる。

後発医薬品係数は、加算上限の後発医薬品置換率を現在の70%から80%に上げることが検討されている。今後も定期的に後発医薬品への切替えと採用薬の適正化を検討し、薬剤費の増加を少しでも抑えられるよう努めていきたい。



[法令関連]

委員長 牟禮 洋 報告 前野 浩一

労働安全衛生委員会

【目的】

職員の健康保持及び職場の環境衛生の改善について必要な事項を定め、職場の勤務能力を向上させる。

【活動報告】

1. 労働環境衛生、施設等の改善
2. 職員の健康保持の判定及び事務処理に関する事
3. 職員の疾病予防に関する事
4. 常時飲食物を扱う職員の保菌検査及び保健衛生や指導に関する事
5. 放射線技師及び放射線科に勤務する職員の保健衛生や指導に関する事
6. 夜勤を行う職員の保健衛生や指導に関する事
7. その他衛生管理に必要な事

【総括】

今年度も例年どおり、5月に全体の職員健康診断、11月に電離放射線・深夜業務従事者健診、インフルエンザ予防接種と予定をこなした。

委員会の議題は、医師の時間外集計表を毎月報告し、状況把握、問題点改善、時間外過多の医師にはストレスチェックを実施し、改善に努めた。

職員全員に対し、いよいよ始まるストレスチェックに重点を置き、職員向けに説明会を開催し、意向を伺い、委員会でいろいろと検討してきた。すべての業務を外部委託する方向で一致した為、一番いい手段、いい方法を検討し、実施していきたいと思う。

今年度は、職員の健康に関する講演会を開催することが出来なかったため、1年に1回は何らかのテーマで健康を促す講演会をしていきたいと思う。



[法令関連]

委員長 白濱 浩 報告 東 貴史

個人情報保護推進委員会

【構成員】

白濱 浩 昇 卓夫 藤山 みどり 岩下 邦子 千田 清美 吉満 実 平原 千代子
飯伏 順一 篠原 なつき 壽 明伸 上田平 美樹 兒島 邦幸 堀 雅之 永井 美由紀 横路 久美
松下 智美 上野 健人 新地 佑貴 山内 久法 東 貴史

当委員会は、毎月第3月曜日午後5時より開催しております。

漏洩などが発生しないように、書類の入れ間違いやFAX誤送信のないように、職員同士によるダブルチェックの徹底を実施。また、職員による院内巡視(年2回)を実施し、個人情報患者様に目につきやすい部分がないか確認し、指導、改善を行っております。

平成27年度は、個人情報保護推進委員会、医療安全対策委員会合同の全職員対象研修会を開催するにあたり、鹿児島県警察本部 生活環境課 サイバー犯罪対策室 担当者をお招きし、「インターネットの危険性と対策」をテーマとして研修会を5回実施しました。職員、職員家族へも、インターネット使用の危険性や対策を知り得る良い研修会となりました。

今後も研修会を開催し、職員教育、漏洩防止を行っていく予定です。



[法令関連]

委員長 昇 卓夫 報告 佐々木 守

防火対策委員会

【目的】

火災の予防及び火災発生時の対応について、日常的に職員の防火意識の高揚と防火訓練の立案・計画・実施等により、患者様・職員の人命を守る事を最大の目的とする。

本委員会の第一目標は、火災発生時の初期消火と患者様の人命救助である。

日常においては、消火設備、非常ベルの位置、避難経路の確保及び周知、廊下の物品管理、消火設備・防火戸の前に物を置かない等、職員の防火意識向上を図ることである。

今年度も、鹿児島市消防局中央消防署上町分遣隊立ち合いのもと、消防への通報・初期消火・避難誘導の防火総合訓練を2回実施した。訓練では、患者の避難誘導・担架による搬出方法などまだまだ改善が必要である。また、実際に消火器を使用した消火訓練を行い取り扱い方法の周知を図った。

今後も、火災予防の意識と実際の火災時に職員が落ち着いて行動、判断出来るよう基本的な訓練は怠らず本委員会を通じて、職員一人一人の防火意識の向上に努めたい。

【構成員】 病院長（委員長）、事務長、看護部長、看護副部長、各部火元責任者（26名）

【平成27年度の主な活動】

- H27.4 鹿児島市自衛防火協会定期総会（事務長出席）
- 4/28 本委員会開催（27名出席）
- 5/13～5/16 消防設備機器点検（4日間）
- 5/28 昼間想定防火訓練実施（通報・初期消火・避難誘導） 118名参加
消火器取扱い（6名実施）
- 6/30 防火訓練反省会（24名出席）
- 10/22 中央消防署査察
- 10/26 本委員会開催（24名出席）
- 11/13 第54回自衛消防隊消火競技会出場（男子3名、女子3名）
- 11/26 昼間想定防火訓練実施（通報・初期消火・避難誘導） 125名参加
- 11/2～11/6 消防設備総合点検（5日間）



[法令関連]

委員長 生野 博久 報告 前島 一友

治験審査委員会

昨年度に引き続き、新日本科学臨床薬理研究所がSMO(治験施設支援機関)として参加して頂きました。委員会に関しては毎月開催しています。

本年度の当施設における審査対象試験

● 昭和会クリニック神経内科実施試験

- キッセイ薬品工業株式会社の依頼によるKPS-0373の脊髄小脳変性症患者を対象とした長期継続投与試験〔第Ⅲ相試験〕
- 大日本住友製薬株式会社依頼による、AD-810Nのパーキンソン病を対象とした二重盲検群間比較による検証的試験〔第Ⅲ相試験〕
- 日本セルヴィエ株式会社依頼によるアルツハイマー型認知症患者を対象としたS47445の第Ⅱ相試験

今給黎総合病院実施試験は昨年度1試験に対し、本年度は0試験であり、昭和会クリニック実施試験は昨年度と同様3試験であった。また、院外からの審査依頼試験数は昨年度3試験に対し、本年度は4試験であった。審査依頼施設としては、川原泌尿器科、天保山内科であった。

来年度は当院、昭和会クリニックでの実施試験数の増加及び外部医療機関の治験審査依頼数の増加に努めていきたいと考えます。



医療ガス設備安全管理委員会

【点検活動実績】

- *エチレンオキシド・ホルマリン作業環境測定 5月・11月 / 年2回
- *医療ガス配管設備年次点検 12月 / 4日間
- *7トンCEタンク(液体酸素)点検 / 2月
- *医療ガス設備安全管理委員会 / 3月
- *高気圧酸素治療装置点検 12月 / 2日間
- *新人看護師医療ガス研修 / 3月

*医療ガスの使用量は病院の売り上げに比例します。

【目的、目標】 医療ガスの安全及び管理について審議し決定し以て医療事故防止を図る

【委員会議事録】

1. Q. サツマ酸素工業の点検の指摘事項にOP室の空気リール式アウトレットホースの経年劣化による交換は実施されましたか。今までの交換実績とホースの対応年数はどのくらいですか。
 - A. アウトレットホースは三重構造になっております。現在はホースを折り曲げた点検で表面のひび割れを確認できる程度でホースなどに洩れなどはありません。今まで空気リール式アウトレットホースの交換の記録もなく、信頼性に欠く点もありますので、交換の準備をしたいと思います。ホースの耐久年数は使用環境に左右されるので一概に年数はお答えできません。
2. Q. アウトレットパッキン交換を多数されておりますが、どのような基準で交換をされていますか、また点検から交換実施までの期間が空いているのは何故ですか。
 - A. 月例点検で漏れ箇所を見つけて交換することもあります。そのほとんどが病棟からの連絡によるところにあります。交換の基準は特になく、洩れたらパッキン交換、もしくは本体交換で対処しているのが現状です。現在も3東特定室の空気アウトレットパッキン交換が出来ておりません。理由としては交換対象のアウトレットを使用している患者様が人工呼吸器を使用中であることです。病棟師長にはパッキン交換が必要であることは報告済みで、連絡待ちです。交換時は3階病棟の圧縮空気送気バルブを遮断する必要があります。3西・3中央病棟の圧縮空気の使用状況の兼ね合いもありますので各病棟とも事前に確認・準備をしたいと思います。
3. Q. 5分間停電の予定日は決まりましたか
 - A. 5月21日です。齋藤さんより ①. 完全に当病院の発電機能を失った場合は吸引ポンプ・圧縮空気などの電気でモーター駆動するものは供給が不可能になります。②. 空気ボンベと窒素ボンベの色が共に灰色で接続方法も同じです。十分な確認取り違えのないようにをお願いします。(対策：空気のみ札あり)
4. 医療ガス取扱い講習会を2015年3月29日に新人看護師対象に行います。新人看護師対象とありますが講習の参加に制限はありませんので、興味のある方は参加してください。

27年度委員会日時：3月18日 16:00～17:00 7階カンファレンス室

出席者名簿

役付委員又は役割	名 前	病院内職務名	欠席理由
委員長・・・・総括責任者	牟 禮 洋	副院長	
副委員長	池 田 耕 自	麻酔科部長	緊急手術
副委員長	有 村 智 代	看護部長	
委員(監督責任者)	田 中 英 樹	施設課長	
委 員	東 美 津 子	サプライ師長	
委 員	田 中 か す み	IC 師長	
委 員	藤 山 み どり	看護副部長	出張
委 員	齋 藤 謙 一	臨床工学部 技士長	
委 員	坂 口 聖 治	事務局	病欠
委 員	寿 明 伸	薬剤師	
委 員	米 盛 正 志	施設課	

出席者：10名 欠席：1名 代理出席2名 藤山 → 岩下 坂口 → 越間



栄養管理委員会

【目的】 患者栄養管理の内容充実、栄養管理業務の改善向上

【会議内容】 院内約束食事箋・入院患者の嗜好調査に関する事項
入院及び外来患者様の栄養指導に関する事項
栄養管理及び給食管理業務に関する事項
NST・医療安全管理に関する事項
電子カルテ使用に関する事項
給食委託管理、委託連携に関する事項

【構成員】 院長・事務長・看護部長・副看護部長 2 名・病棟師長 5 名
栄養管理部課長(管理栄養士)1 名・NST 専従管理栄養士 1 名
給食委託管理部 1 名・栄養士チーフ 1 名・調理スタッフ 1 名

【平成 27 年度の活動内容及び取り組み】

＝平成 27 年＝

- 4 月 食事摂取基準改定のポイント(2015 年度版)、食塩量引き下げについて
年齢構成及び加重平均栄養所要量の見直し・院内約束食事箋の規約一部改定
- 5 月 前年度インシデントアクシデント報告及び対策
- 6 月 第 1 回エレベーター工事における給食提供シミュレーション及び分担作業確認
- 7 月 第 2 回エレベーター工事における給食提供シミュレーション及び分担作業確認
食品アレルギー対応について(確認方法の再確認・業務フロー改定)
- 8 月 食事アンケート調査実施(全病棟の一般常食・全粥食の方を対象)
エレベーター工事対応における食事提供(実施後の反省を踏まえ)
- 9 月 食事アンケート結果報告(配布数 90 名、回答数 77 名：回収率 86%)
災害対策(Action Card 栄養管理部用作成)
災害時備蓄食品の試食及び購入準備
- 10 月 ノロウイルス対策強化・感染拡大防止策検討
- 11 月 災害対策(Action Card 一部改定)
ワーファリン内服時における併用禁忌対策
- 12 月 外来栄養指導依頼件数増加に対する取り組みについて

＝平成 28 年＝

- 1 月 食事アンケート実施(平成 28 年 1 月 26 日配布)
給食部門直営化の進捗状況報告
- 2 月 災害時食事提供についての取り組み(パン食準備)
食事オーダー締切り時間についての検討(3 月 9 日より変更)
- 3 月 厨房大型機器導入検討(スチームコンベクション、プラストチラー、チルド庫)
給食部門直営化に向けた準備及び報告事項
食事アンケート結果報告(配布数 105 名、回答数 83 名：回収率 79.0%)



放射線安全管理委員会

【目的】

本委員会は、「予防規程」及び「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律」(以下「法」という)の今給黎総合病院における運用について審議し「予防規程」及び「法」の目的とする放射線障害の発生の防止と、公共の安全を確保することを目的とする。

開催日：平成28年7月4日(木)17:00～

出席者：20名

- (1) 本院院長
- (2) 放射線治療部長(放射線安全管理委員会委員長・放射線取扱主任者兼務)
- (3) 医療安全対策委員長・産業医・他専任医療安全管理課長等
- (4) 事務部(事務局長・総務・施設課)
- (5) 看護部(副看護部長等)
- (6) 中央放射線部(業務従事者等)
- (7) 医療相談室長他

【議事】

1. 前年度(27年度)報告

(1) 放射線障害防止法に基づく職務審議案件報告

- ①業務従事者の登録とその教育・訓練・健康診断及び被曝管理に関すること
 - ・実効線量5ミリシーベルト以上の被ばく者なし
 - ・電離健診(前期5月、後期11月)2回実施
 - ・教育講演を実施。放射線取扱実務者研修会・放射線障害防止法講習会等への参加。(27年11、12月に教育講演の実施を行い47名の参加あり)
 - ・業務従事者の新規登録は1名
- ②放射線作業及び安全管理に関すること
 - ・リングバッジ等の追加を行った
- ③放射線施設や放射性同位元素等・放射線発生装置の管理及び運用に関する事で年末年始や5月の連休は、休みを4日以上明けないで放射線治療実施
- ④帳簿・書類の記帳及び保管に関すること
 - 7月保健所による医療監視を受ける。障害防止法関係の確認も受ける

(2) 安全管理報告について

- ①27年度安全管理報告書より
 - ダブルチェックや指差確認の実行をしっかりと励行する
- ②各部門責任者より安全管理についての報告有り(分析評価を行った)

(3) その他の対応(活動・装置の更新等)

- ①PACSのクラウド化やお部屋にDRポータブル装置の導入などを図った

2. 28年度計画案件等について

- ①被ばく実効線量減少への取り組み(定期的に教育講演を実施する)を行う
- ②不備の無いよう医療監視の準備を行う
- ③がん診療連携拠点病院等で必要な認定資格取得(複数取得)へ努める
- ④退職者等に伴う放射線障害予防規程の各種委員・担当者の一部変更を10月より実施

以上

*上記の項目に対して、報告協議し了承を頂きました。次回については、来年の6・7月に開催(臨時招集はその都度)予定です。



化学療法緩和ケアネットワーク委員会

【目的】

本委員会は、院内で行われているがん化学療法の問題点などを議論し解決策を見出すことを目的としている。さらに院内で実施されている化学療法のレジメン(治療内容)の妥当性を評価し、承認する。また、外来化学療法室の現状を報告し、問題点を洗い出し、解決策を見出す。そして、緩和ケアに関する問題点を議論し、院内で統一化を計る。

【構成員】

委員長 米田 敏(呼吸器外科)

委員 濱之上 雅博(外科) 今給黎 尚幸(呼吸器外科) 山本 耕三(呼吸器外科)
小濱 浩介(血液内科) 立和田 得志(泌尿器科)
財間 富士子、前畠 一友、中目 貴子、尾上 博隆、堀内 智弘(薬剤部)
古市 寿子(リハ) 田中 美帆(栄養管理部) 福徳 里佳、田中 泉美(医事課)

【看護部】※退職者、異動者を含む

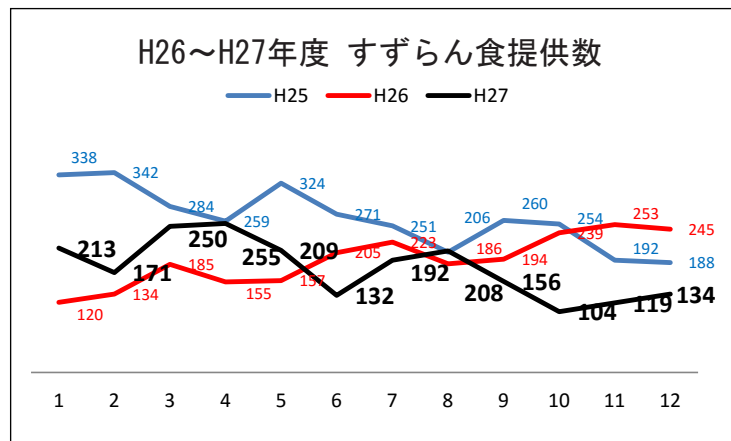
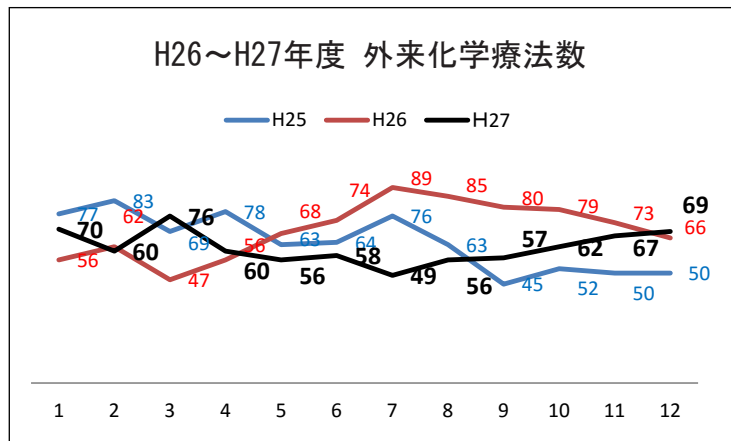
酒匂 英子、税所 克代、(2西) 中村 章子、吉谷 茜、村崎 まこと(2東)
有菌 さつき、恒吉 ひろみ(3東) 水元 英子、松寄 有香(3西)
上野 京、新徳 まゆみ、赤崎 みずえ、芝 こずえ(2北) 稲森 優子、斎藤 潔子(2南)
尾堂 知子、布市 多美子、加治屋 加代子(外来)
植屋 明代、大西 玲子、岩山 友紀(緩和医療課) 河原 尚美(がん化学療法課)

【平成 27 年度活動内容】

毎月1回 第1木曜日(17時30分～)

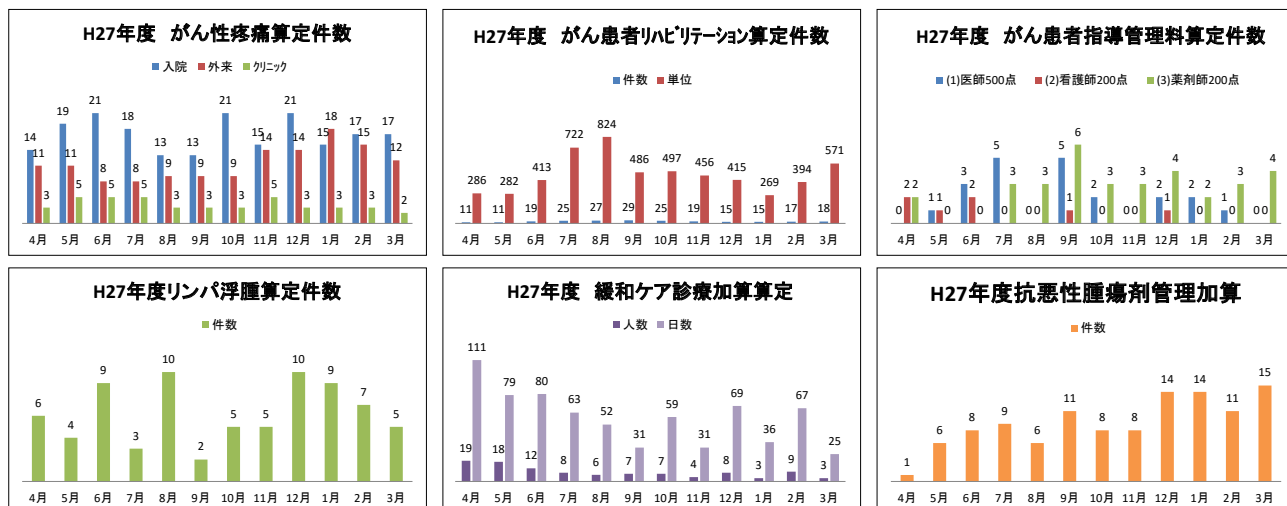
- ・ 毎月の外来化学療法実績報告
- ・ 院内の化学療法数・主な有害事象報告、化学療法に関わる医療安全事案、解決すべき問題点の提案が行われた。
- ※特にアレルギーや血管外漏出などの報告、情報を共有することができた。

・ 栄養管理部(右図)



・医事課

算定報告並びに化学療法・緩和ケアに関する診療報酬改定内容の説明

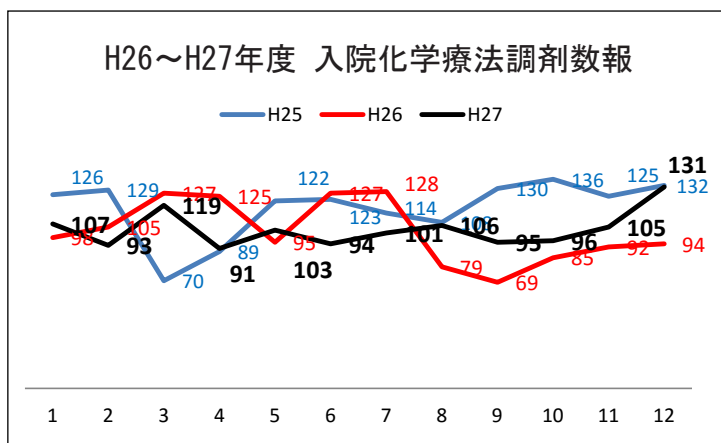


・緩和ケア

ほっとサロン案内、緩和ケア研修会案内(詳しい内容に関しては、緩和医療課の項参照)

・薬剤部

毎月、入院化学療法調剤数報告



●薬剤に関する情報提供

- 生食 500 をテルモからヒカリへ製剤変更について
- エンドキサン規格見直しについて
- 蛋白尿に対するアバスタチン・サイラムザ治療継続判定基準について
- リツキサン投与速度変更について
- インフルエンザワクチン接種時期について
- ナウゼリンについて(Domperidone は、成人、小児とも、最小有効量で使用すべきである。その理由は、60 歳以上の患者と 1 日用量が 30 mg 以上の患者では特に、重篤な心室性不整脈や心突然死のリスク上昇との関連が疑われているためである。医薬品安全性情報 Vol. 9 No. 25(2011/12/08))

などを報告した。

・医師

新規レジメン登録について

承認月	申請診療科	レジメン名	適応がん
4月	外科	SOX	胃がん
	外科	XELOX	胃がん
5月	血液内科	ポテリジオ	ATL
	呼吸器内科	カルセド	肺がん
	血液内科	リツキサシ前処置をロキソプロフェロン→カロナール	
7月	外科	サイラムザ+パクリタキセル	胃がん
		サイラムザ単剤	胃がん
		エルプラットアレルギー予防レジメン	大腸がん
9月	血液内科	ロイナーゼ	悪性リンパ腫
10月	外科	AC療法	乳がん
12月	血液内科	GDP療法	悪性リンパ腫
1月	呼吸器内科	オブジーボ療法	非小細胞肺癌
3月	血液内科	SMAILE療法	悪性リンパ腫

以上、12件が申請され、すべて承認された。

●オブジーボ使用について

副作用対策や適用疾患拡大の可能性があるので、一度、医師の話し合いの中でオブジーボに対する副作用対策について話し合う機会を設けることにする

・その他

●20%マンニトール注射液について使用上の注意

●抗がん剤のこぼれなど曝露時の対策キット（スピルキット）の配布場所と使用についての依頼。

●血管外漏出处置のアルゴリズム改変について

アントラサイクリン系薬剤の漏出時、医師の判断でサビーン（効能効果：アントラサイクリン系抗悪性腫瘍剤の血管外漏出）を使用することもあることをアルゴリズムに加えた。

●第84回薬事委員会報告 化学療法中止報告書の集計

■薬剤部で無菌調製後、化学療法が中止となり廃棄した薬剤 2014年1月～12月までの報告より

2014年 13件 合計（¥824,719） ちなみに2013年 7件 合計（¥282,466）

2014年度は、2013年度に比べ件数は約2倍、合計金額で2.9倍の増加となっている。

内訳をみると、投与後に有害事象等で中止となったやむをえない例は、8件。

●薬剤のバーコード認証について（最近、抗がん剤未認証が多数報告されている。）

●化学療法に関する同意書について（同意書を作成し、使用していただけるよう説明を行った。）

●がんリハビリテーションについて（がんリハの対象者及びオーダー方法についての説明、がんリハ中止基準の提案）

●ゾレドロン酸点滴静注やランマーク使用による顎骨壊死の可能性のある症例報告

●抗がん剤使用時における過敏症出現時の対応手順についてアルゴリズムを作成



DPCコーディング委員会

【活動報告】

当委員会は、年4回(4、7、10、1月)開催しております。(今年度は事情により2回の開催となりました)
委員の構成は、病院長をはじめとして副院長、事務局長、診療情報管理士、医事課スタッフ20名
総勢約24名で構成されます。

【目的】

標準的な診断及び治療方法について院内で周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする。

【構成員】

委員長	牟礼 洋(副院長)		
委員	昇 卓夫(病院長)	野口 桂一(事務局長)	畑中 幸子(診療情報管理士)
	上唐湊 芳一(医事課長)	東 貴史(医事課長補佐)	坂口 聖治(ICU医事担当)
	永野 一彰(2 東医事担当)	柿木 浩希(3 東医事担当)	越間 北斗(4 西医事担当)
	岩元 正子(手術室医事担当)	道岡 美香(2 西・N・GCU 医事担当)	
	東 知子(3 中央医事担当)	針山 朋美(2 南医事担当)	小湊 麻美(2 北医事担当)
	米満 久美(4 北医事担当)	若松 めぐみ(2 東医事担当)	福德 里佳(3 西医事担当)
	河野 真子(3 北医事担当)	中村 亜希子(3 南医事担当)	田中 博子(2 北医事担当)
	岡元 麻衣(4 北医事担当)	谷口 捺未(2 東医事担当)	田淵 ひとみ(4 西医事担当)

議事内容としまして、様々な報告、提案をしています。

【議題】

- | | |
|---|--|
| <p>27. 4 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討(小児科)
月別入院期間日数を提示(26. 4-27. 2)
小児科 DPC 主要疾患一覧を提出。圧倒的に肺炎の分類が多い ・平成 27 年度医療機関別係数の変更点について
効率性と救急医療係数がマイナス
救急医療係数の取り組みについて議論 | <p>28. 1 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例検討(脳神経外科)
脳梗塞と延髄外側症候群と低酸素脳症との比較検討 ・平成 27 年度医療機関別係数の変更と考察について
マイナス項目の係数と改善策
救急医療係数の分析 ・DPC チェック報告
変更となった診断群分類コード、変更なし、確認中の診断群分類コードの報告 ・改正前算定ルール等の見直しについて
入院日Ⅲ超の出来高ルールについて
差額調整の仕組みについて
CCP マトリックスについて
様式1の見直しについて 等々 |
|---|--|

【総括】

適切なコーディングを行うために、関係部署でよく議論し診療報酬請求業務等を行っております。
症例検討等は医事スタッフにより輪番で議題を提出しています。

また、ICDの知識が浅いと誤ったコードにより、診療報酬請求業務にも影響がありますので、皆でより一層の向上を図りたいと考えております。

先生方にもDPC制度・請求業務に関して啓発活動をもう少しできたらと思います。

また、DPCのデータを提出していることから行政や患者さんからの評価も受けているとの認識をもち、正確なデータが提出できるよう日々精進していきたいと考えております。

**【目的】**

本委員会は医療安全対策の確立を促進し、もっと適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。また、医療事故発生時の適切な対応及び医療事故等の経験を無駄にしないため、原因分析と再発防止策を検討の上、安全教育の場にフィードバックするなど、医療の質の確保と向上および職員の安全に関わるスキルの向上を目指すものである。

【平成 27 年度委員会構成員】

松永俊二（委員長）、牟礼洋（副委員長）、昇卓夫、丸山芳一、古賀喬充、有村智代、藤山みどり、岩下邦子、千田清美（専従医療安全管理者）、長野みつ美（専従医療安全管理者）、下前百合香、高橋真理（医薬品安全管理者）、室屋純一、今堀貴之、児島邦幸、齊藤健一（医療機器安全管理者）、徳永敬之、鈴木聖子、野口桂一、原口一博、濱田敏彦、岩元正子、田中英樹、中間誠、益田阿佑美（外部）東京海上日動メディカルサービス株式会社メディカルリスクマネジメント室
玉利英子、工藤千佳（年4回）

【今年度の主な活動】

※看護安全対策委員会との連携

- ・同委員会で特に課題となったアクシデント報告の再検討と対策を図る

※毎週医療安全管理責任者により、インシデント管理システムによる、内容分類別、事象レベル×発生月別、事象レベル別の報告あり、検討を加える

※医療安全推進週間 11月22日～11月28日
(安全標語・ポスター作成、レポート入力促進)

※医療安全推進月間 12月1日～1月31日

1. 安全は名前確認から
2. 医療者のリスクセンスが患者さんの安全を守ります
3. 重要な検査結果は患者さんへ説明しましょう！
3つのテーマを提示し各部署で取り組んだ

※医療安全対策研修会（2回/年）

< 1回目 >平成27年10月30日、31日の2日間実施
追加研修6回実施

- ・全職員対象：総参加者数726名
「KYT の考え方と方法を部署の安全対策に生かそう」
講師：東京海上日動メディカルサービス株式会社メディカルリスクマネジメント室 玉利英子先生

< 2回目 >平成28年3月10日実施
追加研修4回実施

- ・全職員対象：総参加数817名
「インターネットの危険性と対策」
講師：鹿児島県警察本部生活環境課サイバー犯罪対策室 田代耕基先生

※その他、主な検討実施事項

- ・安全管理報告書の集計結果と改善策の提示
- ・安全管理のための方策の提示
- ・リスクマネジメント関連情報の検討
- ・安全管理に関連する委員会からの報告、情報提供
- ・評価機構の安全情報の検討
- ・医薬品、医療機器材料、褥瘡管理者よりの安全情報の検討
- ・安全管理部門カンファレンスの実施（毎週月曜）
- ・院内避難経路・施設ラウンド
- ・患者様離棟・離院時のチェックリスト策定



病院感染防止対策委員会

【目的】

院内感染の発生を未然に防止することや院内感染が発生した場合における緊急対策など院内感染防止対策に関する問題の原因分析、改善策を審議し諸施策の査定などを行うことを目的とする。病院長直属の顧問機関とし最終的な意思決定機関として機能する。

【構成員】

委員長 丸山芳一(神経内科、ICD)

副委員長 川島寿史(呼吸器内科医師)、立和名聖子(感染管理課)

委員 昇卓夫(病院長)、古賀喬充(歯科口腔外科医師)、有村智代、藤山みどり、岩下邦子、近藤ひとみ、酒匂英子、古川秀子、中村章子、水元英子、末吉美津代、有菌さつき、郡山リカ、田中かすみ、東美津子、橋口恒夫、尾堂知子、上野京、稲森優子、尾ノ上稲子、山下真理恵、上ノ町和子、上之蘭洋子(看護部)松野下恵子(病床管理部)、村中利也(中央検査部)、高橋真理、久津輪久世、児玉理子、山之内樹里(薬剤部)、肥後真(病理部)、永山照明(放射線部)、木下知恵、鶴田絵里香(リハビリテーション部)、上平田美樹(栄養管理部)、小野純子(在宅医療部)、齋藤謙一(臨床工学部)、千田清美(医療安全管理課)、野口佳一(事務局長)、今堀小百合(中央検査部 議事記録)

Infection Control Team (ICT)

丸山芳一(ICD)、川島寿史(医師)、立和名聖子(CNIC)、村中利也(ICMT)、久津輪久世(BCPIC)、児玉理子、山之内樹里(薬剤師)、田中かすみ、横山睦美(看護部)、山本あかり(総務企画課)、日高章洋(用度課)

【平成 27 年度活動内容及び実績】

昨年度に引き続き病院感染防止対策委員会と ICT の 2 本柱で院内感染防止対策に尽力した。

定例会議は、毎月第 4 水曜日に開催され耐性菌や抗菌薬使用状況報告、事案検討、感染症発生に対する院内感染対策の確認と周知などが行われた。緊急会議事案はなかった。

今年度は、昨年のインフルエンザ対応を受けて感染発生時の病室、病棟閉鎖の連絡体制の見直しを行った。また、インフルエンザによる院内の面会制限開始、解除基準を検討した。委員会で承認後、速やかに病院感染防止対策マニュアルへ掲載した。

院内感染事例では、鹿児島県の流行発生注意報発令を受け 1 月 29 日より面会制限レベル 1(面会者、全職員マスク着用) 2 月 15 日より面会制限レベル 2(マスク着用継続、子供の面会制限) と感染対策を強化した。4 月 11 日に面会制限解除を行った。例年と比べインフルエンザ発生は少なく各部署散発的な発生に留まった。同時期に結核の発生があり管轄保健所と情報共有、相談を行い職員 2 名の接触者調査を実施することになったが幸い結核感染なく接触者調査は終了した。

その他、全職員対象の院内感染研修は企画運営を ICT が中心となり実施した。第 1 回：7 月 23 日鹿児島大学病院輸血細胞治療部古川良尚先生より「HIV 感染症：鹿児島県の現状と概論、針刺し事故対策」の講演、補完研修を 2 回行い参加率 86%であった。第 2 回：オックスフォード・イムノテック(株) 諸江雄大先生、山北美佐先生より「結核の現状と潜在性結核スクリーニング」について 10 月 22 日、29 日、11 月 17 日、18 日計 4 回講演を頂き参加率 93%であった。100%の参加率を目指し試行錯誤しながら取り組んでいる。

対外的な活動として厚労省院内感染対策サーベイランス事業の検査部門、全入院部門に参加している。検査部門は、中央検査部の村中が担当、全入院部門は丸山と立和名が担当し毎月継続的に厚労省へ報告している。

感染防止対策加算や地域連携加算に伴う活動では、相互評価を 10 月 9 日今村病院分院の ICT6 名の方に当院の感染対策を評価して頂いた。11 月 6 日は、当院の ICT7 名で鹿児島大学病院に出向き感染対策評価を実施した。指摘事項に対しては、委員会に報告され改善に向け取り組んだ。

感染防止対策加算 2 施設との計 4 回の合同カンファレンスでは、抗菌薬使用状況の確認や感染症発生による感染対策の検討と振り返り、JANIS サーベイランスのデータ提供、検体採取に関連した教育、薬剤管理など様々な内容の話し合いを行った。

委員会の主な内容、検討事項

4月22日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内感染防止対策マニュアル検討
5月27日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告
6月24日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、VCM 初期投与量の変更、コリスチン処方手順について検討
7月22日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告
8月26日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告
9月16日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内感染研修補完研修について
10月28日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、感染発生報告(EKC、CD)、化膿性脊椎炎のTB スクリーニングについて、ノロウイルス感染予防の啓発
11月25日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告
12月16日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、院内感染研修参加率報告、感染防止対策地域連携加算評価ラウンド報告と指摘事項の検討
1月27日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、感染発生報告(インフルエンザ、感染性胃腸炎)
2月24日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、感染発生報告(インフルエンザ)と対策の確認と周知、結核接触者調査について
3月23日	耐性菌報告、抗菌薬使用状況報告、感染発生報告(インフルエンザ)、薬品の使用期限について



[医療の質向上]

委員長 西澤輝彦 報告 川井田祐一郎

地域医療支援病院委員会

【目的】

地域における医療の確保、向上のために必要な支援に係る業務に関し、当該業務が適切に行われるために必要な事項を審議することを目的とする。

【構成員】

鹿児島県医師会副会長	野村秀洋	今給黎総合病院院長	昇卓夫
鹿児島市医師会副会長	池田耕治	今給黎総合病院副院長	西澤輝彦
鹿児島県立病院事業管理者	福元俊孝	今給黎総合病院看護部長	有村智代
鹿児島市消防局長	山下裕二		

当院は、平成 25 年 3 月 22 日地域医療支援病院に承認されました。

【議事内容】

- 1、年度業務報告 年度業務報告を県知事への業務報告書に沿って行った。
- 2、病院建て替え 病院建て替えについて現況報告を行った。
- 3、質疑応答 年度業務報告についての質疑、外部委員からの助言を頂いた。



輸血療法委員会

【構成員】

委員長 丸山芳一（神経内科）、副委員長 濱之上雅博（外科）、小瀨浩介（血液内科）

委員 昇 卓夫（病院長）、

有村智代、藤山みどり、近藤ひとみ、中村章子、田中かすみ、橋口恒夫、濱田緑、徳恵梨香（看護部）、高橋真理（薬剤部）、川井田祐一郎（事務部）、村中利也、今堀貴之、宝代聡美（検査部）

当委員会は隔月の第4水曜日に開催した。主な協議事項は血液製剤の適正使用を目標に診療科ごと、医師ごとの血液製剤発注と使用量、製剤ごとの廃棄量とその原因につき詳細な検討を行った。廃棄は期限切れが一番の理由であり、新鮮凍結血漿ではバッグ破損も原因であった（表）。

貯血式自己血は採血時の陰圧ポンプの扱いに不慣れな場面があり、使用法の手順周知を図った。輸血回避が最優先であり、止む得ない場合の自己血利用が原則であり、無用な自己血利用は医療安全の観点から慎重であるべきである。

輸血同意書については血液疾患や悪性疾など同一疾患に対する定期的な輸血では1年に一度の承諾書を原則とし、状況によっては年余にわたることも可能とした。

平成27年度血液製剤使用量
(平成27年4月～平成28年3月)

製剤名	単位	薬価 (円)	購入本数	購入金額 (円)	使用本数	廃棄本数	廃棄金額 (円)	廃棄率 (%)
濃厚赤血球	1単位	8,864	12	106,368	12	0	0	2.86
	2単位	17,726	1,355	24,018,730	1,319	39	691,314	
新鮮凍結血漿	120m l	8,955	2	17,910	2	0	0	0.84
	240m l	17,912	686	12,287,632	683	6	107,472	
	480m l	23,617	16	377,872	16	0	0	
血小板製剤	5単位	39,900	6	239,400	6	0	0	0
	10単位	79,479	112	8,901,536	112	0	0	
	15単位	119,204	1	119,204	0	0	0	
	20単位	158,938	1	158,938	1	0	0	
自己血	1単位		14		14	0	0	7.14
	2単位		47		45	2		
計			2,252	46,227,590	2,213	46	798,786	1.59



看護安全対策委員会

【目的】

本委員会は、医療事故防止対策の確率を促進すると共に、安全な医療看護を提供し、万一事故発生時は、速やかに誠心誠意取り組む。

それを生かし、安全教育の場にフィードバックし再発防止に努め、医療看護の質の確保と向上を図る。

【目標】

各部署で年間計画を立案し活動した。

【構成員】

有村看護部長 近藤副看護部長 岩下看護副部長 藤山副看護部長

医療安全課長：千田 医療安全課：長野 各部署師長

委員メンバー：岡村主任 各部署委員

【活動内容】

1. 毎月の安全管理報告書件数、事例レベル、発生事例についての報告
2. アクシデント発生部署からの事例報・対策報告
(報告を受けることで看護部全体の情報共有・注意喚起に繋がる)
3. 医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者からの周知事項の提示
4. 外部リスクマネジメント関連情報提示
医療機能評価機構からの医療安全情報、PMDA情報
東京海上日動メディカルサービスからのリスクマネジメント関連情報
5. インシデント・アクシデント報告の中から抜粋し検討した項目
 - ・義歯洗浄時の流れについて病棟の現状確認を行い、義歯の紛失、管理の徹底を図る
 - ・ミキシング前の点滴確認法：病棟ラウンドを行い各病棟の現状把握しチェックリストの見直し

本年度の会議は、事例検討の時間を多くとれるように資料は会議の前週に配布し、時間を有効に使えるようにした。

会議の前半で、報告等を行い後半でグループ内での事例検討を行った。

事例は毎月1例輪番制で提示しKYTを用いたワーキングを行った。

今年度はKYTの全体研修も多く開催されKYTに対する知識が向上したのではないかと考える。



救急医療部門運営委員会

当委員会は麻酔科池田部長のお世話でICU、手術室、中央材料部、NICU運営委員会、更に物品購入委員会と合同で月1回開催されています。救急部門は主に救急車受け入れ状況や休日の当番医の体制などについて討議しています。本年度は救急車の台数は現状を維持しているものの全般的な軽症化の傾向が見られ、特に重症の多発外傷症例が減少した印象です。交通事故の減少など外傷自体は減少傾向にはありますが、5月の市立病院移転、一昨年米盛病院移転、両病院によるドクターヘリ、ドクターカーの運用開始の影響も当院も多少はありと推定されます。当院も新病院への移転が決定しておりますが、搬送先として選ばれる救急体制を構築する必要があります。現在でも医師による受け入れ拒否があることも事実です。移転までの間も断ることをない救急を目指して体制強化、複数の同時受け入れの体制作りなどの課題を解決するべく検討して行く方針です。



診療録検討委員会

【構成員】

- 委員長 丸山芳一（神経内科）
 委員 昇卓夫（院長）、西澤輝彦（脳神経外科部長）
 【看護部】有村智代（部長）、岩下邦子（副部長）、松野下恵子（看護記録委員長）
 尾堂知子（外来副師長）、千田清美（医療安全管理課長）
 【薬剤部】高橋真理（部長）、堀之内智裕
 【栄養管理部】上平田美樹（課長） 【リハビリテーション部】豊留研二、前迫篤
 【臨床検査部】上鶴昭知 【放射線部】室屋純一（技師長）
 【医事部】針山朋美、米満久美 【医療情報管理課】神野博幸（主任）
 【診療補助部】神村美月 【診療情報管理部】畑中幸子、黒丸恭弘、小西佑典

【活動内容】

- ・委員会 毎月第2火曜日 15:00～16:00
- ・診療記録監査 毎月第4金曜日 13:30～14:30

【今年度の主な活動】

- ・5月 外国人対応同意書 電子カルテエントランスへ掲載
- ・10月 病名代行入力システムを稼働
- ・11月 インフォームド・コンセントガイドライン作成着手（H28年度4月現在検討中）
- ・同意書の新規作成および改定（共通文書のみ掲載）
 - ・手術同意書 署名欄の変更
 - ・介護支援連携指導書
 - ・訪問診療計画書
 - ・小児鎮静薬使用検査同意書
 - ・延命治療同意書（一部改定）
 - ・リンパ浮腫外来同意書
 - ・IVH同意書（CV同意書へ表記変更）
 - ・薬物・食品アレルギー問診票（サイン欄改定）
 - ・口頭指示受け書（一般・検査 改定）

診療録監査 実施診療科

監査日	監査対象診療科	監査実施診療科	師長もしくは主任
4月 24日	放射線、緩和医療科	循環器内科	2北
5月 22日	循環器内科	消化器内科	3中
6月 26日	呼吸器外科	眼科	3西
7月 24日	皮膚科	緩和医療科	2南
8月 28日	脳神経外科	産婦人科	3東
9月 25日	耳鼻咽喉科	呼吸器外科	4北
10月 23日	神経内科	泌尿器科	2南
11月 27日	形成外科	外科	4西
12月 25日	整形外科1	総合内科	3中、3北、3南
1月 22日	整形外科2	神経内科	3中、3北、3南
2月 26日	総合内科、血液内科	形成外科	2北
3月 25日	外科	総合内科	2東

診療録の質的向上を目的に、電子カルテシステムの改善や診療録監査を主に行った。

委員会全体としての取組みとしてH24年より計画的な診療録監査を開始した。H26年度より委員以外の医師にも参加していただくようになり、院内全体の記録への関心度が上がりH24年開始当初と比較すると日々の記載率や記載内容がより充実してきたと実感している。しかし未だ不十分な点も多く、一部の医師による短絡的で断片的な記録、検査結果評価未記載、入退院時の必要事項記録不十分等、継続的に監査が必要である。また、患者様へ説明時、文書（同意書）を用いて説明するよう推進しているが文書の発行率が低く院内全体の課題となっている。

システムで解決できることは電子カルテシステム会社へ改善を依頼し、徐々に改善しているが、開発が必要なものもあり、なかなか思うように進まないのが現状である。

また、2週間完成率100%を目指しているサマリーは、H27年度完成率99.3%、手術記録2日以内の記載率は、95.2%であった。

診療録は公文書であり、診療報酬請求の根拠となることへの理解を十分に高め、更なる記録の充実に取り組んでいきたい。

**【目的】**

今給黎総合病院および昭和会クリニックで行われる医学研究や医療行為に対し、倫理上の対応指針を示すことを目的とする。ヒトを対象とした医学研究については「ヘルシンキ宣言」、日常の医療については「リスボン宣言」を審議上の基準とし、医学的、倫理的および社会的観点から調査検討し、審議する。また、倫理に関する職員への教育や研修等により、患者の意思の尊重と人権保護の意識高揚を図る。

【平成 27 年度 倫理審査委員会委員】

今給黎 尚典、昇 卓夫、大久保 幸一、丸山 芳一、寺原 賢人、牟礼 洋、白濱 浩、高橋 真理、有村 智代、藤山 みどり、野口 桂一、原口 一博、前野 浩一、上唐湊 芳一、長野 芳幸（外部委員）、蓑毛 長史（外部委員）

【平成 27 年度 倫理審査小委員会委員】

昇 卓夫、丸山 芳一、寺原 賢人、牟礼 洋、白濱 浩、高橋 真理、有村 智代、藤山 みどり、野口 桂一、前野 浩一、上唐湊 芳一、山内 茂（外部委員）

【平成 27 年度 医学研究に関する倫理審議概要】

小委員会開催回数(平成 27 年度)： 8 回

開催頻度：月 1 回(第 2 金曜)申請がない月は未開催

審査件数：合計 11 件 1 件 未承認、10 件 承認

会議記録：厚生労働省「倫理審査委員会報告システム」に委員名簿及び規程とともに掲載

【平成 27 年度 申請受付番号、委員会開催日、課題名、申請者】

H27. 4. 10(金) 申請者：整形外科部長 松永 俊二
『脊椎靭帯骨化症患者様における CT を用いた全脊椎固定術骨化巣の検討』

H27. 5. 8(金) 申請者：呼吸器内科部長 川島 寿史
『症例情報システムを用いた呼吸器疾患のバイオマーカーに関する探索的研究』

H27. 6. 12(金) 申請者：循環器内科部長 大場 一郎
『個別治療を目指した高齢高血圧患者における降圧薬使用時の患者満足度と医師満足度の対比による研究』

H27. 7. 10(金) 申請者：皮膚科医長 久留 光博
『伝染性軟属腫の摘除困難症例に対する硝酸銀ペーパーストの使用(臨床研究に係る使用)』

H27. 7. 10(金) 申請者：呼吸器外科部長 米田 敏
『高齢者肺癌に対する外科治療の安全性と有効性を評価するための多施設共同前向き調査研究』

H27. 10. 9(金) 申請者：病児保育専門士 西郷 今日子
『学会発表(演題：プレパレーションツール使用報告と今後の課題)に患者さんや家族の』写真や動画を使用することについて』

H27. 10. 9(金) 申請者：外科部長 濱之上 雅博
『化学療法未治療の HER2 陰性進行・再発胃癌に対するオキサリプラチン+S-1 療法およびオキサリプラチン+S-1+ トラスツマブ併用療法について検討する第Ⅱ相臨床試験 (KSCC1501A および KSCC1501B)』

H27. 11. 13(金)
申請者：消化器内科科長 今給黎 和幸
『切除不能腺癌に対するアブラキサン治療の実態調査』

H27. 12. 11(金) 申請者：小児科部長 堀之内 兼一
『五苓散スタディ』

H28. 2. 12(金)
申請者：神経内科 / 在宅診療科科長 甲斐 太
『0.125%サンピロ点眼液による瞳孔不同(散大)検査』

H28. 2. 12(金) 申請者：皮膚科医長 久留 光博
『有棘細胞がんに対する TS-1 の使用』



クリニカルパス委員会

当院は、平成 17 年度に電子カルテが導入され、平成 25 年 10 月から電子クリニカルパス化に取り組み現在 69 種類の電子パスが使用されている。

パス委員会では、平成 27 年度 1. 患者パス作成 2. 新規パス促進 3. パスの普及を目標に活動してきた。又、日本クリニカルパス学会学術集会・SSI への操作や院外パス講座などに積極的参加した。今後、病院企画経営部などの参加により、パスが経営コストと繋がりがあるものという意識へと変革する事や、パス委員会が病院の中に浸透しながら活動できるよう取り組んでいきたい。

【委員会構成】

医師	2 名	診療情報管理部	2 名	リハビリテーション部	2 名
薬剤師	1 名	医事部	5 名	看護師	38 名
中央臨床検査部	1 名	管理栄養部	1 名		

【H27 年度の活動内容・院内外研修参加】

H27 年

- 6 月 19 日 フレキシブルパス勉強会 大阪(株)ソフトウェア・サービス
参加者：大重 智子 本田 沙織 榮 真奈美
- 8 月 22 日 SSI(大阪) 「電子カルテパス導入と P N S ～電子パスがもたらすシナジー効果」
発表 梅北 裕司
- 9 月 17 日 院内クリニカルパス大会 1 回目
「医療の質向上とクリニカルパスの有効活用～使って慣れようクリニカルパス」
発表 中目医師・2 東・外来・4 北・2 南

H28 年

- 2 月 濟生会熊本病院パス講座
参加者 榮 真奈美
- 3 月 16 日 院内クリニカルパス大会 2 回目
院内発表
演題 1. 尿路悪性腫瘍(腎盂尿路癌、膀胱癌)に対する化学療法 GC 療法のクリニカルパス
発表 中目医師
演題 2. P N S. 4 における電子クリニカルパスの教育的役割について～経験を形に～
発表 梅北 裕司
特別講演
演題：「電子化クリティカルパス～鹿児島医療センターでの取り組み～」
独立行政法人 国立病院機構 鹿児島医療センター
耳鼻咽喉科 部長 松崎 勉(まつざき つとむ)先生

【学術実績】

- 2015 年 11 月 13 日・14 日 日本クリニカルパス学会(東京パス学会) 発表 梅北 裕司



NST(栄養サポートチーム)委員会

【目的・目標】

栄養サポートチーム(以下:NST)とは、栄養障害のある患者様に対し、生活の質の向上、原疾患の治癒促進、感染症などの合併症予防を目的とした多職種で構成されたチームです。当院 NST は主治医からの申し込みを原則としています。栄養管理を行うためには、主治医の治療との連携が必要であるという理念からです。多岐にわたる病態に応じた、適切な助言・補助ができるよう今後も努めて参ります。

【活動】

2005年に日本静脈経腸学会よりNST稼働施設認定を、2011年には栄養サポートチーム専門療法士取得に関わる実地修練施設として認定を受け、カンファレンス・回診を行っています。構成メンバーは、総合内科医師・口腔外科医師、栄養管理部、褥瘡管理課・薬剤部・中央検査部・リハビリテーション部・看護部・事務部です。毎週火曜日14時より、病棟にてカンファレンス・回診を実施し、あらゆる職種の視点から知識を出し合い患者様の栄養改善に取り組んでいます。平成23年6月から、栄養管理についてオンコール体制を開始し、食事摂取不良症例の相談や経腸栄養の選択について主治医や看護師・コメディカルからの相談を行っております。地域医療における貢献の一つとして、地域の病院よりNST回診の見学等も受け入れました。

【構成員】

院長、内科医2名、歯科医1名、看護副師長2名、看護師主任2名、看護師(病棟・外来・クリニック)39名、褥瘡管理課看護師2名、薬剤部3名、リハビリテーション部8名、臨床検査部5名、管理栄養士6名、事務部2名

【主な活動内容】

●NST対象者スクリーニング

主治医から依頼された症例

電子カルテの抽出機能よりA1b2.5g/dl以下の症例の抽出

MNA-SFを用いたスクリーニングによる低栄養症例の抽出

NST介入の必要な症例に対して主治医へ低栄養報告書を提示

●NSTカンファレンス・回診 毎週火曜日 14時00分～

参加者:医師・歯科医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・臨床検査技師

場所:各病棟をラウンドし、カンファレンス・病棟回診を行っている

アセスメント:身体計測・臨床検査データ・栄養量などの推移を確認

ディスカッション:各アセスメントを踏まえ、栄養補充方法やルート、内容について検討

ミニ会議:NSTコアメンバー(運営委員)での検討事項の確認や伝達事項の確認

カンファレンスを基に患者の身体状況の確認 栄養投与ルートの確認と現在の問題点の把握、リスクマネジメント、患者様やご家族への説明指導、主治医への提言

●NST会議 毎月第1水曜日 13時15分～

NST委員会からの報告、統計報告

病棟NSTからの報告や情報共有

NST専門療法士などによる学会報告や症例検討会

●NST勉強会 奇数月第3木曜日 17時30分～18時30分または不定期

平成27年5月21日 栄養管理の実際について/リフィーディング症候群について(生野医師)106名

平成27年7月16日 輸液について/院内採用薬を中心に(園田薬剤師)88名

平成27年9月16日 摂食嚥下口腔チームとの合同研修会(高島先生)141名

平成27年11月26日 NSTと検査の見方(ニッターボーメディカル)91名

知識向上のため、院外講師やNSTコアメンバーが講師となり勉強会を開催しています

NST専門療法士研修講座 40時間 参加者5名

●学会、講演活動

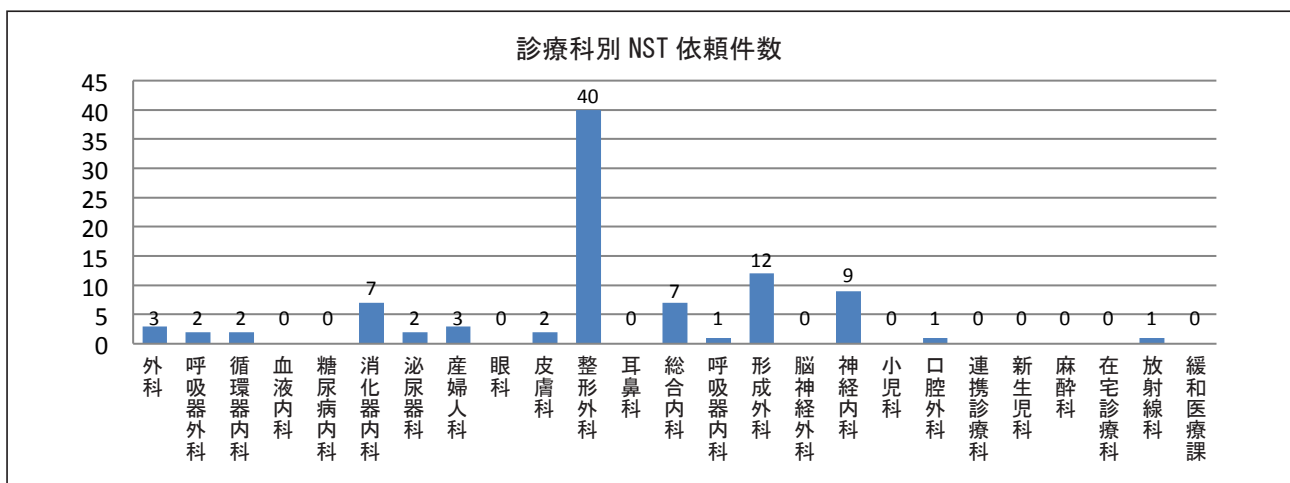
- 平成27年8月1日 鹿児島県看護協会・ネスレ日本（株）共催研修会
一般演題「消化吸収に着目した経腸栄養剤の選択」 鈴木聖子
- 平成27年8月9日 鹿児島県栄養士会第4回生涯教育研修会
「栄養ケアプロセス：チーム（多職種）による栄養管理」 講師 鈴木聖子
- 平成28年3月19日 鹿児島県在宅褥瘡セミナー
「褥瘡の予防と管理：栄養」 講師 鈴木聖子

●その他

日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士 平成27年度合格者 薬剤師1名
その他NST専門療法士有資格者 管理栄養士2名、薬剤師1名、看護師1名

【年間報告】

年間依頼件数92名（男性39名、女性53名）



平成27年度NST依頼は年間92名、延べ535件のカンファレンス・回診を実施しました。整形外科からの依頼が最も多く、次いで形成外科、神経内科、総合内科、消化器内科より依頼がありました。当院は急性期病院でありNST介入患者の約半数47%が転院にて終了となります。そのため、切れ目なく栄養管理を継続できるよう、転院先の病院や施設へ栄養情報提供書を送付しております。次年度も引き続き、栄養管理の重要性を院内外に啓蒙しつつ、患者様の栄養管理が行えるようサポートしていく所存です。

また平成27年度は地域貢献として、NST専門療法士取得に関わる実地修練施設として40時間の研修を開始しました。研修生の受け入れに関しては多数の応募がありましたが、ハード面ソフト面を考慮し5名の受け入れを行いました。研修の際には、NSTチームの医師・薬剤師・理学療法士・検査技師・看護師・管理栄養士などが講義を担当し、カンファレンスや回診にも参加していただくなど実践的な栄養管理について研修していただけるよう努めました。不慣れな点もありましたが今後も継続的に行えればと考えます。



褥瘡対策委員会

【目的】

- ・褥瘡対策に関する診療・看護計画を作成し、予防及び対策を実施する
- ・専門的知識・技術で患者・家族のQOLを高める

褥瘡対策が必要な患者数は、年間4012名で入院患者数の約49%と昨年より3%増え、年々増加傾向にある。褥瘡ハイリスク対象患者数は1946名（うち70歳以上患者は1279名）であり、ハイリスク項目では皮膚脆弱が77.5%と最も多く次いで末梢循環器障害、術中特殊体位であった。

褥瘡推定発生率は、11月までは1%以下で経緯していたが、12月以降上昇しており医療機器関連圧迫創を抜いても2.45%と高値となってしまった。高齢者の増加や特殊機器使用患者などの影響もあるが、スタッフ間のケアが個々によって違い、情報共有が図れていなかったり、統一されたケアが提供できていないこともあった。そのため、褥瘡対策委員会でチーム分けしマニュアルの改定（褥瘡マニュアル、写真付き褥瘡予防マニュアル、褥瘡関連記録マニュアル）を行い、電子カルテで確認できるよう作成した。

褥瘡予防マット導入後5年経過し、回復期病棟の稼働もあり、Eマット・Rマットの枚数調整と入れ替えを行った。

平成27年4月より、毎月の褥瘡対策委員会議で症例検討（各病棟委員が提示）の開始や、改正したマニュアルの報告を行うようにした。また、平成28年1月より、リハビリテーション部との症例カンファレンスを始めた。褥瘡ハイリスク患者を訪問し、患者状態に合わせたケアを提供できるようスタッフや患者指導は継続して行っている。

院内褥瘡発生部位は仙骨や尾骨、踵が多く、医療機器関連圧迫創では顔面、腰部～大腿が多く、BiPAPマスクや術中体位、バルン・オムツによる発生が多かった。治療規制・体動制限、末梢循環障害など全身状態悪化、栄養低下にて予防困難な症例もあったが、褥瘡治癒日数は全国平均より短期間で治癒しており、約80%は治癒改善している。

診療科別では、院内発生は整形外科が35%と最も多く、院外は総合内科で30%であった。

褥瘡回診は毎週月曜日：14時より形成外科医・WOCN・褥瘡学会認定Ns・リハビリテーション部・栄養課・薬剤部と共に各病棟を訪問し、病棟Nsと褥瘡回診チームにて褥瘡・ケア内容の評価を行い、褥瘡経過記録を作成しケア統一が図れるよう行っている。

院内勉強会は偶数月に開催し、リハビリ部・薬剤部にも講義を依頼し参加人数は90～190名/回で814名であった。

平成25年度より、褥瘡と医療機器関連圧迫創を区別するよう示唆され、以下のグラフは院内発生・院外発生において、病棟単位・発生部位・診療科を院内・院外で、それぞれ褥瘡と医療機器関連圧迫創に分けたデータである。

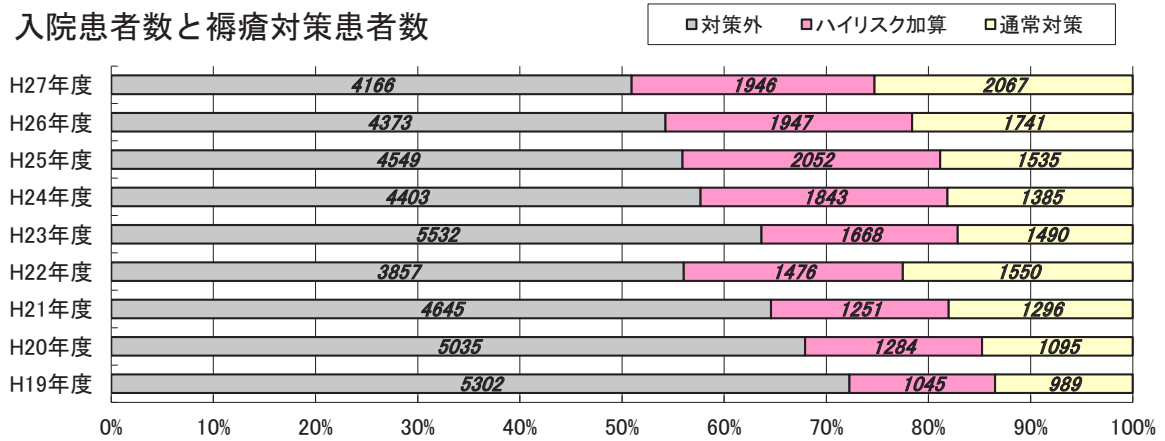
【構成員】

形成外科：外菌医師、褥瘡管理課（下前WOCN・逆瀬川、椎木WOCN）、看護部（上山・伊野副師長、矢野・野田・伊藤主任）
外来・クリニック・各病棟・OPE室、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション部（PT・OT・ST）、医事課

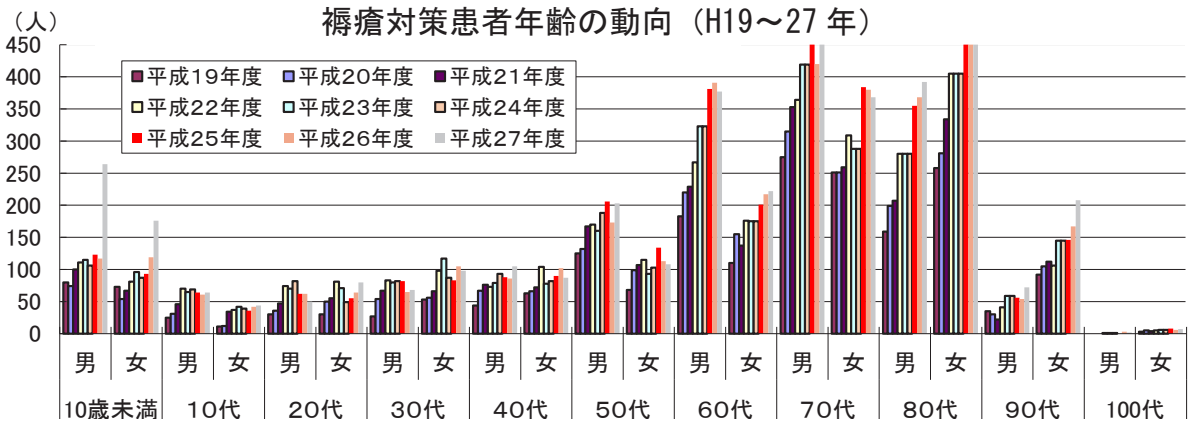
	入院患者数	要対策	ハイリスク	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡
4月	728	190	175	8	56	35	18	49	1	138	27
5月	604	142	154	14	48	26	15	39	2	123	22
6月	731	178	148	9	45	25	12	40		121	26
7月	697	172	163	12	54	38	13	47	4	126	22
8月	649	200	155	9	50	35	8	50	2	110	20
9月	633	160	149	8	47	42	14	42	1	123	21
10月	725	165	173	8	55	37	16	56	1	132	16
11月	667	153	146	10	29	29	16	33		109	13
12月	652	171	176	9	49	39	17	37		138	26
1月	671	161	173	7	51	32	14	40	1	143	23
2月	674	180	159	9	46	41	15	40	1	118	23
3月	748	194	175	10	44	41	19	48		128	28
計	8179	2066	1946	113	574	420	177	521	13	1509	267

	入院患者数	要対策	ハイリスク	ショック	循環不全	鎮痛	6時間以上	特殊体位	下痢	皮膚脆弱	褥瘡
NICU	210	20	189	3	74	1				189	
2西	440	165	14	1	5	3		1		12	2
2東	1379	288	197	12	51	19	6	12	2	180	34
3西	946	175	132	8	83	22		3		125	20
3中	440	126	198	6	35	39	6	101		126	30
3東	761	217	105	2	17	1		17	1	104	6
4西	1257	194	49		3	1	4	14		43	15
ICU	127	85	469	67	155	287	158	288	5	199	27
2北	561	114	191	5	83	6		10	3	182	55
2南	562	139	151	6	47	1		2	1	146	31
3北											
3南	589	239	245	3	20	40	3	72	1	198	29
4北	907	304	6		1			1		5	2
OPE											16
計	8179	2066	1946	113	574	420	177	521	13	1509	267

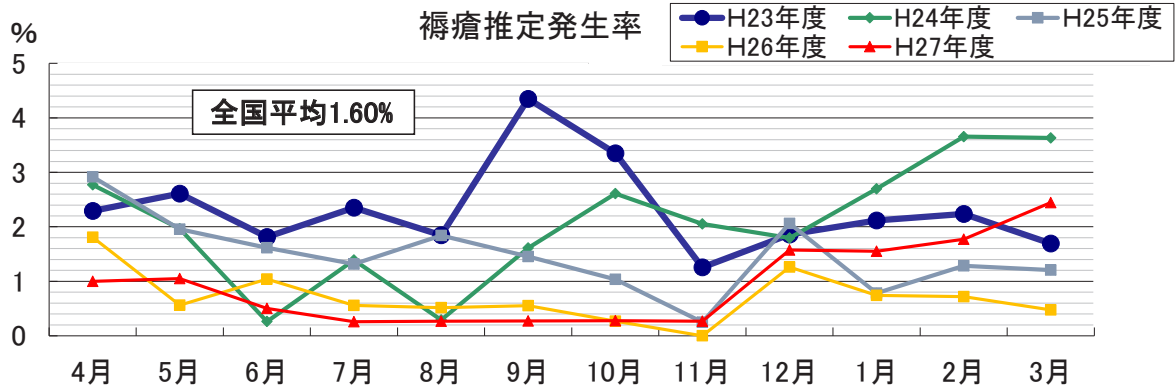
入院患者数と褥瘡対策患者数



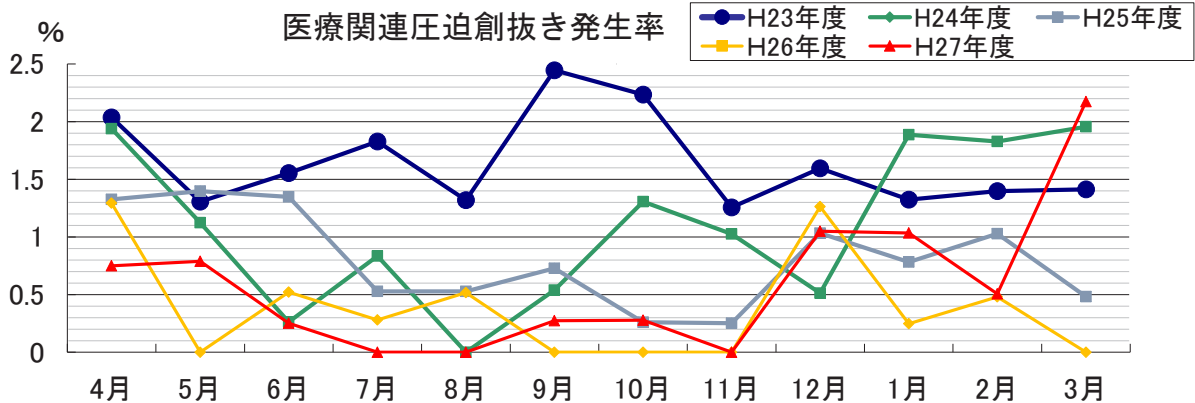
褥瘡対策患者年齢の動向 (H19~27年)

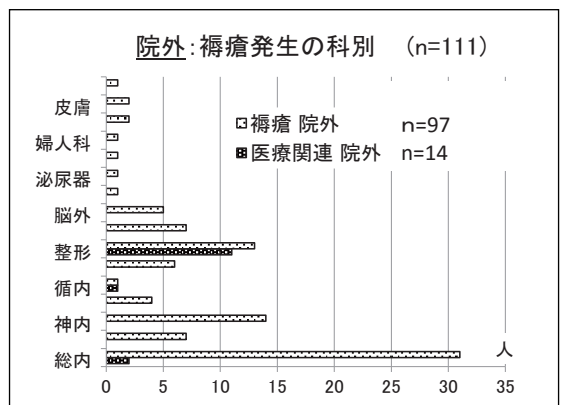
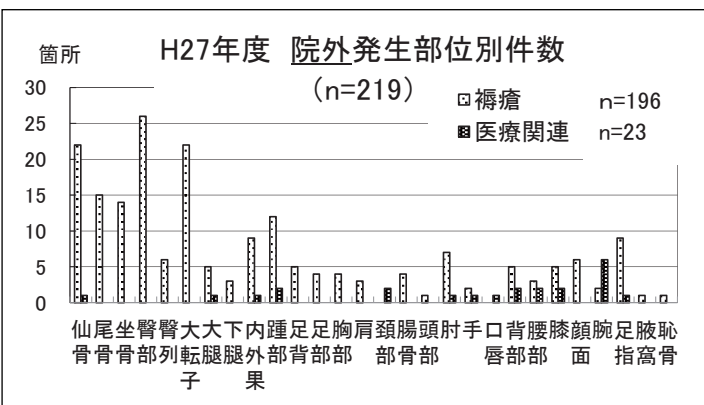
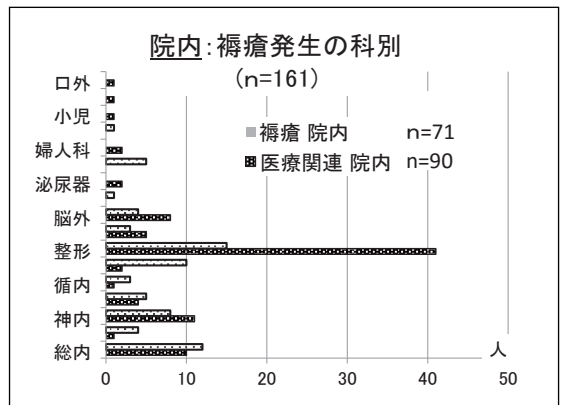
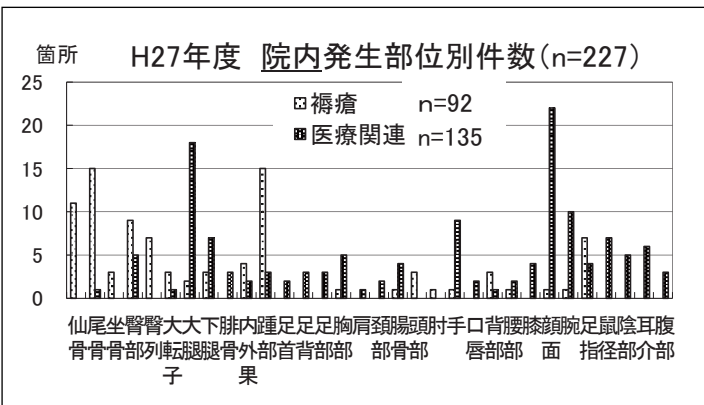
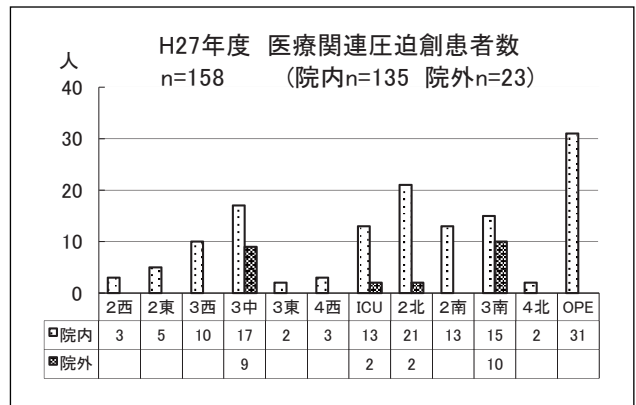
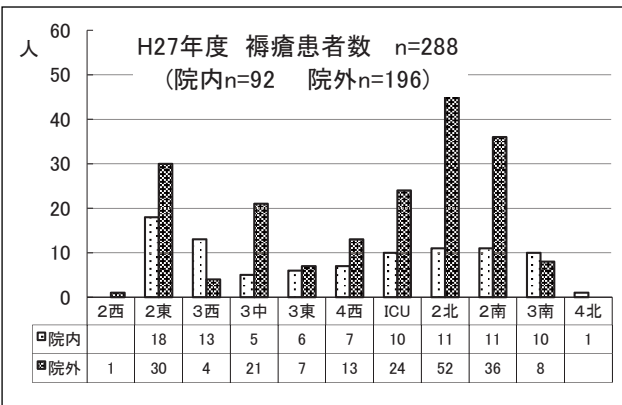
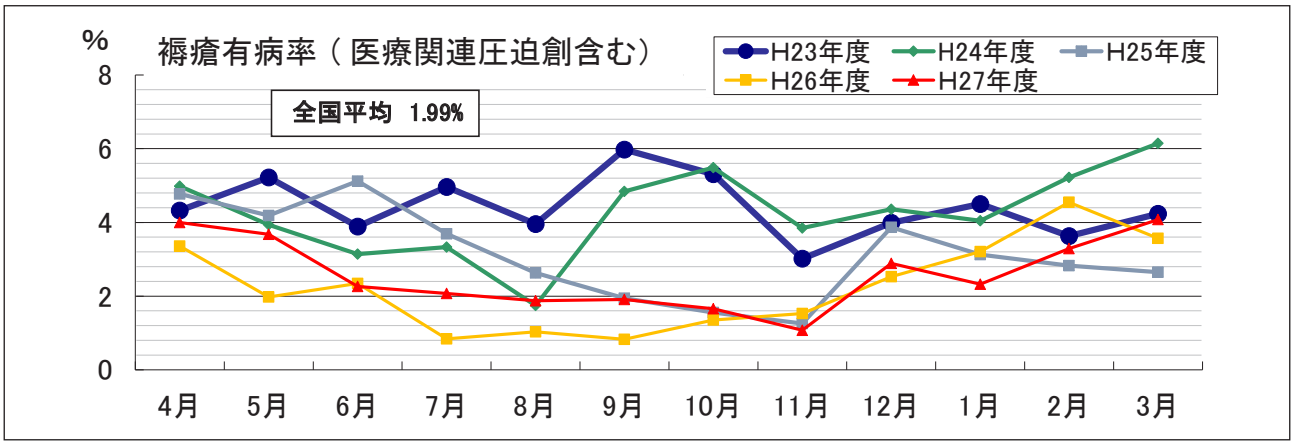


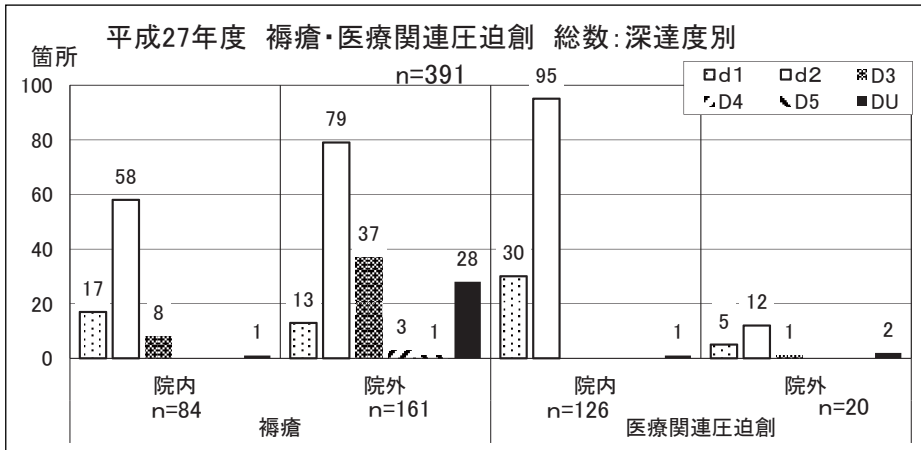
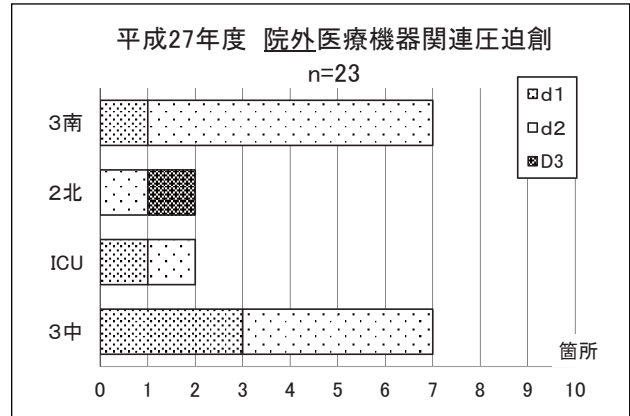
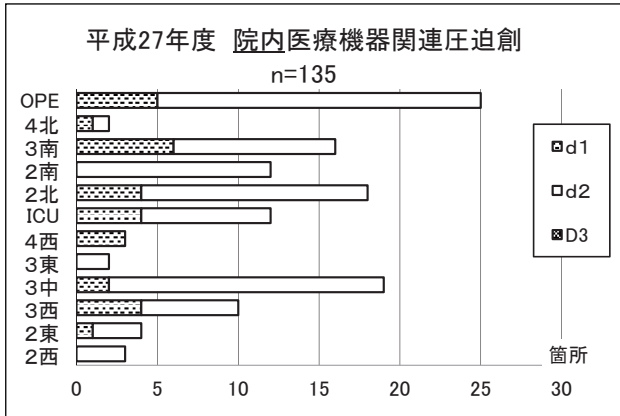
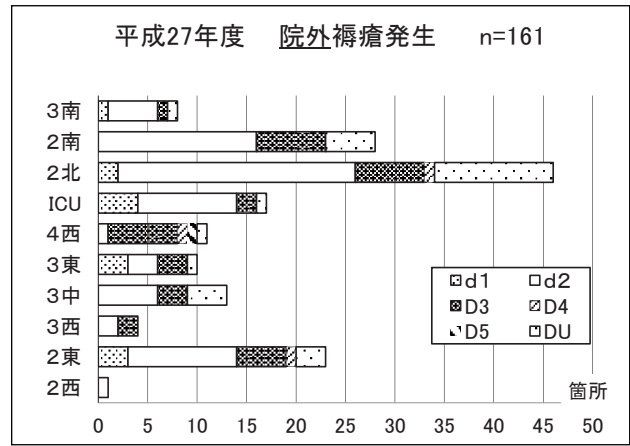
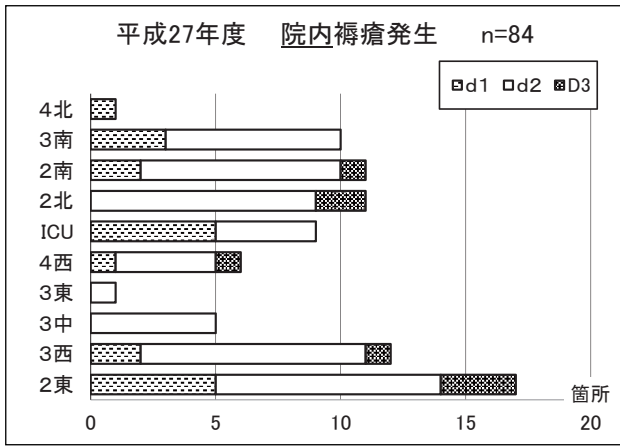
褥瘡推定発生率



医療関連圧迫創抜き発生率

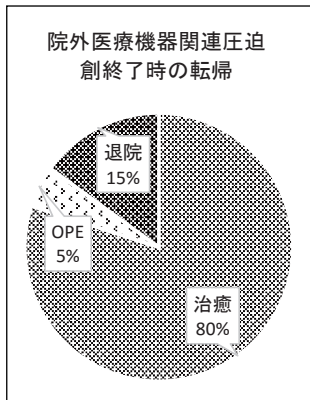
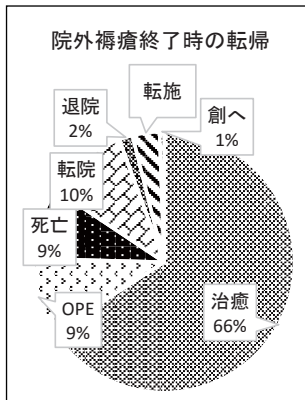
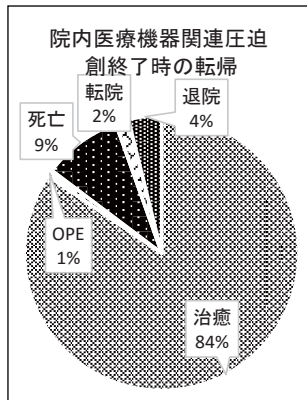
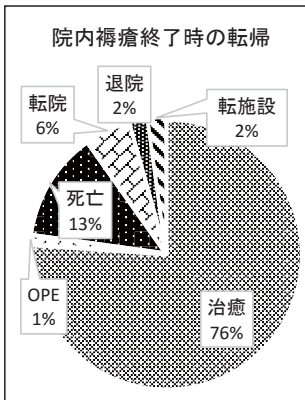




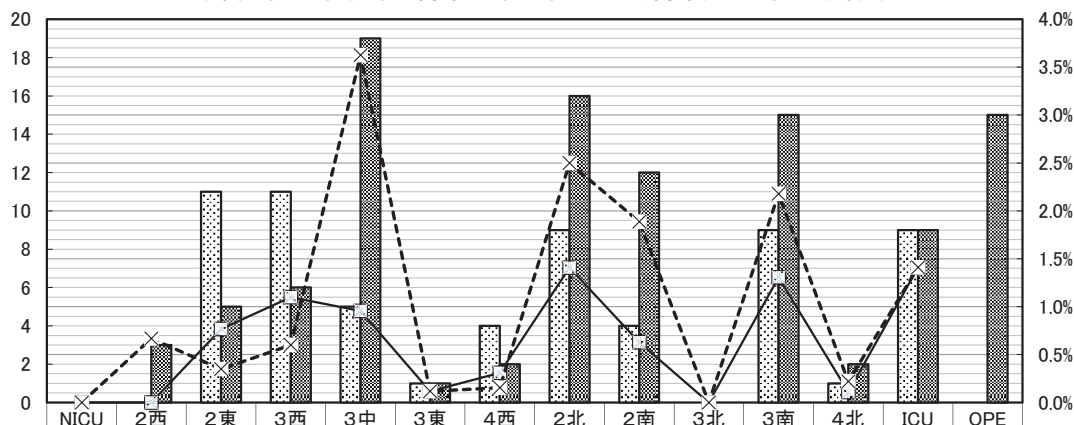


H27年度 治癒日数

	院内		院外	
	褥瘡	医療	褥瘡	医療
d1	4.9	3.7	6.6	4.8
d2	9	7.1	9.6	12
D3	21		21.6	
D4				
D5				
DU		33.5	41.5	



平成27年度入院患者総数と褥瘡対策患者および、褥瘡発生割合(病棟単位)



院内褥瘡	0	0	11	11	5	1	4	9	4	0	9	1	9	
医療関連	0	3	5	6	19	1	2	16	12	0	15	2	9	15
院内発生率	0.0%	0.0%	0.8%	1.1%	1.0%	0.1%	0.3%	1.4%	0.6%	0.0%	1.3%	0.1%	1.4%	
医療関連発生率	0.0%	0.7%	0.3%	0.6%	3.6%	0.1%	0.2%	2.5%	1.9%	0.0%	2.2%	0.2%	1.4%	
入院+転入数	210	450	1436	1001	524	849	1291	639	640	636	240	689	917	



[医療の質向上]

委員長 西澤輝彦 報告 野島裕二郎

医療情報システム委員会

医療情報システム委員会（通称システム委員会）は通常は月一回、木曜日に定例の会を行っています。特に新しいシステムの運用開始時には臨時の会議や実際的な運用を決めるためのWG（ワーキンググループ）を適宜行っています。単に電子カルテの運用だけではなく、病院全体のシステム化に向けて全領域からの参加があるのが大きな特徴です。

本年度は、年度初頭に昨年度より持ち越し事案となっていたPACS動作不良の改善策として、クラウド型PASCシステム（テクマトリックス社製）である「NOBORI」の導入を完了しました。クラウドということもあり、画像描画速度に関し動作遅延を起こすのではないかと危惧しておりましたが、想像以上に処理が早く、全体として前システムのオンプレミス型PACSよりもかなり高速であることを臨床部門より評価を頂きました。一方、入院・外来に関係ない過去の患者様の画像を参照する場合は、クラウドのデメリットであるダウンロードが発生することから、この点に関しては、時間が掛かる形となりました。総括としては、バックアップ・BCPも兼ねた画期的なシステムであると自負しておりますし、今後の医療情報の先駆けとして一歩進めたと感じております。

その他の課題としては、一昨年度より取り組んでいます各部門の調整・協議が行われ、また平成28年度診療報酬改定への準備など多くの作業を医療情報システム委員並びに多くの現場職員のお力添えを頂き達成することができました。

来年度は、いよいよ鹿児島市交通局跡地へ悲願の病院移転が主動することになりました。開院よりおよそ80年、培われてきた今給黎魂を胸に医療情報システム構築に向け、より良いものが完成できるよう職員一丸となって邁進いたします。



看護業務委員会

【目的】 看護業務の統一化並びに、看護水準の維持、向上を図る事を目的とする

【目標】 ナーシング・スキルの活用を通して統一した看護が実践できる

【開催日時】 毎月第3水曜日 13:30～14:30

【構成員】 有村看護部長 近藤副部長 中村師長 山下師長 副委員長 日高主任 杉崎主任
病棟・手術室・外来・クリニック 各委員1～2名

【活動内容】

4月～H28年1月 各病棟毎月2課題・1監査の実施
5月 課題・監査の実施／超音波NBL・陰部洗浄・緊急時の輸血発注血液製剤について
保安・緊急コールのレベル分類
6月 課題・監査の実施／清拭・陰部洗浄・オムツ交換時の必要物品
7月 課題・監査の実施
8月 課題・監査の実施／血液培養検査セットについて
9月 課題・監査の実施／災害時対応・トリアージについて
10月 課題・監査の実施／転倒・転落予防対策チェックリスト・カニューレ事故抜去
11月 課題・監査の実施／ヘパリン入り検体提出・CVカテーテル血液逆流確認
ICG検査時の安静
12月 課題・監査の実施
H28年1月 課題・監査の実施
2月 各病棟評価
3月 接遇マナーについて

【評価】

今年度も統一した看護を目指すため、また、昨年度の評価もふまえ、各病棟でナーシング・スキルより2課題設定し、その中1課題を各病棟の方法を用い監査活動を行った。監査の結果より、手順の追加、修正等おこなった。

しかし、全体的な結果として目標の達成に乏しい評価であった為、来年度は、当院の看護手順は、ナーシング・スキルを基準としていることを、管理者を含めスタッフ全体に周知することを目標に活動していくべきと意見がまとまった。

動画講義については、アクセス数577と少なく、次年度は休止とする。



看護部入退院支援調整委員会

【目的】 各部署における円滑な入退院支援調整の実践を支援することで、患者の早期退院・ケアの質の向上を図ることを目的とする。

【目標】 1. 各部署における退院支援の問題点を改善し、患者・家族のニーズを満たす退院支援ができる。
2. 退院支援について教育活動ができる。

【構成員】 委員長 近藤 ひとみ 副委員長 原田副師長・大野主任
看護部長 有村 智代
看護師長 松野下 恵子・上野 京
2西 鮫島 元子 2東 石橋 薫 NICU 山口 妙子 3西 梅木 いずみ
3東 下水流智美 3中 穂満一代 4西 朝廣美香 ICU 本坊ひろえ
2北 池田 美智子 2南 上温湯和美・仮屋由紀子
3北 深江 真由美・岩元 ゆかり 3南 松平 美紀 4北 松山 真衣
外来 川崎 陽子 クリニック 國生かおる
MSW 原口一博 吉満実 上西章子 山崎留実

【活動内容】

1. 学習会：①退院調整の基礎知識 I
②退院調整の基礎知識 II
③制度活用と転院調整
2. 外部講師研修：『臨床における倫理の考え方』相良病院 江口看護部長
3. グループワーク：①倫理をテーマに考える
②看護計画
4. ケア・カフェ：『地域医療福祉職との交流会』
5. 事例報告会

【総括】

今年度より、国の政策である「鹿児島県退院支援ルール」が開始され、当院の退院調整マニュアルや退院支援ルールを見直し5月から導入した。「退院支援ルール」の定着のためにも、まずは、退院支援調整委員ひとり一人が「退院支援ルール」を理解し、また、退院支援調整に関する知識を持てるように委員の教育を計画し取り組んだ。また、目標に①各部署における退院支援の問題点を改善し、患者・家族のニーズを満たす退院支援ができる。②退院支援について教育活動ができるとし、①の評価は、あまりできなかった・できなかったが、9 / 15 部署であった。患者・家族や多職種をまじえた退院支援カンファレンスの必要性は認識しているが実施できていない結果となった。しかし、「退院支援ルール」の導入よりケアマネとの連携ができ、各部署少しずつ件数は増えてきている。②の評価は、できた・ややできたが8 / 15 部署であった。委員会の中で学んだ事を各部署でそれぞれの方法で学習会など教育を行ったが、退院支援調整には活かされていない結果となった。次年度は、学んだ事が活かせるような取り組みが必要だと考える。



臨床検査適正化委員会

平成 27 年度臨床検査適正化委員会は、精度管理報告、新規検査項目の実施、外注化項目の決定や中止、検査運用の変更等、臨床検査の適正化を目的、目標に年 2 回（4, 11 月）程度開催しています。

【構成員】

委員長	白濱 浩	(診療支援部長)
副委員長	佐藤 榮一	(中央臨床検査部長)
副委員長	生野 博久	(総合内科部長)
委員	岩下 邦子	(看護副部長)
	尾堂 知子	(外来看護副師長)
	濱田 敏彦	(クリニック事務長)
	御供田 貴之	(経営企画課長)
	東 貴史	(医事課長補佐)
	村中 利也	(中央臨床検査部技師長)
	山崎 泰代	(中央臨床検査部主任)
	持留 ゆりか	(中央臨床検査部：議事録担当)

【平成 27 年度活動内容】

(精度管理報告)

- 平成 27 年度日本医師会臨床検査精度管理報告
参加項目数 49 で総合評点 99.1 と良好な成績でした。
- 平成 27 年日本臨床検査技師会精度管理報告
224 項目中 222 項目が A～B 判定であり良好な成績でした。

(新規検査システム、機器、検査項目等の更新)

- 血液ガス分析装置【RAPID Point500】導入のお知らせ
H27、3/6(金)より SIEMENS 社製の血液ガス分析装置【RAPID Point500】を中央検査室と外来検査室にそれぞれ導入した。
クリニック検査室は従来通り sysmex 社製の【AVL-OPTI-CCA】での運用となっている。
従来の測定項目
PH/PCO2/PO2/Base(B)/tCO2(P)/HCO3(P)/tHb/SO2/Hct/Na+/K+
上記に加えて、今回測定出来るようになった項目
FO2Hb/FCOHb/FMetHb/FHHb/nBili/Ca++/Cl-/AnAap/Glu/Lac
電子カルテのオーダー場所:『検査/臨床検査/血液ガス分析』や結果の保存場所:『検査結果』は変更なし。
- 自動採血管準備装置 BC・ROB08000RFID(Techo Medica 社製)
本館・クリニック総合処置室にて 9/28(月)より運用開始。
(前装置の使用を始めて 9 年が経過し故障やトラブルが多発していた為)
現在問題なく運用中。
- Pro2 システム：持続グルコースモニタ CGM(医療従事者用プロフェッショナル用)を 2015./8/3 より使用開始。
小児科より依頼があり、検査開始した。皮下に留置されたセンサで間質液中のグルコース濃度を測定し、1 日 4 回以上測定した血糖自己測定 (SMBG) を用いて補正したグラフを作成する。
目的：SMBG で見逃された高血糖を見つけるため。
対象：小児糖尿病・食後高血糖・血糖変動が激しい人・DM 合併妊娠糖尿病など
日程：連続 3 日測定。今の所小児は病棟でセンサを装着後、付添いの親や本人に行動表の記載を説明し翌日退院。3 日後外来でセンサの除去。

(検査項目の変更、中止)

- 院内検査
尿中レジオネラ検査キットの変更
(コスト減が見込まれる為の変更 原理や採取方法、検査時間等の変更はなし)

- ・外注検査
 フィブロンекチン採取容器の変更
 (新試薬への変更の為)
 (その他)

JCCLS の共用基準範囲について

- ・2014年4月より JCCLS の基準範囲(生化学・血液)の変更があった。
- ・現代人のデータを蓄積・解析し、より現代人に適した範囲になっている。
- ・変更になった項目は測定方法は変わらない為、過去の検査結果と比較可能。
- ・今回の変更で現在の治療方針が変わることはない。
- ・基準値には「基準範囲」と「臨床判断値」がある。
 県内では鹿児島大学病院が基準値の変更を行っている。当院では医師会の動きを見ながら、今後変更を検討していく。

以上のことが2回の委員会で報告、決定されました。



[医療の質向上]

委員長 松野下 恵子(報告)

看護記録委員会

【目標】 実践した看護が見える記録の充実を図り、看護記録の質向上を目指す

【構成員】

看護部長	有村 智代				
副看護部長	岩下 邦子				
委員長	松野下 恵子				
副委員長	上野 京				
主任	仮屋 由美	江口 しおり			
委員					
2西 本田里美	NICU 榎満香織	2東 堤しのぶ	3西 下内広美	3中央 永田美千代	
3東 中迫誠	4西 池ノ上さやか	ICU 都甲博美	2北 戸高孝子	2南 徳永裕美	
3北 深江真由美	3南 前原瑞紀	4北 橋本知佳	外来 窪田みどり	CL 大野ひとみ	
OP室 徳守由起子					

【平成27年度活動内容及び実績】

平成27年度は、「実践した看護が見える記録の充実を図り、看護記録の質向上を目指す」を目標に掲げ取り組んできた。マニュアルの作成に時間がかかりすぎ修正などにも時間を要した。また、記録委員に向けた学習会を3グループで分担し年3回実施。看護記録の基礎から取り組み、病棟での記録指導へつなげていけるように働きかけた。監査内容の見直しと記録監査を2回実施した。病棟から監査を通して気づきや改善が見られたとの意見もあった。しかし、現在も記録に時間がかかる状況が続いており、内容に関しても「欲しい情報」が記載されていない等の意見もあるため、問題点に沿った簡潔明瞭な記録が出来るよう今後の課題としていく。



患者図書室運営委員会

【委員会目的・目標】

患者図書室の管理・運営を円滑に遂行し、より充実した利用者サービスを提供できるよう患者図書室サービスを検討し、また患者図書室としての意向を反映できるようにする。

【患者図書室目的・目標】

患者さんご自身が病気や検査・治療法について理解を深め、医療提供者の医療に関する説明の質と効率の向上を図り、協働の医療を促進する。

【構成員】

医師(病院長・運営委員長)1名、看護部1名、リハビリテーション部1名、患者サポートセンター1名、緩和医療課1名、事務局(事務局長、総務企画課)3名、総務企画課 学術情報室 2名。上記のほか人事課ボランティア担当1名が参加。

【平成27年度の活動内容・実績】

患者図書室運営委員会の開催は2回。利用統計、蔵書点検、ボランティアスタッフの活動状況の報告や運営に関する細部について話し合いを行った。5月にはNPO法人『医療の質に関する研究会』の『患者図書室プロジェクト』による「協働の医療の推進と患者図書室の役割」と題したシンポジウムに1名が参加した。また、広報用に「患者図書室すまいる通信」を発行した。

患者図書室『すまいる』は前述のNPO法人の支援のもと、平成25年4月19日にオープンし3年が経過した。ボランティアスタッフを中心に原則2名ずつで運営しており、27年度は24名のボランティアが活動した。

27年度の延べ利用者数は2,521人、1日平均利用者数10.3人、入院患者比率48.3%、図書貸出数717冊であった。

眺めのよい場所で、書架にはボランティアや職員提供の様々な飾り物が置かれ、癒しの空間となっている。アクセスのよい場所ではないため利用者数にはバラつきがあるが、入院中は繰り返し利用される患者さんも見受けられ、徐々にゆっくりと本を読むことができたというご意見もいただいた。

平成28年度も引き続き、患者さんへの紹介や患者さん同士のロコミにつながるよう、職員への認知度の向上や利用の促進を図るとともに、広く職員の利用をお願いしたい。

・メディア掲載実績

南日本新聞． 患者向け図書室続々―市内の病院 医療学びくつろぐ場に． 2015.08.02



がん看護委員会

【目的】

1. 地域がん診療連携拠点病院であり、がん患者と家族がどの時期であっても安心して治療・療養できるように病院全体のケアの質の向上をはかる。
2. 院内における治療期から看取りにわたっての緩和ケアについての問題点などを議論し、緩和ケアへの関心を高め、本委員会で一緒に考えることによって質の向上を目指すことを目的とする
3. 院内で実施されているがん化学療法が“確実に”“安全に”“安楽に”行われるよう支えることを看護師の役割として自覚し、実践できるよう問題の共有化をはかり、対策を講じていく ことにある。委員会は、各部署1名の代表者とがん関連認定看護師を中心に構成されている。毎月第1木曜日に会議は開催され、年度ごとにテーマを設定し、緩和ケア・化学療法に対する技術・知識の向上に関して1年間を通じ学習し、それぞれの部署内での伝達を目指す役割を担っている。

【構成員】

布市 多美子、加治屋 加代子(外来) 中村 由美、高倉 加代子(クリニック) 税所 克代(2西)
 吉谷 茜(2東) 水間 真希子、西田 雅子(NICU) 松元 香奈、松寄 有香、老谷 愛(3西)
 上松瀬 奈々(3中) 恒吉 ひろみ(3東) 有川 靖子(4西) 井黒 真姫(ICU)
 東後藤 智恵美(OP) 赤崎 みすず(2北) 斉藤 潔子(2南) 久保田 詔子(3南)
 橋本 知佳(4北) 村崎 まこと(乳がん看護認定看護師) 芝 こずえ(がん放射線看護認定看護師)
 早崎 玲子(緩和ケア認定看護師)河原 尚美(がん化学療法看護認定看護師)

【一般目標】

- ・ 全ての看護師がアセスメントツールを正確に使用し、患者様のアセスメントを的確に行い、その内容に基づき看護を理論的に思考し、看護実践に活かすことができる。
- ・ 院内におけるがん看護の質向上をめざし、各部署が協力し、問題点の抽出、解決に向けて取り組める。

【到達目標】

疼痛評価シート、STAS-Jの内容を理解し、実際に利用することができる。

- ・ 疼痛評価シート、STAS-Jで得た内容を看護実践につなげることができる。
- ・ がん看護委員は、各部署において疼痛評価シート、STAS-J普及のためにリンクナースとして中心的な役割を担うことができる。

月	内容(予定)	司会	書記
4月	疼痛評価シートとは・・・	大西	村崎
5月	疼痛評価シートを普及させるためには	河原	大西
6月	疼痛評価シートを実際に部署で使用してみよう※DVD視聴	村崎	芝
7月	STAS-Jとは・・・	芝	河原
8月	STAS-Jを普及させるためには	河原	大西
9月	STAS-Jを部署で使用してみよう	大西	村崎
10月	STAS-J・疼痛評価シート使用し、看護実践に活かす方法	村崎	芝
11月	事例展開	芝	河原
12月	グループワーク(実際症例の提出 3西・2東・2北)	河原	大西
1月	グループワーク(実際症例の提出 2西・3東・外来)	大西	村崎
2月	今年度の評価と課題	村崎	芝
3月	次年度予定	芝	河原



医師臨床研修管理委員会

【目的・目標】

本委員会の医師臨床研修活動は、医師としての基盤形成期において、人格の涵養性、プライマリ・ケアの基本的な診療能力等を習得し、将来の地域医療を担う専門医の育成を目的とする。また、研修に専念できる環境の整備を図る。

【平成 27 年度委員(H28.3 現在)】

委員長 昇 卓夫

副委員長 / プログラム責任者 牟礼 洋

(指導医講習会修了医)

牟礼 洋、丸山 芳一、松永 俊二、瀨之上 雅博、長堂 竜維、米田 敏、堀之内 兼一、玉田 泉、田代 幸恵、加藤 明彦、生野 博久、今給黎 尚幸、銚立 博文、今給黎 和幸、西山 淳、石田 育男、甲斐 太、三宅 健治、大磯 陽子、吉永 英希、大場 一郎、二木 真琴、中目 康彦、小玉 哲史、益満 幸一郎、久留 光博、高橋 誉(谷山病院)、平原 一穂(鹿児島市立病院)、厚地 伸彦(中央病院)、杉本 東一(奄美病院)、井本 浩(鹿児島大学病院)、永嶋 智成(公立種子島病院)

(上級医)

昇 卓夫、西澤 輝彦、池田 耕自、高木 信介、盛満 慎吾、小瀨 浩介、川島 寿史、宮口 文宏、高橋 範雅、丸山 有子、中禮 久彦、下舞 浩二、松邨 宏之、浜畑 弘記(長島町立鷹巣診療所)

(外部委員)長野 芳幸

(パラメディカル)有村 智代、高橋 真理、兒島 邦幸、村中 利也、室屋 純一、上平田 美樹、原口 一博、野口 桂一、永井 美由紀、山本 あかり

【平成 27 年度の活動内容及び実績】

平成27年度は、基幹型初期臨床研修医6名および研修再開者1名を採用、ならびに鹿児島大学病院の協力型研修医5名を受け入れ、計19診療科で指導を行った。

4名の上級医が2日間にわたる指導医講習会を修了し、当院における厚労省指定の指導医は計26名となった(H28.3現在)。一部の委員で研修医体制会議を計12回(毎月1回)開催した。救急症例カンファレンスは毎週火曜と金曜に開催し、研修医、救急担当指導医および各科の指導医が参加した。修了判定会には委員18名が参加し、研修医2名の研修修了が承認された。

新臨床研修制度が導入された平成16年度以降、鹿児島県における臨床研修医数の低迷が続いているが、平成28年度採用医師臨床研修マッチング(H27年度実施)県内マッチ者は99名(前年度比5名増)、そのうち実際の採用者93名(前年度比1名増)であり、2年連続で良好な結果が得られた(目標採用人数は100名)。なお、当院における採用人数は昨年度比4名減の2名であった。今後も県内医学生や鹿児島出身の県外医学生に対するアプローチに注力し、指導体制の充実にも取り組む必要がある。

また、医師法第16条2第1項の中で「指導医はプライマリ・ケアの指導方法等に関する講習会を受講していること」と規定されていることから、院内の研修指導に携わる医師に対して指導医講習会の受講を引き続き推進していくこととする。

初期臨床研修関係事業(平成 27 年度)

日付	事業名称	当院参加者	場所	主催
H27.4.24	「平成27年度研修医歓迎レセプション」	9名	県医師会館	県医師会
H27.5.26	「平成27年度第1回桜島プログラム説明会」	3名	鹿児島大学病院総合臨床研修センター	鹿児島大学病院総合臨床研修センター
H27.6.5	「平成27年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	3名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H27.6.7	「マイナビ RESIDENT FESTIVAL 福岡会場」への派遣	1名	JR九州ホール	マイナビ
H27.6.24	「平成27年度第1回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会」	1名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H27.7.4~5	「第26回 日本医師会 指導医のための教育ワークショップ」(久留医長修了)	1名	晴海グランドホテル	日本医師会
H27.7.10	「平成27年度第1回臨床研修病院合同説明会」	6名	鹿児島大学医学部	県初期臨床研修連絡協議会
H27.8.20	「鹿児島県臨床研修病院見学ツアー事業」(Cコース)	—	県内11病院	県初期臨床研修連絡協議会
H27.8.21	「春の臨床研修病院合同説明会」	5名	サンプラザ天文館	県初期臨床研修連絡協議会

H27.9.12	「第12回鹿児島県臨床研修医合同研修会」(症例発表：黒島研修医)	10名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
H27.11.21～22	「指導医養成講習会」(大場部長および二木医師修了)	2名	鹿児島大学病院総合臨床研修センター	県初期臨床研修連絡協議会
H27.11.25	「平成27年度第2回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	3名	鹿児島県文化センター(宝山ホール)	県初期臨床研修連絡協議会
H27.12.13	「eレジフェア2015 in 福岡」	7名	福岡国際会議場	リンクスタッフ
H27.12.16	「平成27年度第2回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会」	1名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
H28.1.9	「第13回鹿児島県臨床研修医合同研修会」(症例発表：白石研修医)	12名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
H28.2.6～7	「第27回 日本医師会 指導医のための教育ワークショップ」(中目部長修了)	1名	晴海グランドホテル	日本医師会
H28.2.13	「九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会」	6名	福岡国際会議場	九州厚生局

(その他)・医学部医学科3～6年 病院見学者33名(鹿児島大学5名、県外大学28名)を受け入れた。
 ・奄美病院(精神科研修)を研修協力施設として厚生労働省へ追加申請した(平成28年度研修プログラムより適用)。

(研修歯科医)

鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 研修歯科医27名を受け入れ、指導教育を行った。



[教育研修推進]

委員長 長堂 竜維 報告 前野 浩一

職員教育研修委員会

【目的】

安全で質の高い医療を効率的に提供するには、職員の生涯に亙る教育研修は極めて重要である。病院の業績を上げ発展させる要素は多種あるが、究極には職員各人の能力の向上とその十分な発揮が最大の要素であり、各人の能力水準を組織的、継続的に発展させる事が重要である。

【活動内容】

- *全職員対象講演会、院内学術、各委員会主催講演会の管理・運営
- *各部署の学会・研修会・旅費等の把握
- *学会・研修会等の職員の要望、意見、改善等の対策

【総括】

今年度はがん連携拠点病院として、開催すべき講演会は全て行えたが、地域の連携施設の参加がどうしても少なく、院内の職員参加も含め、集客を上げるにはどうしたらよいか。開催時間はいろいろと変えているが、毎年、係をしていて感じることである。アイデアがあれば教えて頂きたいものである。

医療安全と感染の講演会も無事に開催できた。職員教育講演会も今回は認知症について学んだ。超高齢化社会を迎えるにあたり、正しい知識を学んだ非常によい講演会であった。

学会参加状況であるが、26年度は全体で500件くらいであったが、今年度は700件を超えた。学会発表、共同演者での参加、単位維持・更新、加算条件での参加などさまざまであるが、1つの学会に大勢で参加する事も多く、旅費が結構かさむ要因となっている。

4年後は病院移転もあるので、最低人数の参加や、参加者による情報共有、オンデマンド等を使用し、少し制限していかなければならないと感じる。

院内で開催する講演会などが、単位更新・取得などになれば少しは経費も抑えられると思うが、実現するものだろうか。各学会、県や市医師会などの動向も把握したいと考える。



図書委員会

【図書室目的】

職員の生涯研修及び医学・医療の知識の向上を図り以て高度医療・地域医療・救急医療に貢献する。

【構成員】

医師(病院長、昭和会クリニック院長)2名、看護部1名、薬剤部1名、中央放射線部1名、中央臨床検査部1名、リハビリテーション部1名、栄養管理部1名、事務局(総務企画課1名、総務企画課 学術情報室 1名)

【平成27年度の活動内容・実績】

28年3月に図書委員会を開催。図書室の概要、各種統計を報告した。また、文献複写費用の値上がりや依頼件数の増加に伴い、28年4月より依頼には申込書の提出を必須とし、病院負担は変わらないが申込者へ費用を通知することを決定した。

病院図書室は、医局棟3Fにカンファレンスルームとスペースを共用する形で設置されていたが、新刊の雑誌架のみを残して25年4月より本館7Fカンファレンスルームの一隅に書架を移動している。

スペースの関係上蔵書は殆どを各部門に排架しているが、データは一元管理しており、各部門からの廃棄申請により除籍処理も行っている。また、各種資料を病院ホームページや電子カルテ端末で閲覧できるよう整備している。28年度は蔵書点検を実施する予定である。



労使委員会

【目的】

職員にとって働きやすい環境づくりに取り組み、労働意欲と健康の維持、向上を図る。労使協力して職場の繁栄を目指し、相互の満足、共存共栄を目的とする。

【委員会】

労使代表者が集まり、定例夏に行う。但し必要に応じて随時開催する。

平成27年度開催実績2回開催 9月3日・3月2日

【活動状況】

- ・時間外労働に関する協定書・協定届の確認
- ・就業規則 第5条・7条・16条・23条改定
- ・給与規程 第34条・35条改定
- ・旅費規程 第2条追加
- ・人事考課規程昇給額変更



看護教育委員会

看護部看護教育理念は

- 1：社会人として、組織人として、専門職業人として自ら考え行動できる人を育てる。
- 2：患者中心の質の高い看護を実践できる看護師を育てるとある。

毎月第1木曜日 各部署の師長、教育委員にて委員会が開催される。

院内研修の概要は、新人看護師をレベル1、2年目をレベル2、3年目をレベル3とし、4年目以降はレベル4となり10項目に分担している（医療安全、感染管理、救急看護、人工呼吸器ケア、がん看護、看護管理、看護倫理、教育、離島研修、看護研究、）。そのほか、中途採用者、看護補助者研修がある。1～2か所の病棟で1項目の企画、運営を担い、企画書、プログラムを作成し、委員会で詳細の決定を行う。最近ではオンデマンド研修を上手く活用している研修も増えてきている。

平成27年度 院内研修(看護教育委員会企画、運営) 114回／3739名参加

27年度 年間オンデマンド研修教育計画 自分の時間で自由に聴講 自由意志による研修

	目的	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月
S-Q 研修	オンデマンド Eナース	藤山	エビデンスに基づいたスタンダードプリコーション 尿道留置カテーテルの感染対策	ドレーン管理をめぐるインシデントアクシデント 認識行動の一貫した看護実践への支援	院内急変でのファーストエイドとアセスメント 症例から考えるドクターコールのポイント	リハビリテーション 褥瘡	Dr大島一太の心電図講座(房室ブロック) 侵襲に対する生体反応を踏まえた周手術期看護	災害発動時の連携と減災に繋げる災害への備え 質の高いエンドオブライフケアを目指す家族ケア
	ワンポイント Eナース	藤山	低流量カニューラ簡易酸素	高流量インスピロンネブライザーベンチュリーマスク	NPPV	CAM-ICU	ICDSU	せん妄対策の実際
	特別企画	藤山			第13回病院環境フォーラム15岡山	第14回病院環境フォーラム15病院機能評価2015		中途採用者の職場適応支援
	フォローアップ 必要度	藤山		評価項目の理解		院内基準の作り方B項目の記録のルールを徹底する		模擬アセスメント1
	ワンポイント 介護	藤山	接遇・マナーコミュニケーション		安全な排泄介助と転倒・転落予防		洗体の基礎と入浴前後のチェックポイント	

	目的	担当	10月	11月	12月	1月	2月	3月
S-Q 研修	オンデマンド Eナース	藤山	気管吸引と気道ケア(ウルトラネブライザー、カフ管理) 正しく理解しよう酸素療法	癌患者のリハビリテーション看護 外来化学療法と副作用	認知症とせん妄をアセスメントする 食べる力の支援	実践！QOLを改善する栄養管理 チームで楽しく行う看護研究の極意	看護倫理ケアの本質とは 急性期から在宅へ繋げる看護連携	急性期患者の呼吸におけるフィジカルアセスメント 患者の声にならない訴えを看る
	ワンポイント Eナース	藤山	モニタリング	心電図	パルスオキシメーター	NRS	BPS	CPOT
	特別企画	藤山			地域包括ケア病棟の管理ポイント		医療安全とメディアーション	28年度社会保険診療報酬改定説明と解説
	フォローアップ 必要度	藤山		電子カルテでの看護必要度評価と監査		継続学習の進め方 良い作問のポイント		模擬アセスメント2
	ワンポイント 介護	藤山	食事介助と口腔ケア		起居～車いす移動		体位変換と杖歩行の介助	



看護臨地実習指導者会議

【目的】

本会は、臨地実習の意義と実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導を行い、実習指導者としての資質の向上を図る。

【構成員】

有村看護部長 藤山副看護部長 委員長 上之菌 副委員長 池上・西
各病棟から選出された看護師34名

【活動内容及び実績】

1) 平成27年度の目標

①より良い臨地実習が実践できるよう人的・物的環境を整える。

評価：各学校の実習目標に合わせた指導を看護師全員ができるよう指導案を作成した。活用は十分ではなかったが、実習前に学校の実習目的・目標を看護師へ周知を図る病棟が増えてきた。次年度は指導案を使用し改善していき、誰でも気軽に手に取って見るよう有効活用していきたい。物的環境としては学生にとってペーパータオルや手袋が設置場所に関して使いにくいとのことであり、初日に学校が必要数準備をし、後は看護師と同じ場所に置き使用すると決まった。

②専門職業人を目指す学生として知識・技術・態度を身につけ看護者としての喜びなどを学ぶ。

評価：学生にPNS看護方式に事前に学んでもらい、実習中は日々のチームの一員として看護師とペアで行動する場面が増え、看護の価値観・楽しさなど実感できていたという報告があがってくるようになった。

2) 5月伝達講習：看護協会開催

「平成26年度実習指導者講習会を受講して」

3) 12月伝達講習：鹿児島医療技術専門学校で開催された研修

「実習における効果的な指導の在り方」

4) 医療法人協会立看護専門学校実習指導者会議報告

5) 毎月各学校の実習打ち合わせや反省会を行った。学校名は以下の通りである。

久木田学園看護専門学校 鹿児島医療法人協会立看護専門学校 神村学園専修学校 龍桜高等学校
鹿児島医療技術専門学校 鹿児島中央看護専門学校 鹿児島高等看護学院 神村学園高等部



病床運営委員会

【目的】

病院全体の病床の効率的な各科の割り当て・入退院の状況及び空床状況に合わせ急性期のDPCの医療機関として適切かつ効率的病床の有効利用を目指す。

長期入院患者（3ヶ月以上）の把握と社会的入院患者の減少を目指す。

DPC病院であり効率化の向上を目指す。

【開催日時】

毎月1回 業務連絡会前 別館地下講義室

【構成員】

昇院長(委員長)・今給黎理事長・牟禮 Dr・西澤 Dr・大久保 Dr・丸山(神)Dr・寺原 Dr・生野 Dr
有村(看護部長)・藤山(看)・近藤(看)・岩下(看)・尾堂(看)
野口(事)・川井田(事代)・御供田(経)・上唐湊(医事)・原口(MSW)・吉満(MSW)

【会議議題】

前月の病院全体平均在院日数及び各科の在院日数の報告と改善策

前月の病床稼働率の報告及び改善策

長期入院患者数（3ヶ月以上）の報告と各患者状況把握

入退院調整会議報告からの運営改善

その他、病床の有効利用や用途変更について

【総括】

平成27年度は、在院日数・医療看護必要度・病床稼働に着目した病床運営が必要となりました。

特に在院日数については長期入院患者の在院日数への算入・短期滞在手術の在院日数除外等があり18日以下への取り組みが強化されました。

また、連携パス（頸部骨折・脳卒中）実施のためには在院日数17日以下を目標に運営が必要となり、より一層の在院日数への取り組みの強化が必要となりました。

在院日数短縮化を実行していくと稼働率低下が著しくみられ、稼働率維持及び必要度達成の目的で回復期病棟の運営を27年1月より実施しています。また病床管理部と連携し、各診療科への入院患者数の向上、稼働率などの分析を行いDPC I期での退院患者減少にも努めています。

来年度においても、退院支援の充実を図るとともに新規入院患者数の向上、医療看護必要度、稼働率向上を目指した病床運営を図ることが課題です。

平成27年度（平均在院日数・稼働率・入退院数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均値
在院日数	15.1	16.9	15.4	15.5	15.9	15.5	15.8	16.5	15.7	17.1	17.1	15.7	16.0
稼働率	87.3%	78.2%	86.3%	82.0%	80.9%	76.3%	79.6%	78.3%	77.8%	79.1%	88.1%	85.4%	81.6%
入院数	728	604	731	697	649	633	725	667	652	671	674	748	681.6
退院数	740	620	709	727	657	622	725	659	725	587	652	757	681.7



病床管理部会議

【目 的】

1. 空床状況の全体把握により病床を有効活用
2. 緊急入院用の病床の確保
3. 病床決定に要する時間削減
4. 目標稼働率達成の支援

【目 標】

1. 病床稼働率達成の支援（病床稼働率86.9%を達成すべく病床調整を図り支援を行う）
2. 個室一元管理（平成28年度個室一元管理に向けた準備期間）
3. 退院支援の調整（退院支援ルールの定着）

【実働メンバー】

生野博久（総合内科部長）、近藤ひとみ（副看護部長）、原口博一（MSW）、吉満実（MSW）、	
松野下恵子（看護師長）	担当：病床管理全般
窪田いずみ（退院調整看護師・主任）	担当：退院調整
小湊麻美（医事課主任）	担当：医事課兼務・病床調整
宮下浩子（診療補助部）	担当：データ管理

【活動内容】

1. 病床管理部に関する会議の開催
 - ① 病床運営会議（第2月曜日）
 - ② 入退院調整会議（9月中止）
 - ③ 病床管理部会議（業務運営会議の前後の金曜日 2回/月）
 - ④ 回復期リハビリ病棟選定会議（毎週水曜日：小湊）
2. 空床状況の全体把握により病床の有効活用
3. 緊急入院用の病床の確保
4. 病床決定に要する時間削減
5. 目標稼働率達成の支援

平成26年8月に病床管理部発足、11月から仮運用となり平成27年4月から本稼働開始となった。病床管理部では、これまでの問題として①入院患者400名を超える時の緊急入院のベッド確保困難、②病床検討から決定までに時間を要する、③入院受け入れがスムーズに運ばない等の解決へ向け取り組んだ。毎日、入退院・空床状況を確認（1日3回）し、入院状況に合わせ夜間緊急対応と感染症対策のための個室確保に備え病床の有効活用ができた。それに伴い病床決定までの時間削減も5時間要していたのが15分程度まで短縮された。目標稼働率の支援としては、改善計画シートを使用し医師と病棟師長からの分析や意見を確認し、要望などは院長や経営企画課へ報告し改善へ繋げている。個室一元管理では、個室（差額室料）免除対象患者となる基準や差額室料規程の見直しと入院予約票作成、入院確定から病室決定までの手順などを作成し、問題なく個室一元管理が行えている。退院支援調整に関しては、退院調整看護師が中心となり、5月より退院支援ルールに基づきケアマネージャーとの連携を図っている。また、マニュアルの見直しや各病棟の退院支援カンファレンスへ参加し活動している。



労務委員会

【目的】

働きやすい環境づくりを基本に、規程の策定や見直し、各部署からの事案の検討、検証、解決を図り、職員人事考課制度の運用と適正な人件費管理を目的とする。

【構成員】

昇卓夫(委員長)・有村看護部長・野口事務局長・堀経営企画室長・十島人事課長補佐

【主な議題】

- 4月 人事考課の進捗・人件費、資格手当申請、昇格の検討
- 5月 人事考課進捗の確認、医師多面評価、早期退職者検討
- 6月 人事考課の決定、昇給昇格の決定、人事異動の検討、託児所利用料
- 7月 人件費・時間外推移、平成26年度総人件費増減確認、初任給検討
- 8月 人件費・時間外推移、規程の整備（保育室規程・旅費規程）、パート職員人事考課検討、人事考課中間面談実施検討、EPAの検討、労使委員会準備
- 9月 人件費・時間外推移、パート職員人事考課検討、人事考課中間面談実施検討
- 10月 人件費・時間外の推移、新卒採用状況、パート人事考課の昇給検討、正職員登用の検討、WLB委員会からの要望対応、規定の整備（旅費規程・就業規則）、労務問題
- 11月 人件費・時間外の推移の検証、新卒採用状況、正職員登用の検討、住宅手当の確認、試用期間中の給与支給日の検討、労務問題
- 12月 人件費・時間外の推移の検証、人事考課説明会日程調整、賞与対象期間の変更検討、人事考課昇給ピッチの変更検討、人事異動の検討
- 1月 人件費・時間外の推移の検証、人事異動の検討、医師多面評価日程確認、職員人事考課日程確認、新卒採用状況進捗確認、労使委員会の準備、有給休暇の整理、入社式日程調整
- 2月 人件費・時間外の推移の検証、医師多面評価進捗確認、職員人事考課進捗確認、新卒採用状況進捗確認、労使委員会議題確認（就業規則・給与規程・旅費規程）、有給休暇条件確認
- 3月 人件費・時間外の推移の検証、医師多面評価進捗確認、職員人事考課進捗確認、新卒採用状況進捗確認、正職員登用検討

【総括】

平成27年度本委員会では引き続き「人件費の適正化」「職員のモチベーション向上」「規程の整備」を主な施策として取り組みました。（人件費率：平成26年度55.3%⇒平成27年度56.0%）



働き続けられる職場作り (Work Life Balance) 検討委員会

【目的】全職員が健康でやりがいを持って働き続けられる職場をつくる

【構成員】人事課：十島課長補佐、小林

看護部：岩下副部長、田中師長、尾堂副師長、永尾主任、中尾主任、有村主任、田中、渡邊

中央放射線部：田川主任、稲留

臨床工学部：外口主任

リハビリテーション部：植村主任、重水

薬剤部：神門主任、竹内

【活動内容と実績】

- ・日本看護協会から看護職のワークライフバランス推進カンゴザウルス賞を受賞。
表彰状はラミネートし副賞のピンクのカンゴザウルス(ヌイグルミ)とともに総合案内に掲示した。
- ・鹿児島県看護協会の平成27年度のWLB推進ワークショップに参加

●定例の活動

- ・月1回(毎月第4火曜日 16:00～)の会議

- ・びたっとカエルデー(第4金)の実施

- ・研修、業務、広報、分析の4つのグループで、活動

- ・各グループの活動状況

◇研修グループ

腰痛教室が好評だったため、本年度は開催時間や回数をリハビリ担当者と検討

労働安全衛生委員会との協働開催をすすめた。

肩こり教室 10/28(水) 13:30～14:15

◇広報グループ

2回/年発行、今後も不定期に研修の紹介や就業規則へのQ&Aなどタイムリーな情報を掲載していく予定。

WLB委員会便りを電子カルテ エントランス内で閲覧可能とした。

◇業務グループ

- ・業務時間外の研修のあり方
- ・前残業の削減に関する工夫
- ・薬剤部の業務負担軽減として薬剤部からお願いごととしてまとめ看護部へ提案
- ・残薬処理をなくすための取り組みとして医師への協力依頼
- ・ピタッとカエルデーの達成率調査

◇分析グループ

*年度途中でメンバー交代などして人員減となり、業務グループとともに活動

- ・その他

- ・永年勤続賞与について
- ・忘れられないエピソード小冊子が30部を各部門へ配布
- ・各部署の病棟費の運用について不公平感の解消に向けた検討
- ・カエルバッジの再発行と配布部署及び配布数を拡大

病児保育室

【平成 27 年病児保育室業績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ利用者数	43	55	67	66	55	42	56	38	54	47	51	77	651
開設日数	24	23	26	26	26	23	26	23	25	23	24	26	295
満室お断り	9	25	28	10	9	7	5	2	5	6	9	21	136
1日平均	1.8	2.4	2.6	2.5	2.1	1.8	2.2	1.7	2.2	2	2.1	2.9	2.2
キャンセル数	26	22	87	33	57	38	26	20	29	26	55	67	486
新規登録数	1	4	8	1	3	3	2	3	3	0	2	4	34

多くの方々のご協力の下、順調に8年目の運営を展開しております。
昨年度の利用者数合計582名をお預かりに対し、本年度は651名と利用者が増加しました。本年度に關しましては産休中のスタッフの復帰で預かり数に対応できていたと考えます。子育てと仕事を両立でき、働き続けられる職場環境の提供の一つと考え、今後も病児保育室を通して貢献できたらと思います。

【参加学会】

平成27年6月13～14日	日本医療保育学会 東京	参加者	鈴木・吉村
平成27年7月19～20日	全国病児保育研究大会 熊本県	参加者	西郷・鈴木・吉村
平成27年10月17～18日	日本保育園保健学会 鹿児島県	参加者	鈴木・畠中・西郷・吉村
平成27年11月22日	日本医療保育学会 九州・沖縄ブロック研修会	参加者	鈴木
平成27年11月29日	全国病児保育協議会 鹿児島支部会	参加者	玉田・畠中・西郷・鈴木

【資格取得】

平成28年2月 一般社団法人 全国病児保育協議会認定 病児保育専門士資格取得 吉村



広報委員会

【目的】 医療の公共性や、地域に開かれた病院としての観点から、広報誌の発行、病院パンフレット、インターネットを通じての患者さまや他医療機関、地域の方々に対する広報を目的とする。

【構成員】 委員長 西澤輝彦
総務企画課 前野浩一 中央放射線部 池田 真一、中央検査部 花房雅子（～12月）、永岡 伸代（1月～）、薬剤部 壽 明伸、リハビリテーション部 古市 寿子（～6月）、高田 奨（7月～）
栄養管理部 鶴瀬 裕美、相談支援センター 吉満実（～12月）、山崎 留実（1月～）・岡本 美穂、看護部（師長担当）、学術情報室 大原美保子・永井美由紀

【活動状況】

年4回 但し必要に応じて随時開催

広報委員会では広報誌、院内報の発行が主な活動となっている。

広報誌 四季だより（季刊誌年4回発行） 院内報 いまきいれ（毎月発行）
病院案内・病院業績集 昭和会誌（年報）平成27年9月発行
ホームページ・Facebook

■メディア取材対応など

- ・2015年8月2日 南日本新聞掲載『患者向け図書室続々』 患者図書室取材
- ・2015年10月～2016年2月がん検診受診率向上キャンペーン（LEAP・FM鹿児島）
 - LEAP1月号（2015.12.20）掲載 乳がん検診、エフエム鹿児島 あさCafe！11月3日～12月15日
 - LEAP3月号（2016.2.20）掲載 子宮がん検診、エフエム鹿児島 あさCafe！12月22日～2月2日
- ・救急隊員産科講習会取材
 - 2015年12月5日 南日本新聞 掲載 『母子ともに安全に』、各民放
- ・新生児専用救急車「MOJOKA 1号」取材
 - 2016年2月7日 南日本新聞掲載 『赤ちゃん専用の救急車』、NHK、各民放
- ・2016年3月30日 「今給黎・高田病院 狙いは」MBCニューズナウ 今給黎尚典理事長 インタビュー

■その他 病院案内、看護師募集、薬剤師募集案内パンフレット作成

今年度は研修医募集のプロモーションビデオ制作と同時に病院紹介映像も制作し、YouTubeに病院のチャンネルを開設、またホームページ、Facebook上でも動画を公開した。年度後半はLEAP・FM鹿児島の企画や、新生児専用救急車、移転に伴う取材など各メディアで掲載、報道される機会があった。今後は取材の為の準備を迅速に行うこと、取材依頼窓口となる事務局と伝達漏れのないよう連携を取りたい。

印刷物については昭和会誌が20号と節目の号でデザインを変更。薬剤師募集のリーフレットを作成した。

広報誌・ホームページ等からの情報提供により病院への信頼、理解、好意を得られ、患者さまの満足度も高められると思います。今後もより多くの情報を発信し、患者さま、関連施設、地域の方々とのコミュニケーションを図りたい。

研究実績

V

■ 各診療科・各部署別 研究実績

- 論文・誌上発表
- 学会発表 他

■ 院内研修会・講演会一覧

■ 院外活動報告

血液内科

【論文・誌上发表】

原著

1. Obama K.

The feasibility and Efficacy of Dose-Adjusted Bortezomib, Melphalan and Dexamethasone for Transplantation-Ineligible Patients with Newly Diagnosed Multiple Myeloma. Acta Haematol 2015

【学会発表】

1. Kosuke Obama

The feasibility and Efficacy of Dose-Adjusted Bortezomib, Melphalan and Dexamethasone for Transplantation-Ineligible Patients with Newly Diagnosed Multiple Myeloma.

第77回 日本血液学会総会 2015年10月17日 金沢

消化器内科

【講演（院外）】

1. 今給黎 和幸

ファーストカンファレンスから碎石術まで 第1回 鹿児島胆膵カンファレンス 鹿児島市立病院

【講演（院内）】

1. 今給黎 和幸

早期膵癌へのアプローチ 第5回今給黎総合病院 がん診断講座 2015年3月20日

2. 今給黎 和幸

薬剤起因性消化管潰瘍のリスクとマネジメント 今給黎総合病院 勉強会

呼吸器内科

【学会発表】

1. 松山緑、砂永祐介、新村昌弘、川島寿史

約20年後に肺転移で再発した悪性線維性組織球症の1例

第75回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部秋季学術講演会 2015年10月 佐賀市

神経内科

【学会発表】

1. 白元亜可理、金子浩之、安藤匡宏、田代雄一、吉村道由、荒田仁、高嶋博、樋口理、中根俊成

抗gAChR抗体陽性例における疾患スペクトラムの多様性についての検討

第56回日本神経学会学術大会 2015年5月21日 神戸

2. 黒島 知樹、甲斐 太、白元 亜可里、林 茂昭、長堂 竜維、丸山 芳一

中脳梗塞により治療抵抗性の吃逆を呈した1例 第311回日本内科学会九州地方会 2015年11月15日 長崎

【座長】

丸山芳一

鹿児島HIV感染症研究会「HIV感染症の新知見」九州医療センター エイズ診療センター長 山本政弘先生

鹿児島大学医学部 鶴陵会館 2015年11月22日 鹿児島

【講演（院外）】

丸山芳一 一血栓症のトータルマネジメント

エドキサバンフォーラム in 鹿児島鹿児島東急イン 2015年5月25日

丸山芳一 脳卒中のトピックスー 2015年版脳卒中治療ガイドラインー

第87回南薩医学研究会 南九州市 2015年8月27日

丸山芳一 新規経口抗凝固薬のインパクト その光と影

第48回日本薬剤師会学術大会 ランチョンセミナー 鹿児島市 2015年11月22日

長堂竜維 内分泌総論 武田薬品 武田薬品鹿児島支社 2015年1月16日

長堂竜維 パーキンソン病概論 協和醗酵キリン 協和醗酵キリン鹿児島営業所 2015年1月26日

長堂竜維 パーキンソン病の治療 大塚製薬 大塚製薬鹿児島営業所 2015年8月31日

長堂竜維 多発性硬化症 武田薬品 武田薬品鹿児島営業所 2015年11月17日

【講演（院内）】

丸山芳一 鹿児島県の HIV 感染の実態と針刺し事故の対応 院内感染対策講演会 2015年8月31日

外科

【学会発表】

1. 野口 智弘、濱之上 雅博、下村 寛貴、立野 太郎、牟禮 洋
神経内分泌腫瘍の2症例 鹿児島県臨床外科学会 2015年3月14日 鹿児島市
2. 野口 智弘、濱之上 雅博、下村 寛貴、立野 太郎、牟禮 洋
有茎性小腸腫瘍によりイレウスを発症した2症例 JDDW 2015 2015年10月10日 東京
3. 立野 太郎、濱之上 雅博、吉満 浩平、野口 智弘、牟禮 洋
HBV-DNA陰性キャリアに発生したHCC 2例 第27回日本肝胆膵外科学会 2015年6月12日 東京
4. 下村 寛貴、野口 智弘、濱之上 雅博、立野 太郎、牟禮 洋
結腸神経内分泌癌の1例 鹿児島市外科医会 春季例会 2015年4月月
5. 下村 寛貴、濱之上 雅博、野口 智弘、立野 太郎、砂川 珠輝、牟禮 洋
総胆管癌術後9年目に発症した肝内胆管癌に拡大右葉切除を行った1例 鹿児島肝癌研究会 2015年6月27日
6. 益満 幸一郎、濱之上 雅博、吉満 工平、野口 智弘、牟禮 洋
成人先天性胆道拡張症に対し手術を行った一例 鹿児島市外科医会 秋季例会 2015年11月
7. 砂川 珠輝、濱之上 雅博、吉満 工平、野口 智弘、益満 幸一郎、牟禮 洋
尾骨仙骨前dermoid cystの1例 日本臨床外科学会 2015年11月27日 福岡
8. 砂川 珠輝、濱之上 雅博、吉満 工平、野口 智弘、益満 幸一郎、牟禮 洋
胃癌術後 脳単独転移を認めた1例 鹿児島臨床外科学会 2015年8月8日

【講演（院外）】

濱之上雅博 当院における大腸癌症例の地域連携 大腸癌治療カンファレンス 2015年3月28日 鹿児島

【講演（院内）】

濱之上雅博 胆膵癌における外科治療 今給黎総合病院 がん診断講座 鹿児島市 2015年3月20日

呼吸器外科

【論文・誌上発表】

1. 今給黎尚幸、米田 敏、巻幡 聡、岩崎 昭憲
後縦隔原発神経節細胞腫 (ganglioneuroma) の2手術例 呼吸器外科学会誌 2015; 29(1):20-24

【学会発表】

1. 今給黎尚幸、巻幡 聡、米田 敏
完全鏡視下右肺中葉切除のリンパ節郭清範囲の検討 七隈癌治療フォーラム 2015年1月16日 福岡
2. 佐保 明、今給黎尚幸、巻幡 聡、米田 敏、岩崎昭憲
術後病理組織で診断した肺放線菌症の3例 第47回日本胸部外科学会九州地方会総会 2015年1月24日 沖縄
3. 山本耕三、山本玲央那、徳石恵太、濱田利徳、岡林 寛
VATS左上葉切除後に腎梗塞をきたした一例 第47回日本胸部外科学会九州地方会総会 2015年1月24日 沖縄
4. 藍嵐、今給黎尚幸、巻幡聡、米田 敏、岩崎昭憲
縦隔腫瘍との鑑別が困難であった孤立性繊維性腫瘍(solitary fibrous tumor : SFT)の一例
第55回日本肺癌学会 九州支部学術集会 2015年2月27-28日 福岡
5. 今給黎尚幸、巻幡 聡、米田 敏
完全鏡視下右肺中葉切除のリンパ節郭清範囲の検討 福岡呼吸器外科フォーラム 2015年3月6日 福岡
6. 巻幡 聡 今給黎尚幸 米田 敏
術前N factorが過小評価であった症例の臨床学的検討
第32回日本呼吸器外科学会総会 2015年5月14-15日 高松

6. 今給黎尚幸、巻幡 聰、米田 敏
当科における完全鏡視下右中葉切除～上縦隔へ向かう #11s、12uの郭清を中心に～
第32回日本呼吸器外科学会総会 2015年5月14-15日 高松
7. 山本耕三、山本玲央那、徳石恵太、濱田利徳、岡林 寛
非結核性抗酸菌症に合併した有癭性膿胸症例5例の検討
第32回日本呼吸器外科学会総会 2015年5月14-15日 高松
8. 白石一光、今給黎尚幸、山本耕三、米田 敏
大量血胸を来したVon Recklinghausen病の1例 第48回日本胸部外科学会九州地方会 2015年8月6-7日 佐賀
9. 山本耕三、山本玲緒奈、緑川健介、徳石恵太、濱田利徳、岡林 寛
有癭化した結核性慢性拡張性血腫に対する分割根治術
第48回日本胸部外科学会九州地方会 2015年8月6-7日 佐賀
10. 山本耕三、今給黎尚幸、米田 敏
完全鏡視下右肺S8区域切除 第6回南九州VATSクラブ 2015年10月31日 かごしま鹿児島

【座長】

米田 敏 第55回日本肺癌学会九州地方会総会 2015年2月28日 福岡

整形外科

【論文・誌上発表】

1. Matsunaga S , Komiya S, Toyama Y
Risk factors for the development of myelopathy in patients with cervical spondylotic cord compression. Euro Spine J 24:142-149, 2015
2. Hashizume H, Konno S, Takeshita K, Fukui M, Takahashi K, Chiba K, Miyamoto M, Matsumoto M, Kasai Y, Kanamori M, Matsunaga S, Hosono N, Kanchiku T, Taneichi H, Tanaka N, Kanayama M, Shimizu T, Kawakami M.
Japanese orthopaedic association back pain evaluation questionnaire (JOABPEQ) as an outcome measure for patients with low back pain: reference values in healthy volunteers. J Orthop Sci 20: 264-280, 2015
3. 宮口文宏、城光寺 豪、堀川良治、山口 聡、井尻幸成、松永俊二、今給黎尚典、石堂康弘、米 和徳、小宮節郎、古賀公明、寺田
歩化膿性脊椎炎に対してPEDを施行した小経験 整形外科と災害外科64:56-58, 2015
4. 宮口文宏、川畑直也、松永俊二
腰椎化膿性脊椎炎に対するPEDを併用したMIST 脊椎脊髄ジャーナル 76: 89-96, 2015
5. 堀川良治、高木信介
血管柄付き骨移植において Lockin Compression Plateを用いた内固定の工夫 日本マイクロ会誌 29: 8-13, 2016
6. 堀川良治、川畑直也、山口 聡、宮口文宏、石田育男、江守 永、松永俊二、今給黎尚典、高木信介、外菌寿典、春山勝紀、佐々木綾乃、川畑英之
当院における手外科・マイクロサージェリー領域の診療体制 鹿児島市医報 54: 15-18, 2015

【学会発表】

1. 宮口文宏
頸椎後縦靭帯骨化症の自然経過と治療について The 10th Shino-Japan Spinal meeting
第10回日中脊柱外科手術検討会 2015年12月11日～12日 広東省広州市 中国
2. 宮口文宏、川畑直也、松永俊二
脊髄損傷症例の受傷時の他の損傷と責任高位による術後合併症管理
第44回日本脊椎脊髄病学会 2015年4月17日 福岡国際会議場 福岡市
3. 江守 永、前田昭彦。星野雄志、吉川泰司、佐藤 敦、鈴木 昌、矢富 健太郎、中村裕介、新井昌幸、富田一誠、稲垣克記
出産前に発生した恥骨結合離開に対して創外固定術固定を用いた一例
第64回東日本整形災害外科学会 2015年9月11日 福島市
4. 宮口文宏、堀川良治、川畑直也、山口聡、松永俊二、今給黎尚典
内視鏡視下胸腰椎前方固定術固定術の実際
第130回西日本整形災害外科学会 2015年11月14日 宮崎市民プラザ 宮崎市

5. 堀川良治、川畑直也、山口聡、宮口文宏、松永俊二、今給黎尚典、高木信介、川畑英之
糖尿病に合併した両膝Charcot関節症の1例
第130回西日本整形災害外科学会 2015年11月15日 宮崎市民プラザ 宮崎市
6. 山口聡、松永俊二、宮口文宏、川畑直也、堀川良治
当院における小児上腕骨顆上骨折手術例の検討-日整会整形外科研修施設の立場から-
第57回鹿児島整形懇話会 2015年4月25日 米盛ラーニングセンター
7. 堀川良治、山口聡、松永俊二、宮口文宏、川畑直也、高木信介
当院における手外科・マイクロサージェリー領域の治療成績-2014年度の症例報告-
第57回鹿児島整形懇話会 2015年4月25日 米盛ラーニングセンター
8. 堀川良治、高木信介
上腕骨偽関節に対し薄骨皮質付き有利骨膜移植を行った1例
第42回日本マイクロサージェリー学会 2015年11月26日 ラグレさいたま さいたま市

【座長】

- 松永俊二 脊椎脊髄疾患の自然経過の解明 第44回日本脊椎脊髄病学福岡国際会議場 2015年4月17日 福岡市
 松永俊二 後縦靭帯骨化症 第88回日本整形外科学会学術集会 2015年5月21日 神戸国際会議場 神戸市
 松永俊二 脊椎炎・肝炎 第50回九州リウマチ学会 2015年9月5日 鹿児島県医師会館 鹿児島市
 松永俊二 第1回鹿児島脊椎・慢性疼痛講演会 2015年9月18日 レンブラントホテル
 松永俊二 薬剤性消化性潰瘍のリスクマネージメント～患者さんを消化管出血からまもるために～
 今給黎総合病院院内講演会 2015年11月12日 今給黎総合病院地下講堂

【院外講演】

- 松永俊二 骨粗鬆症の現状と治療 第一三共社内講演会 第一三共鹿児島支店 2015年7月22日 鹿児島市
 松永俊二 骨粗鬆症治療の現状と展開-骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015改訂を踏まえて-
 大島郡医師会学術講演会 2015年11月6日 名瀬市

【院内講演】

- 松永俊二 アサーチブコミュニケーションのすすめ リハビリ科講演会 2015年3月16日 リハビリ室

形成外科

【論文・誌上発表】

1. Takagi S, Kadomatsu K, Kajisa T, Tokumoto H, Ishigaki T, Arimura K.
Surgical correction of complex syndactyly with bony fusion using adipofascial flaps for bone and joint surface coverage after finger separation.
J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2015 Feb;68(2):280-2. doi: 10.1016/j.bjps.2014.10.009. Epub 2014 Oct 17.
2. 外菌寿典、雑賀厚臣、小住奈津子、酒巻美保、山路佳久
踵骨骨髄炎に対し抗生物質含有リン酸カルシウムペーストを用いて治療した1例
創傷Vol. 6 (2015) No. 4 p. 163-166

【学会発表】

1. 高木信介、信太薫、春山勝紀、外菌寿典、門松香一、有村スローン和子
血管柄付き骨膜移植による偽関節治療 第18回昭和大学九州同門会学術集会 2015年1月24日 佐賀
2. 信太薫、高木信介、外菌寿典、門松香一
左側上顎前歯部歯槽骨欠損に対して骨延長法により再建を行った1例
第18回昭和大学九州同門会学術集会 2015年1月24日
3. 佐々木彩乃、横田和典、奥原裕佳子、宮本純平、新保慶輔、藤岡弓朗
乳房インプラント選択時の皮下脂肪厚補正の有用性
第59回日本形成外科学会総会学術集会 2015年4月13日 福岡
4. 高木信介、鉾立博文、春山勝紀、外菌寿典、佐々木彩乃、今井茂樹
足背動脈結紮術が行われた第1趾～足部AVMの1例 第12回日本血管腫血管奇形学会 2015年7月17日 東京
5. 外菌寿典、高木信介、信太薫
CGF療法を用いたNPWT後の褥瘡治療について 日本褥瘡学会九州地方会 2015年5月16日 福岡
6. 外菌寿典、高木信介、信太薫
ミトコンドリア脳筋症による眼瞼下垂に対する ゴアッテクス®を用いた治療法 第7回日本創傷外科学会
2015年7月25日 東京

7. 佐々木彩乃、横田和典、宮本純平、新保慶輔、奥原裕佳子、藤岡弓朗
外傷性尿道直腸瘻の1例 第7回日本創傷外科学会 2015年7月25日 東京
8. 佐々木彩乃、横田和典、大毛宏喜、奥原裕佳子、宮本純平、新保慶輔、藤岡弓朗
インプラントによる乳房再建術後に市中感染型MRSAを検出した1例
第33回日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 2015年9月4日 札幌
9. 高木信介、春山勝紀、外菌寿典、佐々木彩乃
顔面骨骨折の治療 当院における眼窩ブローアウト骨折の治療
第33回昭和大学同門会学術集会 2015年10月18日
10. 外菌寿典、高木信介、春山勝紀、佐々木彩乃、門松香一
SuperFIXSORB®MX Tack systemを用いた顔面骨骨折治療
第33回日本頭蓋顎顔面外科学会 2015年11月13日 宝塚
11. 高木信介、大塚尚治
耳介軟骨移植を行った麻痺性眼瞼外反症の4例 第22回横浜形成外科フォーラム 横浜
12. 高木信介、春山勝紀、外菌寿典、佐々木彩乃
慢性放射線潰瘍の2例 第4回鹿児島創傷研究会 鹿児島
13. 佐々木彩乃、高木信介
尿道直腸瘻の1例 第4回鹿児島創傷研究会 鹿児島
14. 高木信介、春山勝紀、外菌寿典、佐々木彩乃、堀川良治、門松香一
四肢再建における血管吻合のコツ 第42回日本マイクロサージャリー学会 2015年11月26日 さいたま市
15. 堀川良治、高木信介
上腕骨偽関節に対し薄骨皮質付遊離骨膜移植を行った1例
第42回日本マイクロサージャリー学会 2015年11月26日 さいたま市
16. 春山勝紀、高木信介、佐々木彩乃、外菌寿典、堀川良治
両側上腕骨感染性偽関節に対して血管柄付き骨移植・骨膜移植を用いて治療を行った1例
第42回日本マイクロサージャリー学会 2015年11月26日 さいたま市

【講演（院外）】

高木信介 褥瘡の治療 第8回鹿児島県在宅褥瘡セミナー 2015年3月14日

新生児内科

【論文・誌上発表】

1. 丸山有子
胎児機能不全 小児内科47巻増刊号「小児疾患診療のための病態生理2」：38-44, 2015
2. 丸山有子
サイトメガロウイルス感染をチェックせずに早産児にもらい乳するべからず
周産期医学 45巻 増刊号「周産期医学べからず集」：744-745, 2015

【講演（院外）】

丸山有子 周産期と感染症 第5回 生長会 産婦人科レビューコース 2015年2月

小児科

【論文・誌上発表】

原著

1. 川村順平、児玉祐一、永迫博信、堀之内兼一、河野嘉文、西 順一郎
ロタウイルス腸炎後に腎後性急性腎障害を発症した1例 小児科臨床 68:2041-2046, 2015

【学会発表】

1. 永留祐佳、柿本令奈、丸山慎介、井手迫俊彦、関 祐子、玉田 泉、大坪喜代子、森田 智、溝田美智代、河野嘉文
2症例を契機に発足した、鹿児島県における性分化疾患情報共有の場「彩の会」の活動
第49回日本小児内分泌学会学術集会 2015年10月8～10日 東京

2. 永留祐佳、柿本令奈、丸山慎介、井手迫俊彦、折田有史、関 祐子、玉田 泉、大坪喜代子、森田 智、溝田美智代、河野嘉文
当院で経験した性分化疾患の2症例と『彩の会』の発足
第159回日本小児科学会鹿児島地方会 2015年6月21日 鹿児島
3. 今村研介、玉田 泉
思春期早発をきたしたSGAの3例 第20回鹿児島小児内分泌研究会 2015年10月31日 鹿児島

【講演（院外）】

玉田 泉 新生児マスキリーニングで発見される内分泌疾患の診断と治療の実際
日本マスキリーニング学会技術部会第4会研修会 平成28年3月12日

眼科

【学会発表】

1. 薄井 隆宏 第1回鹿児島眼科病病連携の会 2015年7月3日
2. 油井 一敬 第1回鹿児島眼科病病連携の会 2015年7月3日

気管食道・耳鼻いんこう科

【論文・誌上発表】

1. 田所 慎、吉福孝介、西本謙吾、松崎 勉、昇 卓夫、塩谷彰浩
失神を伴う声門上癌の1例 防医大誌 (2015) 40[4]:265-270

放射線診断科・放射線治療科

【学会発表】

1. 西森宏雄、中禮久彦、鉦立博文、大久保幸一、中目康彦、吉浦 敬
前立腺癌の密封小線源治療後に難治性の直腸潰瘍および尿道瘻孔を生じた1例
第180回日本医学放射線学会九州地方会 2015年2月14-15日 福岡

【講演（院内）】

鉦立博文 胆膵癌の画像診断と放射線科的治療 第5回今給黎総合病院がん診断講座 2015年3月20日
中禮久彦、仮屋圭佑、鉦立博文、大久保幸一、松下芳正、田川伸夫、小屋俊彰、川畑朋之、飯伏順一、中目康彦
放射線治療の有害事象とその対策（放射線治療Update 2015）
地域がん拠点病院 対外教育講演 2015年12月1日 当院講堂

緩和医療科

【学会発表】

1. 松添大助、小玉哲史、岩山友紀、植屋明代、大西玲子、財間富士子
在宅緩和ケアにおける療養形態の変遷と救急外来の重要性
第20回日本緩和医療学会学術大会 2015年6月18日 横浜市
2. 小玉哲史、岩山友紀、河原尚美、村崎まこと、鈴木聖子、徳永弘樹、水流弘文
がん化学療法後の嚥下困難に行動療法を行った一例
鹿児島緩和ケア・ネットワーク 第17回大会 2014年10月25日

【主催】

がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 2015年10月24-25日 ホテル福丸 鹿児島市

【講演（院外）】

小玉 哲史 PEACEに載っていないメンタルケア～不眠編～
鹿児島県緩和ケア部門会 第1回緩和ケア部門 2015年1月24日 鹿児島大学病院
小玉 哲史 気持ちのつらさとその対応
平成27年度在宅医療推進事業多職種研修会 第2回緩和ケア研修会
2015年10月31日 いちき串木野市医師会立脳神経外科センター

病理診断科

【学会発表】

1. 田代幸恵
肺病変 第135回鹿児島病理集談会 2015年11月10日

【座長】

- 白濱 浩 第31回臨床細胞学会九州連合会 2015年07月25日 かがしま県民交流センター
白濱 浩 第135回鹿児島病理集談会 2015年11月10日 当院講義室

【主催】

第135回鹿児島病理集談会 2015年11月10日

歯科

【主催・企画運営など】

- 今給黎総合病院口腔ケア研修会 2015年3月13日
今給黎総合病院口腔ケア研修会 2015年9月16日

歯科口腔外科

【学会発表】

1. 吉田雅司、古賀喬充
移植骨の固定に吸収性プレートを用いたHAインプラント治療を行った1症例
日本口腔インプラント学会 第34回近畿北陸支部学術大会 2015年2月1日 京都
2. 吉田雅司、古賀喬充、山形圭一郎
当科における舌縮小術の実際と連携する歯科矯正科開業医に対するアンケート調査
第25回日本顎変形症学会総会 2015年6月5日 東京
3. 古賀喬充、吉田雅司、大場誠悟、南里篤太郎、三浦桂一郎、中谷佑哉、朝比奈泉
生体吸収性糸による骨片固定を行ったSSR0の術後安定性 第25回日本顎変形症学会総会 2015年6月5日 東京
4. 吉田雅司、古賀喬充、山形圭一郎
いびきを主訴に来院した小下顎症患者に対するオトガイ形成術の呼吸と睡眠に関する検討（症例報告）
第60回日本口腔外科学会学術総会 2015年10月16-18日 名古屋
5. Masashi Yoshida, DDS, PhD
Developing new idea and technique of orthognathic surgery based on studies of the past
World Congress on Dental Research, Dubai, UAE Nov 23-25, 2015

【講演(院外)】

- 吉田雅司 国際医療ボランティア活動 鹿児島大学探訪 2015年5月21日 鹿児島市
吉田雅司 学校歯科保健活動における科学的根拠
平成27年度学校保健・安全・歯科保健講習会 2015年10月20日 南種子町
吉田雅司 口からの健康づくり 鹿児島経済同友会 2015年11月11日 城山観光ホテル
吉田雅司 歯医者って楽しい！ 歯科口腔外科って面白い！ 長崎大学歯学部講義 2015年11月16日 長崎市
吉田雅司 歯・口の外傷予防（スポーツ歯学）
国体監督等スキルアップ事業 2015年12月2日 鹿児島市 南高校
吉田雅司 人と人とのつながりを大切に 鹿児島県保険医協会 2015年

看護部

【論文・誌上発表】

1. 宮菌瑞帆 (ICU)
人工呼吸器装着患者のトータルケア 事故を防ぐ 気管チューブの固定法[photo guide]気管チューブ固定の手順 Expert Nurse Vol. 31 No. 14 Page. 22-29 (2015. 10. 20)
2. 宮菌瑞帆 (ICU)
人工呼吸器装着患者のトータルケア 気管吸引(閉鎖式・開放式)の基本手順と応用ポイント[photo guide]閉鎖式気管吸引の手順 Expert Nurse Vol. 31 No. 14 Page. 52-58 (2015. 10. 20)
2. 宮菌瑞帆 (ICU)
クリティカルケアの“今”がわかる!一歩先を行くICUナースの常識40 循環管理 敗血症の血圧低下 敗血症(Sepsis)の血圧低下にはノルアドレナリン?ドパミン? ICNR Vol. 2 No. 4 Page. 42-44 (2015. 11. 30)

【学会・院外研究会発表】

1. 山口妙子 (NICU)
地域でのNICU同窓会「出張もじょかくらぶ」～ハイリスク児フォローアップにおけるアウトリーチ活動～ 賢英フォーラム 2015年5月16日
2. 原田純子 (NICU)
NICUにおける訪問看護実施研修 第35回フォローアップ研修 2015年6月13日
3. 戸高かおる (NICU)
N-D P A P使用中の回路交換の時期の検討 ～回路内細菌培養検査を行って～第2報 第25回新生児看護学会学術集会 2015年10月24日 盛岡市
4. 原田純子 (NICU)
NICU受け持ち看護師による訪問看護の意義と課題 第25回新生児看護学会学術集会 2015年10月24日 盛岡市
5. 唐鎌美穂 (NICU)
マイクロファイバー素材クリーニングクロスによる保育器の正式考課の検討 第2報 第25回新生児看護学会学術集会 2015年10月24日 盛岡市
6. 梅北裕司(外来)
PNSにおけるパスの教育的役割についての検討 第16回日本クリニカルパス学会学術集会 2015年11月13日 浦安市
7. 里恵理子(ICU)
PNS導入2年目における行動変容への取り組み ～PNSアクションチェックを導入して～ 第3回PNS研究会 2016年3月5日 福井

【座長・他】

- | | |
|-------------|------------------------------------|
| 梅北裕司(外来) | 第15回鹿児島県消化器内視鏡技師研究会 2015年8月8日 |
| 東美津子(中央材料室) | 第42回鹿児島県滅菌業務研究会 2015年4月4日 |
| 橋口恒夫(手術室) | 鹿児島救急医学会第44回看護部会 シンポジスト 2015年9月12日 |

【講演】

- | | |
|-------------|---|
| 古川秀子(NICU) | NICUから地域につなぐ ～安心して地域の子供になる為に～
第25回日本新生児看護学会 ラチョンセミナー 2015年10月24日 盛岡市 |
| 古川秀子(NICU) | 新生児看護のキャリアデザイン
第25回日本新生児看護学会 ワークショップ 2015年10月25日 盛岡市 |
| 有村こずえ(NICU) | 当院のファミリーセンタードケア 九州新生児看護勉強会 2015年12月5日 |
| 原田純子(NICU) | NICUからの退院支援 小児在宅療養研修会～NICUから在宅へ 2016年2月16日 |
| 原田純子(NICU) | NICUからの退院支援
宮崎県産婦人科医院従事者研修会 第20回ひむかセミナー 2016年3月5日 |

薬剤部

【学会・院外研究会発表】

1. 前島一友 財間富士子 中目貴子 尾上博隆 堀内智裕 河原尚美 高橋真理
当院におけるシスプラチンショートハイドレーション法後の安全性の検討
日本臨床腫瘍薬学会学術大会2016 2016年3月13日 鹿児島

2. 久津輪久世
有効血中濃度を得るためのバンコマイシン初期投与設計の検討
第32回日本TDM学会学術大会 2015年5月24日 長野
3. 久津輪久世
抗真菌薬の適正使用への薬剤師の取り組み 第14回鹿児島県病院薬剤師会 感染制御薬物対策講習会
第4回感染・免疫検査部門研修会 2015年7月18日 鹿児島
4. 久津輪久世
指定抗菌薬届出書の管理と使用状況の検証 第31回日本環境感染学会総会学術大会 2016年2月20日 京都
5. 高橋真理
今給黎総合病院の薬薬連携
第6回薬薬連携シンポジウム 2016年1月31日 鹿児島
6. 高橋真理
院外処方箋への検査値添付と薬剤適正使用のための施設間情報連絡書
第2回医薬連携シンポジウム 2016年2月5日 鹿児島

【座長】

高橋真理 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2016 一般演題 口頭発表 がん薬物療法 2016年3月12日 鹿児島

中央放射線部

【学会・院外研究会発表】

1. 濱田智太郎 当施設におけるSCENARIAの運用について
関西日立64CTユーザーズミーティング 2015年5月9日
2. 小屋俊彰 当院における放射線障害予防規程の改正
鹿児島県診療放射線技師会春季学術大会 2015年6月21日
3. 浮田啓一郎 日本一わかりやすいMRIの基本 第2回FRT九州研修会 2015年8月1日 鹿児島
4. 小屋俊彰 CXDIの機種の違いによるREX値の比較
第31回日本診療放射線技師学術大会 2015年11月21日 京都
5. 丸尾美由紀 Y-viewを含めた外傷撮影 第5回鹿児島X線撮影研究会 2016年1月9日
6. 室屋純一 当院における新入職員教育について JJN九州部会総会・学術大会 2016年2月13日 別府
7. 浮田啓一郎 MRI装置の管理「日常・定期点検」放射線機器管理士部会 2016年3月26日

【座長】

- 新村栄次 最新CT装置情報提供 第7回九州CTフォーラム 2015年5月30日
 新村栄次 管理職に求められるコミュニケーション リーダー育成研修会 2015年7月18日
 浮田啓一郎 MR I 基礎講座「Echo Planar Imagingの基礎から応用まで」
 九州 MRI Gyroミーティング 2015年10月3日
 浮田啓一郎 ECHELON/TRILLIUMの使用経験 第1回九州ECHELON/TRILLIUMユーザー会 2015年10月31日 福岡
 丸尾美由紀 X線検査「乳房・画像解析」第10回九州放射線医療技術学術大会 2015年10月31日 宮崎

【ディスカッション等 司会・演者】

- 新村栄次 CT装置の最新情報の提供 第30回鹿児島CT研究会 2015年6月13日
 加治屋博一 当院におけるプロトコル別の被ばく線量 第31回鹿児島CT研究会 2015年8月19日
 加治屋博一 当院における胸部のプロトコルについて 第32回鹿児島CT研究会 2015年11月18日

【講演】

- 濱田智太郎 整形分野におけるVINCENTの活用 富士フィルムメディカルセミナー 2015年7月4日
 浮田啓一郎 食わず嫌いのTRANCE法攻略 第5回かごんまGYROミーティング 2015年7月11日
 丸尾美由紀 全国の女性技師の会活動のアンケート報告 第2回FRT九州研修会 2015年8月1日
 浮田啓一郎 MR I 教育講座「MRのよもやま話」九州 MRI Gyroミーティング 2015年10月4日
 濱田智太郎 SCENARIAEX Editionの使用経験 第1回九州SCENARIAユーザー会 2015年10月31日
 浮田啓一郎 MRI検査「アーチファクト・脂肪抑制・造影剤」診療放射線技師基礎講習 2015年1月31日

中央臨床検査部

【学会・院外研究会発表】

1. 村中利也、播磨佐江子、今堀小百合
血液培養からのCandida属の分離状況
臨床微生物検査部門・薬剤師会合同研修会 2015年7月18日 鹿児島市
2. 播磨佐江子、今堀小百合、村中利也
Actinomyces israeliiの一症例 第50回 九州医学検査学会 2015年11月14～15日 鹿児島市
3. 原菌真由美、西田智佳、久永洋一郎、村中利也
当院でのクリニカルパスへの取り組み 第50回 九州医学検査学会 2015年11月14～15日 鹿児島市
4. 西田智佳、久永洋一郎、原菌真由美、村中利也
尿試験紙法による潜血反応と尿沈渣赤血球数の乖離について
第50回 九州医学検査学会 2015年11月14～15日 鹿児島市

リハビリテーション部

【学会発表】

1. 上岡裕明（理学療法士）
半膜様筋の動態評価に基づく膝屈曲拘縮に対する運動療法の試み
第27回日本整形外科超音波学会 2015年7月4日～2015年7月5日 秋田
2. 野村篤志理学療法士、OT宮之原俊一（作業療法士）、OT鶴田和也作業療法士
高機能エアマットレス使用における仰臥位ポジショニングの必要性について
第17回日本褥瘡学会学術集会 2015年8月28日～2015年8月29日 宮城

QCセンター 褥瘡管理課

【講演（院外）】

- 下前百合香 四肢創傷(手指:熱傷、母趾:外傷)へのPICO使用症例
創傷管理クローズドセミナー 2015年6月6日 鹿児島
- 下前百合香 スキンケアってなに??～褥瘡予防に繋がるスキンケア対策を学ぶ～
快護生活フェス!福祉機器展&セミナー in かがしま 2015年10月11日
- 下前百合香 ストーマケアの基本理念と実践 オストメイトとその家族の集い 2015年10月31日 鹿児島

QCセンター 緩和医療課

【講演（院外）】

- 吉國久子 健やかに生き安らかに旅立つために 尊厳死協会かがしま総会
- 植屋明代 在宅医療の現状と緩和ケア 国保診療施設看護師長研修会
- 吉國久子 ほっとサロン今給黎について がん医療を語ろうサロン（がんサポートかがしま）

QCセンター 感染管理課

【学会発表】

1. 立和名聖子
抗インフルエンザ薬の予防投与の実態と課題～質問紙調査から見たこと～
第31回日本環境感染学会 ポスター発表 2016年2月19日 京都
2. 久津輪久世、立和名聖子
指定抗菌薬届出書の管理と使用状況の検証
第31回日本環境感染学会 ポスター発表共同演者 2016年2月20日 京都

QCセンター がん化学療法課

【論文・誌上発表】

1. 河原尚美、財間富士子、岩山友紀、小玉哲史、村崎まこと、鈴木聖子、徳永弘樹、水流弘文
遅発性悪心発症後、化学放射線療法終了後も長期間嘔下困難が持続した一症例
日本臨床腫瘍学会学術集会 Vol. 13th Page. ROMBUNNO. P3-7-13 (2015)

院内研修会・講演会一覧

平成 27 年度講義室にて開催された研修会・講演会一覧

月 日	演 題	講 師	参加者数
4 月 25 日	リンパ浮腫研修会 「リンパ浮腫治療に携わるスタッフの連携・ 知識・技術向上」	鹿児島生協病院 坂元あゆみ 相良病院 川本薫 堂園メディカルハウス 川畑真希子	12 名 外部 10 名
5 月 22 日	いきいき元気な毎日のために ～SOC を高める～	健康社会学者・博士（保健学） 蛭名玲子	71 名参加
5 月 27 日	機能性構音障害の評価と訓練	元熊本機能病院 言語聴覚士 三浦真弓	68 名 外部 36 名
6 月 10 日	院内感染講演会 全職員で取り組む感染対策 ～何か起こる前に対処する～	NPO 日本感染管理支援協会 理事長 土井英史	看護部・パラ メディカル
7 月 18 日	今給黎スポーツフォーラム 肩・肘スポーツ障害に対する超音波健診 投球障害に対しての体幹・下肢からのアプローチ～仮設・検証～	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 江東豊洲病院 鈴木昌 藤が丘病院 尾崎尚代	74 名 外部 13 名
7 月 23 日	院内感染講演会 「HIV 感染症：鹿児島県の現状と概論、針刺し事故防止策」	鹿児島大学病院 輸血・細胞治療部 部長 古川良尚	65 名
7 月 30 日	褥瘡対策勉強会「スキンテアについて」	スミス&ネフューウンドマネジメント(株) マーケティング コミュニケーション部学術推進部 係長 細川珠美	287 名
7 月 31 日	職員教育研修会 「認知症、正しく理解していますか？」	公益財団法人慈愛会 介護老人保健施設 愛と結の街施設庁 認知症疾患医療センター谷山病院副センター長 黒野明日嗣	173 名 外部 16 名
8 月 31 日 9 月 18 日	院内感染講演会（補完研修） 「HIV 感染症 鹿児島県の現状と概論、針刺し事故対策」	当院 神経内科部長 丸山芳一	90 名
9 月 1 日 9 月 3 日 9 月 11 日	労働安全衛生勉強会 ストレスチェック制度説明会	当院 副院長 外科部長 産業医 牟禮洋	全 490 名
9 月 16 日	NST・口腔ケアチーム合同講演会「日本の医 療を口から変えよう！急性期から始める口腔 ケアと経口摂取訓練」	産業医科大学 リハビリテーション医 学講座 講師 高島英昭	130 名 外部 35 名
10 月 8 日	がん・緩和ケア研修会 「しくじり先生の緩和ケア」	天陽会中央病院 緩和ケア病棟 医 長 高濱哲也	97 名 外部 19 名
10 月 22・29 日 11 月 17・18 日	院内感染講演会 結核の現状と潜在性結核スクリーニング	オックスフォード・イムノテック(株) 諸井雄大	全 832 名
10 月 28 日	WLB 委員会 肩こり体操教室	当院 リハビリテーション部理学療 法士 勝山誠	20 名
10 月 30・31 日 12 月 17 日 1 月 14・21・27 日 3 月 18・23 日	医療安全研修会（全 8 回） 「KYT の考え方と方法を部署の安全対策に 生かそう」	東京海上日動メディカルサービス(株) メディカルリスクマネジメント室 玉利英子	全 726 名

11月2日	第11回鹿児島外傷セミナー症例検討会 「私が外傷整形外科専門施設を構築する理由」	湘南鎌倉総合病院 外傷センターセンター長 土田芳彦	70名 外部37名
11月12日	院内勉強会 「薬剤起因性消化管潰瘍のリスクとマネジメント～患者さんを消化管出血から守るために～」	当院 消化器内科科長 今給黎和幸	63名
11月14日	院内コンサート 「蓄音機で楽しむドイツ音楽～主に声楽～」	鹿児島日独協会 さつまドイツサロン 久保巖	35名その他 入院患者様 多数参加
11月30日 12月8日	放射線安全取扱研修会 「放射線被曝のリスクの考え方と被曝を減らすための工夫」 「クイクセルバッジと電離放射線の運用」	当院 放射線部 浮田啓一郎・小屋俊彰・川畑朋之	全63名
12月1日	放射線治療と陽子線治療に関する講演会 「放射線治療の有害事象とその対策（放射線治療 Update2015）」 「メディボリスにおける陽子線治療の現状と将来」	当院 放射線治療科 部長 中禮久彦 メディボリス国際陽子線治療センター 部長 有村健	58名 外部19名
1月15日	定期多施設合同カンファレンス 「主科との連携の困難さを感じた症例」	鹿児島医療センター、南風病院、鹿児島大学病院、相良病院、鹿児島市立病院、鹿児島厚生連病院、当院	37名 外部29名
2月5日	乳がん講演会 「当院の乳がん治療について」 「動画で見る内視鏡下 Nipple-sparing mastectomy と1次乳房再建」	当院 副院長 外科部長 濱之上雅博 亀田総合病院 乳腺科部長 坂本正明	61名 外部9名
2月17日	胸腰椎内視鏡下前方固定術セミナー 手術手技のポイント、カンファレンス、症例検討会	当院 副院長 整形外科 松永俊二 当院 整形外科 部長 宮口文宏	10名 外部2名
2月27日	鹿児島診療情報管理研究会 合同診療録監査の現状および課題 特定共同指導を受審して意見交換会	鹿児島市立病院、米盛病院、松元病院、相良病院、南風病院、出水郡医師会広域医療センター、川内市医師会立市民病院、三愛病院、鹿児島キャリアデザイン専門学校、当院	10名 外部18名
3月10日	個人情報保護推進委員会・医療安全対策委員会 インターネットの危険性と対策	鹿児島県警察本部 生活環境課 サイバー犯罪対策室 田代耕基	142名
3月16日	院内クリニカルパス大会 院内パス演題発表 2例 電子化クリティカルパス	鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科 部長 松崎勉	130名
3月22日	胃癌病診連携カンファレンス 当院の胃がん治療について 対胃癌戦略のための連携	当院 副院長 外科部長 濱之上雅博 九州医療センター 消化器科 医長 光学診療部長 原田直彦	52名 外部10名

院内外活動報告

おごじょプロジェクト 2015LOVE49

毎年4月9日は『子宮頸がんを予防する日（子宮の日）』とし、日本各地で子宮頸がんを考える市民の会主催の子宮の日啓発活動が行われます。

鹿児島では、4月12日（日）にオプシアミスミにて“おごじょプロジェクト「2015LOVE49」”が行われ、当院の検査技師2名、看護師3名がスタッフとして参加しました。

婦人科医師による子宮頸がんについてのトークショー、バルーンアート、大学生によるアカペラ、高校生によるボディージュエリー等がありました。参加された方々からも、“子宮頸がん検診の重要性を知った”“子宮頸がんについて学ぶ良い機会になった”“楽しいイベントだった”等の声を多く聞きました。私達スタッフも楽しく貴重な時間となりました。



広報誌「四季だより」平成27年6月号より

リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま



平成27年5月9日（土）12時～10日（日）12時、ドルフィンポート前広場で開催されました。リレー・フォー・ライフはアメリカで始まった、がん患者さんとご家族を支援するチャリティーイベントです。日本国内では2006年につくば市で初めて開催され、2014年度は全国43ヶ所で開催されました。鹿児島県では命のリレーから数えると9回目の開催で、当院は6回目の参加です。

チーム交代で24時間歩くりレー・ウォーク、メッセージや絵を描いてキャンドルを灯すルミナリエ、がん啓発・相談コーナー・マッサージ等のブースがあり、ステージでは歌や楽器の演奏、講演会など様々な催しものが開催されました。

当日はあいにく灰雨の中でのテント設営、開会式となりましたが、お昼すぎには雨も上がり、予定通りイベントも開催され、当院も自前テントを基地にハッピーを着て24時間リレー・ウォークに多職種で参加しました。お陰さまで当院からの参加者申し込みは52名、ルミナリエバッグ購入も101枚（計¥101,500）チャリティに協力することができました。ご協力ありがとうございました。



また今年は実行委員に乳がん看護認定看護師の村崎さんが、がん相談にMSW原口、緩和医療課大西・植屋が協力しました。

仕事前や終えてから歩きにいられたスタッフも多く、真夜中は医事課とリハビリテーション部の若いスタッフ、早朝には栄養士さんも参加し、みんなで綺麗な朝日を見ることができました。参加者の他に、毎年応援に来られる方、今年初めて見学・応援に来られた方など総勢150名を越える病院関係者が来場しました。



広報誌「四季だより」平成27年6月号より

第12回『みんなでイキイキ健康まつり』開催

毎年恒例の「みんなでイキイキ健康祭り」も今年で12回目を無事開催することができました。

今年は当院が財団法人設立50周年を迎え、記念講演として山田邦子さんをお招きし「大丈夫だよ、がんばろう！」のテーマでご自身の体験談をユーモアたっぷりにお話いただき大変好評でした。また、今回は院外からのご協力も頂き、大龍小学校の金管バンドによる生演奏やしょうぶ学園・まかない・串ぼうずさんの飲食コーナーを出店し、盛況のうちに完売となりました。そのほか、職員によるハンドベル合奏やパルーンアート、腰痛・ヨガ体操、イベント会場では、かき氷やわたあめなどの出店も行い、多くの地域の方々と触れ合うことができました。当日は延べ301名の来場者で賑わい、中でも健康相談は120件の相談で、地域の方々のご自身の健康について関心を持たれていることが分かりました。

今後も「楽しく健康づくり」をコンセプトに地域の方々との交流を深め、健康の輪を広げていきたいと思っております。



広報誌「四季だより」平成27年9月号より

『緩和ケア研修会』開催

2007年、がん対策推進基本計画で「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により緩和ケアについての基本的な知識を習得する」ことが国の目標として掲げられました。これにより各地のがん拠点病院が中心となり全国で緩和ケア研修会が開かれています。

当院では10月に平成27年度 緩和ケア研修会を開催致しました。

◎ 緩和ケア研修会に参加して

緩和ケアとは、癌の治療が終わった末期患者に対する除痛や心のケアといった漠然としたイメージであった。しかし、①癌と診断された初期から介入すること、②身体的苦痛には痛みだけでなく、嘔気・嘔吐・下痢などの消化器症状、呼吸困難、膀胱直腸障害、脱毛など様々な症状があること、③その他の苦痛として、不安などの精神的苦痛、経済的、仕事、家庭内などの社会的苦痛、生きる意味などのスピリチュアルな苦痛があり、④case by case、多職種で対処する方法があり、QOLのみならず予後の改善が期待できることが示されていることは驚きであり、大変勉強になった。

コミュニケーションスキルをロールプレイで学ぶ作業は大変勉強になった。患者さまとご家族にインフォームドコンセントをする際、医療者側からどうしても一方的になりがちである。患者さまの意向を十分に尊重し、その家族等の心情に十分配慮しながら「悪い知らせをいかに伝えるか」は大変難しいことである。時間をかけて繰り返し説明することの大切さを改めて認識でき、今後の診療に生かしていきたい。

広報誌「四季だより」平成27年12月号より



在宅診療科 科長 甲斐 太

救急隊員の産科講習会へ講師として医師、看護師を派遣

鹿児島市消防局の依頼で、平成27年12月1日、4日開催 第3回救急隊員症例検討会へ講師として産婦人科加藤 明彦部長と助産師数名を派遣致し、妊産婦の救急搬送中の管理についての講義と分娩介助等の実習を行いました。救急隊員症例検討会で初めて行われる産科の講習会。多くの救急隊員の参加があり、関心の高さがうかがえました。



広報誌「四季だより」平成28年3月号より

昭和会クリニック VI

■ 現状・医療設備概要・業績

- (1) 標榜科目
- (2) 病床数 無床
- (3) 医療設備概要
- (4) 科別外来患者数
- (5) 外来患者市町村別分布図

昭和会クリニックの現況

(1) 標榜科目(15診療科)

内科、糖尿病内科、神経内科、呼吸器内科、小児科、整形外科
 形成外科、脳神経外科、皮膚科、新生児内科、
 気管食道・耳鼻いんこう科、放射線科、
 歯科、歯科口腔外科、病理診断科

(2) 病床数 無床

(3) 敷地面積 1128.02 m² 建築面積 787.73 m²

(1)UD-150 B-40 (RADIOTEX)
 (2)CXDI-50G(臥位用X線デジタルカメラ)

(4) 医療設備概要(放射線部門、検査部門)

※印：今年度購入(新設・更新)
 外来部門は除く

(放射線部門)

検査室名(撮影室番号)等		メーカー	機種名	台数
1	一般撮影室(10)	島津 キャノン 近畿レントゲン	(1)UD-150 B-40 (RADIOTEX)	1
			(2)CXDI-50G(臥位用X線デジタルカメラ)	1
			※(3)KR8100 (パノラマ装置)	1
2	一般撮影室(9)	島津 キャノン	(1)UD-150 B-40 (RADIOTEX) (2)CXDI-50G(立位用X線デジタルカメラ) (3)CM-100(超音波骨密度測定)	1 1 1
3	X線CT(MDCT)室(8)	フィリップス	ブリリアンス Brilliance16(16列MDCT)	1
5	骨密度測定室	ホロジック	Discovery Wi	1
6	MRI室	フィリップス	インテラ アチーバ ノバ Intera Achieva Nova(1.5テスラ)	1
受付・ 操作室	C R レーザーイメージャー	ケアストリーム	(1)CR850 (2)ドライビュー8900	1 1
	画像処理	テクマトリックス 富士	画像ネットワークシステム(PACSクラウド化・検像システム) VINCENT(3Dワークステーション)	1式 1式
口腔外科	デンタル室	朝日レントゲン	サテライト MX-60N	1

(検査部門)

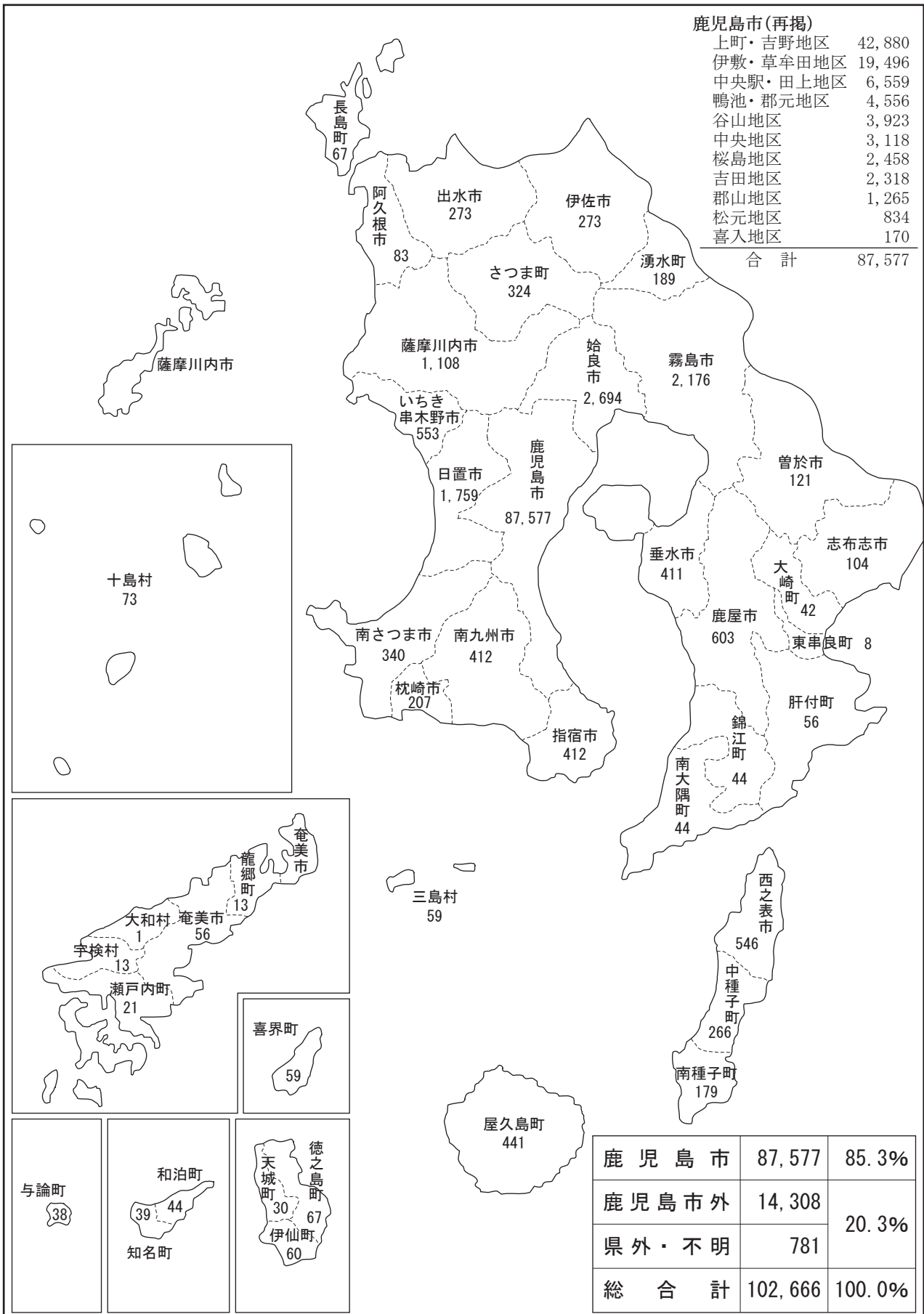
コーナー	機器名称	メーカー	用途	台数
血液一般	総合血液学検査装置 ADVI 2120	シーメンス	血液像・血算項目他	1
	※クリニテック アドバンタス	シーメンス	尿定性検査	1
	自動血沈計 モニター20	常光	血沈測定	1
	双眼顕微鏡 BX-4 5	オリンパス	尿沈査・血液像他	1
	遠心分離器 2010	クボタ	遠心作業	1
生化学	自動分析装置クリナライザJCA-BM6010	JEOL	生化学・免疫検査	1
	遠心分離器 2410	クボタ	血清分離	1
	業務用冷凍冷蔵庫	サンヨー	試薬管理・血清保存	1
	自動採血管準備装置 BC・ROBO-686	テクノメディカ	採血管システム	1
	スーパーデサリナー SDA-0080-001型	オルガノ	蒸留装置	1
生理	自動解析装置付心電計	フクダ電子	心電図	1
	AVL OPTI	AVL	pH、PCO ₂ 、PO ₂	1
	マイクロ coモニター (一酸化炭素ガス分析装置)	ヒディ	co	1
	SPiro Sift SP-370 COPD 肺 Per+	フクダ電子	肺機能 (VC・FVC)	1
	呼吸機能測定装置マスタースクリーン IOS-J	フクダ電子	VC-FVC・呼吸抵抗	1
	アプノモニターmini	チェスト株式会社	睡眠評価装置	1

(5) H27年度 科別外来患者数 (複数診療科受診を各々1とした場合) ・ 1日平均:患者数÷平日・土曜日数(祝日除く) ・ 在宅医療含む

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	1月平均	1日平均	初診率(%)
総合内科	867	799	793	739	737	570	815	934	902	714	982	992	9,844	820	36.4	39.0
糖尿病内科	134	89	99	119	101	65	138	89	124	118	96	133	1,305	109	4.8	1.3
呼吸器内科	463	473	468	466	426	457	453	408	389	342	392	441	5,178	432	19.1	11.0
神経内科	881	818	875	916	857	865	892	802	907	749	872	927	10,361	863	38.3	11.4
整形外科	2,485	2,409	2,562	2,566	2,518	2,376	2,650	2,379	2,698	2,244	2,444	2,520	29,851	2,488	110.4	14.5
形成外科	487	544	570	585	687	568	661	522	577	533	662	531	6,927	577	25.6	18.7
脳神経外科	295	251	268	290	282	274	276	274	301	237	290	304	3,342	279	12.4	9.6
新生児内科	150	86	113	112	133	95	138	110	130	116	135	125	1,443	120	5.3	0.6
小児科	956	978	1,020	952	859	810	1,057	1,007	1,096	794	1,236	1,206	11,971	998	44.3	34.3
気管食道・耳鼻いんこう科	566	498	544	513	469	409	489	397	436	424	520	537	5,802	484	21.4	29.5
皮膚科	851	857	918	967	988	797	899	687	778	662	705	814	9,923	827	36.7	22.1
放射線科	10	6	7	5	9	10	10	6	10	11	15	10	109	9	0.4	88.9
歯科	227	208	259	262	183	215	257	214	222	207	231	273	2,758	230	10.2	11.6
歯科口腔外科	279	321	304	353	353	326	327	275	350	270	322	372	3,852	321	14.2	32.9
合計	8,651	8,337	8,800	8,845	8,602	7,837	9,062	8,104	8,920	7,421	8,902	9,185	102,666	8,556	-	20.7
1日平均	346	362	338	340	331	341	349	352	357	323	371	353	-	-	379.5	-
救急車患者数(再掲)	2	2	3	0	2	1	3	1	1	1	3	1	20	-	-	-

初診	1,796	1,858	1,890	1,867	1,776	1,548	1,790	1,493	1,712	1,455	2,036	2,050	21,271	1,773	78.6	-
再診	6,855	6,479	6,910	6,978	6,826	6,289	7,272	6,611	7,208	5,966	6,866	7,135	81,395	6,783	300.9	-
初診率(%)	20.8	22.3	21.5	21.1	20.6	19.8	19.8	18.4	19.2	19.6	22.9	22.3	20.7	-	-	-

(6) 平成27年度 外来患者市町村別分布図(複数診療科受診を各々1とした場合)



公益財団法人昭和会
昭 和 会 誌 (第21号)

発行日 平成28年10月

発 行 公益財団法人昭和会

今給黎総合病院

〒892-8502 鹿児島市下竜尾町4番16号

電 話 099-226-2211(代表)

FAX 099-222-7906

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

公益財団法人昭和会

昭和会クリニック

〒892-8502 鹿児島市下竜尾町2番6号

電 話 099-226-2212(代表)

FAX 099-222-3366

URL <http://imakiire.jp>

E-mail info@imakiire.or.jp

公益財団法人昭和会 平成 27 年度事業実施概況書

特記事項

平成 28 年 1 月 31 日 赤ちゃん専用救急車「MOJOKA1 号」導入
2 月 15 日 鹿児島市交通局跡地優先交渉権取得

目次

1. がん医療対策関連	P1~9
地域がん診療連携拠点病院活動報告	
1) 公開緩和ケア研修会	
2) がん・緩和ケア研修会	
3) がんに関する講演会・研修会	
4) 「ほっとサロン今給黎」	
5) 患者図書室「すまいる」	
6) 講師派遣	
7) 院内がん登録集計	
8) 施設基準に基づく主傷病名大分類	
9) がん検診実績	
2. 脳卒中	P9
3. 急性心筋梗塞	P9
4. 糖尿病	P9
5. 精神疾患	P9
6. 救急医療	P9~11
1) 洋上救急出動簿	
2) 離島緊急医療活動一覧	
3) 救急隊との合同勉強会	
4) 鹿児島市医師会休日当番医・全夜間オンコール担当	
5) 鹿児島市高規格救急車指示病院活動	
6) 年度別救急車受入台数（患者数）	
7) 平成 27 年度救急患者受入時間帯・年齢別分類	
8) 県消防・防災ヘリコプター輪番日	
7. 災害時における医療	P11
災害訓練等への参加	
8. へき地医療	P11
1) 代替看護師	
2) 歯科巡回診療車事業	
9. 周産期医療	P11
10. 小児（救急）医療	P11~12
1) 平成 27 年度小児科救急車一覧表	
2) 学校検診関係、会議・研修会等への参加、講師派遣	
11. 地域医療支援病院活動報告	P12~13
12. H27 年度クオリティーインディケーター（入院・救急・手術・紹介に関する指標）	P14~15
13. 初期臨床研修病院実績	P16~17
14. 実習病院としての実績	P17~18
15. 視察・研修・見学（社会人の個人、団体、および学生）の受入	P19~20
16. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動	P21
17. 教育機関への講師派遣	P22
18. 主な公的会議・研修会への参加、講師派遣	P23
19. 入院患者不在者投票	P26
20. その他の活動報告	P26
21. 表彰	P26

5 疾病

5 事業

1. がん医療対策関連について

地域がん診療連携拠点病院活動報告

1) 厚生労働省局長通知による「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催方針」に則り、地域のがん診療に携わる医師を対象に、当院主催により次の通り「公開緩和ケア研修会」を開催した。

(日 時) 10月24日(土) 14:00～19:00
10月25日(日) 9:00～19:00
(場 所) ホテル福丸
(参加者) 10名
(講師・スタッフ) 27名

2) がん・緩和ケア研修会

10月8日 がん緩和ケア研修会 しくじり先生の緩和ケア
講師 天陽会中央病院 高濱哲也先生 66名参加

3) がんに関する講演会・研修会への参加

5月30日 鹿児島緩和ケアネットワーク研修会 3名参加
6月6日 緩和ケア部門会事例検討会(鹿児島医療センター) 2名参加
6月20日 緩和ケアフォーラム(南九州病院) 1名参加
7月1日 鹿児島大学緩和ケア学術講演会 1名参加
7月4日 在宅ケアネット鹿児島勉強会(ナカノ会) 2名参加
7月24日 臨床心理事例検討会(鹿児島医療センター) 2名参加
7月25日 がん拠点病院4部門合同研修会 緩和ケア部門会 1名参加
7月25日 がん拠点病院4部門合同研修会 がん相談部門会 2名参加
9月3日 鹿児島県がん診療連携協議会 2名参加
9月18日 緩和ケアに関する地域連携会議(相良病院) 2名参加
9月26日 がん医療を語ろうサロン(がんサポート鹿児島) 1名参加
10月7日 緩和ケアライブカンファ(南風病院) 2名参加
10月31日 かごしま緩和ケアネットワーク研修会 1名参加
11月14日 緩和ケア事例検討会(鹿児島大学病院) 1名参加
12月5日 宗教と医療セミナー(天陽会中央病院) 3名参加
12月10日 他施設合同カンファレンス参加(相良病院) 2名参加
12月13日 がん相談員研修(がん看護研究会) 1名参加
12月14日 緩和ケア研修会地域連携担当者研修会(相良病院) 1名参加
12月20日 意思決定支援研修会(鹿児島大学) 1名参加
1月15日 乳がん看護研修会(相良病院) 1名参加
2月5日 がん拠点病院4部門合同研修会・緩和ケア部門会 1名参加
2月5日 がん拠点病院4部門合同研修会・がん相談部門会 1名参加
2月6日 九州緩和ケア研修会第一回学術集会(熊本) 2名参加
2月26日 緩和ケアに関する地域連携会議(相良病院) 2名参加
3月5日 がん相談研究会(東京) 1名参加
3月13日 がん看護研究会講演会 2名参加

4) がん患者とその家族を対象に、病気や心の悩み、体験などを気軽に語り合い、思いを共有する場として「がんサポートかごしま」と共同で「ほっとサロン今給黎」を院内開催してサポートした。

(毎月第3水曜日開催、無料)

149名参加

5) 患者図書「すまいる」

患者図書室「すまいる」は協働の医療を目的として、NPO 法人「医療の質に関する研究会」の患者図書室プロジェクトの支援のもと、平成 25 年 4 月に開設し 3 年が経過した。

落ち着いた雰囲気の中で本を読める環境が整っており、分かりやすい医療の本を中心に約 750 冊を所蔵している。

利用サービスは、図書の閲覧・貸出し、インターネットの利用、パンフレット・チラシの提供、映像の視聴である。利用時間は月曜から金曜の 10 時から 12 時、13 時から 16 時である(土・日・祝日を除く)。

原則 2 名ずつのボランティアスタッフで運営しており、27 年度は 24 名のボランティアが活動した。

27 年度の延べ利用者数は 2,521 人、1 日平均利用者数 10.3 人、入院患者比率 48.3%、図書貸出数 717 冊であった。

28 年度も引き続き患者さまへの利用を促進するとともに、広く職員の利用も促進したいと考えている。

6) 講師派遣

5 月 23 日・24 日	鹿児島県立薩南病院	がん緩和ケア研修会	講師	医師 1 名派遣
5 月 27 日		在宅医療の現状と緩和ケアについて		保健師 1 名派遣
6 月 27 日・28 日	松山赤十字病院	がん緩和ケア研修会	講師	医師 1 名派遣
7 月 5 日	国立病院機構南九州病院	がん緩和ケア研修会	講師	医師 1 名派遣
7 月 12 日	国立病院機構南九州病院	がん緩和ケア研修会	講師	医師 1 名派遣
8 月 22 日・23 日	済生会川内病院	がん緩和ケア研修会	講師	医師 1 名派遣
9 月 5 日・6 日	県民健康プラザ鹿屋医療センター	がん緩和ケア研修会	講師	医師 1 名派遣
10 月 28 日	FM 鹿児島乳がん検診	インタビュー		診療放射線技師 1 名出演
10 月 31 日	いちき串木野市医師会立脳神経外科センター	緩和ケア研修会	講師	医師 1 名派遣
11 月 19 日	鹿児島大学	看護部研修会	ファシリテーター	看護師 1 名派遣
11 月 21 日・22 日	南風病院	緩和ケア研修会	ファシリテーター	看護師 1 名派遣
			講師	医師 2 名派遣
11 月 23 日	鹿児島県緩和ケアフォローアップ研修会	鹿児島大学		医師 1 名派遣
11 月 28 日	地域相談支援フォーラム in 鹿児島	ファシリテーター		3 名派遣
1 月 5 日・12 日・19 日	FM 鹿児島・LEAP 出版共同企画	エフエム鹿児島	あさ Café!	
		「鹿児島の女性を守る がん検診向上支援」出演		医師 1 名出演
1 月 10 日・11 日	鹿児島医療センター	がん緩和ケア研修会	講師	医師 2 名派遣
1 月 30 日		がん医療を語ろうサロン(がんサポートかごしま)		
		「ほっとサロン今給黎について」プレゼンテーション		1 名派遣
3 月 5 日・6 日	鹿児島大学病院	がん緩和ケア研修会	講師	医師 1 名派遣

7)院内がん登録集計

【院内がん登録集計(2014年1月1日～2014年12月31日)】

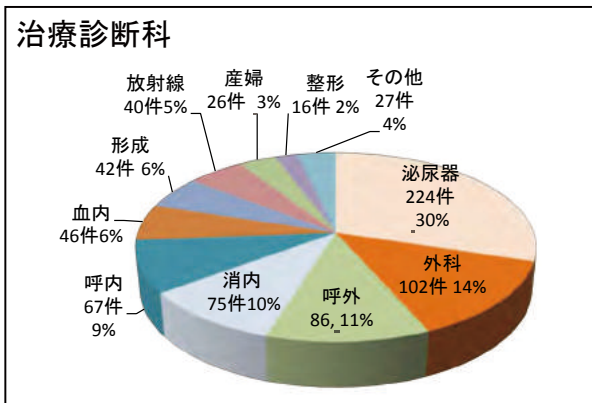
※がん登録の対象となる症例：上記期間中に診断および治療の対象となった症例

★1腫瘍1登録★ 重複がんの場合は原発の数をそれぞれ登録

①治療診断科

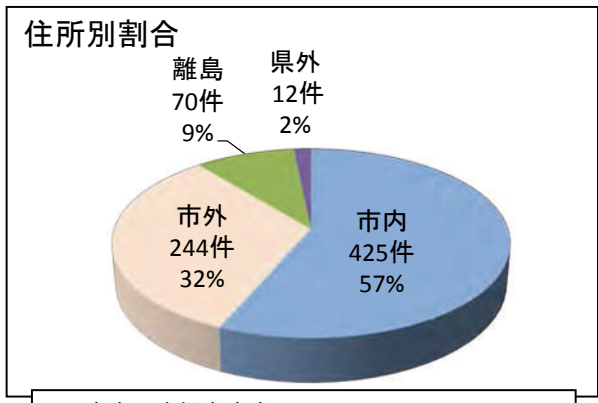
診断のみで終了した場合：診断を行った診療科
 治療を行った場合：初回治療を行った診療科
 どちらも行った場合は、治療をした診療科を1として

(例)消化器内科にて診断、外科にて治療
 ⇒ 外科でカウント



②住所別割合

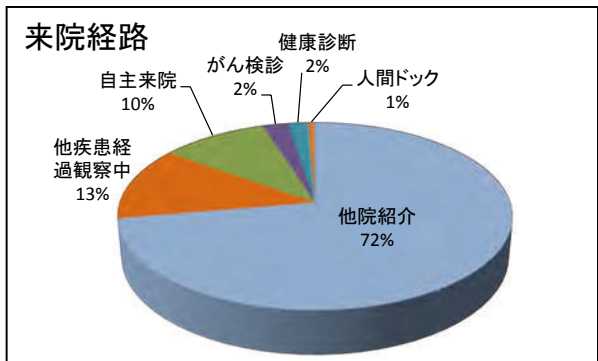
患者様の居住されている地域別分類です。
 市外では多い順に、薩摩川内市 35、霧島市 25、垂水市 23、日置市 22、その他離島では、種子島が 35で50%を占めています



市内：鹿児島市内
 市外：鹿児島市以外の鹿児島県(離島以外)
 離島：鹿児島県の離島
 県外：鹿児島県以外

③来院経路

がんの診断・治療のため当院を受診した経路別分類です。



④ 症例区分

診断治療の決定：

当院でがんの診断を行い、治療方針を決定した症例

施設診断自施設治療：

がんの診断は他施設で行われ、初回治療を当院で行った症例

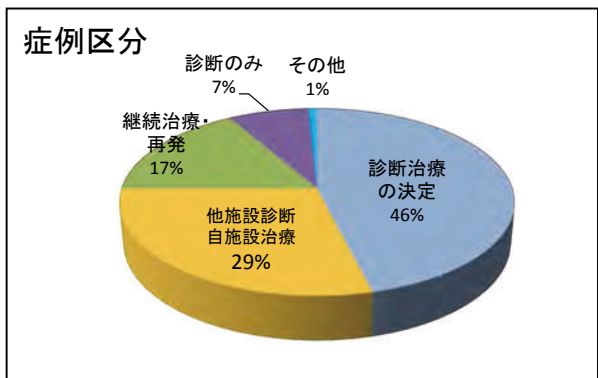
継続治療・再発：

他施設にて初回治療後、当院にて継続治療を行った症例。もしくは、他施設にて治療後、再発し、当院にて治療を行った症例

診断のみの症例：

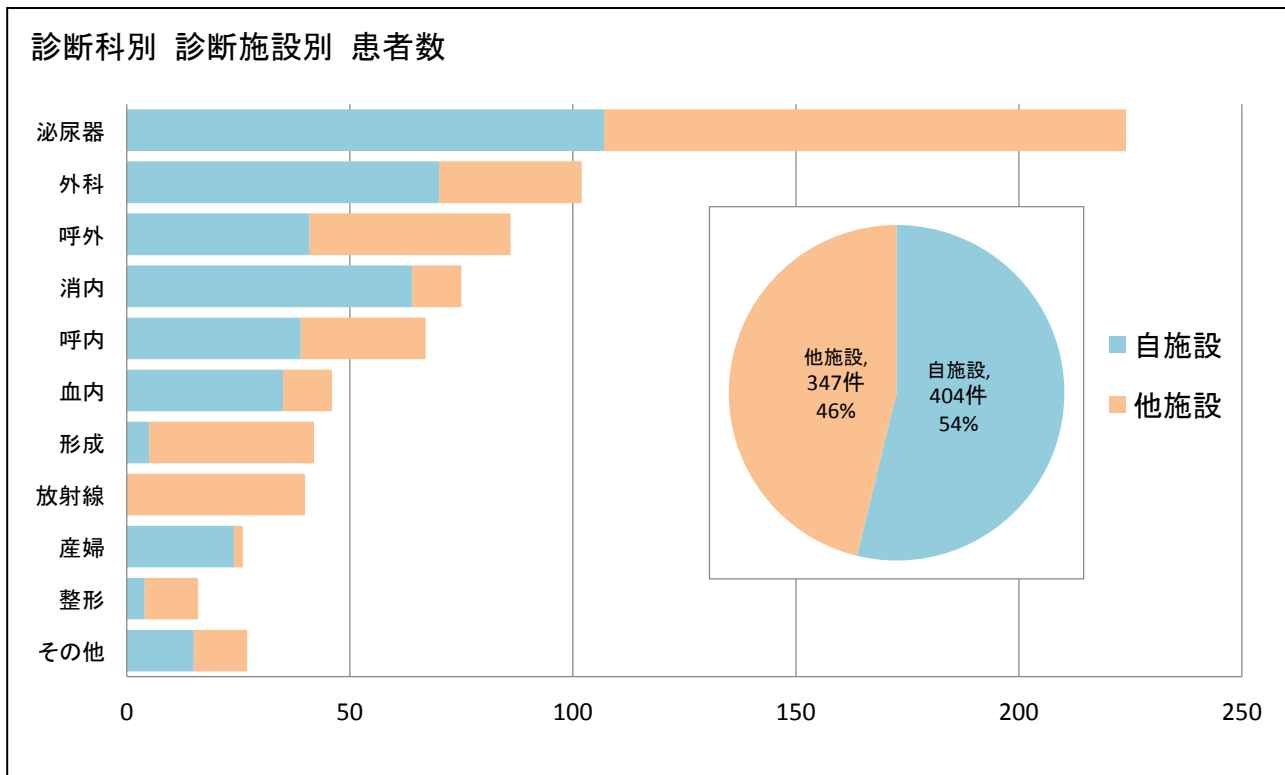
当院でがんの診断を行ったが、治療は他施設で行ったもしくは治療を選択しなかった症例

その他：セカンドオピニオン症例



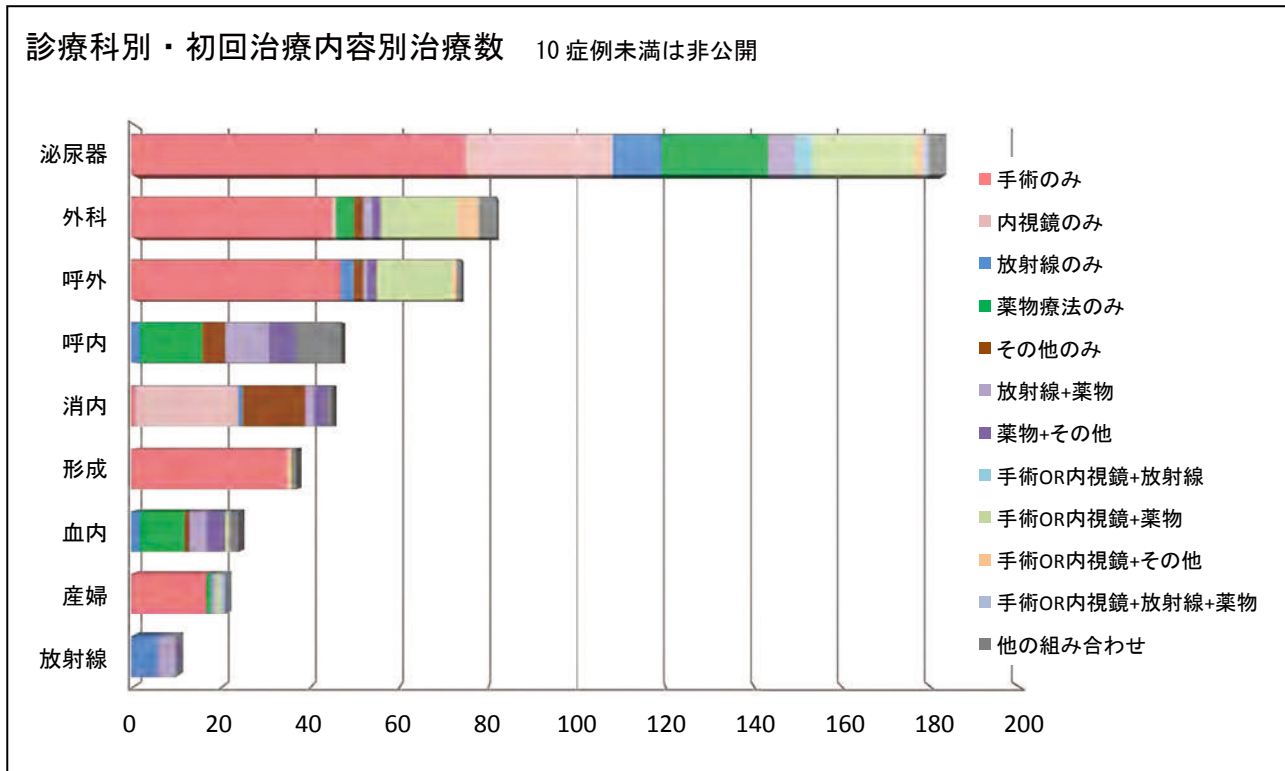
⑤ 診療科別・診断施設別患者数

がん患者様の診断がどこで行われたかを診療科別で示しています。



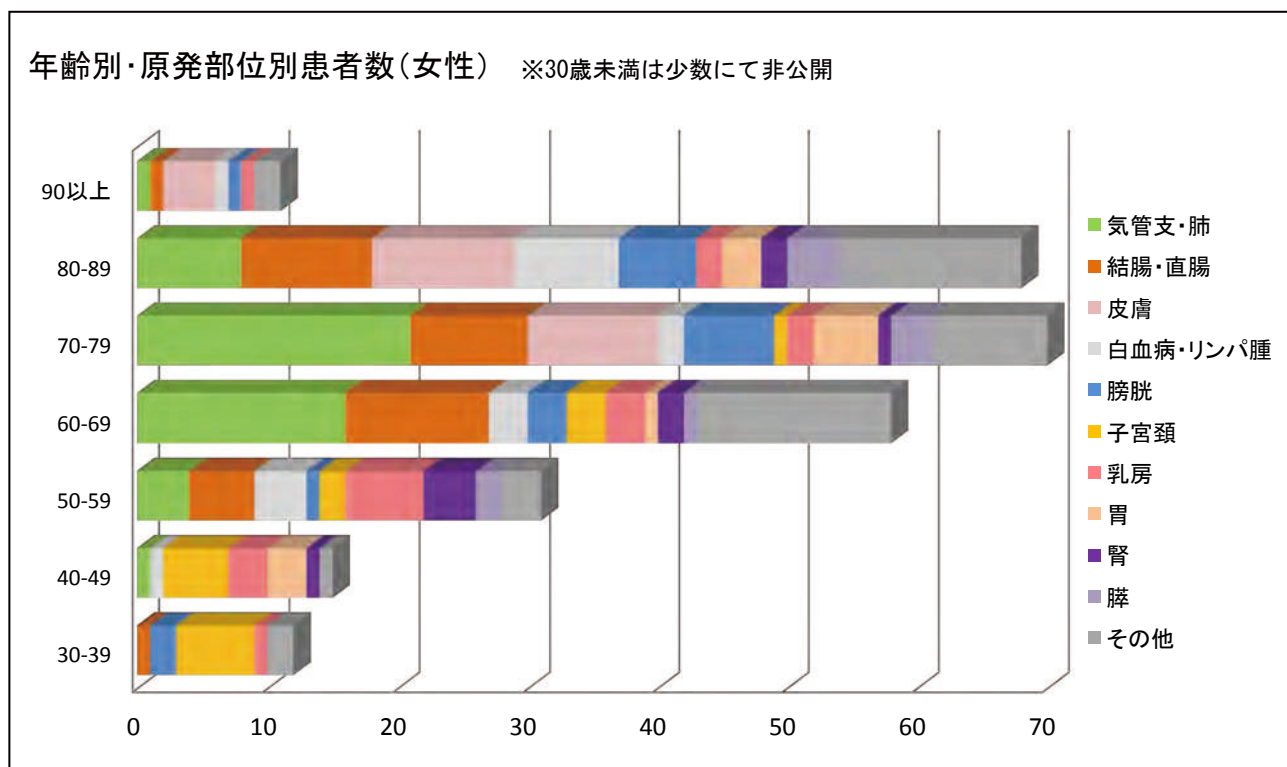
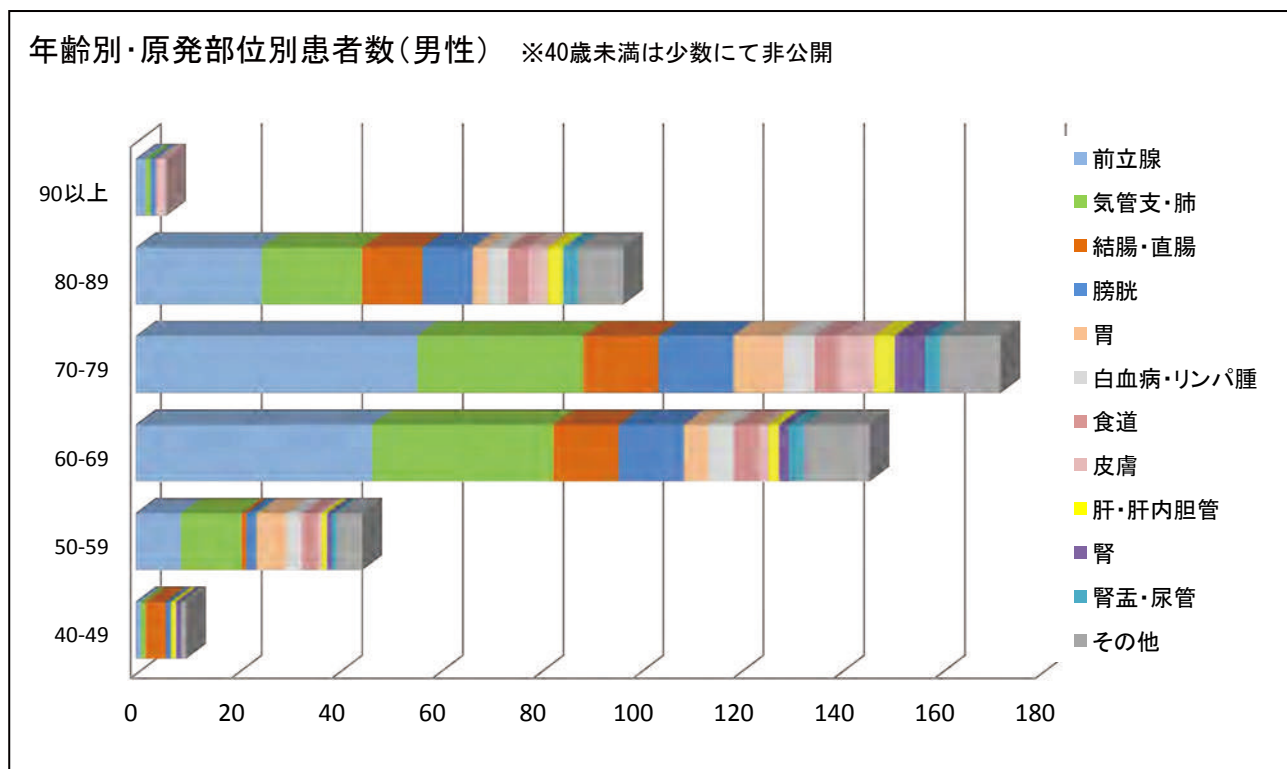
⑥ 診療科別・初回治療内容別治療数

初回治療として選択された治療内容を診療科別で示しています



⑦性別・年齢階層別・原発部位別 患者数

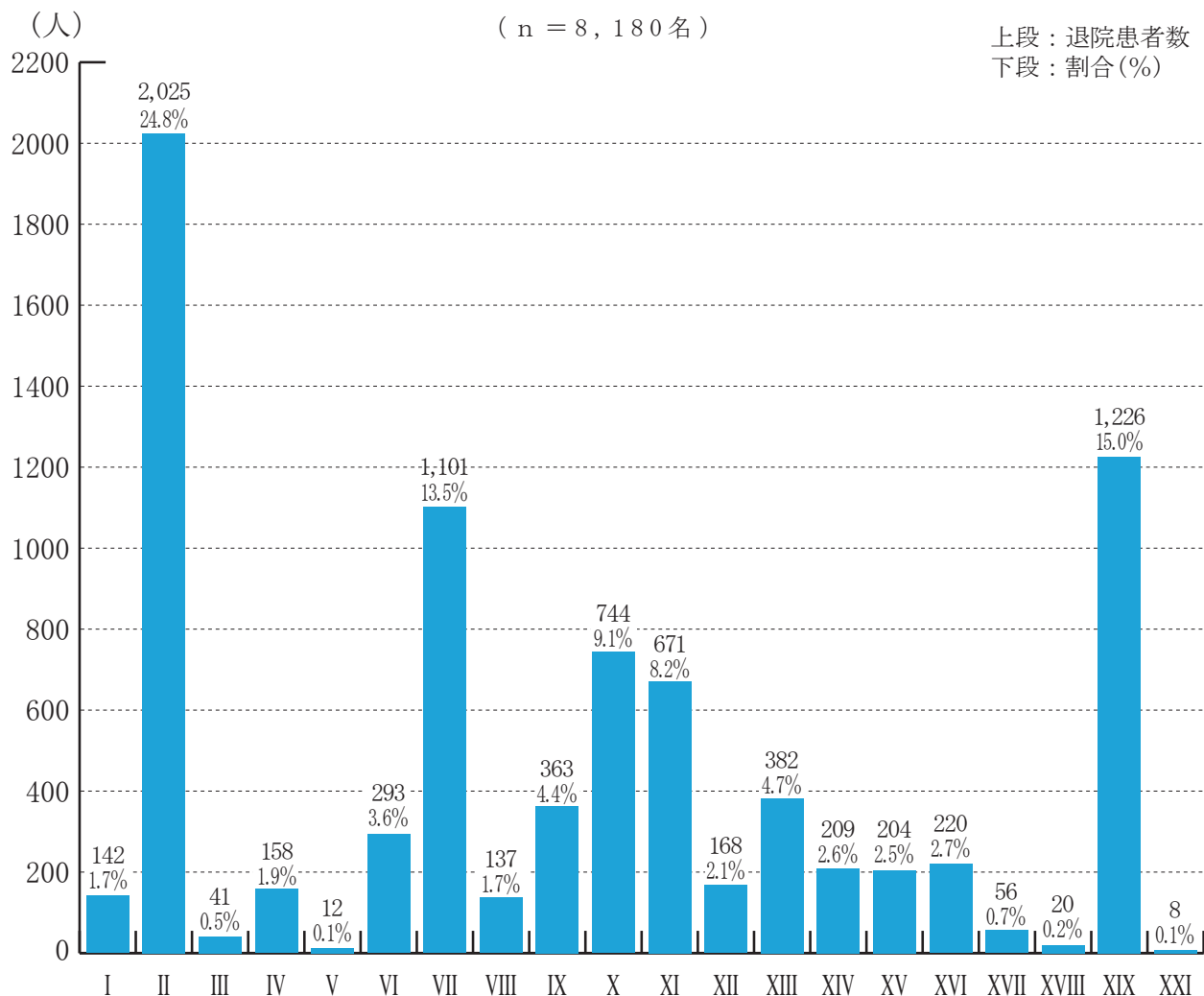
どの年代でどのようながんが多いかをグラフ化しています



8)施設基準に基づく主傷病名大分類

平成27年度 退院患者 I C D 大分類

主 傷 病 名 大 分 類



- | | |
|--------------------------|---------------------------------------|
| I 感染症及び寄生虫症 | XII 皮膚及び皮下組織の疾患 |
| II 新生物 | XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 | XIV 腎尿路生殖器系の疾患 |
| IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 | XV 妊娠、分娩及び産褥 |
| V 精神及び行動の障害 | XVI 周産期に発生した病態 |
| VI 神経系の疾患 | XVII 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| VII 眼及び付属器の疾患 | XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの |
| VIII 耳及び乳様突起の疾患 | XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| IX 循環器系の疾患 | XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 |
| X 呼吸器系の疾患 | |
| XI 消化器系の疾患 | |

平成27年度 ICD大分類・診療科別・性別・退院患者数

ICD大分類	男女合計	総数	総内	神内	呼内	消内	循内	糖	小	外科	呼外	皮	整	形	脳	泌	産	新内	婦	眼	耳	放	麻	口腔	緩和
総数	8,180	男 4,315 女 3,865	129 171	259 234	308 175	312 240	43 53	15 5	141 102	325 237	216 119	38 36	604 637	220 185	191 146	459 92	- 206	123 98	0 199	548 592	256 181	32 15	3 4	69 123	24 15
I 感染症及び寄生虫症	142	男 68 女 74	8 10	11 15	12 8	2 9	1 1	1 -	15 7	2 6	5 1	7 9	- -	- 1	3 -	- 2	- -	- -	- -	1 4	- -	- -	- -	- 1	- -
II 新生物	2,025	男 1,220 女 805	28 53	6 2	222 115	165 78	- -	1 -	- -	180 153	133 89	5 1	11 10	49 57	6 7	356 44	- -	- -	160	2	5	31 14	- -	- 2	22 13
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	41	男 20 女 21	4 10	- 2	1 1	8 3	- 1	- -	3 -	2 1	- -	1 -	- -	- -	- 2	1 -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	158	男 94 女 64	8 10	10 7	- -	1 1	1 2	12 5	12 11	- 4	3 -	- -	3 -	- -	2 4	1 -	- -	- -	- -	41 20	- -	- -	- -	- -	- -
V 精神及び行動の障害	12	男 5 女 7	- 1	- 3	1 -	1 -	- -	- -	1 -	- 1	2 -	- -	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 1	- -	- -
VI 神経系の疾患	293	男 152 女 141	5 4	116 97	- 1	1 -	- 1	- 3	2 -	- -	- 1	- -	8 17	2 4	13 7	- -	- -	- -	- 1	- -	5 4	- -	- 1	- -	- -
VII 眼及び付属器の疾患	1,101	男 515 女 586	- -	- -	- -	1 -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	24 24	- -	- -	- -	- -	- -	490 562	- -	- -	- -	- -	- -
VIII 耳及び乳様突起の疾患	137	男 54 女 83	2 3	8 22	- -	- 2	- -	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	1 6	- -	- -	- -	- -	- -	42 49	1 -	- -	- -	- -
IX 循環器系の疾患	363	男 193 女 170	1 9	63 46	1 -	2 4	33 39	- -	- -	- -	2 1	- 1	- 2	1 67	87 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	2 -	- -	1 -
X 呼吸器系の疾患	744	男 458 女 286	41 35	13 10	60 42	6 6	6 2	- -	92 72	3 1	51 8	- -	- -	1 -	3 1	- -	- -	- -	- -	- -	182 108	- -	- -	- -	- 1
XI 消化器系の疾患	671	男 341 女 330	8 3	3 1	118 134	1 2	- -	3 -	127 61	1 2	- -	1 -	2 2	- -	2 1	- 1	- 1	- -	- -	- -	9 5	- -	- -	67 116	- -
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	168	男 87 女 81	2 11	- 1	- 1	- -	- -	- -	7 5	3 1	- -	24 22	12 2	35 34	- -	1 1	- -	- -	- -	- -	3 2	- -	- -	- 1	- -
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	382	男 211 女 171	7 3	13 16	2 3	- 2	1 1	- -	- -	- -	- 1	1 1	177 131	6 10	4 1	- -	- -	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	209	男 116 女 93	8 10	5 3	- -	2 1	0 -	- 1	3 1	2 2	1 -	- 1	- -	- -	4 38	91 -	- 1	- -	- 36	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XV 妊娠、分娩及び産褥	204	男 - 女 204	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 203	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XVI 周産期に発生した病態	220	男 123 女 97	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	123 97	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	56	男 26 女 30	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- 1	- 1	- -	- -	- -	22 22	- -	- 1	- -	- 1	- 1	- -	2 3	- -	- -	2 -	- -
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	20	男 11 女 9	2 1	- -	1 1	1 1	- 1	- 2	2 -	- 1	1 -	- -	1 1	- -	- -	- -	- -	- -	- -	- -	3 1	- -	- -	- -	- -
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,226	男 616 女 610	5 8	11 9	6 1	3 1	- -	1 -	1 -	5 5	17 15	- 2	391 474	73 28	73 52	9 1	- -	- -	- -	15 7	4 -	- 1	1 2	- 3	1 1
XX 健康状態に影響を及ぼす要因 および保健サービスの利用	8	男 5 女 3	- -	- -	1 1	1 -	- -	- -	- -	1 -	- -	- -	- -	- -	- 1	- -	- -	- -	- -	2 -	- -	- -	- -	- -	- -

9) 当院で実施しているがん検診実績

【乳がん検診】

- ◇検診項目：視触診及びマンモグラフィ検査
- ◇当院の乳がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・乳がん検診」対象の方
 - ・下記の市町村による「無料クーポン券」事業へも参加しております。(鹿児島市・霧島市・垂水市)

乳がん検診受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成25年度	6	9	16	9	6	14	8	7	8	9	21	6	109
平成26年度	10	5	12	15	11	10	9	14	9	14	39	6	154
平成27年度	3	7	13	13	8	11	19	18	7	8	10	10	127

【子宮がん検診】

- ◇検診項目：頸部、体部検査(細胞診)※体部検査は、医師の判断により実施
- ◇当院の子宮がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・子宮がん検診」対象の方
 - ・下記の市町村による「無料クーポン券」事業へも参加しております。(鹿児島市・霧島市・垂水市)

子宮がん検診受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成25年度	14	16	22	13	11	13	12	7	4	8	12	5	137
平成26年度	11	2	13	27	12	20	16	20	14	11	22	6	174
平成27年度	9	7	19	17	4	13	18	9	11	7	15	8	137

【低線量CT肺がん検診】

- ◇当院は鹿児島県「低線量CT肺がん検診事業」へ参加しております。
- ◇当院の低線量CT肺がん検診対象の方
 - ・鹿児島県在住、50歳以上の方
 - ※肺がん治療中または肺がん疑いで経過観察中、肺がん術後の方は対象外です。

低線量CT肺がん検診受診件数

／月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成25年度	8	4	2	1	2	5	4	1	34	18	79
平成26年度	5	8	2	6	5	4	2	7	9	9	57
平成27年度	10	5	0	8	7	6	5	7	7	7	62

【大腸がん検診】

- ◇検査項目：便の潜血反応検査
- ◇当院の大腸がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・大腸がん検診」対象の方
 - ・40歳以上の方

大腸がん検診受診件数

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成25年度	4	5	14	4	5	4	4	6	2	3	8	3	62
平成26年度	5	6	6	8	8	7	5	7	4	7	5	3	71
平成27年度	2	4	12	7	3	3	5	2	7	3	7	4	59

【前立腺がん検診】

- ◇検査項目：PSA(特異抗原)検査(血液検査)
- ◇当院の前立腺がん検診対象の方
 - ・鹿児島市「いきいき受診券・前立腺がん検診」対象の方
 - ・50歳、55歳、60歳、70歳になる男性

前立腺がん検診

／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計／名
平成25年度	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
平成26年度	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4
平成27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2

2. 脳卒中

t-PA(超急性脳卒中)7件 ※詳細は P15

- 8月22日 上町さるっきんぐ シルミル「メディカルコース」
「脳卒中を予防しよう～減塩レシピを体験」講師 参加者 16名
管理栄養士 1名・他スタッフ 5名
- 8月27日 第87回南薩医学研究科医 講師
「脳卒中のトピックスー2015年脳卒中治療ガイドラインー」 医師 1名派遣

3. 急性心筋梗塞 該当事項なし

4. 糖尿病

- 1型糖尿病家族会「さくらんぼの会昭和会支部」指導医 年2回定例会 医師 1名派遣
- 6月6日 第20回鹿児島糖尿病スタッフセミナー 2名参加
- 7月21日 第5回糖尿病医療連携体制講習会 2名参加
- 8月7日～8日 第46回鹿児島小児糖尿病サマーキャンプ 医師 1名・管理栄養士 2名派遣
- 12月6日 第1回鹿児島1型糖尿病セミナー 1名参加
- 12月6日 1型糖尿病さくらんぼの会 運営補助 管理栄養士 1名派遣

5. 精神疾患 該当事項なし

6. 救急医療

1) 洋上救急出動簿 平成27年度は出動要請なし

2) 離島緊急医療活動一覧

	搬送日	市町村名	症 状
1	4月8日	西之表市	右結石性腎盂腎炎
2	4月11日	西之表市	左上腕骨顆上骨折
3	5月26日	西之表市	肺炎
4	6月7日	西之表市	左腓骨神経損傷
5	8月13日	西之表市	肺化膿症
6	8月19日	南種子町	左母子末節骨開放骨折
7	9月16日	西之表市	第2腰椎破裂骨折
8	9月26日	西之表市	くも膜下出血
9	10月15日	西之表市	第4腰椎椎体骨折
10	11月11日	西之表市	左頬骨骨折
11	11月23日	奄美市	頸髓損傷
12	12月5日	屋久島町	右太腿骨顆上開放骨折
13	12月17日	西之表市	気道狭窄
14	1月21日	中種子町	電撃床
15	3月10日	南種子町	右環指切断

3) 鹿児島市医師会休日当番医輪番担当及び夜間急病センターの全夜間輪番オンコール担当を次の様に担当し、診療活動を行った。

①休日当番医

5月5日	産婦人科・眼科	11月3日	眼科
5月31日	外科・皮膚科・泌尿器科	12月31日	内科・外科・産婦人科
8月16日	産婦人科	2月7日	皮膚科・泌尿器科
8月30日	整形外科	2月21日	眼科
9月23日	内科・外科・泌尿器科	3月21日	内科・外科
10月8日	皮膚科		

②全夜間オンコール

眼科	延12日	泌尿器科	延12日	産婦人科	延12日
皮膚科	延11日	整形外科	延6日		

③バックアップ

整形外科 延42日

4) 鹿児島市高規格救急車指示病院としての活動

日付	救急隊	年齢	性別	指示医師	指示要請
4月22日	南本署	25	男	西澤	あり
7月24日	吉野	76	男	山本	あり
7月26日	吉野	76	男	堀川	あり
8月4日	吉野	36	男	立和田	あり
8月31日	西本署	88	女	林	あり
9月7日	伊敷	74	男	林	あり
9月16日	上町	78	女	立和田	あり

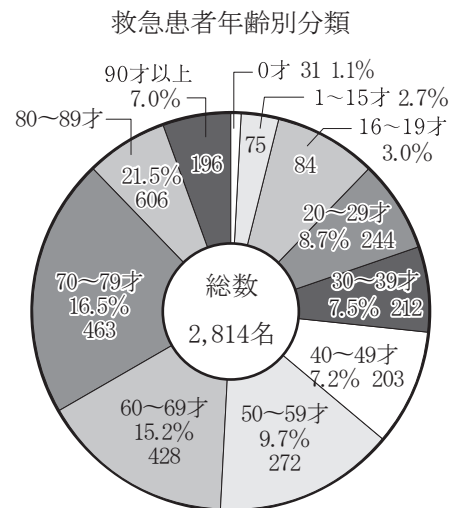
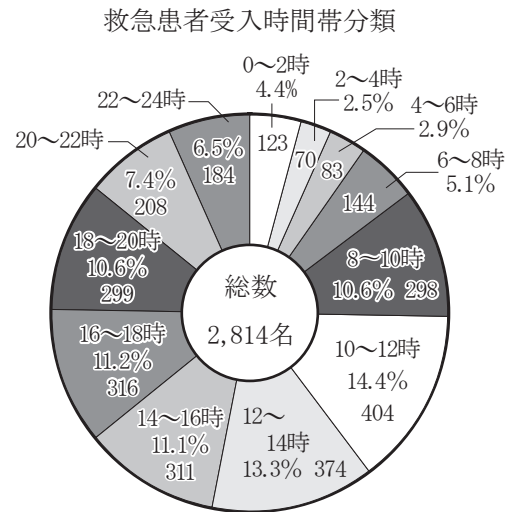
日付	救急隊	年齢	性別	指示医師	指示要請
9月20日	吉野	90	女	三宅	あり
1月16日	伊敷	85	女	小濱	あり
1月17日	上町	61	女	志岐	あり
1月25日	吉野	83	男	外菌	あり
3月12日	郡山	84	男	三山	あり
3月27日	上町	90	男	川島	あり
3月29日	上町	63	男	甲斐	あり

※救急救命処置に対する医師の具体的な指示状況14件

5) 年度別救急車受入台数（患者数）

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
4月	180 (182)	220 (221)	214 (220)	199 (202)	221 (224)
5月	196 (196)	219 (221)	228 (235)	213 (217)	219 (226)
6月	185 (188)	194 (195)	208 (213)	206 (209)	210 (215)
7月	212 (216)	218 (223)	247 (251)	225 (229)	209 (215)
8月	250 (266)	251 (256)	249 (253)	212 (216)	259 (264)
9月	214 (218)	217 (222)	197 (201)	224 (226)	205 (213)
10月	247 (251)	238 (242)	230 (233)	202 (205)	248 (252)
11月	212 (215)	245 (249)	224 (226)	222 (224)	213 (215)
12月	237 (239)	224 (225)	218 (223)	227 (232)	249 (253)
1月	239 (241)	214 (219)	201 (208)	244 (243)	243 (248)
2月	172 (175)	209 (210)	212 (221)	204 (209)	228 (232)
3月	228 (228)	214 (215)	209 (217)	227 (230)	251 (257)
合計	2,572 (2,615)	2,663 (2,698)	2,637 (2,701)	2,605 (2,642)	2,755 (2,814)
月平均	214.3 (217.9)	221.9 (224.8)	219.8 (225.1)	217.1 (220.2)	229.6 (234.5)
日平均	7.0 (7.1)	7.3 (7.4)	7.2 (7.4)	7.1 (7.2)	7.5 (7.7)
高規格救急車 指示（再掲）	26	17	18	21	14

6) 平成27年度
救急患者受入時間帯・年齢別分類



7) 県消防、防災ヘリコプターの積極的活用に係る医師搭乗システム移動病院として輪番を担当した。

- | | |
|---------------------------|--------------------|
| 4月20日・21日・22日・24日・25日・26日 | 9月1日・2日・4日・5日 |
| 6月28日・29日・30日 | 11月1日・2日・4日・6日・7日 |
| 7月1日・3日・4日 | 12月16日・18日・19日・20日 |
| 8月30日・31日 | |

7. 災害時における医療

災害救護訓練等への参加

平成 27 年度救急医療実地修練		看護師 1 名参加
5 月 21 日	鹿児島県総合防火訓練	看護師 1 名参加
9 月 9 日	多数傷病者事故対応訓練における電話連絡訓練	参加
10 月 24 日	JDA-DAT(栄養士会 災害支援チーム)研修	栄養管理士 1 名参加
11 月 13 日	第 54 回自衛消防隊消化競技会	看護師 3 名・放射線技師 1 名参加
12 月 20 日	原子力防災訓練 原子力災害医療措置実地訓練	放射線技師 2 名参加
12 月 20 日	原子力防災訓練 避難施設調整システム訓練(電話)	事務当直者対応
1 月 12 日	桜島火山爆発総合防火訓練	看護師 5 名参加
2 月 13・14 日	AMAT 養成研修	医師 1 名・看護師 1 名・事務 1 名参加
3 月 21 日	洋上救急慣熟訓練	看護師 3 名参加

8. へき地医療

9 月 25 日～28 日 歯科巡回診療車事業 屋久島・口永良部島 歯科口腔外科部長 吉田雅司派遣

9. 周産期医療

NICU 受入 (鹿児島市立病院)	111 件
(その他の病院)	6 件

7 月 18 日	鹿児島県委託事業 小児在宅支援事業 出張もじょかくらぶ(NICU 同窓会)大島地区(奄美市 AiAi ひろば 観光交流センター) 50 名参加	医師 1 名・看護師 7 名派遣
9 月 6 日	鹿児島県委託事業 小児在宅支援事業 出張もじょかくらぶ(NICU 同窓会)伊佐・大口地区 (大口元気こころ館)22 名参加	看護師 9 名派遣
11 月 29 日	鹿児島県委託事業 小児在宅支援事業 出張もじょかくらぶ(NICU 同窓会)肝付地区(県民健康プラザ健康増進センター)48 名参加	医師 1 名・看護師 12 名派遣
1 月 31 日	赤ちゃん専用救急車「MOJOKA1 号」導入	
2 月 7 日	鹿児島県委託事業 小児在宅支援事業 出張もじょかくらぶ(NICU 同窓会)薩摩川内地区(川薩保健所) 27 名参加	医師 2 名・看護師 12 名派遣
2 月 25 日	早産児の継続支援研修会 すこやかふれあいプラザ	医師 1 名派遣

10. 小児(救急)医療

1) 平成27年度小児科救急車一覧表

月日	救急隊	年齢	性別	症状	担当医師	入院・外来
6 月 19 日	南林寺	0	男	胃腸炎	堀之内	外来
6 月 19 日	上町	12	男	1型糖尿病・糖尿病性合併症	堀之内・玉田	入院
8 月 25 日	上町	1	男	熱性痙攣	堀之内	外来
11 月 10 日	南林寺	1	男	痙攣発作	堀之内	入院
2 月 12 日	始良郡西部	18	男	不明熱	玉田	入院
3 月 7 日	伊敷	8	男	痙攣発作	玉田	外来

2) 学校検診関係・会議・研修会等への参加、講師派遣

4月21日	坂元中学校学校歯科検診実施	歯科医師3名・歯科衛生士3名派遣
6月(1回)7月(1回)	鹿児島市学校腎臓・糖尿病健診結果報告書判定	医師1名派遣
6月28日	鹿児島市腎臓・糖尿病健診 精密検査診察	医師1名派遣
6月2日/9月1日/1月9日/3月1日	鹿児島子どもの虐待問題研究会 第94回鹿児島子どもの虐待問題研究会 会長	医師1名派遣
7月9日	鹿児島県小児保健協会 南日本子ども健康セミナー 市民の育児支援	医師1名参加
8月10日	鹿児島市教育委員会 鹿児島市子ども子育て会議	医師1名参加
10月20日	学校保健・安全・歯科保健講習会 種子島 講師	1名派遣
1月2日	第94回鹿児島子どもの虐待問題研究会	医師1名参加
3月23日	小児在宅推進事業連携実務検討会	医師1名派遣

11. 地域医療支援病院活動報告

医師・看護師・保健師・栄養士・検査技師による、地域の医療従事者・地域住民の方を対象に、健康増進への普及を図った。

月 日	演 題	講 師	参加者数
4月25日	リンパ浮腫研修会 「リンパ浮腫治療に携わるスタッフの連携・知識・技術向上」	鹿児島生協病院 坂元あゆみ 相良病院 川本薫 堂園メディカルハウス 川畑真希子	12名 外部10名
5月22日	いきいき元気な毎日のために ～SOCを高める～	健康社会学者・博士(保健学) 蛭名玲子	71名参加
5月27日	機能的構音障害の評価と訓練	元熊本機能病院 言語聴覚士 三浦真弓	68名 外部36名
6月10日	院内感染講演会 全職員で取り組む感染対策 ～何か起こる前に対処する～	NPO 日本感染管理支援協会 理事長 土井英史	看護部・ パラメディカル
7月18日	今給黎スポーツフォーラム 肩・肘スポーツ障害に対する超音波健診 東急障害に対しての体幹・下肢からのアプローチ～仮設・検証～	昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 江 東豊洲病院 鈴木昌 藤が丘病院 尾崎尚代	74名 外部13名
7月23日	院内感染講演会 「HIV感染症：鹿児島県の現状と概論、針刺し 事故防止策」	鹿児島大学病院 輸血・細胞治療部 部長 古川良尚	287名
7月30日	褥瘡対策勉強会 「スキントピアについて」	スミス&ニューウンドマネジメント(株) マーケティングコミュニケーション部学術推 進部 係長 細川珠美	173名 外部16名
7月31日	職員教育研修会 「認知症、正しく理解していますか？」	公益財団法人慈愛会 介護老人保健施設 愛 と結の街施設庁 認知症疾患医療センター 谷山病院副センター長 黒野明日嗣	90名
8月31日 9月18日	院内感染講演会(補完研修) 「HIV感染症 鹿児島県の現状と概論、針刺し 事故対策」	当院 神経内科部長 丸山芳一	278名 212名
9月1日 9月3日 9月11日	労働安全衛生勉強会 ストレスチェック制度説明会	当院 副院長 外科部長 産業医 牟禮洋	全702名
9月16日	NST・口腔ケアチーム合同講演会 「日本の医療を口から変えよう！急性期から始 める口腔ケアと経口摂取訓練」	産業医科大学 リハビリテーション医学講座 講師 高昌英昭	130名 外部35名
10月8日	がん・緩和ケア研修会 「しくじり先生の緩和ケア」	天陽会中央病院 緩和ケア病棟 医長 高濱哲也	97名 外部19名

10月22日 ・29日 11月17日 ・18日	院内感染講演会 「結核の現状と潜在性結核スクリーニング」	オックスフォード・イムノテック（株） 諸井雄大	全 832 名
10月28日	WLB委員会 肩こり体操教室	当院 リハビリテーション部 理学療法士 勝山誠	20名
10月30日・31日 12月17日 1月14日 21日・27日 3月18日・23日	医療安全研修会（全8回） 「KYT の考え方と方法を部署の安全対策に生かそう」	東京海上日動メディカルサービス（株） メ ディカルリスクマネジメント室 玉利英子	全 726 名
11月2日	第11回鹿児島外傷セミナー症例検討会 「私が外傷整形外科専門施設を構築する理由」	湘南鎌倉総合病院 外傷センター センター長 土田芳彦	70名 外部 37名
11月12日	院内勉強会 「薬剤起因性消化管潰瘍のリスクとマネジメント～患者さんを消化管出血から守るために～」	当院 消化器内科科長 今給黎和幸	63名
11月14日	院内コンサート 「蓄音機で楽しむドイツ音楽～主に声楽～」	鹿児島日独協会 さつまドイツサロン久保巖	35名 その他入院患者様 多数参加
11月30日 12月8日	放射線安全取扱研修会 「放射線被曝のリスクの考え方と被曝を減らすための工夫」 「クイクセルバッジと電離放射線の運用」	当院 放射線部 浮田啓一郎・小屋俊彰・川畑朋之	全 63 名
12月1日	放射線治療と陽子線治療に関する講演会 「放射線治療の有害事象とその対策 (放射線治療 Update2015)」 「メディポリスにおける陽子線治療の現状と将来」	当院 放射線治療科 部長 中禮久彦 メディポリス国際陽子線治療センター 部長 有村健	58名 外部 19名
1月15日	定期多施設合同カンファレンス 「主科との連携の困難さを感じた症例」	鹿児島医療センター、南風病院、 鹿児島大学病院、相良病院、鹿児島市立病院、 鹿児島厚生連病院、当院	37名 外部 29名
2月5日	乳がん講演会 「当院の乳がん治療について」 「動画で見る内視鏡下 Nipple-sparing mastectomy と 1次乳房再建」	当院 副院長 外科部長 濱之上雅博 亀田総合病院 乳腺科部長 坂本正明	61名 外部 9名
2月17日	胸腰椎内視鏡下前方固定術セミナー 手術手技のポイント、カンファレンス、 症例検討会	当院 副院長 整形外科 松永俊二 当院 整形外科 部長 宮口文宏	10名 外部 2名
2月27日	鹿児島診療情報管理研究会 合同診療録監査の現状および課題 特定共同指導を受審して意見交換会	鹿児島市立病院、米盛病院、松元病院、 相良病院、南風病院、出水郡医師会広域医療 センター、川内市医師会立市民病院、三愛病 院、鹿児島キャリアデザイン専門学校、当院	10名 外部 18名
3月10日	個人情報保護推進委員会 ・医療安全対策委員会 「インターネットの危険性と対策」	鹿児島県警察本部 生活環境課 サイバー犯罪対策室 田代耕基	142名

12. 平成27年度クオリティインディケーター(入院・救急・手術・紹介に関する指標)

H27	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H28.1月	2月	3月	合計	平均
平均在院日数(日)	7対1入院基本料条件 → 18日以内(3ヶ月平均)													
調整後	15.1	16.9	15.4	15.5	15.9	15.5	15.8	16.5	15.7	17.1	17.1	15.7		16.0
未調整	16.1	17.8	16.2	16.1	17.3	16.4	15.3	16.0	15.8	17.5	17.3	15.8		16.5
3ヶ月平均	15.9	16.2	15.7	15.9	15.6	15.6	15.7	15.9	16.0	16.4	16.6	16.6		16.0
入院・退院患者(人) / 病床稼働率(%)														
入院患者数(人)	728	604	731	697	649	633	725	667	652	671	674	748	8,179	682
退院患者数(人)	740	620	709	727	657	622	725	659	725	587	652	757	8,180	682
稼働率(%)	87.3	78.2	86.3	82.0	80.9	76.3	79.6	78.3	77.8	79.1	88.1	85.4		81.6
医療・看護必要度(%)	7対1入院基本料条件 → 15%以上													
重症患者割合	17.2	17.6	15.9	17.2	18.0	18.0	17.8	16.0	16.8	17.6	18.5	16.8		17.3
在宅復帰率(%)	7対1入院基本料条件 → 75%以上													
自宅等復帰割合	90.5	91.0	93.0	92.3	92.6	92.9	92.8	93.8	92.8	92.4	91.1	91.9		92.3
救急科実績	()内は入院数													
救急車台数(台)	221	219	210	209	259	205	248	213	249	243	228	251	2,755	230
搬送者数(人)	224	226	215	215	264	213	252	215	253	248	232	257	2,814	235
入院	98	112	106	113	124	104	123	108	132	138	116	139	1,413	118
外来	126	114	109	102	140	109	129	107	121	110	116	118	1,401	117
入院率	43.8%	49.6%	49.3%	52.6%	47.0%	48.8%	48.8%	50.2%	52.2%	55.6%	50.0%	54.1%		50.2%
ドクターへリ搬送(件)	3	3	1	0	3	1	1	2	3	1	1	2	21	2
ドクターカー搬送(件)	3	2	5	2	3	5	5	2	4	4	4	2	41	3
洋上救急件数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
紹介患者	55 (53)	44 (44)	37 (34)	41 (39)	48 (43)	44 (40)	49 (43)	43 (40)	50 (43)	55 (49)	42 (38)	53 (48)	561 (514)	47 (43)
交通事故患者	25 (9)	33 (12)	31 (10)	31 (10)	40 (11)	42 (13)	35 (10)	30 (15)	48 (13)	21 (7)	38 (11)	32 (13)	406 (134)	34 (11)
外傷患者	55 (31)	63 (26)	55 (19)	54 (29)	64 (33)	48 (20)	75 (34)	68 (31)	66 (32)	63 (37)	65 (28)	71 (34)	747 (354)	62 (30)
急病患者	89 (33)	85 (30)	92 (43)	89 (35)	112 (37)	79 (31)	93 (36)	74 (22)	89 (44)	109 (45)	87 (39)	101 (44)	1099 (439)	92 (37)
CPA(心肺停止)件数	0	0	0	3	3	5	1	4	1	7	2	2	28	2
t-PA(超急性期脳卒中)件数	3	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	7	0
手術件数(件)														
手術件数	388	319	415	385	298	312	373	364	315	304	341	383	4,197	350
初診・紹介・逆紹介患者数・紹介・逆紹介率	※地域医療支援病院計算式に準ずる(紹介率50%、逆紹介率70%が当院基準)													
初診患者数(人)	775	876	798	760	826	855	867	748	821	672	796	912	9,706	809
紹介患者数(人)	342	272	387	326	309	336	350	276	265	270	279	303	3,715	310
逆紹介患者数(人)	547	435	537	638	673	541	559	479	488	436	482	602	6,417	535
紹介率	69.7%	64.3%	72.2%	67.2%	67.6%	67.6%	70.0%	64.5%	70.5%	73.0%	62.6%	62.3%		67.6%
逆紹介率	111.4%	102.8%	100.2%	131.5%	147.3%	108.9%	111.8%	111.9%	129.8%	117.8%	108.1%	123.9%		116.8%

※手術の施設基準に基づき、平成 27 年(2015 年)の 1 年間に実施した手術名、手術件数

手術区分	手術名	手術件数
区分 1	頭蓋内腫瘍摘出手術	17 件
区分 1	黄斑下手術等	158 件
区分 1	鼓室形成手術等	4 件
区分 1	肺悪性腫瘍手術等	82 件
区分 2	靭帯断裂形成手術等	5 件
区分 2	水頭症手術等	19 件
区分 2	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0 件
区分 2	尿道形成手術等	1 件
区分 2	角膜移植術	0 件
区分 2	肝切除術等	20 件
区分 2	子宮附属器悪性腫瘍手術等	7 件
区分 3	上顎骨形成術等	13 件
区分 3	上顎骨悪性腫瘍手術等	0 件
区分 3	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0 件
区分 3	母子化手術等	7 件
区分 3	内反足手術等	0 件
区分 3	食道切除再建術等	3 件
区分 4	胸腔鏡下及び腹腔鏡下手術等	252 件
その他の区分	人工関節置換術	37 件
その他の区分	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	3 件

入院患者に関する年度別実績

	H25 年度	H26 年度	H27 年度
平均在院日数(日)	15.3	17.2	16.0
病床利用率(%)	83.3	82.9	81.6

年度別手術症例数

	H25 年度	H26 年度	H27 年度
手術症例数(件)	4,480	4,472	4,197

年度別紹介率

	H25 年度(地域支援)	H26 年度(地域支援)	H27 年度(地域支援)
紹介率(%)	50.5	62.4	67.6

年度別逆紹介率

	H25 年度(地域支援)	H26 年度(地域支援)	H27 年度(地域支援)
逆紹介率(%)	60.8	97.6	116.8

※計算方法・・・地域医療支援病院による

13. 初期臨床研修病院実績

初期(卒後)臨床研修病院として、次の通り研修医を受け入れ、指導教育を行った。

- 基幹型研修医
 - ・ H27年4月～H28年3月 8名
(救急科、総合内科、消化器内科、神経内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、産婦人科、麻酔科、小児科、皮膚科、眼科、放射線科)
 - ・ H27年8月～H28年3月 1名 (※ 研修再開者)
(救急科、外科、形成外科、放射線科、麻酔科)
- 協力型研修医
 - ・ H27年4月 1名 (呼吸器内科)
 - ・ H27年4月～H28年3月 1名
(救急科、総合内科、消化器内科、神経内科、外科、形成外科、放射線科)
 - ・ H27年4月～7月 1名 (神経内科、循環器内科)
 - ・ H27年10月～H28年3月 2名
(救急科、総合内科、循環器内科、小児科、呼吸器外科、麻酔科)
 - ・ H28年2月～3月 1名 (呼吸器内科)

初期臨床研修関係事業 (平成 27 年度)

日付	事業名称	当院参加者	場所	主催
4.24	「平成 27 年度研修医歓迎レセプション」	9 名	県医師会館	県医師会
5.26	「平成 27 年度第 1 回桜島プログラム説明会」	3 名	鹿児島大学病院総合臨床研修センター	鹿児島大学病院総合臨床研修センター
6.5	「平成 27 年度第 1 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	3 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
6.7	「マイナビ RESIDENT FESTIVAL 福岡会場」への派遣	1 名	JR 九州ホール	マイナビ
6.24	「平成 27 年度第 1 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会」	1 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
7.10	「平成 27 年度第 1 回臨床研修病院合同説明会」	6 名	鹿児島大学医学部	県初期臨床研修連絡協議会
8.20	「鹿児島県臨床研修病院見学ツアー事業」(C コース)	—	県内 11 病院	県初期臨床研修連絡協議会
8.21	「春の臨床研修病院合同説明会」	5 名	サンプラザ天文館	県初期臨床研修連絡協議会
9.12	「第 12 回鹿児島県臨床研修医合同研修会」(黒島研修医が症例発表)	10 名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
11.21 ～ 11.22	「指導医養成講習会」(大場部長および二木医師修了)	2 名	鹿児島大学病院総合臨床研修センター	県初期臨床研修連絡協議会
11.25	「平成 27 年度第 2 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会担当者会議」	3 名	鹿児島県文化センター(宝山ホール)	県初期臨床研修連絡協議会
12.13	「e レジフェア 2015 in 福岡」	7 名	福岡国際会議場	リンクスタッフ
12.16	「平成 27 年度第 2 回鹿児島県初期臨床研修連絡協議会」	1 名	県庁	県初期臨床研修連絡協議会
1.9	「第 13 回鹿児島県臨床研修医合同研修会」(白石研修医が症例発表)	12 名	県市町村自治会館	県初期臨床研修連絡協議会
2.13	「九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会」	6 名	福岡国際会議場	九州厚生局

(その他)

奄美病院(精神科研修)を研修協力施設として厚生労働省へ追加申請した
(平成28年度研修プログラムより適用)

● 歯科医師

鹿児島大学病院歯科医師臨床研修プログラム研修協力施設として、次の通り研修歯科医を受け入れ、指導教育を行った。

平成27年5月～平成28年2月 毎週火曜日

大学病院歯科医療(A)・大学病院歯科医療(B)・地域歯科医療プログラム 研修歯科医
1名ずつ計27回

●医学部医学科病院見学者

次の通り、医学部医学科3～6年 病院見学者33名（鹿児島大学5名、県外大学28名）を受け入れた。

4月1日	鹿児島大学医学部医学科6年生	1名	8月19日	岐阜大学医学部医学科5年生	1名
4月23日	岩手医科大学医学部医学科6年生	1名	8月21日	鹿児島大学医学部医学科5年生	1名
4月28日	神戸大学医学部医学科6年生	1名	9月24日	北海道大学医学部医学科5年生	2名
5月8日	宮崎大学医学部医学科6年生	1名	2月24日	宮崎大学医学部医学科4年生	1名
5月8日	九州大学医学部医学科5年生	1名	2月24日	旭川医科大学医学部医学科3年生	2名
5月8日	岩手医科大学医学部医学科5年生	1名	3月8日	久留米大学医学部医学科5年生	1名
6月12日	札幌医科大学医学部医学科5年生	1名	3月9日～11日	香川大学医学部医学科5年生	1名
6月24日	鹿児島大学医学部医学科6年生	1名	3月16日	九州大学医学部医学科5年生	1名
7月6日	産業医科大学医学部医学科6年生	1名	3月16日～17日	山口大学医学部医学科5年生	1名
7月21日	熊本大学医学部医学科6年生	1名	3月18日	久留米大学医学部医学科4年生	1名
8月3日	産業医科大学医学部医学科5年生	1名	3月22日	鹿児島大学医学部医学科5年生	1名
8月4日	鹿児島大学医学部医学科6年生	1名	3月28日	高知大学医学部医学科3年生	2名
8月7日	鹿児島大学医学部医学科5年生	1名	3月25日	産業医科大学医学部医学科5年生	1名
8月13日	東京慈恵会医科大学医学部医学科5年生	2名	3月28日	京都府立医科大学医学部医学科5年生	1名
8月14日	群馬大学医学部医学科5年生	1名			

14. 各学校より実習病院の指定を受け、次の通り実習生を受け入れ、医学、看護、理学・作業・言語聴覚療法、放射線、事務等に関する実習指導を行った。

【医師】

鹿児島大学医学部医学科6年臨床医学学外実習

外科	4月28日～5月30日	1名
鹿児島大学医学部医学科5年学外臨床実習(ポリクリ)		
耳鼻咽喉科	毎週火曜日	各1～2名
鹿児島大学医学部医学科5年学外臨床実習(ポリクリ)		
外科	毎週水曜日・隔週金曜日	各1～2名
鹿児島大学医学部医学科5年学外臨床実習(ポリクリ)		
整形外科	隔週水曜日	各1～2名
鹿児島大学医学部医学科5年学外臨床実習(ポリクリ)		
呼吸器外科	不定期	各1名
鹿児島大学医学部医学科4年シャドウイング		
呼吸器内科	5月15日・19日／6月12日／7月10日	(各1名の4名)
鹿児島大学医学部医学科4年シャドウイング		
神経内科	4月10日／5月15日・29日／6月12日・26日	(各1名の5名)
鹿児島大学医学部医学科4年シャドウイング		
呼吸器外科	4月10日／5月22日／6月12日／6月26日／7月10日	(各1名の5名)
鹿児島大学医学部医学科4年シャドウイング		
脳神経外科	4月17日・24日／5月15日／6月12日・26日／7月10日	(各1名の6名)
鹿児島大学医学部医学科3年シャドウイング		
呼吸器外科	10月2日・16日・30日／11月13日	(各1名の4名)
鹿児島大学医学部医学科3年シャドウイング		
呼吸器内科	10月2日・16日／11月6日・27日	(各1名の4名)
鹿児島大学医学部医学科3年シャドウイング		
神経内科	10月2日・23日／11月13日／12月4日	(各1名の4名)
鹿児島大学医学部医学科3年シャドウイング		
脳神経外科	10月16日・30日／11月13日／12月4日	(各1名の4名)
鹿児島大学医学部医学科3年生		
病理診断科	8月7日・12日・14日	7名

【看護部】

原田学園鹿児島医療技術専門学校(小児看護学)	112日間	14名	
久木田学園看護専門学校(成人看護学・老年看護学・母性看護学・NICU・小児看護学・統合実習)	2616日間	254名	
医療法人協会立看護専門学校(成人看護学・母性看護学)	300日間	75名	
医療法人協会立看護専門学校(基礎看護学)	180日間	30名	
神村学園専修学校(成人看護学・老年看護学・母性看護学・小児看護学・NICU)	384日間	80名	
神村学園専修学校(基礎看護学)	240日間	35名	
神村学園高等部看護学科基礎課程(基礎看護学)	192日間	12名	
神村学園高等部看護学科専門課程(成人看護学・老年看護学・母性看護学・小児看護学・NICU)	800日間	120名	
龍桜高等学校看護学科専門課程(成人看護学・母性看護学)	696日間	58名	
鹿児島中央看護専門学校2年課程(小児看護学・母性看護学)	696日間	106名	
鹿児島中央看護専門学校2年課程(在宅看護)	128日間	16名	
久木田学園看護専門学校(在宅看護)	212日間	106名	
神村学園高等部看護学科専門課程(在宅看護)	60日間	30名	
鹿児島高等看護学院(成人看護学)	48日間	4名	
城西高校(インターンシップ)	7月7日～10日	3日間	3名
鹿児島東高等学校(インターンシップ)	11月17日～19日	2日間	2名
九州看護福祉大学(インターンシップ)	7月24日	1日間	1名
尚志館高校看護科専門課程(インターンシップ)	7月27日・28日	2日間	1名
赤塚学園 タラ看護専門学校(インターンシップ)	8月3日	1日間	2名

【リハビリテーション部】

琉球リハビリテーション学院 長期(作業療法学)	4月7日～6月19日	11週間	1名
鹿児島医療技術専門学校 長期Ⅰ(理学療法学)	5月4日～7月10日	10週間	1名
鹿児島医療福祉専門学校 第3学年長期臨床実習(理学療法学)	5月11日～7月18日	10週間	2名
九州看護保健福祉大学 第4学年臨床実習Ⅲ(理学療法学)	5月11日～7月4日	8週間	1名
熊本保健科学大学 第4学年長期実習Ⅱ(作業療法学)	5月11日～7月3日	8週間	1名
沖縄リハビリテーション福祉学院 第3学年長期臨床実習(作業療法学)	5月11日～7月11日	9週間	1名
神村学園専修学校 第3学年臨床実習(作業療法学)	6月22日～8月15日	8週間	1名
鹿児島大学 第4学年臨床実習(理学療法学)	7月21日～9月11日	8週間	1名
鹿児島医療福祉専門学校 第2学年臨床検査測定実習(理学療法学)	7月27日～8月1日	1週間	1名
宮崎リハビリテーション学院 第3学年臨床実習Ⅱ(理学療法学)	7月27日～10月9日	11週間	1名
神村学園専修学校 第1学年見学実習(作業療法学)	7月29日～8月1日	3日間	1名
鹿児島医療技術専門学校 第4学年臨床実習(作業療法学)	8月3日～10月9日	10週間	1名
九州中央リハビリテーション学院 第4学年臨床実習Ⅳ(作業療法学)	8月10日～10月3日	8週間	1名
九州保健福祉大学 第1学年見学実習(作業療法学)	8月17日	1日間	1名
九州看護福祉大学 第3学年臨床実習(理学療法学)	11月24日～12月12日	3週間	1名
福岡リハビリテーション専門学校 第3学年長期臨床実習(理学療法学)	1月12日～3月2日	8週間	1名
鹿児島医療福祉専門学校 第3学年評価実習(言語聴覚療法学)	1月25日～2月19日	3週間	1名
鹿児島医療福祉専門学校 第2学年臨床評価実習(理学療法学)	2月1日～2月20日	3週間	2名
鹿児島医療福祉専門学校 第1学年介護体験実習(理学療法学)	2月22日～2月24日	3日間	2名
鹿児島医療技術専門学校 第1学年臨床見学体験実習(理学療法学)	2月22日～2月26日	1週間	1名

【中央放射線部】

鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術学科4年生	6月1日～6月26日	25日間	2名
鹿児島医療技術専門学校 診療放射線学科4年生	6月29日～7月24日	25日間	2名
鹿児島医療技術専門学校 診療放射線学科4年生	9月1日～9月30日	29日間	2名
鹿児島医療技術専門学校 診療放射線学科3年生	10月1日～10月31日	30日間	2名

【薬剤部】

九州保健福祉大学薬学部5年生 長期実務実習	9月7日～11月21日	75日間	2名
-----------------------	-------------	------	----

【栄養管理部】

尚綱大学短期大学部食物栄養学科2年 臨地・校外実習（病院給食実習）	8月31日～9月4日		1名
九州女子大学 家政学部 栄養学科3年 臨地実習（Ⅱ）校外学習	3月7日～3月18日		1名

【在宅医療部】

久木田学園看護専門学校	4月13日～9月17日	157日間	15名
鹿児島中央看護専門学校2年課程（通信制）看護科	7月27日～8月27日	31日間	23名
神村学園高等部 看護学科専門課程	6月29日～12月18日	172日間	21名

15. 視察・研修・見学（社会人の個人、団体、および学生）の受入

【看護部】

K. K FIRSTENDER 新生児内科 リハビリテーション見学			2名
4月10日 KYT ～NICU・フォローアップ外来～取材 s			
6月26日 鹿児島看護専門学校 教員研修（3階東病棟）			2名
7月21日 今村病院分院（新生児内科（NICU・GCU）見学			6名
7月24日 鹿児島高等学校 ふれあい看護体験			3名
7月24日 錦江湾高校 ふれあい看護体験			2名
7月24日 鹿児島女子高等学校 ふれあい看護体験			2名
7月29日 鹿児島実業高校 ふれあい看護体験			3名
7月29日 松陽高校 ふれあい看護体験			1名
7月29日 鹿児島高等学校ふれあい看護体験			1名
8月3日 医療法人育成会 坂口病院（褥瘡管理課）			2名
10月21日 第2回鹿児島県地区再就職支援セミナー実施研修			3名

【中央放射線部】

7月18日 城西高校 インターンシップ研修			2名
8月17日 帝京大学福岡医療技術学部			1名
8月20日 鹿児島県臨床研修病院見学ツアー			1名
10月30日 九州保健福祉大学薬学部			1名
11月18日 東高校インターンシップ研修			2名
2月2日 名桜館高校 インターンシップ			2名

【中央臨床検査部】

3月8日 熊本保健科学大学 医学検査学科3年生			1名
3月10日 香川県立保健医療大学 臨床検査学科3年生			1名
3月14日～18日 山口大学 検査技術科学専攻3年生			3名

【臨床工学部】

6月1日～13日 九州保健福祉大学 病院実習			1名
6月15日～27日 九州保健福祉大学 病院実習			1名

【薬剤部】

4月2日	九州保健福祉大学卒業生	1名
4月6日	第一薬科大学卒業生	1名
4月20日	九州保健福祉大学6年生	1名
5月7日	近畿大学6年生	1名
5月7日	福岡大学6年生	1名
5月13日	長崎大学6年生	1名
5月15日	長崎大学6年生	1名
12月11日	岐阜薬科大学5年生	1名
1月26日～29日	長田中学校 職場体験学習	3名
2月16日	徳島大学5年	1名
3月15日	崇城大学5年生	1名
3月22日	広島国際大学5年生	1名
3月24日	九州保健福祉大学5年生	1名
3月28日	九州保健福祉大学5年生	2名
3月28日	広島国際大学5年生	1名
3月29日	九州保健福祉大5年生	1名
3月29日	福岡大学5年生	1名
3月30日	熊本大学5年生	2名

【栄養管理部】

7月8日	鹿児島城西高校 トータルエステティック科・ファッションデザイン科 「病院における栄養士の役割」「給食体験」	3名
11月18日	鹿児島東高校 普通科1年生 インターンシップ 「病院における栄養士の役割」「給食体験」	2名
1月26日	鹿児島生協病院 NST見学	3名
2月2日	明桜館高校 普通科2年生 インターンシップ	2名

【緩和医療課】

1月18日	田上記念病院 ほっとサロン今給黎見学	3名
-------	--------------------	----

【消防・救命士】

5月11日～22日	救急救命士 就業前病院実習	2名
8月24日～3月31日	救急振興財団 救急救命士実習	1名
10月19日～26日/11月30日～12月7日/12月7日～14日/2月29日～3月7日	救命士 病院実習	各1名 計4名
2月1日～2月7日	救急振興財団 救急救命士実習	4名
2月12日	鹿児島県消防学校救急科 病院実習	2名

【事務部】

3月16日	整形外科三愛病院 病院見学（診療情報管理部）	2名
-------	------------------------	----

16. 文化活動・スポーツ事業活動・ボランティア活動

【医師】

8月・3月	医師会主催 子ども予防接種週間 予防接種推進	1名参加
11月14日	蓄音機で聞くドイツ音楽～主として声楽～（80名鑑賞）	1名参加
3月6日	鹿児島マラソン2016 救護班	1名派遣

【看護部】

4月12日	おごじょプロジェクト2015 LOVE 49 子宮頸がんイベント	3名派遣
5月12日	看護の日記念式典	1名派遣
5月16日	1日まちの保健室	1名派遣
5月16日	「看護の日・看護週間」1日まちの保健室 ボランティア	4名派遣
6月7日	第24回九州バレーボール交歓大会 ボランティア	1名派遣
8月1日	第50回鹿児島市民大会開会式役員委託	1名派遣
8月22日	24時間テレビ 思いをつなぐ 鹿児島・錦江湾横断遠泳リレー	1名派遣
9月5日	まちの保健室（第36回看護展）ボランティア	1名派遣
9月19日	鹿児島市立病院NCPR研修協力員	3名派遣
9月19日・20日	第69回県民体育大会応援	1名派遣
11月18日	南日本リビング社「鹿児島キラリ女性大賞」審査員	1名派遣
1月28日	第49回鹿児島県保健看護研究会協力員	1名派遣
2月13日	第63回県下一周市郡対抗英機電競走大会 ボランティア	1名派遣
3月18日	平成27年度薩摩地区MC協議会作業部会	1名派遣

【中央放射線部】

5月9日・10日	リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま	2名参加
10月4日	市民健康祭り 実行委員	1名派遣
10月18日	ピンクリボン in kagoshima2015	2名派遣
12月20日	原子力防災訓練 実行委員	2名派遣
3月20日	ピンクリボンフェスタ 実行委員	2名派遣

【栄養管理部】

8月22日	がん患者サロンほっとサロン今給黎 ミニ勉強会「貧血を予防しよう」	1名参加
10月4日	第32回市民健康まつり 栄養相談	2名参加

【病理部】

4月12日	おごじょプロジェクト2015 LOVE 49 子宮頸がんイベント	2名参加
11月10日	検査と健康展	1名参加

【緩和医療課】

5月9日	「リレー・フォー・ライフ・ジャパンかごしま」 相談員派遣協力	2名派遣
------	--------------------------------	------

17. 医学・看護学校等の学業教諭として、大学・高校・専門学校等へ講師を定期的に派遣した。

【医師】

鹿児島歯科学院専門学校技工士科 非常勤講師 歯科部長 鎌田ユミ子
 鹿児島県立短期大学 非常勤講師 4月～7月毎週水曜日 小児科部長 玉田泉
 鹿児島大学小児科外来実務研修 非常勤講師 毎週水曜日 小児科部長 玉田泉
 長崎大学病院 非常勤講師 歯科口腔外科部長 吉田雅司
 鹿児島県消防学校 非常勤講師 5月22日／6月1日／1月22日／2月1日 麻酔科 西山淳

久木田学園看護専門学校 非常勤講師一覧表

授業科目		時間数	講師氏名
病態学Ⅰ	骨格系・筋系	15	松永俊二
病態学Ⅱ	呼吸器系	20	川島寿史
	血液・造血器系	10	小濱浩介
病態学Ⅲ	消化器系	10	吉永英希
	腎泌尿器系	10	千代丸剛
	女性生殖器系	10	加藤明彦
	内分泌系・免疫系	8	生野博久
病態学Ⅳ	脳神経系	10	長堂竜維
	眼系	7	薄井隆宏
	耳鼻咽喉系	8	昇卓夫
	皮膚系	5	久留光博
小児疾病論		30	堀之内兼一
周産期及び新生児の生理と異常		30	加藤明彦
保健医療論		15	昇卓夫

【看護部】

7月17日 鹿児島市立坂元中学校 家庭教育学級 講師 看護副部長 近藤ひとみ
 11月11日・19日・25日 国立病院機構 鹿児島医療センター附属看護専門学校 講師 NICU師長 古川秀子
 11月11日 久木田学園看護専門学校 非常勤講師 科目：モニタリングの目的と方法 救急認定看護師 橋口恒夫
 11月19日 久木田学園看護専門学校 非常勤講師 科目：放射線療法と看護 放射線認定看護師 芝こずえ
 11月19日 久木田学園看護専門学校 非常勤講師 科目：化学療法と看護 がん化学療法認定看護師 河原尚美
 11月20日 久木田学園看護専門学校 非常勤講師 科目：安静療法、食事用法、人工臓器 師長 中村章子
 11月24日 久木田学園看護専門学校 非常勤講師 科目：酸素吸入、吸引、ドレナージ 慢性呼吸器疾患認定看護師 立石佳子
 12月2日・16日 龍桜高等学校看護学科専門課程 講師 がん化学療法認定看護師 河原尚美
 12月17日 神村学園専修学校 講師 看護師 山王恵

【中央放射線部】

2月1日・8日・17日 鹿児島医療技術専門学校 診療画像技術学Ⅰ 講師 放射線技師 浮田啓一郎

18. 主な公的会議・研修会への参加、講師派遣

【医師】

がん拠点病院関連会議	1名参加
ターナー症候群家族会「MIRAIの会」年2回定例会	1名参加
鹿児島県小児慢性特定疾患対策協議会委員 年12回審査会 年1回委員会	1名参加
4月～11月 鹿児島市学校腎臓健診会議(判定会議)委員 年6回	1名参加
5月25日 エドキサバンフォーラム in 鹿児島 血栓症のトータルマネジメント 講師	1名派遣
5月25日・26日 鹿児島市消防局 救急隊員症例検討会	1名派遣
7月23日 鹿児島県エイズ対策連絡協議会 委員	1名派遣
9月2日・3日 救急隊員症例検討会 講師	1名派遣
9月10日 鹿児島県教育委員会 鹿児島県新規採用養護教諭研修会 講師	1名派遣
10月10日 鹿児島県公的病院総会	1名参加
12月1日・4日 第3回救急隊員症例検討会 参加講習会 講師 対象：鹿児島市中央・南・西3消防署救急隊員60名対象	1名派遣
2月2日・24日 薩摩地域救急業務高度化協議会	1名参加
2月13日・14日 第6回生長会産婦人科レビューコース 社会医療法人生長会 講師	1名派遣
3月31日 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 歯科医師臨床研修管理委員会	1名参加

【看護部】

4月4日 第42回鹿児島県減菌業務研究会 座長	1名派遣
4月5日・18日／5月8日／6月6日／9月5日／10月3日／11月7日／12月5日／1月9日／ 2月13日／3月12日／3月19日	
鹿児島看護協会 看護師職能委員会	1名参加
4月10日／5月11日／6月19日／10月6日／11月16日／2月17日／3月11日	
鹿児島県看護協会 看護の日・週刊行事実行委員会	1名参加
4月25日／8月8日	
鹿児島県看護協会 運営委員会	1名参加
5月9日 日本看護協会通常総会・全国職能別交流集会	1名参加
5月9日／7月4日／9月12日	
鹿児島県看護協会 理事会	1名参加
5月22日／7月17日／11月27日	
日本感染管理ベストプラクティス研究会 アドバイザー	1名派遣
5月23日 看護師研修会議	1名参加
5月23日 日本看護連盟通常総会代議員研修	1名参加
5月28日／7月23日／8月22日／10月22日／12月24日／1月30日／3月24日	
鹿児島県看護協会 鹿児島地区安全情報ネットワーク会議	1名参加
5月30日 鹿児島県看護協会通常総会及び職能合同集会	1名参加
6月2日 日本看護連盟通常総会決起大会	1名参加
6月2日 日本看護連盟都道府県会長・幹事長・支部長合同会議研究会	1名参加
6月6日 創傷管理クローズドセミナー 看護師視点で考える創傷管理 PICO創傷治療システムに関する症例検討会 四肢創傷(手指：熱傷、母趾：外傷)へのPICO使用症例 講師	1名派遣
6月9日 中東呼吸器症候群への対応に関する意見交換会	1名参加
6月13日 鹿児島県看護協会 鹿児島地区集会	1名参加
6月13日 鹿児島県鹿児島地区評議員会	1名参加
6月16日 社会福祉法厚生会 介護老人福祉施設 睦園 園内研修「感染症予防及び蔓延防止について」講師	1名派遣
6月17日 鹿児島市医療介護連携ネットワーク西部地区連携の会	2名参加
6月18日 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)研修会	1名参加
6月19日 医療安全管理者フォローアップ研修会	1名参加
6月19日 医療安全研修	1名参加
6月20日 鹿児島県看護協会南薩地区集会	1名参加

6月23日・27日／7月30日／8月28日／9月13日／10月3日／11月16日／2月5日／3月5日	助産師職能委員会	1名参加
6月26日	鹿児島県看護協会評議員会	1名参加
6月27日	第3回鹿児島セーフティマネジメント研究会 講師	1名派遣
6月26日／9月25日／11月27日／2月26日	鹿児島県看護協会 鹿児島地区役員会・評議員会	1名参加
6月27日	鹿児島セーフティマネジメント研究会	1名参加
7月4日	鹿児島市スポーツ推進委員会	1名参加
7月23日	鹿児島県看護協会 鹿児島地区再就業支援セミナー 講師 「救急対応」「院内感染防止」	2名派遣
7月23日	鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議	1名参加
7月23日	鹿児島県看護協会 平成27年度第1回鹿児島地区再就業支援セミナー 「院内感染防止」講師	1名派遣
7月27日	母子保健連絡会議	1名参加
8月8日／1月23日／3月19日	鹿児島県看護協会 研究倫理委員会	1名参加
8月3日／3月11日	日本看護協会 全国職能委員長会議	1名参加
8月22日	鹿児島県医療安全情報ネットワーク会議	1名参加
8月23日	鹿児島県小児保健協会 理事会	1名参加
8月27日	鹿児島県母性衛生学会役員会	1名参加
9月12日	鹿児島救急医学会 第44回看護部会 シンポジスト	1名派遣
9月13日／10月3日	鹿児島県看護協会 助産師研修会	1名参加
9月17日	八反丸病院 院内研修 「院内感染対策について～院内ラウンドを通して～」講師	1名派遣
9月25日	鹿児島県看護協会評議員会	1名参加
10月3日	鹿児島県看護連盟青年部会委員会	1名参加
10月11日	快護生活フェス！福祉機器展&セミナー in かごしま 講師 「スキンケアってなに？～褥瘡予防に繋がるスキンケア対策を学ぶ～」	1名派遣
10月22日	鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議	1名参加
10月24日	平成27年度第3回鹿児島市スポーツ推進委員会	1名参加
10月31日	オストメイトと家族の集い 第1回公開講座「スマートケアの基本理念と実践」講師	1名派遣
11月24日	鹿児島医療技術専門学校 看護教育研修会	2名参加
11月27日	鹿児島県看護協会評議員会	1名参加
12月1日・4日	第3回救急隊員症例検討会 参加講習会 講師 対象：鹿児島市中央・南・西3消防署救急隊員60名	9名派遣
12月6日	九州ブロックポリナビワークショップ in 宮崎	1名参加
12月11日	ブロック別都道府県・エイズ拠点病院等連絡会議	1名参加
12月12日	鹿児島県看護協会 事業検討会	1名参加
12月12日／1月16日・30日／2月13日・14日	鹿児島県看護協会 新人助産師合同研修会	1名参加
12月22日	鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議	1名参加
1月20日	鹿児島県医療法人協会立 看護専門学校実習指導者会議	1名参加
1月30日	鹿児島県医療安全情報ネットワーク会議	1名参加
2月12日	ナースセンター事業運営委員会	1名参加
2月13日	鹿児島県看護協会 鹿児島地区研修会	1名参加
2月13日	医療安全研修	1名参加
2月16日	小児在宅療養研修会～NICUから在宅へ～「NICUからの退院支援」講師	1名派遣
2月26日	鹿児島県鹿児島地区評議員会	1名参加

2月26日	小児在宅医療検討会	1名参加
3月5日	宮崎県産婦人科医院従事者研修会	
	第20回ひむかセミナー「NICUから退院支援」講師	1名派遣
3月12日	平成27年度第4回鹿児島市スポーツ推進委員会 社会体育指導者研修会	1名参加
3月15日	都道府県医療・介護連携調整実証事業にかかる医療・介護合同会議	1名参加
3月18日	地域連携 Net Works 情報交換会	1名参加
3月23日	新人看護職員卒後研修検討会	1名参加
3月23日	小児在宅推進事業連携実務検討会	1名参加
3月24日	鹿児島地区医療安全情報ネットワーク会議	1名参加

【リハビリテーション部】

2月20日	パネル討議「誤嚥性肺炎の予防」講師	1名派遣
-------	-------------------	------

【中央放射線部】

8月1日	FRT九州講演会 MRI 検査講師	1名派遣
8月7日	第21回乳がん検診従事者研修会	3名参加
8月21日	第2回乳がん検診均てん化研修会	4名参加
9月18日	第1回肺がん検診均てん化研修会	5名参加
10月3日・4日	九州GYROミーティング MRI 検査講師	1名派遣
10月30日	低線量CT肺がん検診研修会	4名参加
1月31日	診療放射線技師基礎技術講習会 MRI 検査講師	1名派遣
2月1日・30日	鹿児島県臨床工学技士会 新年教育セミナー 講師	1名派遣
2月19日	第2回肺がん検診均てん化研修会	5名参加
2月27日	乳がん検診均てん化研修会	2名参加
3月11日	乳がん検診従事者研修会	1名参加
3月26日	放射線技師危機管理士部会研修会 MRI 検査講師	1名派遣

【臨床工学部】

5月17日	宮崎県臨床工学技士会教育講演 講師	1名派遣
9月6日	九州臨床工学技士会共催学術セミナー2 日本光電九州株式会社 講師	1名派遣
9月26日	南九州急性血液浄化技術検討会 東レ・メディカル株式会社 講師	1名派遣
3月26日	第6回呼吸器療法セミナー 講師	1名派遣

【薬剤部】

4月15日／7月15日／10月21日／1月20日	薬薬連携会議	2名参加
5月20日／8月19日／11月18日／2月17日	がん化学療法薬薬連携研修会	15名参加
3月15日	がん化学療法に関する合同研修会	15名参加

【栄養管理部】

4月22日	リハビリテーション栄養 今とこれからを考える	8名参加
5月30日	新生児栄養フォーラム	1名参加
6月13日	第12回鹿児島NST研究会	3名参加
6月20日	第11回びくるすの会研究会	3名参加
8月17日	ウイズガス食フォーラム2015	1名参加
8月27日	株式会社南給 特別講演 美味しい病院食～とくに高血圧と塩分について～	1名参加
8月28日	鹿児島県リハビリテーション栄養セミナー	4名参加
9月8日	第2回関係職種技術向上のための研修会	3名参加
10月9日	スマイルケア食についての研修会	6名参加
10月13日	平成27年度 給食施設従事者研修会	1名参加
10月14日	第3回関係職種技術向上のための研修会	2名参加
10月17日	運動器の10年・骨と関節の日県民公開講座	1名参加

10月24日	第11回鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会	1名参加
10月24日	始良・伊佐地域振興局管内給食施設連絡協議会研修会	1名参加
10月27日	ネスレセミナー in 鹿児島	2名参加
11月11日	平成27年度第2回鹿児島県肝疾患診療連携ネットワーク研修会	3名参加
3月19日	在宅褥瘡セミナー「栄養管理」講師	1名派遣

【在宅医療部】

8月28日	在宅医療推進研修会	1名参加
9月4日	ストレスチェック制度	1名参加
10月10日	腸内ケアのすすめ	1名参加
11月12日	介護サービスの質の向上に資する研修会	1名参加
3月13日	地域包括ケアにおける緩和ケア	1名参加
3月16日	H28年度診療報酬改定研修会	1名参加

【診療補助部】

6月15日	第1回鹿児島診療情報管理研究会セミナー	4名参加
-------	---------------------	------

【緩和医療課】

4月25日	尊厳死協会かごしま総会講演 「健やかに生き安らかに旅立つために」講師	1名派遣
5月27日	国保診療施設看護師長研修会 「在宅医療の現状と緩和ケア」講師	1名派遣

【事務部】

8月6日	南九州地区洋上救急支援協議会	1名参加
9月11日・12日	第19回全国病院広報研究大会 HIS フォーラム 2015 in 釧路	1名参加
11月28日	第4回九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラム in 鹿児島 実行委員	1名参加
1月16日・17日	ALSO プロバイダーコース@鹿児島	5名参加
2月16日	小児在宅療養研修会 鹿児島県医師会館	5名参加
3月12日	小児在宅療養研修会 天文館ビジョンホール	3名参加

19. 入院患者不在者投票

4月12日	執行鹿児島県議会議員選挙 不在者投票	16名実施
2月28日	執行東串良町長及び東串良町議会議員補欠選挙 不在者投票	1名実施

20. その他の活動報告

4月1日	鹿児島大学臨床教授委託 昇卓夫・濱之上雅博・松永俊二・丸山芳一・西澤輝彦・米田敏・白濱浩・田代幸恵・長堂竜維 鹿児島大学臨床准教授委託 川島寿史	
6月24日	鹿児島県赤十字血液センター献血	25名
10月5日	産科退院患者による「おぎゃー献金」を日母おぎゃー献金基金へ献金	22,700円
11月26日	鹿児島県赤十字血液センター献血	17名
12月28日	リレー・フォー・ライフかごしまへ募金	112,901円

21. 表彰

鹿児島県看護協会会長表彰	師長 上ノ町和子
8月10日 厚生労働省 平成27年度母子保健厚生労働大臣表彰	小児科部長 鉦之原昌